Canon

電子辞書

wordtank C35

取扱説明書
保証書付

wordtank C35

●ご使用の前に「ご注意とお願い」をよくお読みの上、正しくお使いください。
●この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも取り出せる場所に保管してください。

ご注意とお願い

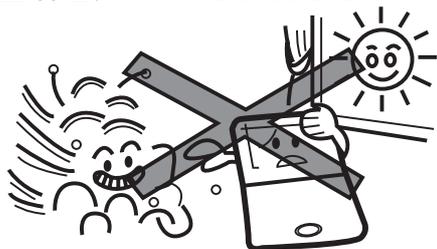
次の場所ではご使用にならないでください。

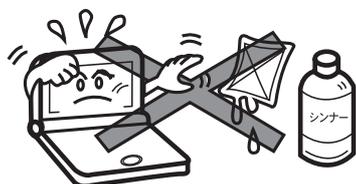
●温度変化の激しいところ
●湿度、ごみ、ほこりのあるところ
●直射日光のあたるところ

日常のお手入れについてのお願い

お手入れの際はシンナーなどの揮発性の液体やぬれ雑巾は避け、乾いた柔らかい布をお使いください。

分解しないでください。

本機を絶対に分解しないでください。万一、故障したと考えられる場合は、「保証内容」に記載されていますように、本機お買い上げの販売店、またはキヤノン販売株式会社各営業所サービス係まで保証書を添えて、ご持参、もしくはご郵送ください。

テレビやラジオから離してください。

テレビやラジオの近くで使用すると、映像が乱れたり、雑音が入ることがあります。テレビやラジオから離して使用してください。

液晶表示画面を強く押さないでください。

液晶表示画面はガラスでできていますので、強く押したり強い衝撃を与えないでください。ガラスが割れてけがをすることがあります。カバンなどに入れて持ち運ぶ際に混み合った電車内や場所では圧力が強くかかり、画面が割れる場合がありますのでご注意ください。

故障などの保証の注意

万一、故障や修理、電池交換によるデータの変化や消失により生じた損害、あるいは、本機使用により生じた逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

その他使用上の注意

本製品から微弱な磁気が出ています。心臓ペースメーカーをご使用の方は、本製品を胸部（胸のポケット）から離してご使用ください。万一、異常を感じた場合、ただちに本製品を体より離し、医師に相談してください。

本機のおもな特長

1. 辞典から辞典へ移動して、単語の連続検索ができる**「マルチジャンプ」**機能。

2. 文字入力と同時に検索候補が表示される**「すぐ出る検索」**機能を搭載。

3. 曖昧な英単語は**「スペルチェック」**機能で確認。英熟語も**「成句検索」**で即座に検索。

4. うろ覚えの言葉も**「ワイルドカードサーチ」**機能で簡単検索。

5. **「単語帳」**に覚えたい単語を簡単登録、重要な箇所にアンダーラインを入れられる**「マーカー」**機能。

6. 豊富な**学習コンテンツ**を収録。

7. 覚えておきたい本文箇所を**「ブックマーク」**に登録。すぐに呼び出しが可能。

8. 単語引き直しに威力を発揮する**「履歴」**機能。

9. **「ジョグシャトル」**を使って片手で簡単操作。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

収録辞典

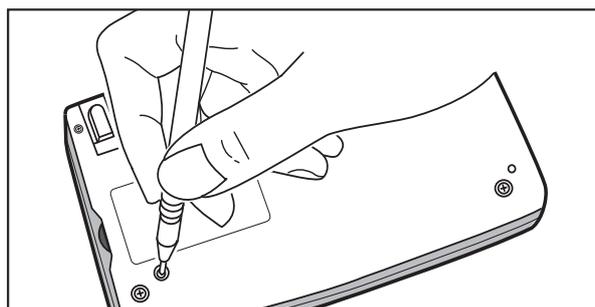
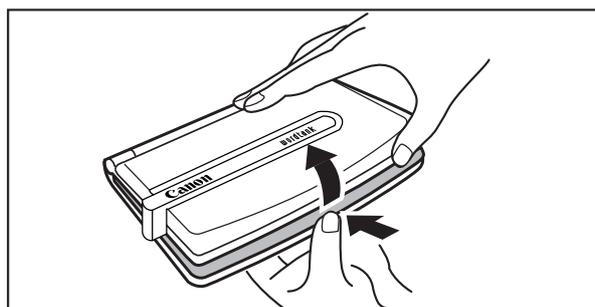
もくじ

はじめてご使用になる前に

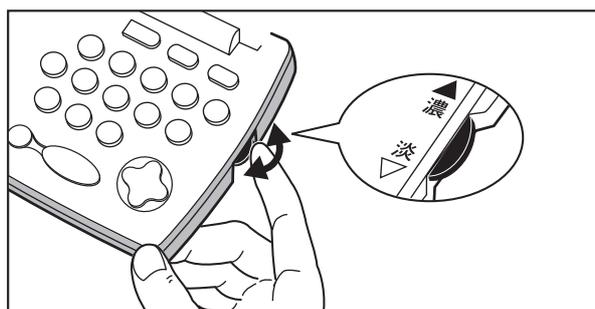
準備［1］ 付属の乾電池を入れます

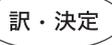
付属の単４形乾電池２本を 189 ページの「電池を交換するには」に従って入れてください。

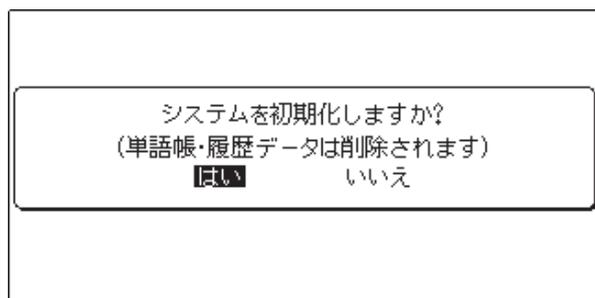
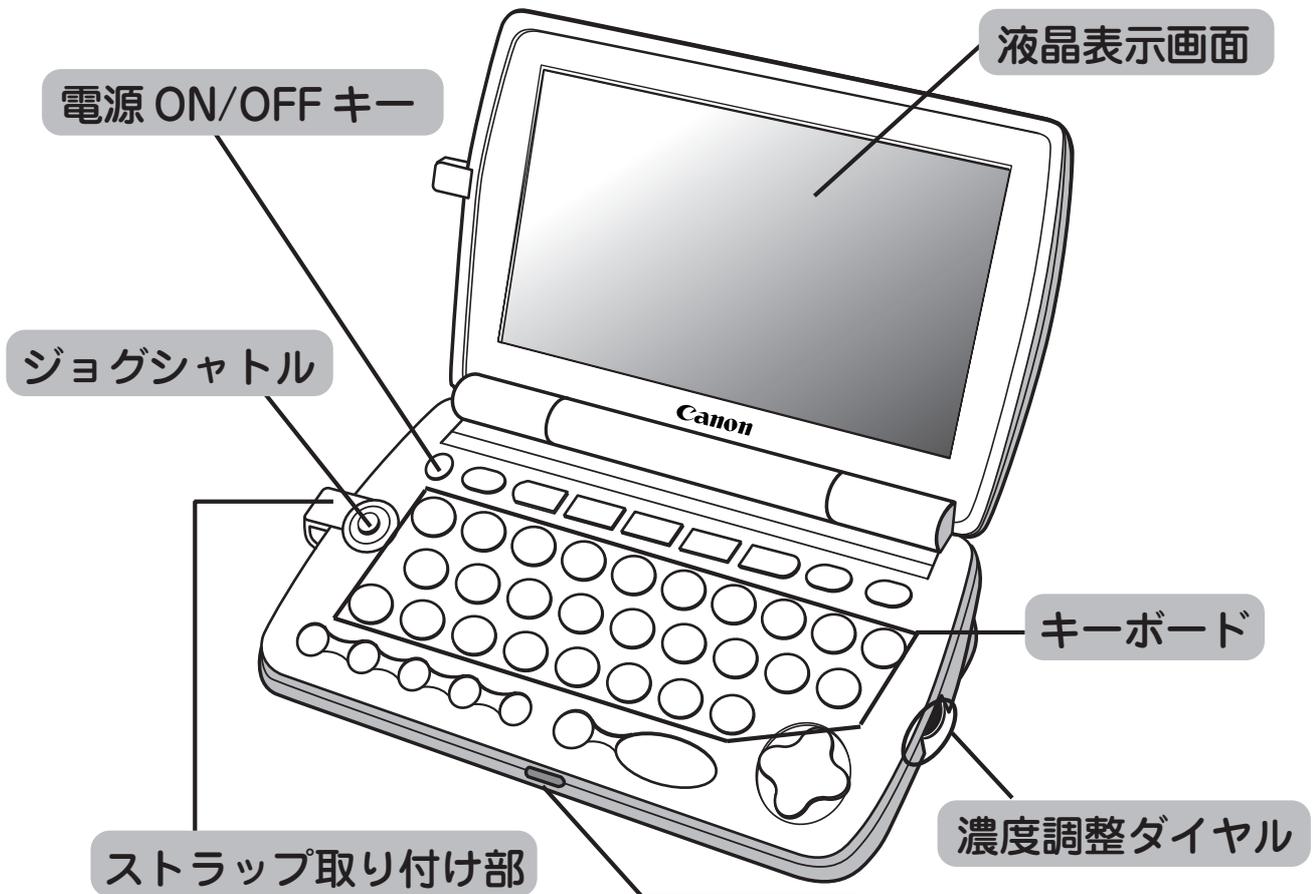
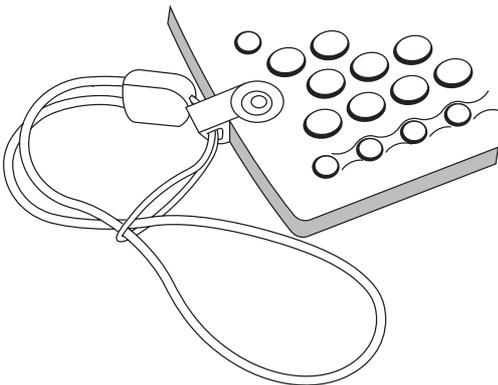
準備［2］ リセット操作をします

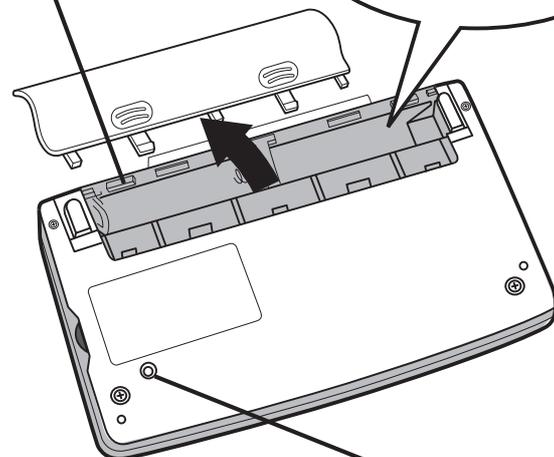
① 裏面のリセットスイッチを押してください。（リセットスイッチについて ☞ 192 ページ参照）

② 図のように開閉ボタンを押しながら、上のカバーを開きます。

③ 表示画面が見やすいように、ディスプレイの角度を調節してください。

④ 次に表示画面の濃度を調整してください。

■ 本体右側の濃度調整ダイアルを回して、見やすい濃度に調整してください。（ダイアルを手前に回すと薄く、反対側に回すと濃くなります。）

⑤ 画面に「システムを初期化しますか？」が表示されます。

本機をはじめてご使用になる場合は､「はい」を反転表示させた状態で（訳・決定）を押して初期化してください。

■ しばらくするとメニュー画面が表示され、使用可能となります。

システムを初期化しますか?
(単語帳･履歴データは削除されます)
はい　　いいえ

各部の名称

ストラップの取り付け方

⚠本体をストラップで下げているときは、本体を振り回すような持ち方を避け、他のものに引っかからないよう、また強い衝撃や振動を与えないようにご注意ください。けがや本体の故障の原因となることがあります。

［裏面］

キーのはたらき

ON／OFFキー

電源のON／OFF切替えに使用します。

メニューキー

メインメニューを表示します。

文字入力キー

文字、数字、英字の入力に使用します（1段目のキーは、かな・数字入力時にも使用します）。

ジョグシャトル

上下左右に動かすことで、カーソルを上下左右に移動させることができます。押すと、訳・決定キーと同じ操作ができます。

シフトキー

第2機能を使用する時に使用します。キー上部のモード・機能はシフトを押してから入力します。

文字サイズ／単語帳設定キー

文字サイズの切替えを行う時に使用します。また、単語帳でシフト 単語帳設定/文字サイズ と続けて押した場合は、オプションメニューを表示します。

ブックマーク／マーカーキー

本文表示画面で、単語や語句をブックマークに登録する時に使います。また、単語帳に登録した単語の本文画面で、選択した箇所にアンダーラインを引くことができます。

スペル／関連キー

英英辞典、英和辞典の検索画面で入力した語句のスペルチェックを行う時に使用します。また、英和辞典、和英辞典、古語辞典、英英辞典の本文画面で、句複慣IPが表示されている場合は、関連/スペルで成句、複合語、慣用連語、句動詞を調べることができます。

ジャンプ／筆順キー

本文画面中の語句を足掛りとして他の辞典や参照見出し語に移動して調べる時に使用します。また、漢字源の本文画面表示中にシフト 筆順/ジャンプ を続けて押すと、表示されている親字が筆順を追って書き出されます。

履歴／☑キー

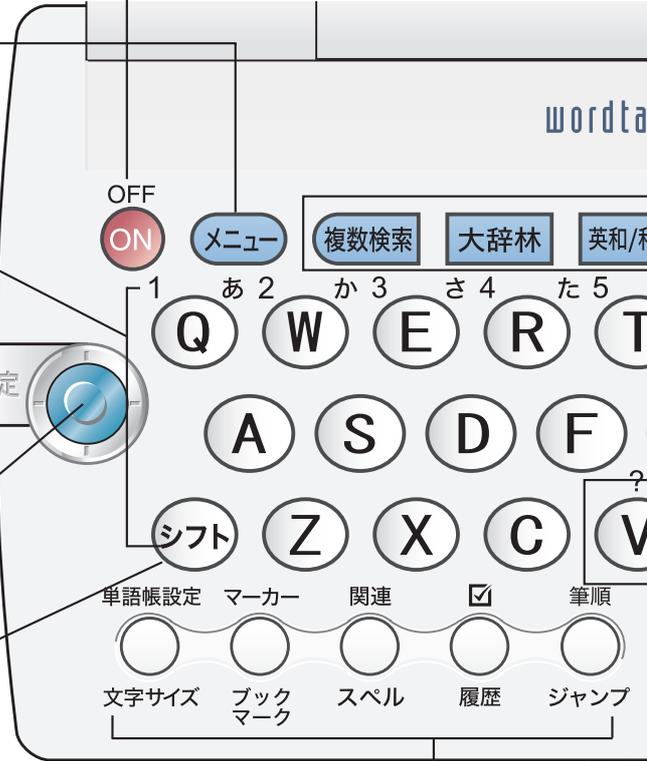
使用中の辞典で今までに調べた語句を一覧表示します（各辞書につき最新のものから順に50語まで記憶されます）。また、シフト ☑/履歴 と続けて押した場合は、単語帳、英単語／英熟語／世界史年代／日本史年代ターゲットで学習した単語の頭に☑を入れることができます。

複数検索キー

電源がOFFの時に押すとONになり、複数辞書検索の画面が表示されます。また、他の辞典から複数辞書検索の画面に移ることができます。

大辞林キー

電源がOFFの時に押すとONになり、大辞林の検索画面が表示されます。また他の辞典から大辞林の検索画面に移ることができます。

dtank C35

和/和英 英英 漢字源 単語帳 登録/削除

登録／削除キー

文字入力中に押すと、1文字ずつさかのぼって文字を消去します。各辞典の本文画面で 登録/削除 を押すと、表示中の見出し語が単語帳に登録されます。

?キー／＊キー

逆引き検索およびワイルドカード検索で使用します。シフト V と押すと、「?」を入力できます。シフト B と押すと、「＊」を入力できます。

&キー

シフト N と続けて押すと、単語と単語を結ぶ「&」を入力できます。

ーキー

シフト Mと続けて押すと、「ー」を入力できます。

カーソルキー

▲／▼キー
カーソルを上下に移動させることができます。また、次の行および前の行に一行ずつスクロールします。
◀／▶キー
カーソルを左右に移動させることができます。また本文画面では前／次画面に移ることができます。
シフト▼または▲を押すと、次見出し語または前見出し語の本文画面にスクロールします。
また、シフト◀または ▶を押すと、見出し語リスト画面や本文画面を１ページずつスクロールします。

戻るキー

キーを押すごとに今までに表示した画面を1つずつ前にさかのぼって表示します。

訳・決定／例文・拡大キー

文字や訳の検索および各種機能を実行する時に使用します。また、文字を1文字ずつ拡大表示することもできます。本文画面で 訳・決定 を押すと、例文や解説が表示されます。

英和／和英キー

電源がOFFの時に押すとONになり、英和辞典の検索画面が表示されます。もう１回押すと和英辞典の検索画面が表示されます。また他の辞典から英和辞典の検索画面に移ることができます。

漢字源キー

電源がOFFの時に押すとONになり、漢字源の検索画面が表示されます。また他の辞典から漢字源の検索画面に移ることができます。

英英キー

電源がOFFの時に押すとONになり、英英辞典の検索画面が表示されます。また他の辞典から英英辞典の検索画面に移ることができます。

単語帳キー

電源がOFFの時に押すとONになり、単語帳のリスト画面が表示されます。また他の辞典から単語帳のリスト画面に移ることができます。

基本の操作

操作［1］電源を入れる

OFF
ON を押すと電源が入り、前回電源を切った状態の画面が表示されます（レジューム機能）。

また、メニュー 複数検索 大辞林 英和/和英 英英 漢字源 単語帳 を押しても電源が入り、各辞典・モードの初期画面が表示されます。

操作［2］電源を切る

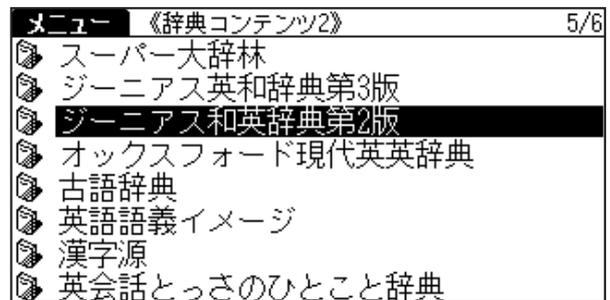
電源が入っている時に OFF ON を押すと電源が切れます。

- 電池の消耗を防ぐために、電源を入れたままキー操作を行わないと自動的に電源が切れるようになっています（オートパワーオフ）。
  電源が切れるまでの時間は、設定することができます。
  （オートパワーオフ ☞ 25ページ参照）

操作［3］カーソルの移動とメニューの選択

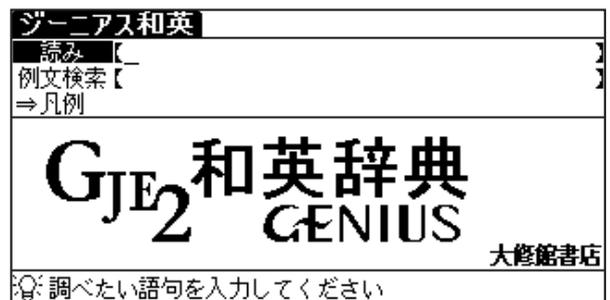
カーソルを使ってメニューを選択する場合

① メニュー画面を表示させ、▼／▲を押してカーソルを上下に移動させて、画面上のメニューを選択します。黒く反転した辞典・モードが選択されたメニューです。

メニュー 《辞典コンテンツ2》 5/6
スーパー大辞林
ジーニアス英和辞典第3版
ジーニアス和英辞典第2版
オックスフォード現代英英辞典
古語辞典
英語語義イメージ
漢字源
英会話とっさのひとこと辞典

● 右の画面では、和英辞典が選択されています。

● メニューは全部で6画面あります。シフト▼／▲で前後のメニュー画面を表示することができます。

（画面のスクロール ☞ 15ページ参照）

② 訳・決定 を押すと、選択した辞典の検索画面が表示されます。

操作［4］検索する

① 選択した辞典の検索画面を表示し、▼でカーソルを移動させ入力欄を選択します。

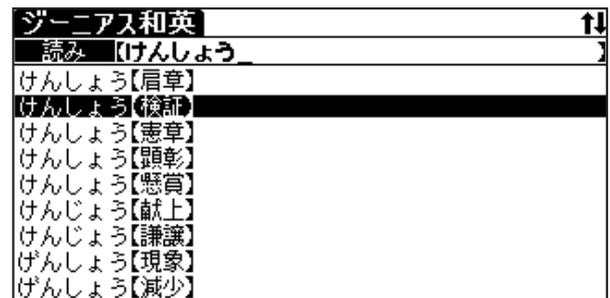
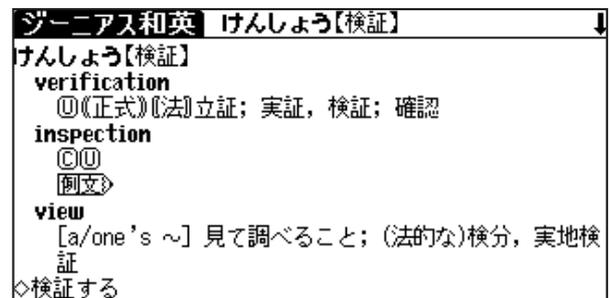
● ここでは和英辞典の検索画面を例にします。

② 文字入力キーを使い、調べたい単語や語句を入力します。

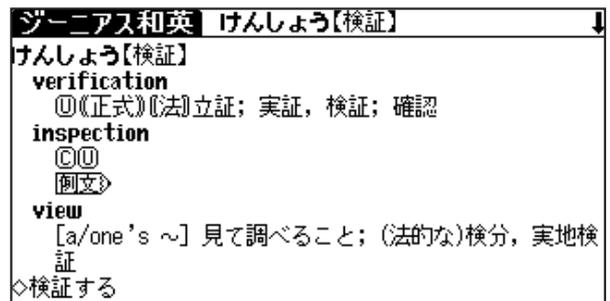
（文字入力 ☞ 21ページ参照）

文字を入力すると同時に、入力した文字からはじまる単語や語句が候補表示されます（すぐ出る検索）。

③ ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい単語や語句を選択します。

● 候補リスト画面で シフト ▼／▲を押すと、前ページまたは次ページのリスト画面が表示されます。

④ 訳・決定 を押すと、選択した単語や語句の本文画面が表示されます。

操作［5］画面のスクロール

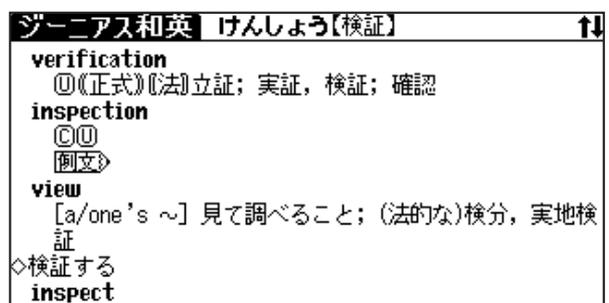
本文画面上に表示される⬆⬇は画面に表示しきれない内容があることを示します。前後の内容を見るには、以下の方法で画面を送ります。

ジーニアス和英　けんしょう【検証】　⬇
けんしょう【検証】
verification
Ⓤ《正式》〔法〕立証；実証，検証；確認
inspection
ⒸⓊ
例文
view
[a/one's ～] 見て調べること；（法的な）検分，実地検証
◇検証する

1行ずつ送る場合

▼ を押すと画面が1行ずつ送られます。

▲ を押すと1行ずつ戻ります。

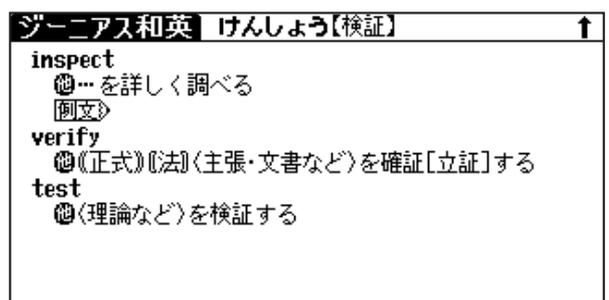
● ◎(ジョグシャトル)を上下に動かしても同じ操作ができます。

ジーニアス和英　けんしょう【検証】　⬆⬇
verification
Ⓤ《正式》〔法〕立証；実証，検証；確認
inspection
ⒸⓊ
例文
view
[a/one's ～] 見て調べること；（法的な）検分，実地検証
◇検証する
inspect

1画面ずつ送る場合

▶ を押すと画面が1画面ずつ送られます。

◀ を押すと1画面ずつ戻ります。

● ◎(ジョグシャトル)を上下に動かしても同じ操作ができます。

ジーニアス和英　けんしょう【検証】　⬆
inspect
他…を詳しく調べる
例文
verify
他《正式》〔法〕〈主張・文書など〉を確証[立証]する
test
他〈理論など〉を検証する

前後の見出し語に移動する場合

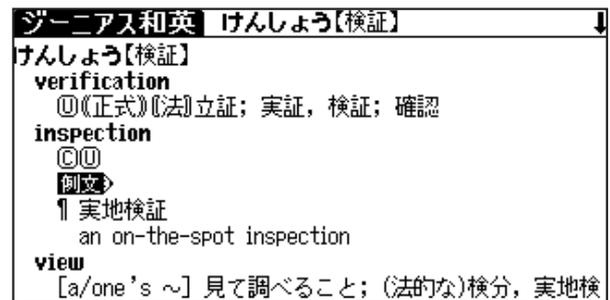
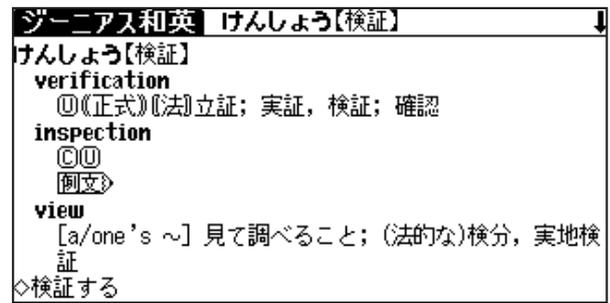
本文画面で シフト ▼ を押すと、辞典収録語順に次の見出し語の本文画面を表示します。シフト ▲ を押すと、1つ前の見出し語の本文画面を表示します。

● 検索画面で見出し語リストを表示させた場合と、本文画面から前見出し語 、次見出し語を表示させた場合では、見出し語の順番が異なる場合があります。

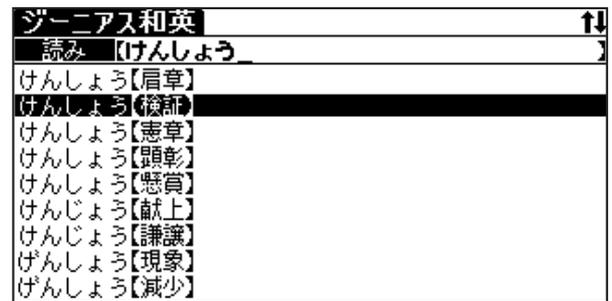
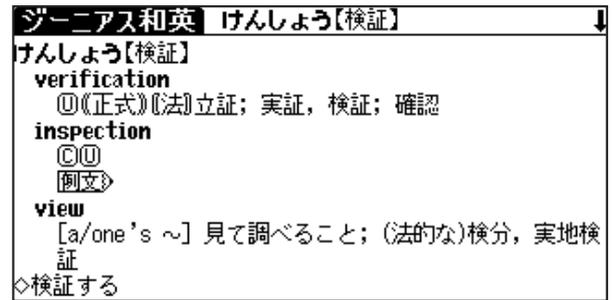
操作［6］例文・解説の表示

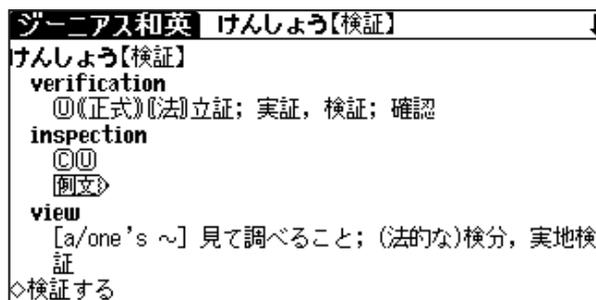
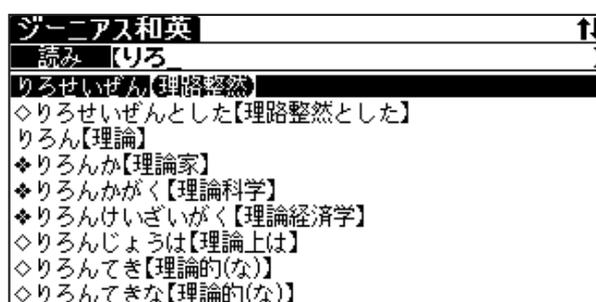
本文画面上に 例文 解説 EXAMPLE が表示されている場合は、（例文/拡大 訳・決定）を押すと例文または解説を表示させることができます。再度（例文/拡大 訳・決定）を押すと、例文または解説は非表示になります。

ジーニアス和英 けんしょう【検証】
けんしょう【検証】
verification
Ⓤ((正式))〖法〗立証；実証，検証；確認
inspection
ⒸⓊ
例文
view
[a/one's ~] 見て調べること；(法的な)検分，実地検証
◇検証する

ジーニアス和英 けんしょう【検証】
けんしょう【検証】
verification
Ⓤ((正式))〖法〗立証；実証，検証；確認
inspection
ⒸⓊ
例文
¶ 実地検証
an on-the-spot inspection
view
[a/one's ~] 見て調べること；(法的な)検分，実地検

例文・解説は、英英辞典・英和辞典・和英辞典・語義イメージ辞典・古語辞典で表示されます。

操作［7］候補一覧画面に戻る

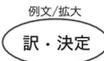
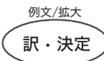
本文画面表示中に（戻る）を押すと、候補リスト一覧画面に戻ります。

操作［8］別の語句を調べる

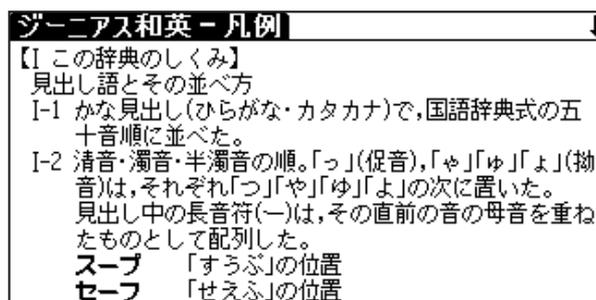
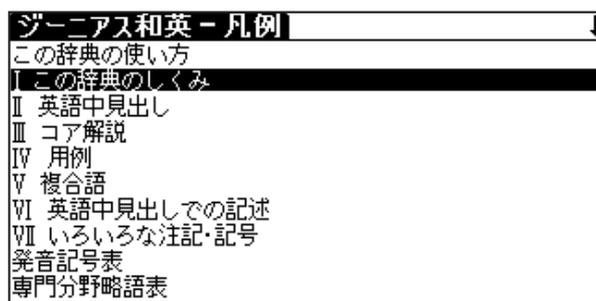
① 検索後、同じ辞典・モードで別の語句を調べる場合は、本文画面が表示されたまま、文字入力キーを使って語句を入力します。

② 画面が自動的に検索画面に切り替わり、入力欄に文字が入力されます。

操作［9］別の辞典・モードに切り替える

検索画面または本文画面表示中に別の辞典・モードに切り替えたい場合は、複数検索 大辞林 英和/和英 英英 漢字源 単語帳 を押します。または、メニュー を押してメニュー画面を表示させ、メインメニューから辞典・モードを選択します。

操作［10］辞典の凡例を見る

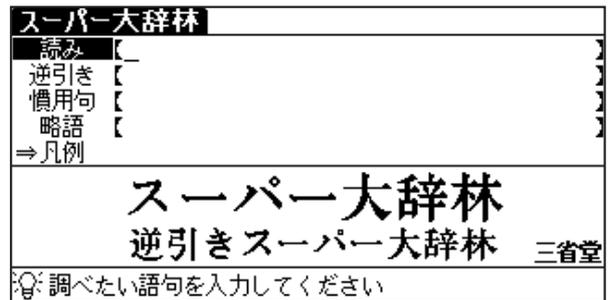
各辞典の検索画面上に ⇨**凡例** の表示がある場合は、表示中の辞典の凡例（編集方針・記号の解説など）を見ることができます。

① ▼ でカーソルを移動させ、⇨**凡例** を選択すると黒く反転表示します。［例文/拡大 訳・決定］ を押すと凡例が表示されます。

② 表示されたリストから項目を選んで［例文/拡大 訳・決定］を押すと、選択した項目の凡例画面が表示されます。

ジーニアス和英 － 凡例

【I この辞典のしくみ】
見出し語とその並べ方
I-1 かな見出し(ひらがな・カタカナ)で，国語辞典式の五十音順に並べた。
I-2 清音・濁音・半濁音の順。「っ」(促音)，「ゃ」「ゅ」「ょ」(拗音)は，それぞれ「つ」「や」「ゆ」「よ」の次に置いた。
見出し中の長音符(ー)は，その直前の音の母音を重ねたものとして配列した。
スープ　「すうぷ」の位置
セーフ　「せえふ」の位置

文字入力

文字入力には、『ローマ字入力』と『かな入力』の２つの方式があります。
（入力方式 ☞ 25 ページ参照）

［例題］大辞林辞典の入力画面を使って「だちょう」を入力してみます

1 大辞林 を押して、大辞林の検索画面を表示させます。

2 読みを入力します。

『ローマ字入力』のとき

だ　ちょ　う

D A T Y O U

（ローマ字／かな対応表 ☞ 193ページ参照）

『かな入力』のとき

- 同じ行の文字を続けて入力する場合は、▶ を押して入力カーソルを次の入力位置に移動させてください。
  （同じ行の文字が続くときの入力 ☞ 22ページ参照）
  （文字の訂正について ☞ 23ページ参照）

ローマ字入力のポイント

● 小文字（ぁぃぅぇぉっゃゅょゎ）の入力
X を押した後、小文字の読みを入力します。
〔例〕 X Y A ⇒「ゃ」
ただし、促音（っ）を入力するときは、次にくる子音を続けて押しても入力できます。
〔例〕 Y A T T O ⇒「やっと」
また、拗音（ゃゅょ）を入力するときには、直前の文字との組み合わせで入力することもできます。
〔例〕 S I R Y O U ⇒「しりょう」

● 「ん」の入力： N を2回続けて押します。
〔例〕 H A N N I ⇒「はんい」

● その他注意を要する入力
Z I　J I ⇒「じ」　Z U ⇒「ず」　F A ⇒「ふぁ」
D I ⇒「ぢ」　D U ⇒「づ」　V A ⇒「ゔぁ」

かな入力のポイント

● 大文字と小文字（ぁぃぅぇぉっゃゅょゎ）の入力
該当する文字行に当たるキーを押すと、はじめにその行の大文字が入力でき、次に小文字が入力できます。
〔例〕 Q(あ) Q(あ) ⇒「い」 Q(あ) Q(あ) Q(あ) Q(あ) Q(あ) Q(あ) Q(あ) ⇒「ぃ」

● 濁音の入力： L(゛) と組み合わせて入力します。
〔例〕 W(か) L(゛) ⇒「が」

● 半濁音の入力： K(゜) と組み合わせて入力します。
〔例〕 Y(は) K(゜) ⇒「ぱ」

● 同じ行の文字が続くときの入力
例えば、「かき」のように同じ行の文字が続くときは、はじめの文字を入力した後、▶を使ってカーソルを一つ送ってから次の文字を入力します。
〔例〕 W(か) ▶ W(か) W(か) ⇒「かき」

＊入力カーソルは、文字入力後、約2秒で次の入力位置に移動します。

文字の訂正

検索したい文字を間違えて入力した時は、直したい文字だけを選んで訂正することができます。

［例題］英和辞典の入力画面で、「aplle」を「apple」に訂正します

文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「aplle」と入力します）。

（文字入力について☞21ページ参照）

文字を削除する場合

◀／▶で削除したい文字にカーソルを移動させます。（ここでは2つめの「l」を削除します。）

登録/削除 キーを押すとカーソル上の文字だけが削除されます。

ジーニアス英和
スペル【aplle
aplomb
Á-plùs
APO
apo-
Apoc.

文字を挿入する場合

◀／▶で文字を挿入したい位置にカーソルを移動させます。挿入したい文字を入力します。
（「p」「l」の間に「p」を挿入する場合はカーソルを「l」に移動させ、文字入力キーを使って「p」を入力します。）

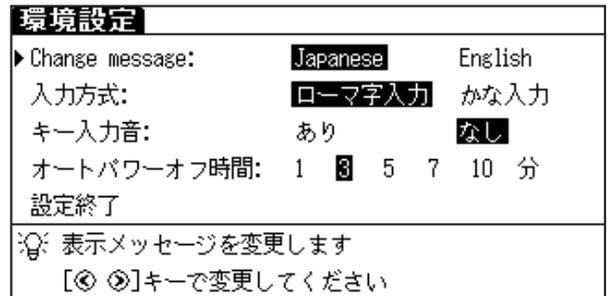
ジーニアス英和
スペル【aple
aplenty
aplomb
Á-plùs
APO
apo-

各種機能の設定

入力方式や表示メッセージなど、本機の各種機能の設定を切り替えることができます。

1 OFF/ON を押し電源を入れ メニュー キーを押すと、メニュー画面が表示されます。

メニュー 《学習コンテンツ1》 1/6
ロイヤル英文法
ロイヤル英文法-問題集
英単語ターゲット1900
英単語ターゲット1900 BRUSH-UP
英熟語ターゲット1000
英熟語ターゲット1000 BRUSH-UP

2 ▼／▲ でカーソルを移動させ、環境設定を選択します。訳・決定 を押すと、設定画面が表示されます。

- 環境設定はメニュー画面の6画面目にあります。

環境設定
▶Change message: Japanese English
入力方式: ローマ字入力 かな入力
キー入力音: あり なし
オートパワーオフ時間: 1 3 5 7 10 分
設定終了
表示メッセージを変更します
[◀ ▶]キーで変更してください

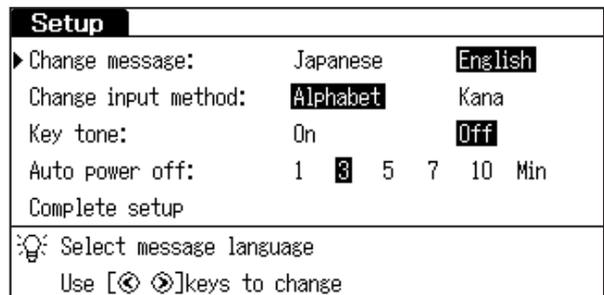
- ▼／▲ でカーソルを移動させ項目を選択した後、設定／切り替えを行ってください。
- メニュー画面に戻る場合は、設定終了を選択して 訳・決定 を押すか 戻る を押してください。すべての設定は選択すると同時に切り替わります。

Change message（表示メッセージ切替）

画面に表示されるメッセージを日本語／英語に切り替えることができます。
（初期設定は「Japanese」です）

- 右の画面は「English」を選択した場合です。

▼／▲ で画面上の「Change message」を選択してください。◀／▶ でメッセージ言語を選択します。選択すると同時に表示メッセージが切り替わります。

Setup
▶Change message: Japanese English
Change input method: Alphabet Kana
Key tone: On Off
Auto power off: 1 3 5 7 10 Min
Complete setup
Select message language
Use [◀ ▶]keys to change

入力方式

文字の入力の際の入力方式を切り替えることができます。
(初期設定は「ローマ字入力」です)

▼ ／▲ で画面上の「入力方式」を選択してください。◀／▶ で入力方式を選択します。

環境設定
Change message: Japanese English
▶入力方式: ローマ字入力 かな入力
キー入力音: あり なし
オートパワーオフ時間: 1 3 5 7 10 分
設定終了
入力方法を設定します
[◀ ▶]キーで変更してください

キー入力音

ピッというキー入力音の有無を設定することができます。
(初期設定は入力音「なし」です)

▼ ／▲ で画面上の「キー入力音」を選択してください。◀／▶ でキー入力音の有無を選択します。

環境設定
Change message: Japanese English
入力方式: ローマ字入力 かな入力
▶キー入力音: あり なし
オートパワーオフ時間: 1 3 5 7 10 分
設定終了
キー操作音の有無を設定します
[◀ ▶]キーで変更してください

オートパワーオフ

本機は電池の消耗を防ぐため、電源を入れたままキー操作を行わないと自動的に電源が切れるようになっています。ここでは電源が切れるまでの時間を設定することができます。(初期設定は「3分」です)

▼ ／▲ で画面上の「オートパワーオフ時間」を選択してください。◀／▶ で電源が切れるまでの時間を1、3、5、7、10分の中から選択します。

環境設定
Change message: Japanese English
入力方式: ローマ字入力 かな入力
キー入力音: あり なし
▶オートパワーオフ時間: 1 3 5 7 10 分
設定終了
自動的に電源をオフする時間を設定します
[◀ ▶]キーで変更してください

文字サイズ切替

画面に表示される文字のサイズを「標準」サイズ（16dot）／「縮小」サイズ（12dot）／「拡大」サイズ（24dot）に切替えることができます。（初期設定は「縮小」サイズです）

- 全ての辞書機能で使えます。見出し語一覧画面、または本文表示画面で 単語帳設定/文字サイズ を押すと、「標準」サイズから「拡大」／「縮小」サイズに切替わります。
- 再度 単語帳設定/文字サイズ を押すと、もとのサイズに戻ります。（24dotの場合は1回押すと12dot、2回押すと16dotに戻ります）

※ 大辞林、古語辞典、世界史事典、日本史事典、和歌・俳句検索、人名検索の本文画面のみ、24dotに切替えることができます。

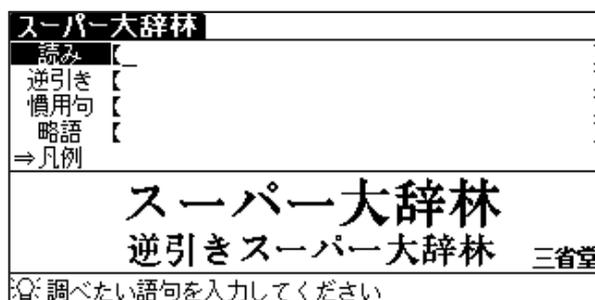
※ ロイヤル英文法ー問題集・英単語ターゲット1900 BRUSH-UP・英熟語ターゲット1000 BRUSH-UP・漢検プチドリル(3級・準2級・2級)・古文ターゲット・漢字ターゲット・英検Pass単熟語(3級・準2級・2級)・公式集は12dotフォント固定です。

スーパー大辞林を使う

語句の意味を調べるだけではなく、慣用句やことわざを検索することもできます。

日本語の読みを入力し、語義を検索します

［例題］「綺羅（きら）」の語義を調べます

1 大辞林 を押して大辞林の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「きら」を入力します）。

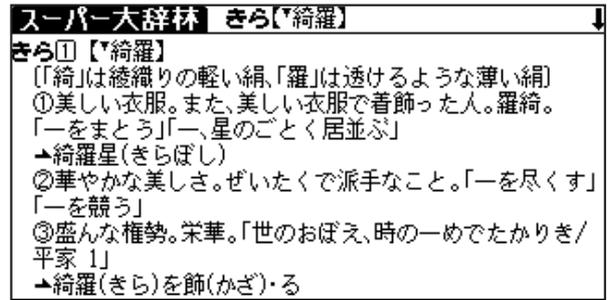
画面に入力文字に該当する語句が五十音順に表示されます。

スーパー大辞林
読み【きら_】
きら【[illegible]】
きら【〈雲母〉】
きら【棋羅】
きら【▼綺羅】
きら【吉良】
きら【吉良】
キラー【killer】
キラーアプリケーション【killer application】
キラーえいせい【キラー衛星】

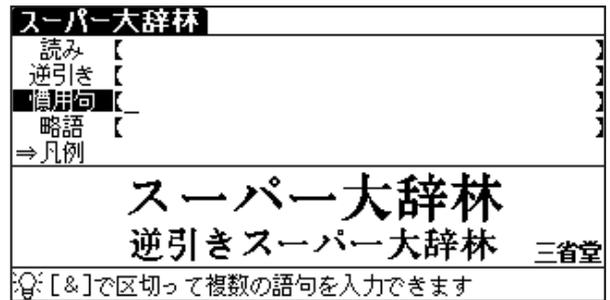
（文字入力について ☞ 21ページ参照）

● 収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

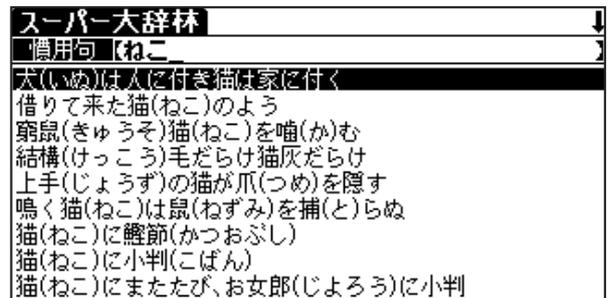
3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「きら【綺羅】」を選択します）。
次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

スーパー大辞林　きら【▼綺羅】
きら① 【▼綺羅】
〔「綺」は綾織りの軽い絹,「羅」は透けるような薄い絹〕
①美しい衣服。また,美しい衣服で着飾った人。羅綺。
「―をまとう」「―,星のごとく居並ぶ」
→綺羅星(きらぼし)
②華やかな美しさ。ぜいたくで派手なこと。「―を尽くす」
「―を競う」
③盛んな権勢。栄華。「世のおぼえ,時の―めでたかりき/平家 1」
→綺羅(きら)を飾(かざ)・る

語句を入力し、その語句を含む慣用句やことわざを検索します

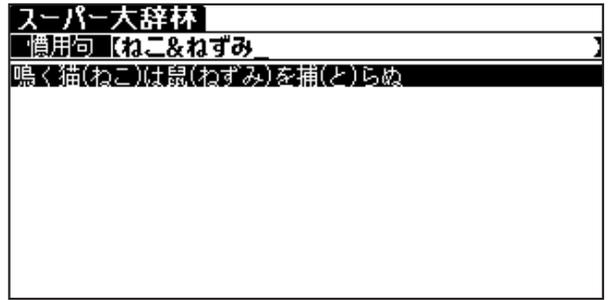
［例題］「ねこ（猫）」を含む慣用句やことわざを調べます

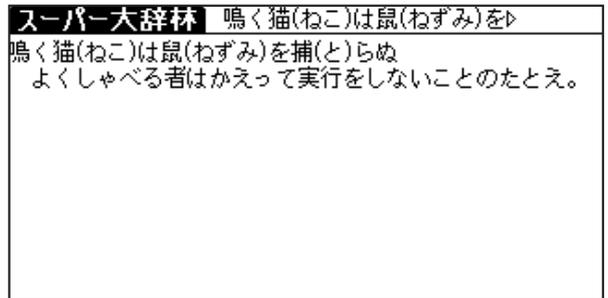
1 大辞林 を押して大辞林の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを慣用句入力欄に移動させます。

2 文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「ねこ」を入力します）。画面に入力文字を含む慣用句やことわざが候補表示されます。

スーパー大辞林
慣用句 【ねこ_ 】
犬(いぬ)は人に付き猫は家に付く
借りて来た猫(ねこ)のよう
窮鼠(きゅうそ)猫(ねこ)を噛(か)む
結構(けっこう)毛だらけ猫灰だらけ
上手(じょうず)の猫が爪(つめ)を隠す
鳴く猫(ねこ)は鼠(ねずみ)を捕(と)らぬ
猫(ねこ)に鰹節(かつおぶし)
猫(ねこ)に小判(こばん)
猫(ねこ)にまたたび,お女郎(じょろう)に小判

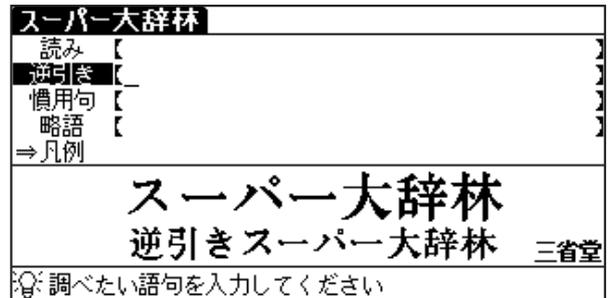
- 動詞を入力する場合は、終止形で入力してください（例：借りて⇒借りる）。
- 該当する慣用句がない場合は、“一致する慣用句がありません”というメッセージが表示されます。

3 シフト N(&)で語句を結んで入力します（ここでは「&ねずみ」を入力します）。

スーパー大辞林
慣用句【ねこ&ねずみ_】
鳴く猫(ねこ)は鼠(ねずみ)を捕(と)らぬ

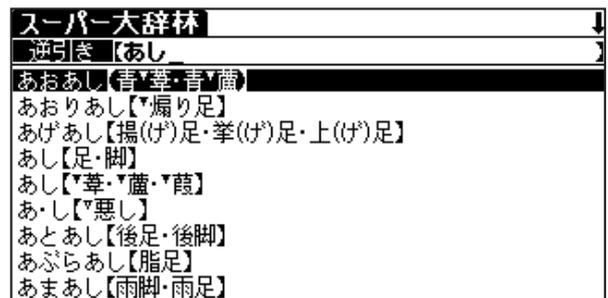
● 複数の語句を「&」で結んで入力すると、入力した語句をすべて含む慣用句やことわざを検索することができます（慣用句検索では シフト N(&) を押すと「&」が入力されます）。
●「&」は慣用句検索でのみ入力できます。その他の大辞林検索では入力できません。
● 該当する慣用句がない場合は、“一致する慣用句がありません”というメッセージが表示されます。

4 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい慣用句を選択します（ここでは「鳴く猫（ねこ）は鼠（ねずみ）を捕（と）らぬ」）を選択します）。訳・決定 を押して、慣用句の本文画面を表示させます。

スーパー大辞林 鳴く猫(ねこ)は鼠(ねずみ)を▷
鳴く猫(ねこ)は鼠(ねずみ)を捕(と)らぬ
よくしゃべる者はかえって実行をしないことのたとえ。

語句の語尾につく文字を入力し、逆引き検索をします

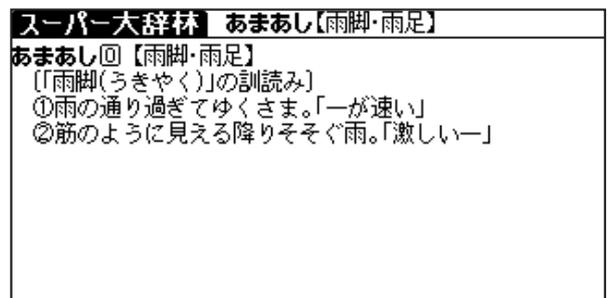
［例題］「あし」を入力し、「あまあし【雨脚・雨足】」を検索します

1 大辞林 を押して大辞林の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを逆引き入力欄に移動させます。

2 文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「あし」と入力します）。

語尾に入力文字がつく語句が五十音順に候補表示されます。

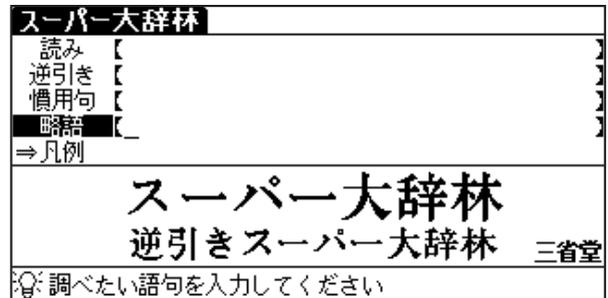
スーパー大辞林
逆引き 【あし_ 】
あおあし【青▼葦・青▼蘆】
あおりあし【▼煽り足】
あげあし【揚(げ)足・挙(げ)足・上(げ)足】
あし【足・脚】
あし【▼葦・▼蘆・▼葭】
あ・し【▼悪し】
あとあし【後足・後脚】
あぶらあし【脂足】
あまあし【雨脚・雨足】

● 収録されていない語句を入力した場合は、「見出し語にありません」というメッセージが表示されます。

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「あまあし【雨脚・雨足】」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

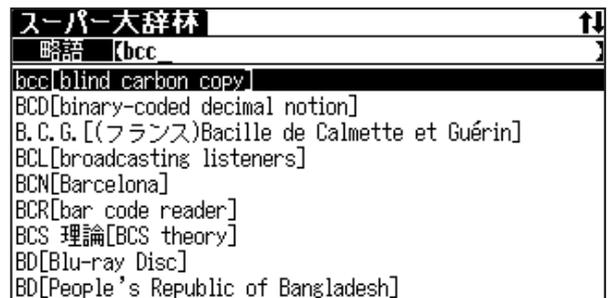
スーパー大辞林 あまあし【雨脚・雨足】
あまあし⓪【雨脚・雨足】
［「雨脚(うきゃく)」の訓読み］
①雨の通り過ぎてゆくさま。「—が速い」
②筋のように見える降りそそぐ雨。「激しい—」

● 読み入力欄からでもアスタリスクを使って逆引き検索をすることができます。
（ワイルドカードサーチ機能を使う ☞ 118ページ参照）

略語を入力し、正式名称とその意味を調べます

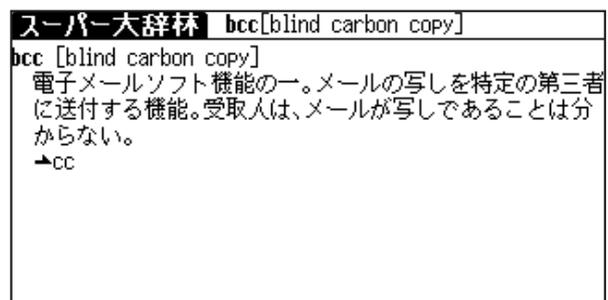
［例題］「bcc」の正式名称を調べます

1 大辞林 を押し大辞林の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを略語入力欄に移動させます。

2 文字入力キーを使って略語を入力します（ここでは「bcc」と入力します）。画面に入力文字に該当する略語が候補表示されます。

● 収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。

スーパー大辞林
略語 【bcc_】
bcc[blind carbon copy]
BCD[binary-coded decimal notion]
B.C.G.[(フランス)Bacille de Calmette et Guérin]
BCL[broadcasting listeners]
BCN[Barcelona]
BCR[bar code reader]
BCS 理論[BCS theory]
BD[Blu-ray Disc]
BD[People's Republic of Bangladesh]

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい略語を選択します（ここでは「bcc［blind carbon copy］」を選択します）。

次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

スーパー大辞林 bcc[blind carbon copy]
bcc [blind carbon copy]
電子メールソフト機能の一。メールの写しを特定の第三者に送付する機能。受取人は、メールが写しであることは分からない。
→cc

英和辞典を使う

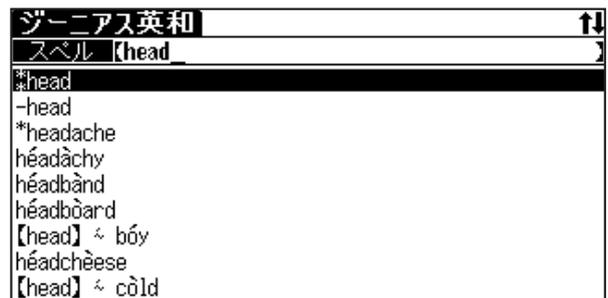
英単語を入力し、和訳を調べます

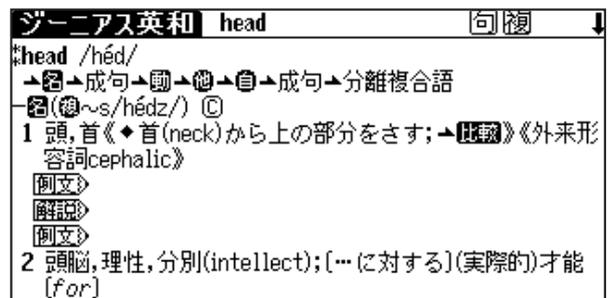
［例題］英単語「head」を入力し、和訳を調べます

1 英和/和英 を押して英和辞典の検索画面を表示させます。

2 スペル入力欄に文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「head」を入力します）。画面に入力文字に該当する単語がアルファベット順に候補表示されます。

ジーニアス英和
スペル【head_】
*head
-head
*headache
héadàchy
héadbànd
héadbòard
【head】 ⁓ bóy
héadchèese
【head】 ⁓ còld

● 収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは 「head」 を選択します）。

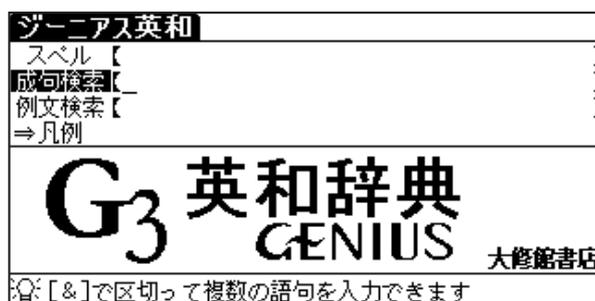
次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

● 英和辞典の本文画面上に 句 複 が表示されている場合は、成句や複合語を表示させることができます。
（関連語句を調べる ☞ 104ページ参照）

● 本文画面上に 例文 または 解説 がある場合は、例文・解説を表示させることができます。
（例文・解説の表示 ☞ 17ページ参照）

入力した英単語を含む成句を検索し和訳を調べます

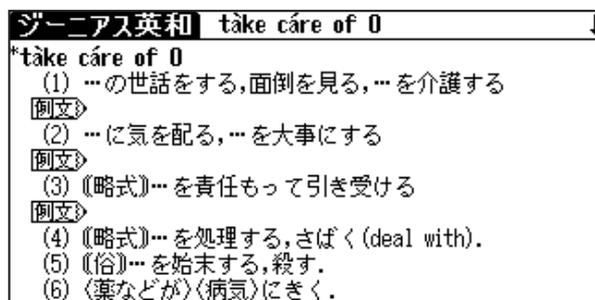
英語の成句（熟語）を調べたい時は、複数の英単語を「＆」で結びながら入力すると候補を絞り込んで検索することができます。

［例題］「take」と「care」を使った成句を調べます

1 英和/和英 を押し英和辞典の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを成句検索に移動させます。

2 文字入力キーを使って単語を入力します（ここでは「take」シフト N(&)「care」と入力します）。画面に入力した単語をすべて含む成句（熟語）が候補表示されます。

- 複数の単語を入力する場合は、単語の後に シフト N(&) を押して「＆」を入力してから次の単語を入力してください。入力した単語をすべて含む成句が表示されます（成句検索では シフト N(&) を押すと「＆」が入力されます）。
- 「＆」は成句検索では入力できますが、英和スペル入力検索では入力できません。
- 該当する成句がない場合は「一致する成句がありません」というメッセージが表示されます。

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい成句を選択します（ここでは「take care of O」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、成句の本文画面を表示させます。

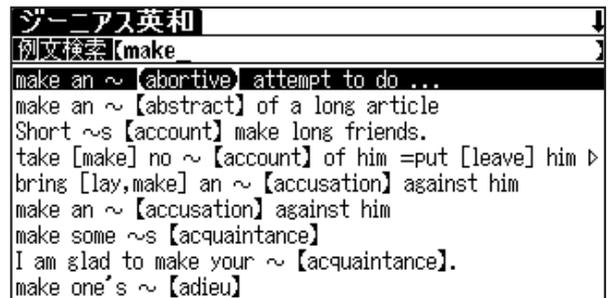
ジーニアス英和　tàke cáre of O
*tàke cáre of O
(1) …の世話をする,面倒を見る,…を介護する
例文
(2) …に気を配る,…を大事にする
例文
(3) 《略式》…を責任もって引き受ける
例文
(4) 《略式》…を処理する,さばく(deal with).
(5) 《俗》…を始末する,殺す.
(6) 〈薬などが〉〈病気〉にきく.

- 本文画面上に 例文 または 解説 がある場合は、例文・解説を表示させることができます。（例文・解説の表示☞17ページ参照）

入力した英単語を含む例文とその和訳を調べます

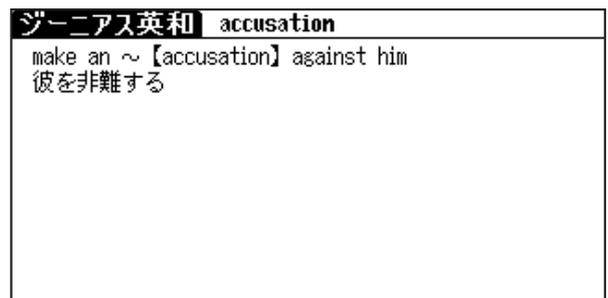
［例題］英単語「make」を入力し、例文と和訳を調べます

1 英和辞典の検索画面を表示させ、▼ でカーソルを例文検索に移動させます。

2 文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「make」を入力します）。

画面に入力単語を含む例文がデータ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

ジーニアス英和
例文検索【make_ 】
make an ～ 【abortive】 attempt to do ...
make an ～ 【abstract】 of a long article
Short ～s 【account】 make long friends.
take [make] no ～ 【account】 of him =put [leave] him ▷
bring [lay,make] an ～ 【accusation】 against him
make an ～ 【accusation】 against him
make some ～s 【acquaintance】
I am glad to make your ～ 【acquaintance】.
make one's ～ 【adieu】

● 収録されていない単語を入力した場合は、“一致する例文がありません。検索条件を変えるかさらに条件を入力してください”のメッセージが表示されます。

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「make an ～【accusation】 against him」を選択します）。

次に 訳・決定 を押して、例文の和訳を表示させます。

ジーニアス英和 accusation
make an ～ 【accusation】 against him
彼を非難する

● シフト N(&) を押し「&」で複数の単語を結んで入力すると、候補を絞り込んで検索することができます。

和英辞典を使う

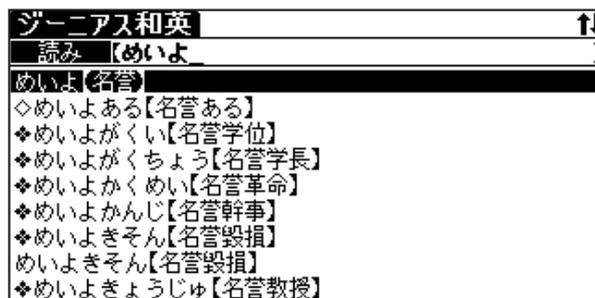
日本語の読みを入力し、英訳を調べます

［例題］「名誉（めいよ）」の英訳を調べます

1 英和/和英 を2回押して和英辞典の入力画面を表示させます。

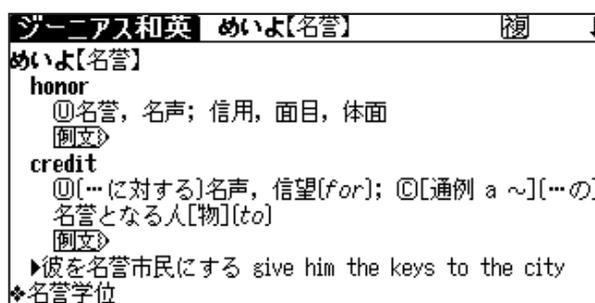
2 読み入力欄に文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「めいよ」を入力します）。

画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。

ジーニアス和英
読み【めいよ_】
めいよ【名誉】
◇めいよある【名誉ある】
❖めいよがくい【名誉学位】
❖めいよがくちょう【名誉学長】
❖めいよかくめい【名誉革命】
❖めいよかんじ【名誉幹事】
❖めいよきそん【名誉毀損】
めいよきそん【名誉毀損】
❖めいよきょうじゅ【名誉教授】

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

● 収録されていない単語を入力した場合は、一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい言葉を選択します（ここでは「めいよ【名誉】」を選択します）。

次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

● 和英辞典の本文画面上に 複 が表示されている場合は、複合語を表示させることができます。
（関連語句を調べる ☞ 104ページ参照）

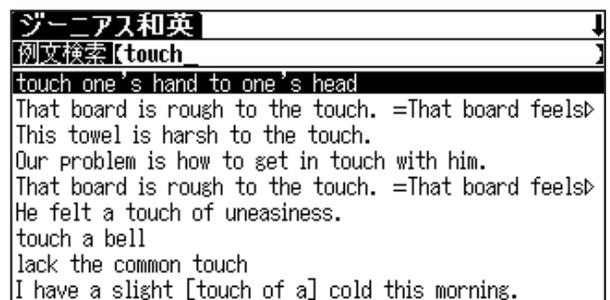
● 本文画面上に 例文 または 解説 がある場合は、例文・解説を表示させることができます。
（例文・解説の表示 ☞ 17ページ参照）

入力した英単語を含む例文とその意味を調べます

［例題］「touch」を入力し、例文を調べます

1 和英辞典の検索画面を表示させ、▼でカーソルを例文検索に移動させます。

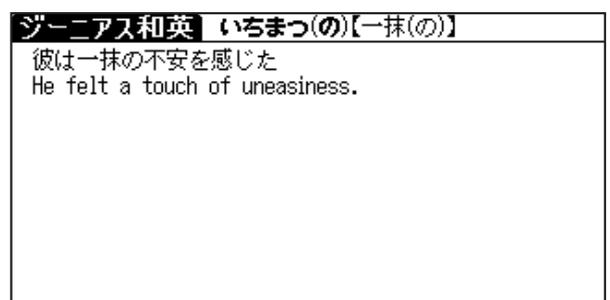
2 文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「touch」を入力します）。

画面に入力単語を含む例文がデータ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

ジーニアス和英
例文検索【touch_ 】
touch one's hand to one's head
That board is rough to the touch. =That board feels▷
This towel is harsh to the touch.
Our problem is how to get in touch with him.
That board is rough to the touch. =That board feels▷
He felt a touch of uneasiness.
touch a bell
lack the common touch
I have a slight [touch of a] cold this morning.

● 収録されていない単語を入力した場合は、“一致する例文がありません。検索条件を変えるかさらに条件を入力してください”のメッセージが表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「He felt a touch of uneasiness.」を選択します）。

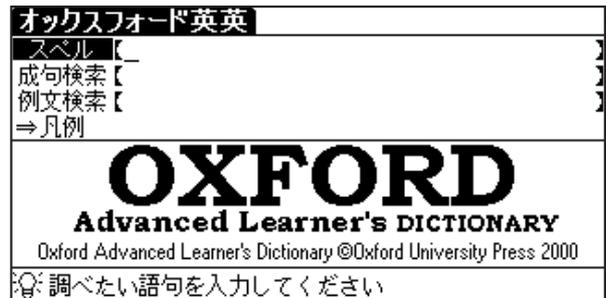
次に 訳・決定 を押して、選択した例文とその和訳を表示させます。

ジーニアス和英　いちまつ(の)【一抹(の)】
彼は一抹の不安を感じた
He felt a touch of uneasiness.

● シフト N(&) を押し「&」で複数の単語を結んで入力すると、候補を絞り込んで検索することができます。

英英辞典を使う

英単語を入力し、語義を検索します

［例題］英単語「moon」を入力し、語義を調べます

1 英英 を押して英英辞典の検索画面を表示させます。

2 スペル入力欄に文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「moon」を入力します）。
画面に入力文字に該当する単語がアルファベット順に候補表示されます。

● 収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは「moon」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

オックスフォード英英 moon I P
moon /muːn/
noun, verb
■ noun
1 (usually **the moon**) (also **the Moon**) [sing.] the round object that moves around the earth once every 28 days and shines at night by light reflected from the sun:
EXAMPLE
2 [sing.] the moon as it appears in the sky at a particular time:

● 英英辞典の本文画面右上に「I」「P」が表示されている場合は、成句や句動詞を表示させることができます。
（関連語句を調べる ☞ 104ページ参照）
● 本文画面上に EXAMPLE がある場合は、例文を表示させることができます。
（例文・解説の表示 ☞ 17ページ参照）

英単語を入力し、成句（熟語）とその意味を表示します

英語の成句（熟語）を調べたい時は、複数の英単語を「&」で結びながら入力するだけで候補をしぼり込んで検索することができます。

［例題］英単語「hold」「on」を使った成句または句動詞を調べます

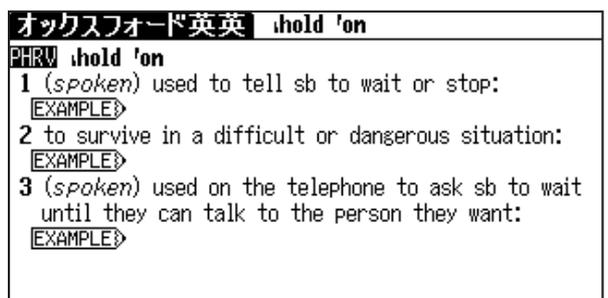
1 英英 を押し英英辞典の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを成句検索に移動させます。

2 文字入力キーを使って単語を入力します（ここでは「hold」シフト N「on」と入力します）。画面に入力した単語をすべて含む成句（熟語）が候補表示されます。

オックスフォード英英
成句検索【hold&on_ 】
hang/hold on for/like grim 'death (hang/hold on for d▷
ˌhold 'on
ˌhold sth↔'on
ˌhold 'on (to sth/sb)| ˌhold 'onto sth/sb
ˌhold 'on to sth| ˌhold 'onto sth
ˌhold 'out on sb
on 'hold

- 複数の単語を入力する場合は、単語の後に シフト N を押して「&」を入力してから次の単語を入力してください。入力した単語をすべて含む成句が表示されます。
- 「&」は成句検索では入力できますが、英英スペル入力検索では入力できません。
- 該当する成句がない場合は“一致する成句がありません”というメッセージが表示されます。

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい成句を選択します（ここでは「ˌhold ˈon」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

オックスフォード英英 ˌhold 'on
PHRV ˌhold 'on
1 (*spoken*) used to tell sb to wait or stop:
EXAMPLE
2 to survive in a difficult or dangerous situation:
EXAMPLE
3 (*spoken*) used on the telephone to ask sb to wait until they can talk to the person they want:
EXAMPLE

- 本文画面上に EXAMPLE がある場合は、例文を表示させることができます。
（例文・解説の表示 ☞ 17ページ参照）

英単語を入力し、入力した英単語を含む例文を検索します

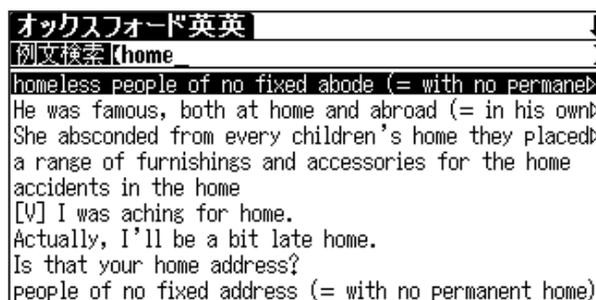
［例題］英単語「home」を入力し、「home」を使った例文を調べます

1 英英 を押して英英辞典の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを例文検索に移動させます。

オックスフォード英英
スペル【 】
成句検索【 】
例文検索【_ 】
⇒凡例
OXFORD
Advanced Learner's DICTIONARY
Oxford Advanced Learner's Dictionary ©Oxford University Press 2000
［&］で区切って複数の語句を入力できます

2 文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「home」を入力します）。

画面に入力した単語を使った例文が、データ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

オックスフォード英英
例文検索【home_ 】
homeless people of no fixed abode (= with no permane▷
He was famous, both at home and abroad (= in his own▷
She absconded from every children's home they placed▷
a range of furnishings and accessories for the home
accidents in the home
[V] I was aching for home.
Actually, I'll be a bit late home.
Is that your home address?
people of no fixed address (= with no permanent home)

- シフト N を押し「&」で複数の単語を結んで入力すると、候補を絞り込んで検索することができます。
- 収録されていない単語を入力した場合は、“一致する例文がありません”というメッセージが表示されます。

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「people of no fixed address (=with no permanent home)」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、例文の全文を表示させます。

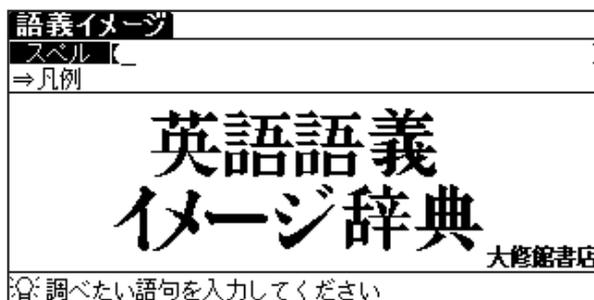
オックスフォード英英 address
people ***of no fixed address*** (= with no permanent home)

英語語義イメージ辞典を使う

英単語の意味に加えて、その原義や原義に基づく語のイメージを調べることができます。

英単語を入力し、和訳と語義イメージを検索します

［例題］英単語「perfect」の和訳と語義イメージを調べます

1 メニュー画面から英語語義イメージを選んで （訳・決定） を押し、英語語義イメージ辞典の検索画面を表示させます。

2 スペル入力欄に文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「perfect」を入力します）。

画面に入力した文字に該当する単語がアルファベット順に候補表示されます。

● 収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい単語を選択します（ここでは「perfect」を選択します）。

次に （訳・決定） を押して、本文画面を表示させます。

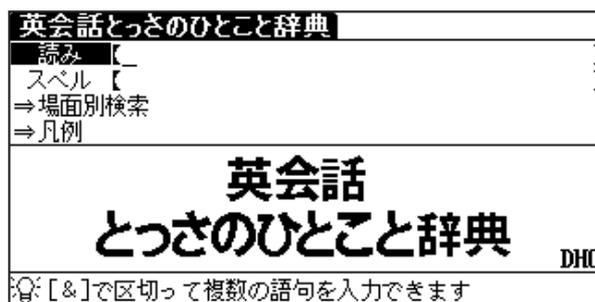
語義イメージ perfect
perfect[pə́:rfikt]
完全な;完全にする
原 完全に(per) なす(fect)
イメージ 完全にする
解 completeとperfectの違いを野球用語で見てみよう:
pitch a complete game最後まで投げきる(完投する)/
pitch a perfect game最後まで投げかつ全打者を凡退させる(完全試合をする)
派 perfection完全/perfectly完全に
関 factory工場(←作るところ)/manufacture製造する(←

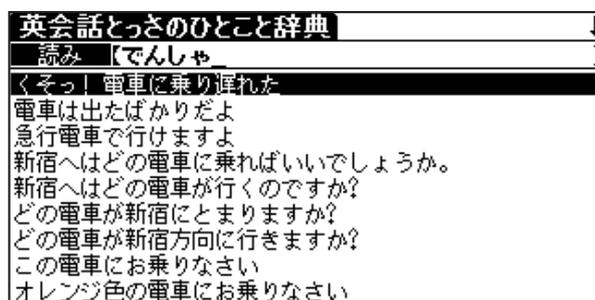
● 本文画面上に 例文 がある場合は、例文を表示させることができます。
（例文・解説の表示 ☞ 17ページ参照）

英会話とっさのひとこと辞典を使う

日本語の読みを入力し、入力した語句を含む会話例文を検索します

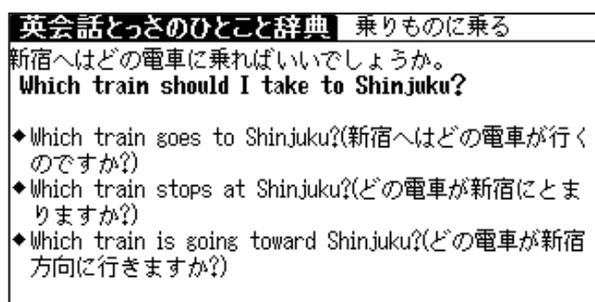
［例題］「でんしゃ(電車)」を入力し、入力した語句を含む例文を検索します

1 メニュー画面から英会話とっさのひとこと辞典を選んで 訳・決定 を押し、英会話とっさのひとこと辞典の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って、日本語の読みを入力します（ここでは「でんしゃ(電車)」を入力します）。画面に入力した語句を含む例文が、データ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

英会話とっさのひとこと辞典
読み【でんしゃ_】
くそっ！電車に乗り遅れた
電車は出たばかりだよ
急行電車で行けますよ
新宿へはどの電車に乗ればいいでしょうか。
新宿へはどの電車が行くのですか?
どの電車が新宿にとまりますか?
どの電車が新宿方向に行きますか?
この電車にお乗りなさい
オレンジ色の電車にお乗りなさい

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

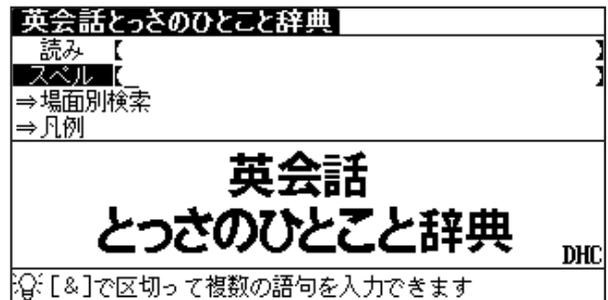
● 複数の単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。
● 該当する例文がない場合は、“一致する語句がありません”というメッセージが表示されます。

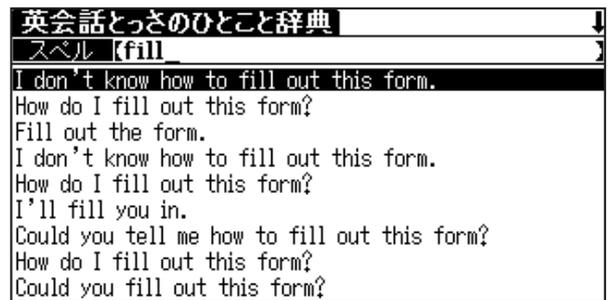
3 ▼ ／▲でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「新宿へはどの電車に乗ればいいでしょうか。」を選択します）。
訳・決定を押して、本文画面を表示させます。

英会話とっさのひとこと辞典 乗りものに乗る
新宿へはどの電車に乗ればいいでしょうか。
Which train should I take to Shinjuku?
◆Which train goes to Shinjuku?(新宿へはどの電車が行くのですか?)
◆Which train stops at Shinjuku?(どの電車が新宿にとまりますか?)
◆Which train is going toward Shinjuku?(どの電車が新宿方向に行きますか?)

● 動詞を入力する場合は、終止形で入力してください。（例：乗れば→乗る）

英単語を入力し、会話例文を検索します

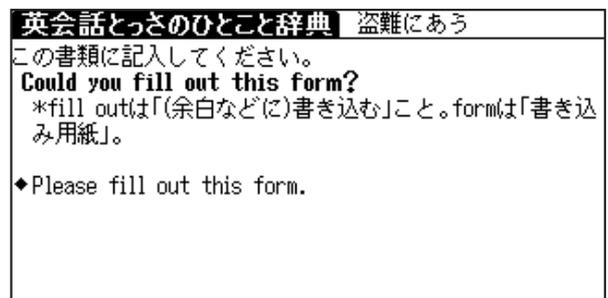
［例題］「fill」を入力し、入力した単語を含む会話例文を検索します

1 英会話とっさのひとこと辞典の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを「スペル」に移動させます。

2 文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「fill」を入力します）。画面に入力した単語を含む例文がデータ上で検索ヒットした順に候補表示されます。

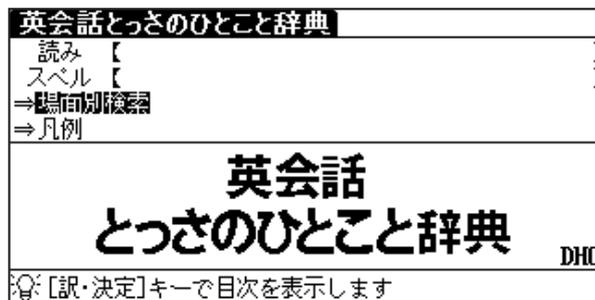
英会話とっさのひとこと辞典
スペル 【fill_ 】
I don't know how to fill out this form.
How do I fill out this form?
Fill out the form.
I don't know how to fill out this form.
How do I fill out this form?
I'll fill you in.
Could you tell me how to fill out this form?
How do I fill out this form?
Could you fill out this form?

- 複数の単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。
- 該当する例文がない場合は、“一致する例文がありません”というメッセージが表示されます。

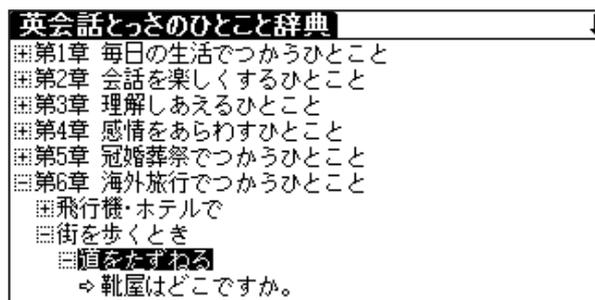
3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、例文を選択します（ここでは「Could you fill out this form?」を選択します）。訳・決定 を押して、本文を表示させます。

英会話とっさのひとこと辞典 盗難にあう
この書類に記入してください。
Could you fill out this form?
*fill outは「（余白などに）書き込む」こと。formは「書き込み用紙」。

◆Please fill out this form.

場面別検索を使って、会話例文を検索します

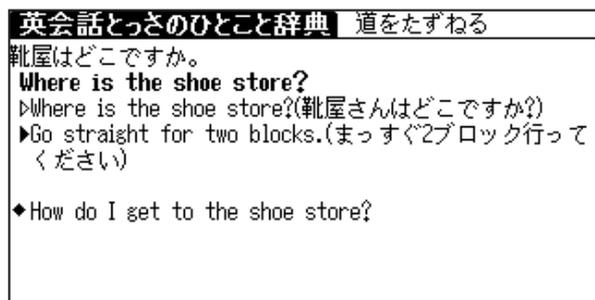
［例題］「第6章　海外旅行でつかうひとこと」から例文を検索します

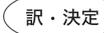
1 英会話とっさのひとこと辞典の検索画面を表示させます。▼ でカーソルを「場面別検索」に移動させます。

2 訳・決定 を押すと章別のリストが表示されます。▼ ／▲で調べたい章を選択し、訳・決定 を押すと、さらに詳しい項目リストが表示されます。同じように項目を選択し、項目に含まれる例文を表示させます。

英会話とっさのひとこと辞典
⊞第1章 毎日の生活でつかうひとこと
⊞第2章 会話を楽しくするひとこと
⊞第3章 理解しあえるひとこと
⊞第4章 感情をあらわすひとこと
⊞第5章 冠婚葬祭でつかうひとこと
⊟第6章 海外旅行でつかうひとこと
⊞飛行機・ホテルで
⊟街を歩くとき
⊟道をたずねる
⇨靴屋はどこですか。

● 右の画面は、「第6章　海外旅行でつかうひとこと」から「街を歩くとき」を選択し、さらにその中から「道をたずねる」を選んで例文のリストを表示させた画面です。

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します。訳・決定を押して、本文該当箇所を表示させます。

英会話とっさのひとこと辞典　道をたずねる
靴屋はどこですか。
Where is the shoe store?
▷Where is the shoe store?(靴屋さんはどこですか?)
▶Go straight for two blocks.(まっすぐ2ブロック行ってください)

◆How do I get to the shoe store?

ツリー形式リスト ⊞ ⊟ について

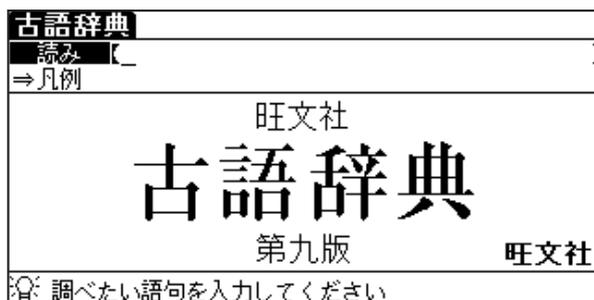
項目の頭に ⊞ が表示されている場合は、さらに小分類の項目があることを示しています。⊞ が表示されている項目を選択して 訳・決定 または▶を押すと、小分類項目のリストを表示することができます。

戻る または◀を押すと、小分類項目のリストを表示させる前の状態に戻ります。⊟ が表示されている場合は、その項目にそれ以上表示できる小分類項目がないことを示しています。

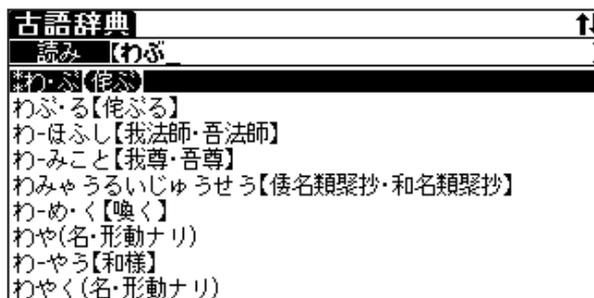
古語辞典を使う

古語の読みを入力し、語義を検索します

［例題］「侘ぶ（わぶ）」の語義を調べます

1 メニュー画面から古語辞典を選んで 訳・決定 を押し、古語辞典の検索画面を表示させます。

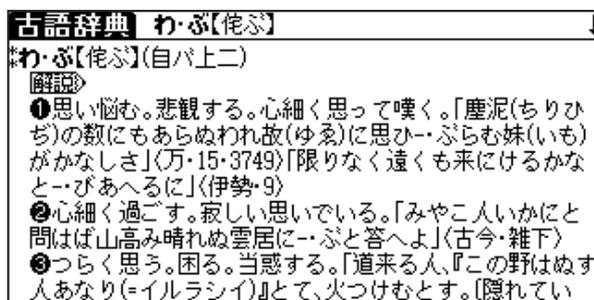
古語辞典
読み【_ 】
⇒凡例
旺文社
古語辞典
第九版
旺文社
調べたい語句を入力してください

2 読み入力欄に文字入力キーを使って語句を入力します（ここでは「わぶ」を入力します）。

画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。

（文字入力について☞21ページ参照）

● 収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します。（ここでは「わぶ【侘ぶ】」を選択します）。

次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

古語辞典 わ・ぶ【侘ぶ】
わ・ぶ【侘ぶ】（自バ上二）
解説
❶思い悩む。悲観する。心細く思って嘆く。「塵泥(ちりひぢ)の数にもあらぬわれ故(ゆゑ)に思ひ-・ぶらむ妹(いも)がかなしさ」〈万・15・3749〉「限りなく遠くも来にけるかなと-・びあへるに」〈伊勢・9〉
❷心細く過ごす。寂しい思いでいる。「みやこ人いかにと問はば山高み晴れぬ雲居に-・ぶと答へよ」〈古今・雑下〉
❸つらく思う。困る。当惑する。「道来る人、『この野はぬす人あなり(=イルラシイ)』とて、火つけむとす。〔隠れてい

● 本文画面右上に 慣 複 が表示されている場合は、その見出し語の慣用連語や複合語を表示させることができます。（関連語句を調べる ☞104ページ参照）

● 本文画面上に 解説 がある場合は、解説を表示させることができます。
（例文・解説の表示☞17ページ参照）

和歌・俳句検索を使う

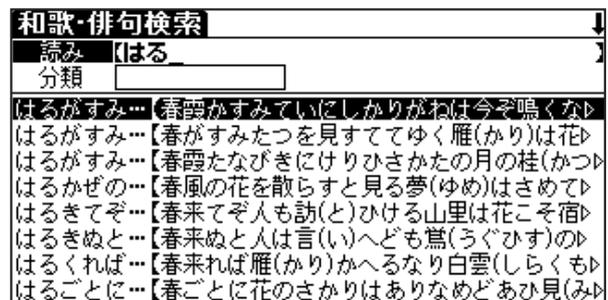
和歌・俳句に含まれる語句を入力し、句意等を検索します

［例題］「はる」を入力し、調べたい和歌を検索します

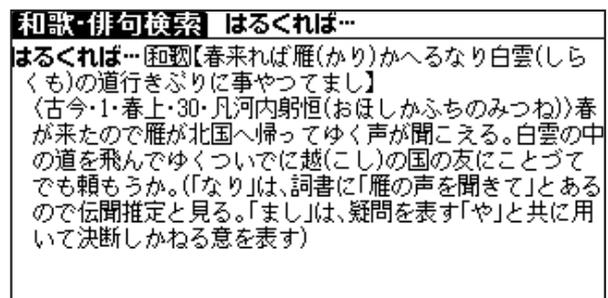
1 メニュー画面から和歌・俳句検索を選んで 訳・決定 を押し、和歌・俳句検索の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「はる」を入力します）。

「はる」の語句から始まる和歌（百人一首）・俳句・川柳などが五十音順に候補表示されます。

和歌·俳句検索
読み【はる_】
分類
はるがすみ…【春霞かすみていにしかりがねは今ぞ鳴くな▷
はるがすみ…【春がすみたつを見すててゆく雁(かり)は花▷
はるがすみ…【春霞たなびきにけりひさかたの月の桂(かつ▷
はるかぜの…【春風の花を散らすと見る夢(ゆめ)はさめて▷
はるきてぞ…【春来てぞ人も訪(と)ひける山里は花こそ宿▷
はるきぬと…【春来ぬと人は言(い)へども鴬(うぐひす)の▷
はるくれば…【春来れば雁(かり)かへるなり白雲(しらくも▷
はるごとに…【春ごとに花のさかりはありなめどあひ見(み▷

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい和歌を選択します（ここでは「はるくれば…」を選択します）。

訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

和歌·俳句検索　はるくれば…
はるくれば…和歌【春来れば雁(かり)かへるなり白雲(しらくも)の道行きぶりに事やつてまし】
〈古今·1·春上·30·凡河内躬恒(おほしかふちのみつね)〉春が来たので雁が北国へ帰ってゆく声が聞こえる。白雲の中の道を飛んでゆくついでに越(こし)の国の友にことづてでも頼もうか。(「なり」は、詞書に「雁の声を聞きて」とあるので伝聞推定と見る。「まし」は、疑問を表す「や」と共に用いて決断しかねる意を表す)

分類項目を選ぶ場合

1 文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「はる」を入力します）。

▶ を押すと分類欄に分類項目がプルダウン表示されます。

▼ ／▲ でカーソルを移動させて分類項目を選びます（ここでは「和歌（百人一首）」を選びます）。

● 分類項目がプルダウン表示された状態で ◀ ／ ▶ を押すと分類項目から読み入力欄にカーソルを戻すことができます。

2 訳・決定 を押すと、「はる」の語句から始まる百人一首が五十音順に候補表示されます。

▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい百人一首を選択し 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

和歌･俳句検索
読み はる
分類 和歌(百人一首)
はるすぎて…【春過ぎて夏きたるらし白栲(しろたへ)の衣(こ
はるのよの…【春の夜の夢(ゆめ)ばかりなる手枕(たまくら

● 読みを入力し分類項目を選ぶと、候補を絞り込むことができます。

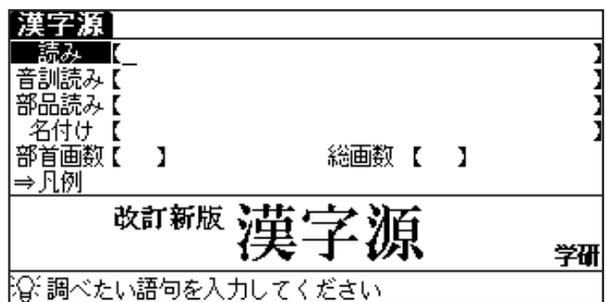
漢字源を使う

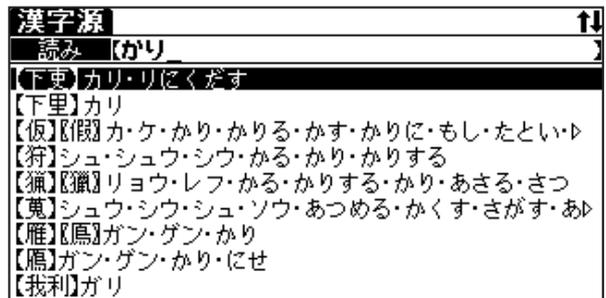
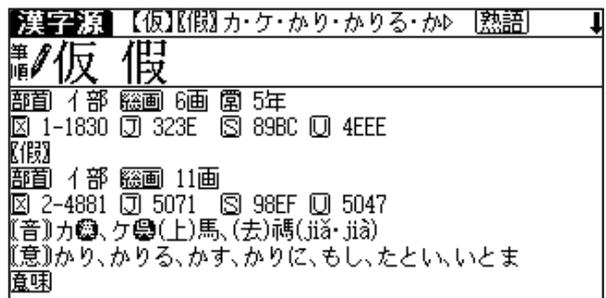
音訓読み、部首画数、総画数からの検索はもちろん、漢字を構成する部品の読みや名前に使われる読みからの検索もでき、本文画面からは筆順を表示することもできます。

漢字や熟語の読みを入力し、意味を調べます

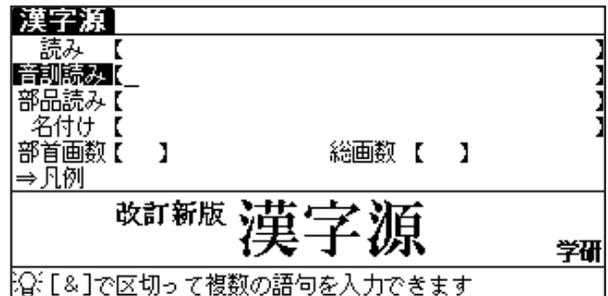
［例題］「かり」を入力し、漢字と意味を調べます

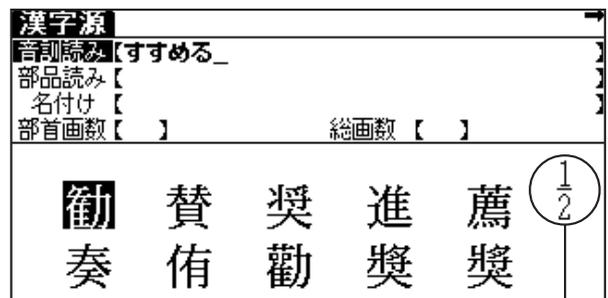
1 漢字源 を押して漢字源の検索画面を表示させせます。

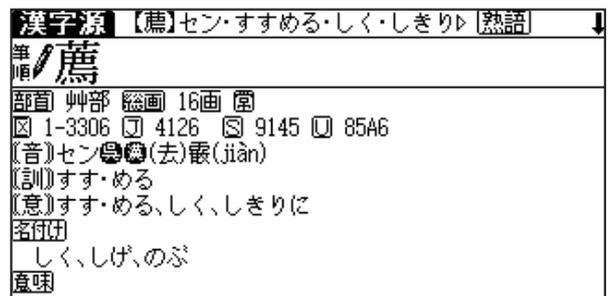
漢字源
読み【_ 】
音訓読み【 】
部品読み【 】
名付け【 】
部首画数【 】 総画数【 】
⇒凡例
改訂新版 漢字源 学研
調べたい語句を入力してください

2 読み入力欄に文字入力キーを使って漢字の読みを入力します（ここでは「かり」を入力します）。
画面に入力文字に該当する親字と入力文字からはじまる熟語が五十音順に候補表示されれます。

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい親字または熟語を選択します（ここでは「【仮】かり」）を選択します）。次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させせます。

音訓読みを入力し、漢字を検索します

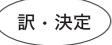
［例題］「すすめる（薦める）」の漢字を読みから調べます

1 漢字源 を押して漢字源の検索画面を表示させます。▼でカーソルを音訓入力欄に移動させます。

2 文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「すすめる」と入力します）。
画面に入力文字に該当する親字が候補表示されます。

● 収録されていない読みを入力した場合は、“一致する親字がありません”というメッセージが表示されます。

読み「すすめる」の漢字が全部で2画面ある中の1画面目であることを示しています。

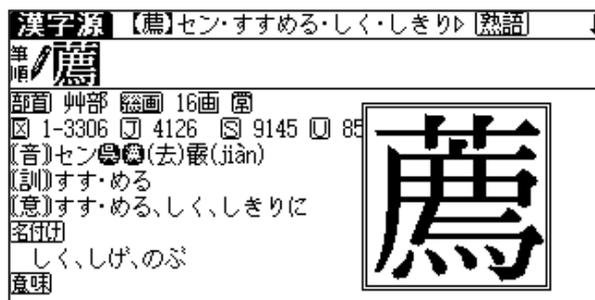
3 ▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します（ここでは「薦」を選択します）。次に 訳・決定 を押すと、選択した親字の本文画面が表示されます。

熟語を表示します

本文画面右上に 熟語 が表示されている場合は、表示中の親字を含む熟語を表示させることができます。

1 本文画面の表示中に 関連/スペル を押すと、熟語が候補表示されます。

2 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、熟語を選択して 訳・決定 を押すと、熟語の読みと意味が表示されます（ここでは「薦引」を選択します）。

文字を拡大表示します

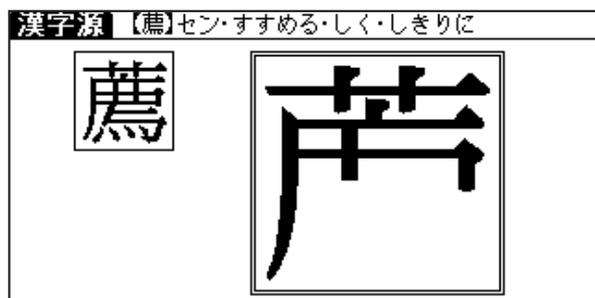
本文画面の表示中に 訳・決定 を押すと、親字が拡大表示されます。

▼／▲／◀／▶で拡大表示したい文字にカーソルを移動させて選択すると、1文字ずつ拡大表示できます。

再度 訳・決定 を押すと、もとの表示サイズに戻ります。

● 記号や文字コードなどは選択できません。

漢字の筆順を表示します

本文画面表示中に シフト 筆順/ジャンプ を押すと筆順表示画面に切り替わり、親字の筆順が表示されます。

戻る を押すと本文画面に戻ります。

● 親字の横に 筆順 が表示されていない場合は、筆順を表示することはできません。
● 1文字ずつの拡大表示をしている画面からは筆順表示画面に切り替えることはできません。
● 筆順表示画面では筆順を表示しますが、画数通りには表示されない場合もあります。

部品名を入力し、漢字を検索します

部品とは、漢字を構成している各々の部分を指します。例えば、「親」という字は「立」「木」「見」のように三つの部品から成り立っています。

［例題］「露（つゆ）」を部品名から調べます（「露（つゆ）」は、「雨」「足」「各」で構成されています）

1 漢字源 を押して漢字源の検索画面を表示させます。

▼ でカーソルを部品読み入力欄に移動させます。

2 ▼ でカーソルを部品読み入力欄に移動させ、漢字の部品名を入力します（ここでは「あめ（雨）」シフト N「あし（足）」シフト N「かく（各）」と入力します）。

● 複数の部品名を入力する場合は シフト N を押してから次の部品名を続けて入力してください。（部品名検索では シフト N を押すと「&」が入力されます。）

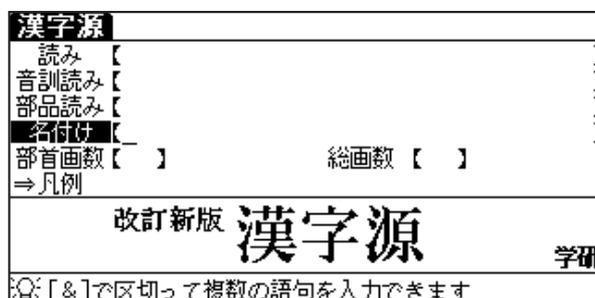
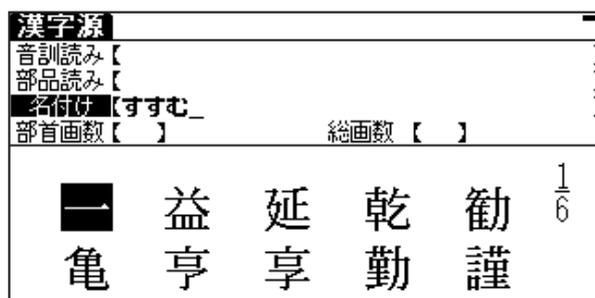
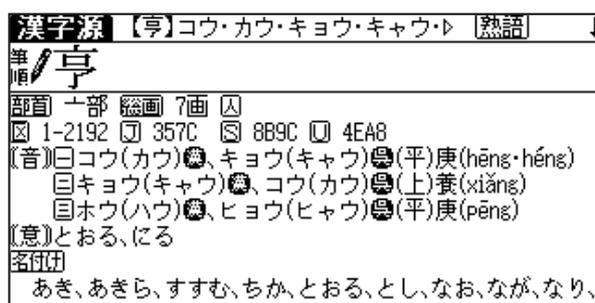
● 収録されていない部品名または部品名の組み合わせを入力した場合は、“一致する親字がありません”というメッセージが表示されます。

3 ▼／▲／◀／▶ でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します（ここでは「露」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、親字の本文画面を表示させます。

名前に使われる漢字を検索します

［例題］名付け読み「すすむ」に当たる漢字を調べます

1 漢字源 を押して漢字源の検索画面を表示させます。

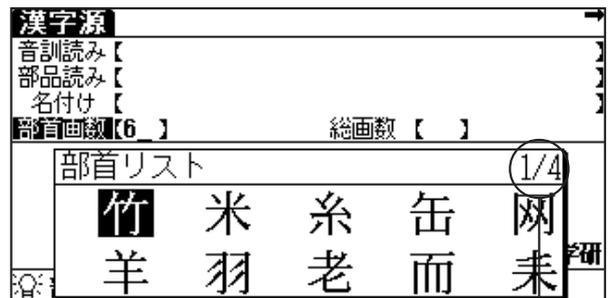
▼ でカーソルを名付け入力欄に移動させます。

2 文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「すすむ」を入力します）。画面に入力文字に該当する親字が候補表示されます。

3 ▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、調べたい親字を選択します（ここでは「亨」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、選択した親字の本文画面を表示させます。

部首画数を入力し、漢字を検索します

［例題］「簾（すだれ）」を部首画数から調べます（「簾」の部首は「竹かんむり」で部首画数は「6」です）

1 漢字源 を押して漢字源の検索画面を表示させます。

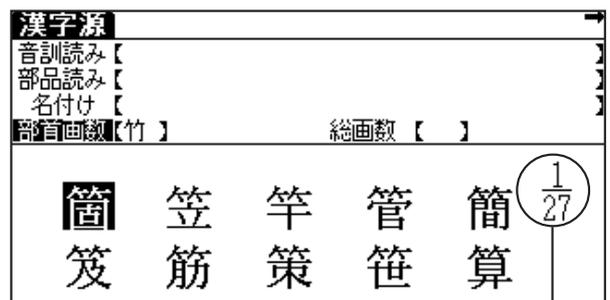
2 ▼ でカーソルを部首画数入力欄に移動させ、画数を入力します（ここでは Y（6は）（数字の6）を入力します）。

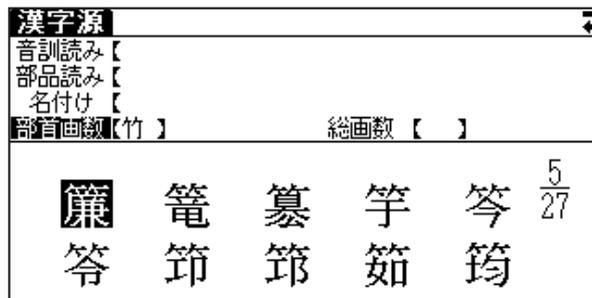
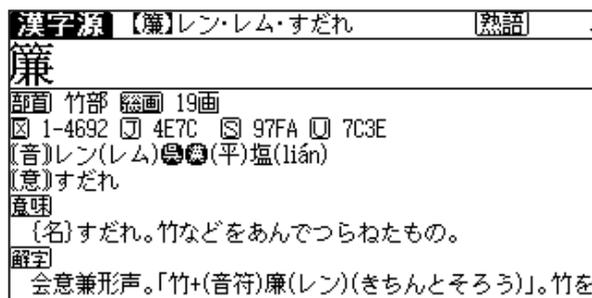
■ 6画の部首が候補表示されます。

● 画数を入力し直す場合は、登録/削除 または 戻る を押してください。

部首候補が全部で4画面ある中の、1画面目であることを示しています。

3 ▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、調べたい部首を選択します（ここでは「竹」を選択します）。

次に 訳・決定 を押して、「竹かんむり」の親字を候補表示させます。

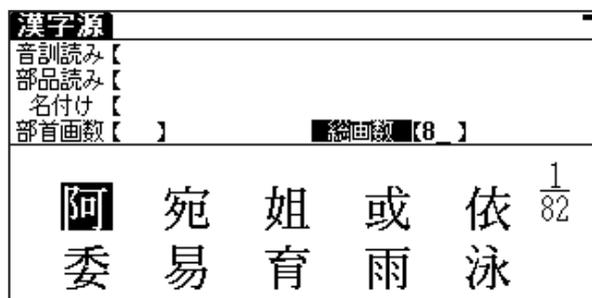
● 部首を選び直す場合は、登録/削除 を押してください。

竹かんむりの漢字が全部で27画面ある中の、1画面目であることを示しています。

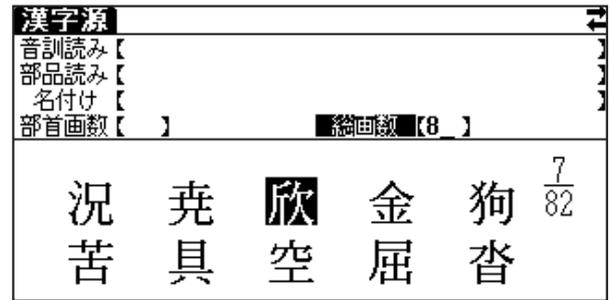
4 ▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します（「簾」は親字候補表示画面5画面目に表示されています）。

5 訳・決定 を押すと「簾」の親字の本文画面が表示されます。

総画数を入力し、漢字を検索します

［例題］「欣」を総画数から調べます（欣の総画数は8です）

1 漢字源 を押して漢字源の検索画面を表示させます。

2 ▼ でカーソルを総画数入力欄に移動させ、総画数を入力します（ここでは 8や I （数字の8）を入力します）。

■ 総画数が8画の漢字が候補表示されます。

● 総画数を入力し直す場合は、登録/削除 または 戻る を押してください。

3 ▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、調べたい漢字を選択します(「欣」は親字候補表示画面7画面目に表示されています)。

4 訳・決定 を押すと、選択した親字の本文画面が表示されます。

素早い漢字検索

シフト▲／▼でカーソルを移動させて音訓読み、部品読み、名付け、部首画数、総画数の条件を複数同時に入力することができます。情報が多ければ多いほど検索対象が絞られ、更に効率的に検索することができます。例えば54ページで調べた「簾」の場合、部品読み「けん(兼)」の候補を表示させた後、部首画数「6」を入力し「竹かんむり」を選択すれば、検索結果第1画面 に「簾」が表示されます。

四字熟語辞典を使う

一般的に使われる四字熟語について意味、用例、類句などを調べることができます。

四字熟語の読みを入力し、意味を調べます

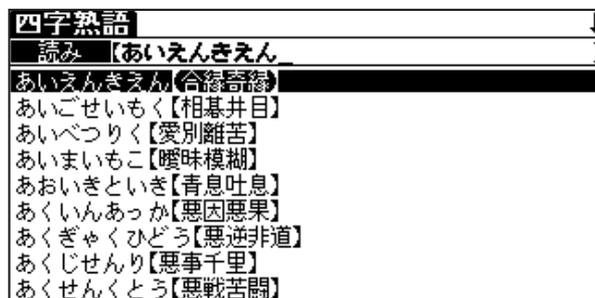
[例題]「合縁奇縁（あいえんきえん）」の意味を調べます

1 メニュー画面から四字熟語を選んで 訳・決定 を押し、四字熟語辞典の検索画面を表示させます。

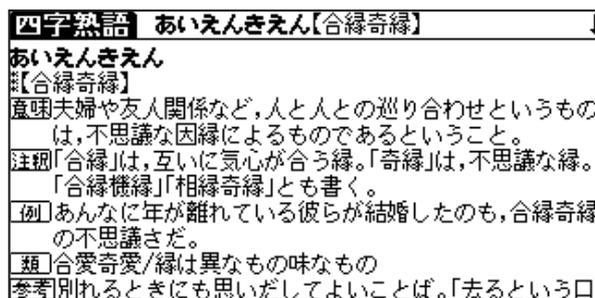
四字熟語
読み【_】
⇒使用シーン/内容から探す
⇒凡例
四字熟語辞典
A Dictionary of Four-Kanji Phrases
学研
調べたい語句を入力してください

2 読み入力欄に文字入力キーを使って熟語の読みを入力します（ここでは「あいえんきえん」を入力します）。
画面に入力文字に該当する熟語が五十音順に候補表示されます。

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

四字熟語
読み【あいえんきえん_】
あいえんきえん【合縁奇縁】
あいごせいもく【相碁井目】
あいべつりく【愛別離苦】
あいまいもこ【曖昧模糊】
あおいきといき【青息吐息】
あくいんあっか【悪因悪果】
あくぎゃくひどう【悪逆非道】
あくじせんり【悪事千里】
あくせんくとう【悪戦苦闘】

● 収録されていない熟語を入力した場合は、その熟語に一番近いものから五十音順に表示されます。

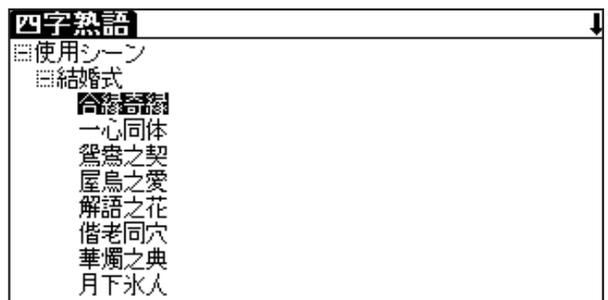
3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい熟語を選択します（ここでは「あいえんきえん【合縁奇縁】」を選択します）。
次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

四字熟語 あいえんきえん【合縁奇縁】
あいえんきえん
【合縁奇縁】
意味 夫婦や友人関係など，人と人との巡り合わせというものは，不思議な因縁によるものであるということ。
注釈「合縁」は，互いに気心が合う縁。「奇縁」は，不思議な縁。「合縁機縁」「相縁奇縁」とも書く。
例 あんなに年が離れている彼らが結婚したのも，合縁奇縁の不思議さだ。
類 合愛奇愛/縁は異なもの味なもの
参考 別れるときにも思いだしてよいことば。「去るという口

使用シーンから調べます

［例題］「⇒使用シーン」から「合縁奇縁」を調べます

1 四字熟語辞典の検索画面を表示させ、▼ でカーソルを「⇒使用シーン／内容から探す」に移動させます。

2 訳・決定 を押すと候補リストが表示されます。▼ ／▲ で調べたい項目を選択し 訳・決定 を押すと、さらにジャンルを絞り込むことができます。調べたい四字熟語を選択して 訳・決定 を押すと、選択した四字熟語の本文画面が表示されます。

四字熟語
⊟使用シーン
⊟結婚式
合縁奇縁
一心同体
鴛鴦之契
屋烏之愛
解語之花
偕老同穴
華燭之典
月下氷人

- 項目の頭に ⊞ が表示されている場合は、選択後 訳・決定 または ▶ を押すとさらに細分化された項目を表示することができます。
（ツリー形式リスト ⊞ ⊟ について ☞ 44ページ参照）
- 上の画面は、「使用シーン」→「結婚式」→「合縁奇縁」の順に選択した場合です。

故事ことわざ辞典を使う

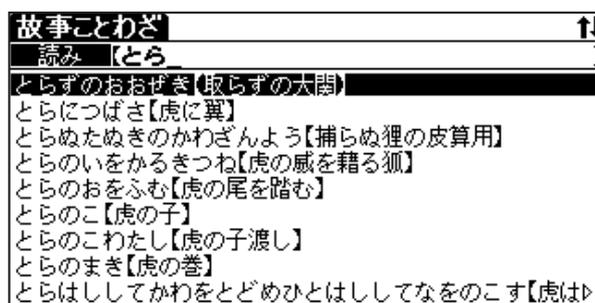
故事・ことわざの意味、使用例、類句のほか、意味や発想の似ている英語のことわざなども調べることができます。

語句を入力し、その語句から始まる故事・ことわざを検索します

［例文］「とら」で始まることわざの意味と用例を調べます

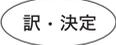
1 メニュー画面から故事ことわざを選んで 訳・決定 を押し、故事ことわざ辞典の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って読みを入力します（ここでは「とら」を入力します）。
画面に入力文字からはじまることわざが五十音順に候補表示されます。

故事ことわざ
読み 【とら_ 】
とらずのおおぜき【取らずの大関】
とらにつばさ【虎に翼】
とらぬたぬきのかわざんよう【捕らぬ狸の皮算用】
とらのいをかるきつね【虎の威を藉る狐】
とらのおをふむ【虎の尾を踏む】
とらのこ【虎の子】
とらのこわたし【虎の子渡し】
とらのまき【虎の巻】
とらはししてかわをとどめひとはししてなをのこす【虎は▷

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

● 収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたいことわざを選択します（ここでは「とらぬたぬきのかわざんよう【捕らぬ狸の皮算用】」を選択します）。

故事ことわざ　とらぬたぬきのかわざんよう【捕▷
とらぬたぬきのかわざんよう
【捕らぬ狸の皮算用】
意味 まだ手に入れていないうちから当てにして、儲(もう)けを計算したり、あれこれ計画を立てたりすること。
注釈 「算用」は金銭などの計算をすること。まだ捕らえていない狸の皮を売って、いくらになるかと、儲けの計算をすることから。
類 ▲飛ぶ鳥の献立/▲沖な物あて/▲穴の貉を値段する
較 Don't count your chickens before they are hatched.（卵がかえらないうちにひなの数を数えるな）

次に 訳・決定 を押して、ことわざの本文画面を表示させます。

使用シーンから調べます

● 使用シーンからことわざを検索することができます。操作方法は「四字熟語辞典」の場合と同じです。
（使用シーンから調べます ☞ 58ページ参照）

世界史事典を使う

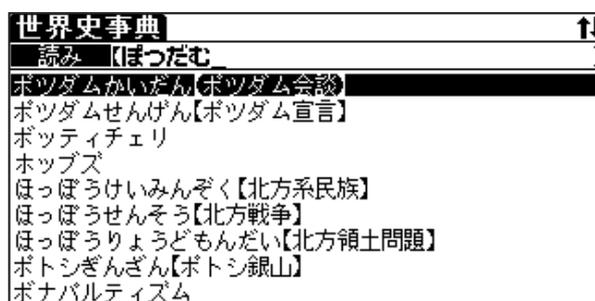
世界史上の事柄や人物について、詳しく調べることができます。

世界史の用語を入力し、その年代や内容を検索します

［例題］「ポツダム」について調べます

1 メニュー画面から世界史事典を選んで (訳・決定) を押し、世界史事典の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って語句を入力します（ここでは「ぽつだむ」を入力します）。

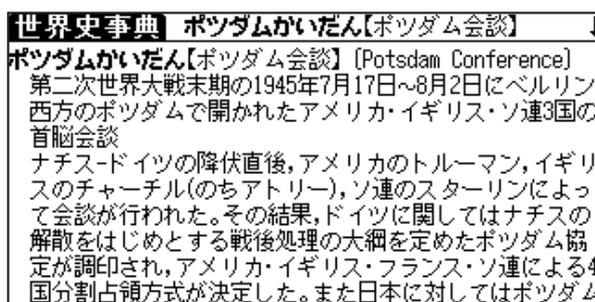
画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。

世界史事典
読み【ぽつだむ_】
ポツダムかいだん【ポツダム会談】
ポツダムせんげん【ポツダム宣言】
ボッティチェリ
ホッブズ
ほっぽうけいみんぞく【北方系民族】
ほっぽうせんそう【北方戦争】
ほっぽうりょうどもんだい【北方領土問題】
ポトシぎんざん【ポトシ銀山】
ボナパルティズム

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

● 収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「ポツダムかいだん【ポツダム会談】」を選択します）。

次に (訳・決定) を押して、本文画面を表示させます。

世界史事典 ポツダムかいだん【ポツダム会談】
ポツダムかいだん【ポツダム会談】〔Potsdam Conference〕
第二次世界大戦末期の1945年7月17日~8月2日にベルリン西方のポツダムで開かれたアメリカ・イギリス・ソ連3国の首脳会談
ナチス-ドイツの降伏直後，アメリカのトルーマン，イギリスのチャーチル(のちアトリー)，ソ連のスターリンによって会談が行われた。その結果，ドイツに関してはナチスの解散をはじめとする戦後処理の大綱を定めたポツダム協定が調印され，アメリカ・イギリス・フランス・ソ連による4国分割占領方式が決定した。また日本に対してはポツダム

日本史事典を使う

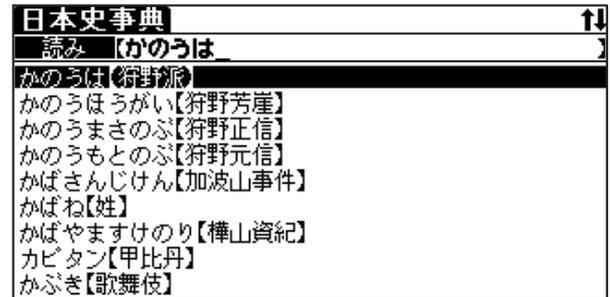
日本史上の事柄や人物について、詳しく調べることができます。

日本史の用語を入力し、その年代や内容を検索します

［例題］「狩野派（かのうは）」について調べます

1 メニュー画面から日本史事典を選んで 訳・決定 を押し、日本史事典の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って語句を入力します（ここでは「かのうは」を入力します）。

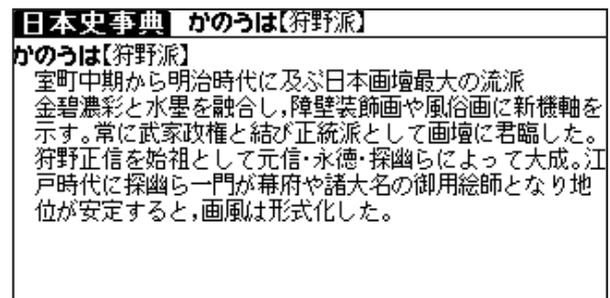
画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。

日本史事典
読み 【かのうは_】
かのうは【狩野派】
かのうほうがい【狩野芳崖】
かのうまさのぶ【狩野正信】
かのうもとのぶ【狩野元信】
かばさんじけん【加波山事件】
かばね【姓】
かばやますけのり【樺山資紀】
カピタン【甲比丹】
かぶき【歌舞伎】

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

● 収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

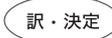
3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「かのうは【狩野派】」を選択します）。

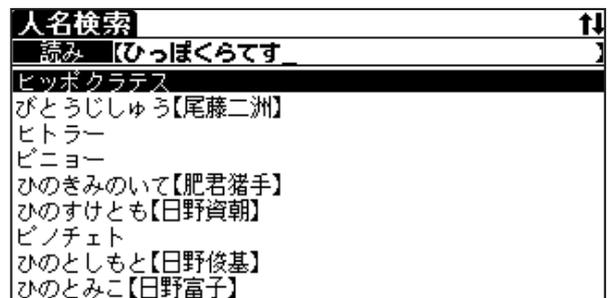
次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

日本史事典 かのうは【狩野派】
かのうは【狩野派】
室町中期から明治時代に及ぶ日本画壇最大の流派
金碧濃彩と水墨を融合し，障壁装飾画や風俗画に新機軸を示す。常に武家政権と結び正統派として画壇に君臨した。狩野正信を始祖として元信・永徳・探幽らによって大成。江戸時代に探幽ら一門が幕府や諸大名の御用絵師となり地位が安定すると，画風は形式化した。

人名検索を使う

歴史上の人物を検索します（世界史・日本史共通）

［例題］「ヒッポクラテス」を検索します

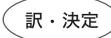
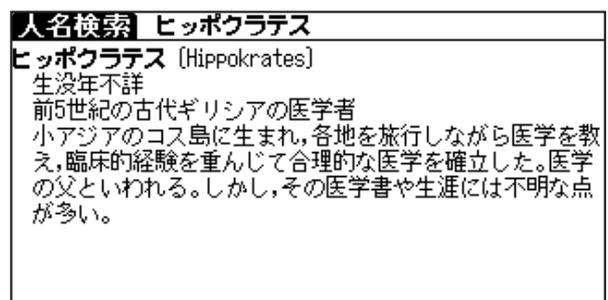
1 メニュー画面から人名検索を選んで 訳・決定 を押し、人名検索の検索画面を表示させます。

2 文字入力キーを使って人名を入力します（ここでは「ひっぽくらてす」を入力します）。

画面に入力文字に該当する人名が五十音順に候補表示されます。

（文字入力について☞21ページ参照）

● 収録されていない人名を入力した場合は、入力した人名に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい人名を選択します（ここでは「ヒッポクラテス」を選択します）。

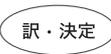
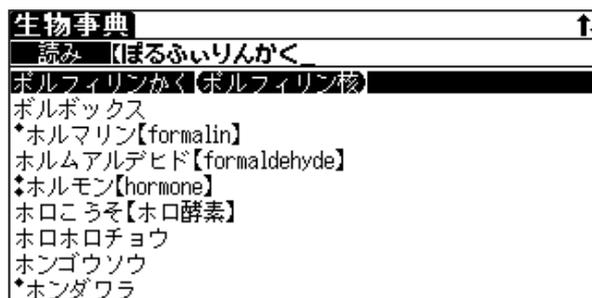
次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

人名検索 ヒッポクラテス
ヒッポクラテス［Hippokrates］
生没年不詳
前5世紀の古代ギリシアの医学者
小アジアのコス島に生まれ，各地を旅行しながら医学を教え，臨床的経験を重んじて合理的な医学を確立した。医学の父といわれる。しかし，その医学書や生涯には不明な点が多い。

生物事典を使う

生物学に関する用語を検索することができます。

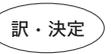
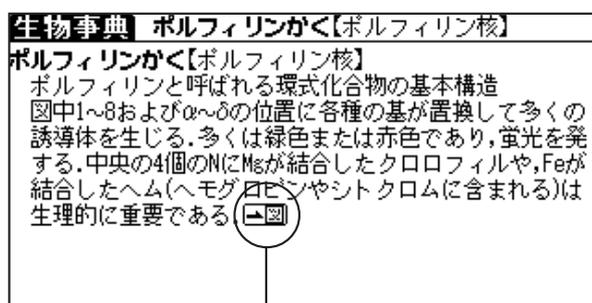
生物学用語を入力し、語句の意味を調べます

［例題］「ポルフィリン核（かく）」の意味を調べます

1 メニュー画面から生物事典を選んで 訳・決定 を押し、生物事典の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って語句を入力します（ここでは「ぽるふぃりんかく」を入力します）。画面に入力文字に該当する語句が五十音順に表示されます。

生物事典
読み【ぽるふぃりんかく_】
ポルフィリンかく【ポルフィリン核】
ボルボックス
ホルマリン【formalin】
ホルムアルデヒド【formaldehyde】
ホルモン【hormone】
ホロこうそ【ホロ酵素】
ホロホロチョウ
ホンゴウソウ
ホンダワラ

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

● 収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します（ここでは「ポルフィリンかく」を選択します）。

訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

● 本文画面中に 図 アイコンが表示されている場合は、関連画像を参照することができます。

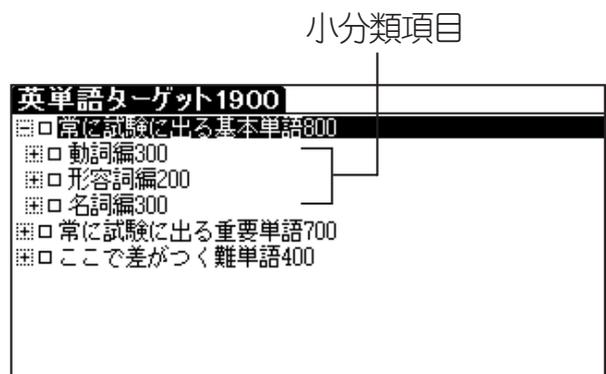
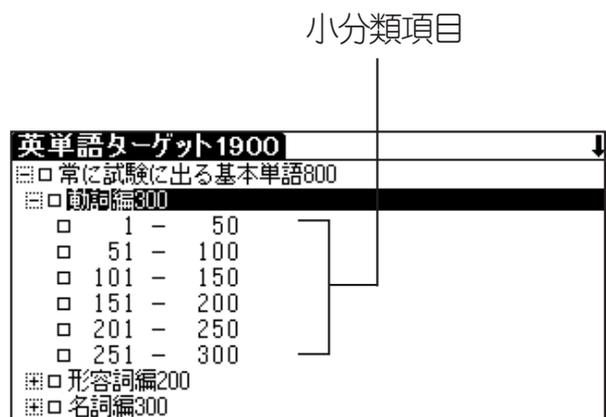
（参照ジャンプ ☞ 103ページ参照）

学習コンテンツに共通する基本の操作

ツリー形式リスト - 項目の選択方法

学習コンテンツでは、学習・テストする項目をツリー形式のリストから選択します（ここでは、英単語ターゲット1900の学習画面を例に説明します）

1 検索画面から、▼／▲でカーソルを移動させ「⇒ 学習」を選択します。訳・決定を押すと、ツリー形式のリストが表示されます。

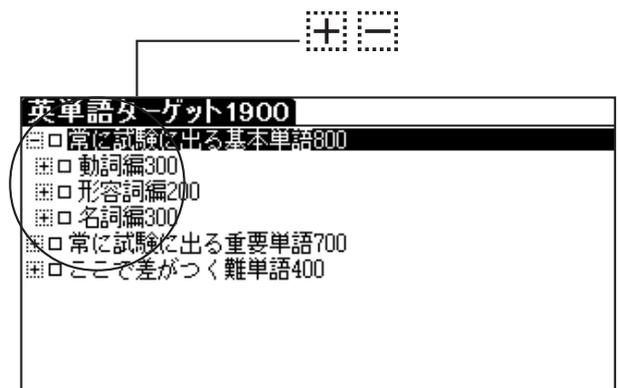
2 ▼／▲でカーソルを移動させ、「常に試験に出る基本単語800」を選択します。訳・決定を押すと、選択した項目に含まれる小分類項目のリストが表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、項目「動詞編300」を選択します。訳・決定を押すと、選択した項目に含まれる小分類項目が表示されます。

4 本文画面が表示されるまで、2の操作を繰り返します。ここでは、項目「1-50」を選択し 訳・決定 を押すと、本文画面が表示されます。

本文画面

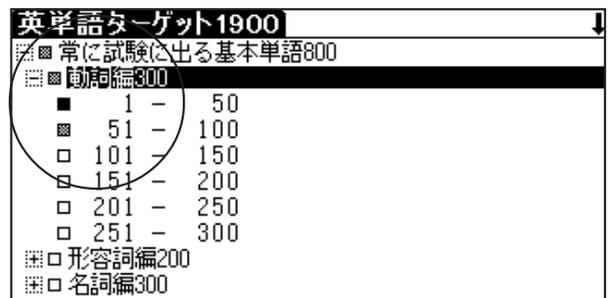
ツリー形式リスト ⊞⊟ についての説明

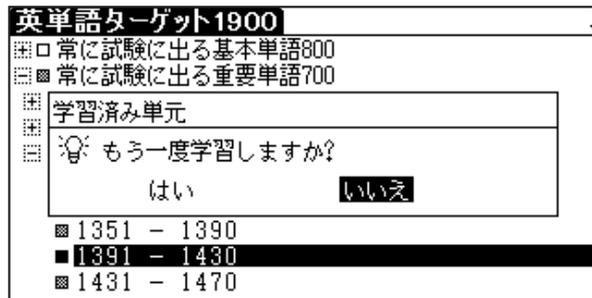
項目の頭に ⊞ が表示されている場合は、さらに小分類の項目があることを示しています。

英単語ターゲット1900
⊟□常に試験に出る基本単語800
⊞□動詞編300
⊞□形容詞編200
⊞□名詞編300
⊞□常に試験に出る重要単語700
⊞□ここで差がつく難単語400

⊞が表示されている項目を選択して 訳・決定 または▶を押すと、小分類項目のリストを表示することができます。 戻る または◀を押すと、小分類項目のリストを表示させる前の状態に戻ります。 ⊟ が表示されている場合は、その項目には、それ以上表示できる小分類項目がないことを示しています。

進捗の記録

リスト上に進捗の記録が表示されます。

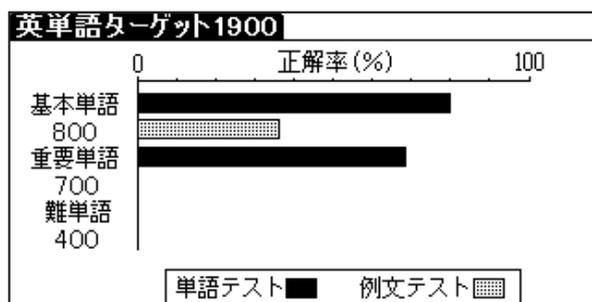
すでに学習（テスト）し終えた項目は、項目の頭にあるボックスが黒く塗りつぶされて表示されます。途中まで学習（テスト）し終えた項目は、ボックスが灰色に塗りつぶされて表示されます。

■ 学習し終わった項目
▩ 途中まで学習した項目
□ まだ学習していない項目

学習の進捗が記録されるコンテンツについては、リスト上で、すでに学習し終えた項目を選択した場合、「もう1度学習しますか？」というメッセージが表示されます。◀／▶で「はい」か「いいえ」を選択して 訳・決定 を押します。また、途中まで学習した項目を選択した場合には、「最初から学習しますか？」というメッセージが表示されますので、この場合にも「はい」か「いいえ」を選択して 訳・決定 を押します。

テストの場合は、最後までテストした項目を選択した場合にのみ、「この単元はテスト済みです」というメッセージが表示されます。◀／▶で「再テストする」か「不正解の問題をテストする」のどちらかを選択して 訳・決定 を押してください。

● ロイヤル英文法と公式集、世界史・日本史年代暗記ターゲット以外の学習コンテンツで学習・テストの進捗が記録されます。

テスト結果グラフ表示

英単語（英熟語）ターゲット、英単語（英熟語）ターゲットBRUSH-UPでは、テストの正解率をグラフで表示することができます。

検索画面から、▼／▲でカーソルを移動させ、「⇒テスト結果」を選択します。訳・決定 を押すと、テスト結果画面が表示されます。各単元の正解率がグラフで表示されます。

● 単元の最後までテストしていない場合も、テスト結果が表示されます。
● テスト結果は、学習設定画面で削除することができます。（☞ 70ページ参照）

チェックボックス

学習コンテンツでは、見出しの頭にチェックボックスが設けられています。覚えた単語や、見直したい項目などにチェックを入れておくことができます（ロイヤル英文法、英単熟BRUSH-UP以外のすべての学習コンテンツにチェックボックスが設けられています）。

シフト ☑履歴 を押すと、☑チェックボックスにチェックを入れることができます。再度シフト ☑履歴 を押すと、チェックマークを解除することができます。

英単語ターゲット1900
☑pronounce[prənáuns](101)
を発音する;を宣言する
▫pronùnciátion名発音
¶ How do you pronounce your name?(大阪女子大)
あなたのお名前はどのように発音するのですか?

● 学習設定画面で、チェックマークをまとめて解除することもできます。
（設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）
● チェックマークを入れた単語は、学習設定・設定画面で表示・非表示の設定を行うことができます。
（設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）

ポップアップ表示

① 学習コンテンツでは本文画面で問題が出題されると、「【訳・決定】キーで解説（解答）画面を表示します」というポップアップが表示されます。

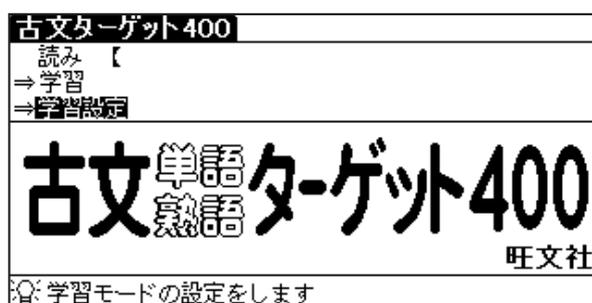
②解説（解答）画面では、「【訳・決定】キーで次の問題を表示します」というポップアップが表示されます。いずれの表示も2秒ほどで、自動的に消えるようになっています。

漢字ターゲット1700 1/25
□書き取り(1)
《出題》
事件の[リンカク]が浮かび上がる。
《解答》
輪郭
[訳・決定]キーで次の問題を表示します

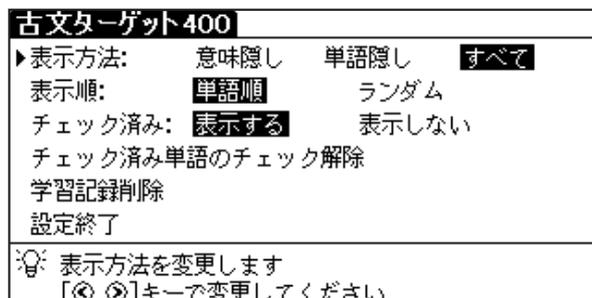
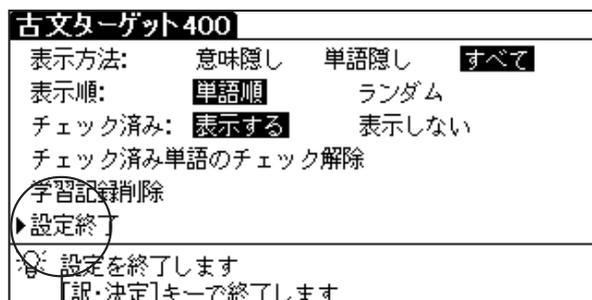
● ポップアップはロイヤル英文法問題集、英単語・英熟語ターゲットBRUSH-UP、漢字ターゲット1700、漢検プチドリルで表示されます（ここでは、漢字ターゲット1700の書き取りを例として説明します）。

学習設定の方法

学習コンテンツでは、設定画面で、学習・テスト画面の表示方法や順序を設定することができます（ロイヤル英文法以外の学習コンテンツすべてで学習設定を行うことができます）
（ここでは、古文単語・熟語ターゲット400の学習設定画面を例に説明します）

1 検索画面から、▼／▲でカーソルを移動させ「⇒学習設定」を選択します。訳・決定 を押すと、学習設定画面が表示されます。

2 ▼／▲でカーソルを移動させ、設定項目を選択します。各項目の設定内容は、◀／▶でカーソルを移動させ選択します。

古文ターゲット400
▶表示方法:　意味隠し　単語隠し　すべて
表示順:　単語順　ランダム
チェック済み:　表示する　表示しない
チェック済み単語のチェック解除
学習記録削除
設定終了
表示方法を変更します
[◀ ▶]キーで変更してください

3 ▼／▲で「設定終了」を選び 訳・決定 を押すと、設定した内容が保存・反映されます。

古文ターゲット400
表示方法:　意味隠し　単語隠し　すべて
表示順:　単語順　ランダム
チェック済み:　表示する　表示しない
チェック済み単語のチェック解除
学習記録削除
▶設定終了
設定を終了します
[訳・決定]キーで終了します

設定終了：設定内容を保存します

設定項目とその内容

以下を参考に項目を選んで設定してください。モードによって設定する項目は異なります。

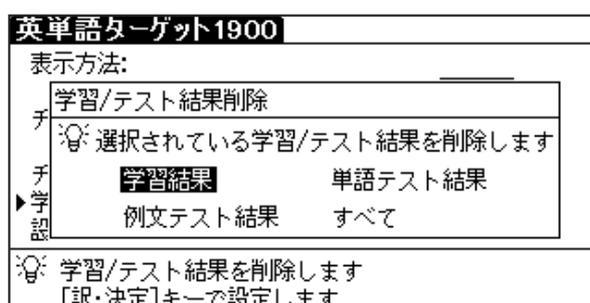
項目	内容
表示方法	学習画面での単語の表示方法を選択します。
意味隠し	単語の意味・解説部分を隠して表示します。
単語隠し	意味・解説部分は表示し、単語を隠して表示します。
すべて	単語・意味・解説のすべてを表示します。初期設定では「すべて」に設定されています。
表示順序	単語の表示順、テストの出題順を選択します。
単語（項目）順	コンテンツに収録されている順番に表示します。
ランダム	単語や問題の順序を入れ替えて表示します。
チェック済み	チェックマーク（☑）を入れた単語の表示を選択します。
表示する	チェック済み単語を含むすべての単語を表示します。初期設定では「表示する」に設定されています。
表示しない	チェック済み単語を表示しません。
チェック済み単語のチェック解除	チェックマーク（☑）を入れたすべての単語からまとめてチェックマークを外します。
記録削除	学習の進捗記録、テストの記録を削除します。
学習記録	学習進捗の記録をすべて削除します。
テスト記録・結果	テスト進捗記録とテストの結果（グラフ）をすべて削除します。

・ 表示方法

　公式集では、公式/キーワードを隠して表示します。

・ 記録削除

　各項目を選択して 訳・決定 を押すと、確認メッセージが表示されます。記録を削除してよい場合は、◀／▶で「はい」を選択して 訳・決定 を押します。

　英単語（英熟語）ターゲットでは、「学習/テスト結果削除」を選択し 訳・決定 を押すと、まずどの記録を削除するかを選択する画面が表示されます。◀／▶でカーソルを移動させ、削除したい記録を選択します。訳・決定 を押すと確認メッセージが表示されますので、記録を削除してよい場合は、◀／▶で「はい」を選択して 訳・決定 を押します。

表示内容で「意味隠し」を選択した場合

本文画面を表示させると、単語の意味が隠されて表示されます。

（操作方法について☞88ページの1～3参照）

シフト▼ を押すと、意味が表示されます。

再度 シフト▼ を押すと、次の見出し語の本文画面が、意味が隠されて表示されます。

表示内容で「単語隠し」を選択した場合

本文画面を表示させると、単語が隠されて表示されます。

（操作方法について☞88ページの1～3参照）

シフト▼ を押すと、単語が表示されます。

再度 シフト▼ を押すと、次の見出し語の本文画面が、単語が隠されて表示されます。

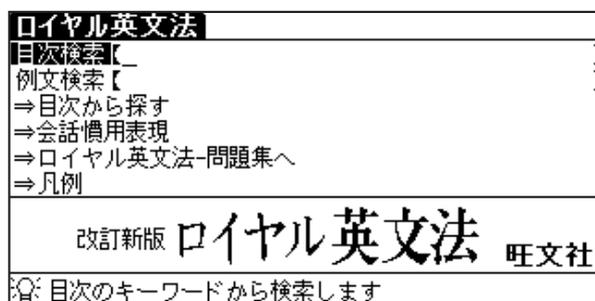
ロイヤル英文法を使う

英語の読み書きや口語英語に必要な文法や語法を調べることができます。

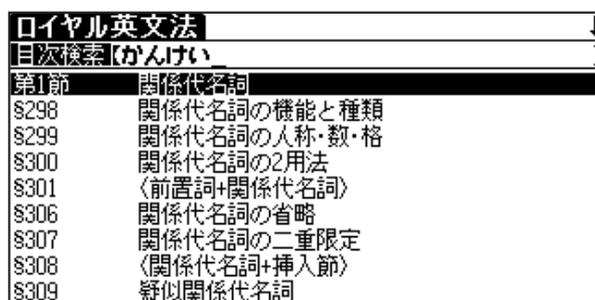
キーワードを入力し、目次から検索します

［例題］「かんけい(関係)」を入力し、目次から関係代名詞の項目を調べます

1 メニュー画面からロイヤル英文法を選んで 訳・決定 を押し、ロイヤル英文法の検索画面を表示させます。

ロイヤル英文法
目次検索【_】
例文検索【】
⇒目次から探す
⇒会話慣用表現
⇒ロイヤル英文法-問題集へ
⇒凡例
改訂新版 ロイヤル英文法 旺文社
目次のキーワードから検索します

2 目次検索欄に文字入力キーを使ってキーワードを入力します（ここでは「かんけい」と入力します）。画面に入力した言葉を含む目次項目が候補表示されます。

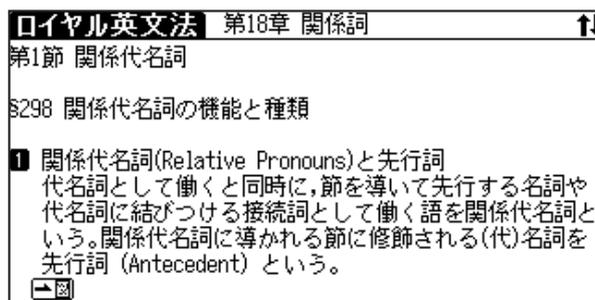
ロイヤル英文法
目次検索【かんけい_】

第1節	関係代名詞
§298	関係代名詞の機能と種類
§299	関係代名詞の人称・数・格
§300	関係代名詞の2用法
§301	〈前置詞+関係代名詞〉
§306	関係代名詞の省略
§307	関係代名詞の二重限定
§308	〈関係代名詞+挿入節〉
§309	疑似関係代名詞

（文字入力について☞21ページ参照）

● 収録されていない言葉を入力した場合は、“一致する目次がありません。検索条件を変えるか、さらに条件を入力してください”のメッセージが表示されます。

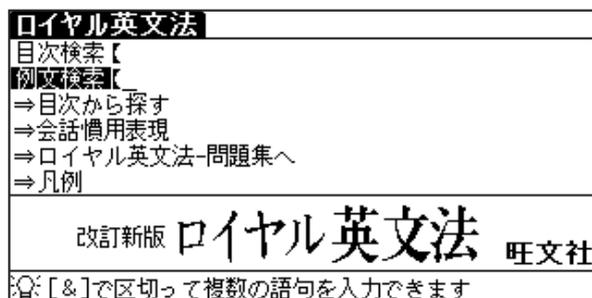
3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい項目を選択します（ここでは「第1節 関係代名詞」を選択します）。

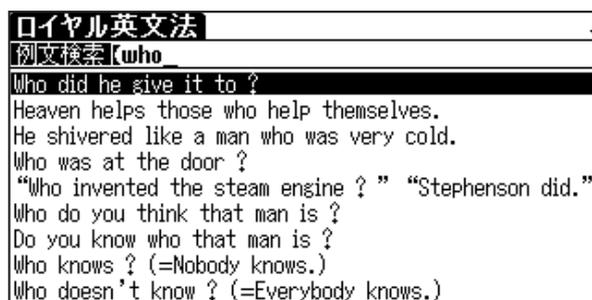
次に 訳・決定 を押して、本文画面の該当箇所を表示させます。

ロイヤル英文法 第18章 関係詞
第1節 関係代名詞
§298 関係代名詞の機能と種類
❶ 関係代名詞(Relative Pronouns)と先行詞
代名詞として働くと同時に,節を導いて先行する名詞や代名詞に結びつける接続詞として働く語を関係代名詞という。関係代名詞に導かれる節に修飾される(代)名詞を先行詞 (Antecedent) という。

入力した英単語を含む例文を調べます

［例題］「who」を入力し、例文を検索します

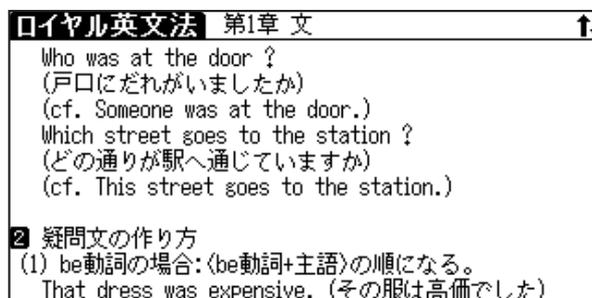
1 ロイヤル英文法の検索画面を表示させ、▼ でカーソルを例文検索に移動させせます。

ロイヤル英文法
目次検索【　】
例文検索【_　】
⇒目次から探す
⇒会話慣用表現
⇒ロイヤル英文法-問題集へ
⇒凡例
改訂新版 ロイヤル英文法 旺文社
［&］で区切って複数の語句を入力できます

2 文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「who」を入力します）。画面に入力した単語を使った例文が候補表示されます。

ロイヤル英文法
例文検索【who_　】
Who did he give it to ?
Heaven helps those who help themselves.
He shivered like a man who was very cold.
Who was at the door ?
"Who invented the steam engine ? " "Stephenson did."
Who do you think that man is ?
Do you know who that man is ?
Who knows ? (=Nobody knows.)
Who doesn't know ? (=Everybody knows.)

- 複数の英単語を シフト N(&) で結んで入力すると、入力した単語をすべて含む例文を検索することができます。
- 収録されていない単語を入力した場合は、“一致する例文がありません”というメッセージが表示されます。

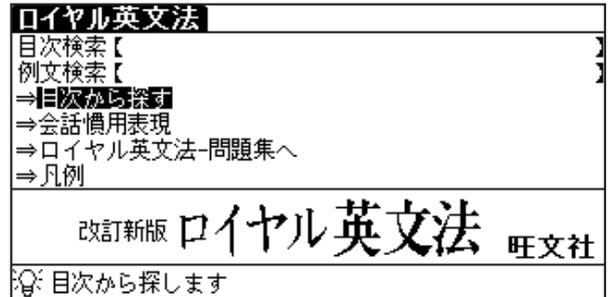
3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい例文を選択します（ここでは「Who was at the door？」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、本文中の例文を表示させせます。

ロイヤル英文法 第1章 文
Who was at the door ?
(戸口にだれがいましたか)
(cf. Someone was at the door.)
Which street goes to the station ?
(どの通りが駅へ通じていますか)
(cf. This street goes to the station.)

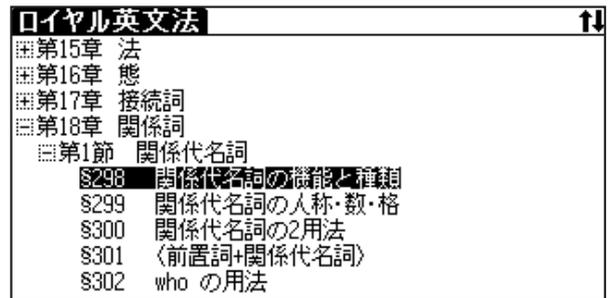
2 疑問文の作り方
(1) be動詞の場合:〈be動詞+主語〉の順になる。
That dress was expensive. (その服は高価でした)

目次一覧から調べます

［例題］「⇒目次から探す」から「関係代名詞」の項目を調べます

1 ロイヤル英文法の検索画面を表示させ、▼ でカーソルを「⇒目次から探す」に移動させせます。

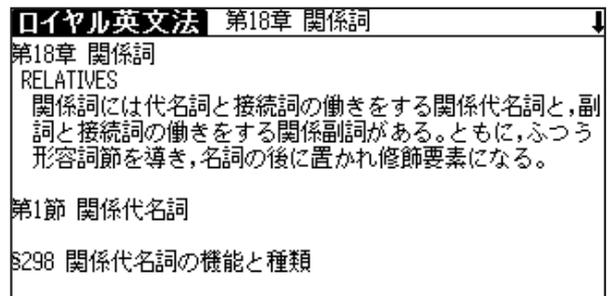
ロイヤル英文法
目次検索【 】
例文検索【 】
⇒目次から探す
⇒会話慣用表現
⇒ロイヤル英文法-問題集へ
⇒凡例
改訂新版 ロイヤル英文法 旺文社
目次から探します

2 訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。▼ ／▲ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは「第18章 関係詞」→「第1節 関係代名詞」→「298 関係代名詞の機能と種類」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

ロイヤル英文法
⊞第15章 法
⊞第16章 態
⊞第17章 接続詞
⊟第18章 関係詞
⊟第1節 関係代名詞
§298 関係代名詞の機能と種類
§299 関係代名詞の人称・数・格
§300 関係代名詞の2用法
§301 〈前置詞+関係代名詞〉
§302 who の用法

3 本文画面で シフト▼ を押すと次の項目が表示されます。

ロイヤル英文法 第18章 関係詞
第18章 関係詞
RELATIVES
関係詞には代名詞と接続詞の働きをする関係代名詞と，副詞と接続詞の働きをする関係副詞がある。ともに，ふつう形容詞節を導き，名詞の後に置かれ修飾要素になる。

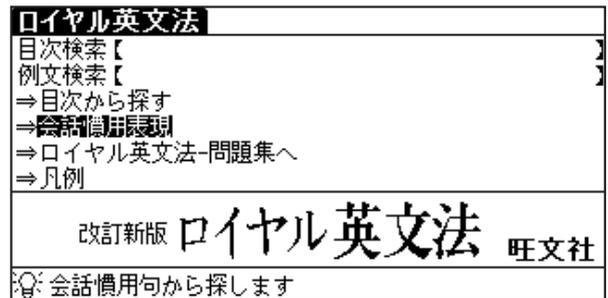
第1節 関係代名詞

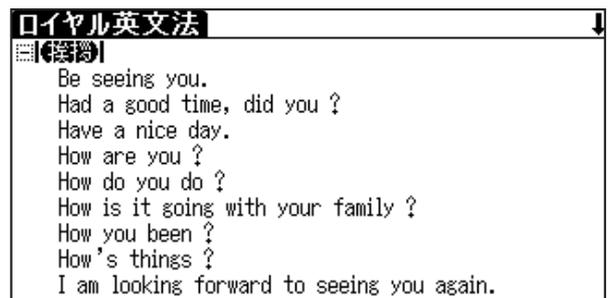
§298 関係代名詞の機能と種類

会話慣用表現を調べます

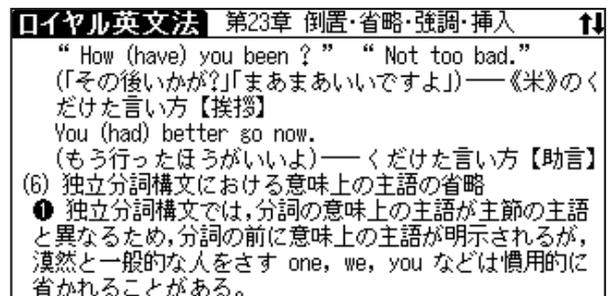
収録された例文の中から、会話慣用表現をカテゴリー別に調べることができます。

［例題］「⇒会話慣用表現」から「挨拶」に使われる表現を調べます

1 ロイヤル英文法の検索画面を表示させ、▼でカーソルを「⇒会話慣用表現」に移動させます。

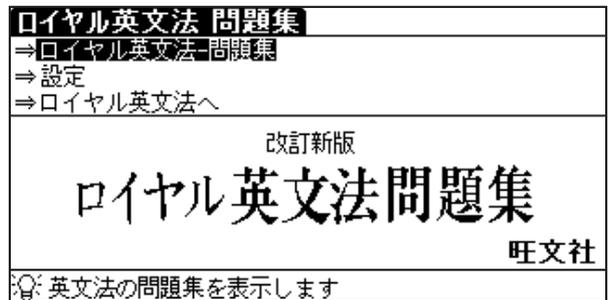
ロイヤル英文法
目次検索【 】
例文検索【 】
⇒目次から探す
⇒会話慣用表現
⇒ロイヤル英文法-問題集へ
⇒凡例
改訂新版 ロイヤル英文法 旺文社
会話慣用句から探します

2 訳・決定 を押すとカテゴリーが一覧表示されますので、▼／▲でカーソルを移動させ、調べたいカテゴリーを選択します（ここでは「挨拶」を選択します）。訳・決定 または ▶ を押すと、選択したカテゴリーに含まれる慣用表現リストが候補表示されます。

ロイヤル英文法
【挨拶】
Be seeing you.
Had a good time, did you ?
Have a nice day.
How are you ?
How do you do ?
How is it going with your family ?
How you been ?
How's things ?
I am looking forward to seeing you again.

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい表現を選択します（ここでは「How you been?」を選択します）。次に 訳・決定 を押して、本文画面中の会話慣用表現を表示させます。

ロイヤル英文法 第23章 倒置・省略・強調・挿入
“How (have) you been ?” “Not too bad.”
(「その後いかが?」「まあまあいいですよ」)──《米》のくだけた言い方【挨拶】
You (had) better go now.
(もう行ったほうがいいよ)──くだけた言い方【助言】
(6) 独立分詞構文における意味上の主語の省略
❶ 独立分詞構文では，分詞の意味上の主語が主節の主語と異なるため，分詞の前に意味上の主語が明示されるが，漠然と一般的な人をさす one, we, you などは慣用的に省かれることがある。

● 関連モードへの移動
1の画面で「⇒ロイヤル英文法-問題集へ」を選んで 訳・決定 を押すと、ロイヤル英文法問題集のモードへ移動することができます。ロイヤル英文法問題集のモード画面で「⇒ロイヤル英文法へ」を選択すると、ロイヤル英文法のモードに切り替わります。

ロイヤル英文法問題集を使う

1 メニュー画面から、ロイヤル英文法 - 問題集を選んで（訳・決定）を押し、ロイヤル英文法問題集の画面を表示します。

ロイヤル英文法 問題集
⇒ロイヤル英文法-問題集
⇒設定
⇒ロイヤル英文法へ
改訂新版
ロイヤル英文法問題集
旺文社
英文法の問題集を表示します

2 「⇒ロイヤル英文法 - 問題集」が選択された状態で、（訳・決定）を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

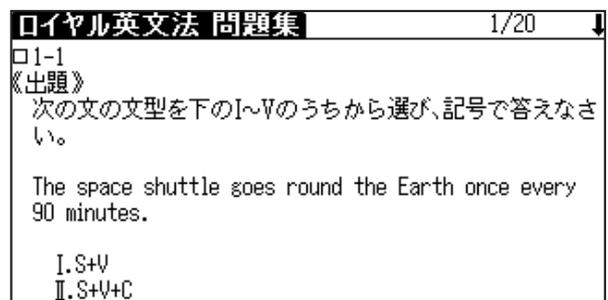
ツリー形式リスト

3 ▼／▲で項目を選んで（訳・決定）を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、「第1章　文」→「No.1」→「出題1」の順に選択します。

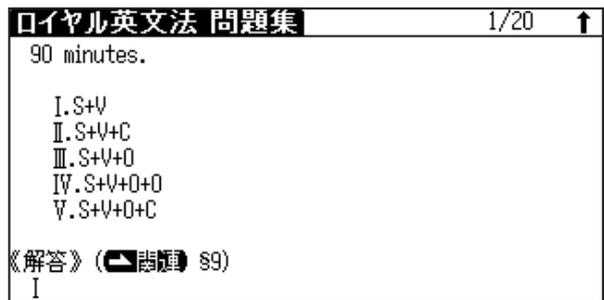
（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

ロイヤル英文法 問題集　1/20
1-1
《出題》
次の文の文型を下のⅠ～Ⅴのうちから選び、記号で答えなさい。

The space shuttle goes round the Earth once every 90 minutes.

Ⅰ.S+V
Ⅱ.S+V+C

本文画面

4 本文画面で 訳・決定 を押すと、解答が表示されます。

● 解答とともに、ロイヤル英文法の参照項目が表示されます。参照する場合は 関連/スペル を押すと参照項目が表示されます。参照画面で 戻る を押すと、解答表示画面に戻ります。

5 訳・決定 を押すと次の本文画面が表示されます。

● 本文画面の設定を行うことができます。

1の画面で、▼ ／▲ でカーソルを移動させ「設定」を選択します。

訳・決定 を押し、設定画面を表示します。

（設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）

● 関連モードへの移動

1の画面で「⇒ロイヤル英文法へ」を選んで 訳・決定 を押すと、ロイヤル英文法のモードへ移動することができます。ロイヤル英文法のモード画面で「⇒ロイヤル英文法-問題集へ」を選択すると、問題集のモードに切り替わります。

英単語・英熟語ターゲットを使う

英単熟語検索のほか学習、単熟語テスト、例文テストなどを使い、英単熟語について効果的に学習することができます。

英単語を入力し、単語の意味を調べます

［例題］「accomplish」を入力し、英単語の意味と例文を調べます（ここでは英単語ターゲットの場合を例として説明します）

1 メニュー画面から英単語ターゲットを選んで （訳・決定） を押し、英単語ターゲットの検索画面を表示させます。

2 スペル入力欄に文字入力キーを使って単語を入力します（ここでは「accomplish」を入力します）。画面に入力文字に該当する英単語がアルファベット順に候補表示されます。

- 収録されていない単語を入力した場合は、その単語に一番近いものから表示されます。
- 英熟語ターゲットの場合は、複数の英単語を「&」で結んで入力すると、入力した単語すべてを含む熟語が候補表示されます。複数の単語を入力することで、候補を絞り込んで検索することができます。

英熟語ターゲット1000
スペル【take&care_】
take care of

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択し 訳・決定 を押します（ここでは「accomplish」を選択します）。

選択した英単語の意味と例文が表示されます。

英単語ターゲット1900
□accomplish[əkámpliʃ](6)
(仕事など)をやり遂げる
▫accómplishment名業績;完成;(~s)才芸
¶ Despite his physical handicap, he **accomplished** many scientific discoveries.(東邦大)
彼は身体障害にもかかわらず,多くの科学的発見を成し遂げた。

英単語の意味と例文を学習します

［例題］英単語「動詞編300・1-50」の単語を学習します
（ここでは英単語ターゲットの場合を例として説明します）

1 英単語ターゲットの検索画面を表示します。

▼でカーソルを移動させ、「⇒学習」を選んで 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

英単語ターゲット1900
スペル【 】
⇒学習
⇒単語テスト ⇒例文テスト
⇒学習設定 ⇒テスト結果
⇒ターゲットBRUSH-UPへ
英単語ターゲット 1900
旺文社
学習モードで単語学習をします

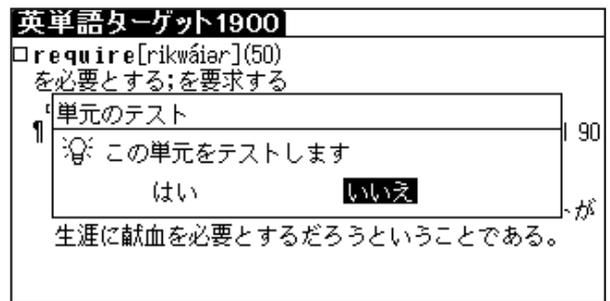
2 ▼／▲で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、「常に試験に出る基本単語800」→「動詞編300」→「1-50」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

英単語ターゲット1900
⊟□常に試験に出る基本単語800
⊟□動詞編300
□ 1 - 50
□ 51 - 100
□ 101 - 150
□ 151 - 200
□ 201 - 250
□ 251 - 300
⊞□形容詞編200
⊞□名詞編300

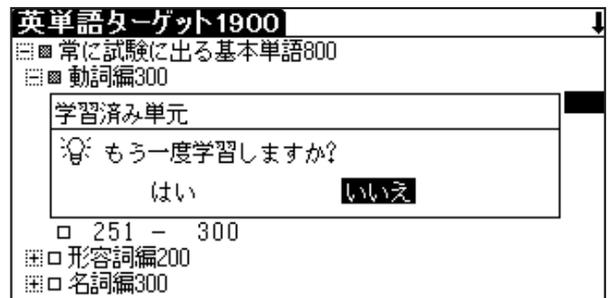
3 訳・決定 か シフト▼ を押し、次の単語を表示します。

英単語ターゲット1900
□succeed[səksíːd](1)
成功する;跡を継ぐ
▷succeed in *doing* ～するのに成功する
▷succeed to... ～を継ぐ
▫success[səksés]名成功
▫succéssion名連続;後継
▷in succession 続けざまに
▫succéssful形成功した
▫succéssive形連続した
¶ Teamwork is very important to **succeed** in

4 各項目の英単語（英熟語）をすべて学習し終えると、「この単元をテストします」というメッセージが表示されます。◀／▶でカーソルを移動させ、「はい」か「いいえ」を選んで 訳・決定 を押します。

● 本文画面の設定を行うことができます。
1の画面でカーソルを移動させ、「⇒学習設定」を選択します。 訳・決定 を押し、設定画面を表示します。
（設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）

再度学習するときは

リスト表示画面で一度学習した単元を再度選択した場合は、“もう一度学習しますか？”のメッセージが表示されます。

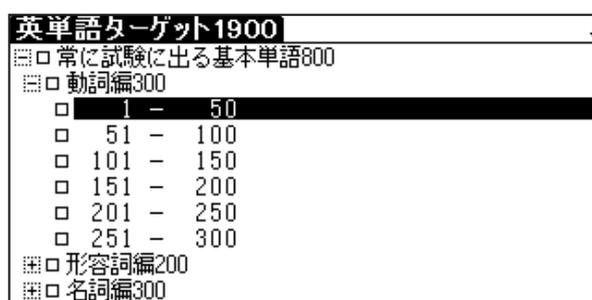
◀／▶でカーソルを移動させ、「はい」または「いいえ」のどちらかを選択します。

単語をテストします

［例題］英単語「動詞編300・1-50」の単語をテストします
（ここでは、英単語ターゲットの単語テストを例として説明します）

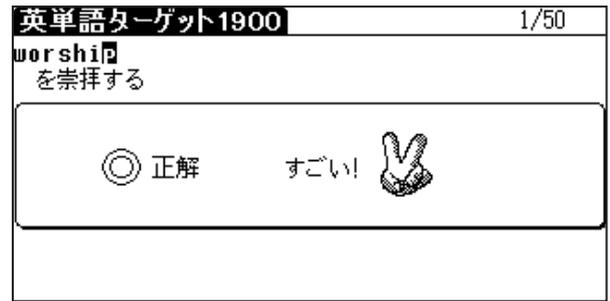
1 英単語ターゲットの検索画面を表示します。

▼ でカーソルを移動させ、「⇒単語テスト」を選んで 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

2 ▼ ／▲ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目のテスト画面を表示します。ここでは、「常に試験に出る基本単語800」→「動詞編300」→「1-50」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

3 空欄の箇所に文字入力キーを使って英単語を入力します。

英単語ターゲット1900　1/50
を崇拝する

4 訳・決定 を押すと、入力した英単語が正しい場合は「◎正解」が画面に表示されます。入力した英単語が間違っている場合は、「×正しくは…」というメッセージとともに、正解が表示されます。

5 訳・決定 を押して次の英単語テスト画面を表示します。

● ここでは、単語テストを例に説明しましたが、例文テストも同じ手順でテストすることができます。
● 例文テストでは16dotの文字サイズ設定の場合、全文を表示できないことがあります。その場合は、12dotの文字サイズ設定に切替えるとすべて表示することができます。
● 英単語（英熟語）単語テスト/例文テストは、テストの正解率をグラフで表示することができます。
（テスト結果グラフ表示 ☞67ページ参照）
● 関連モードへの移動
1の画面で「⇒ターゲットBRUSH-UPへ」を選んで 訳・決定 を押すと、BRUSH-UPのモードへ移動することができます。
BRUSH-UPのモード画面で「⇒英単語ターゲットへ」を選択すると英単語ターゲットのモードに切り替わります。

英単語・英熟語ターゲットBRUSH-UP TESTを使う

英単語・英熟語ターゲットで学習した単熟語を、択一問題でテストすることができます。

英単語をテストします

［例題］「動詞編300・三択問題1～50」をテストします

1 メニュー画面から英単語ターゲット1900 BRUSH-UPを選んで 訳・決定 を押し、英単語ターゲット1900 BRUSH-UPの画面を表示させます。

2 「⇒BRUSH-UP テスト」が選択されている状態で 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。▼／▲で項目を選んで 訳・決定 を押します。

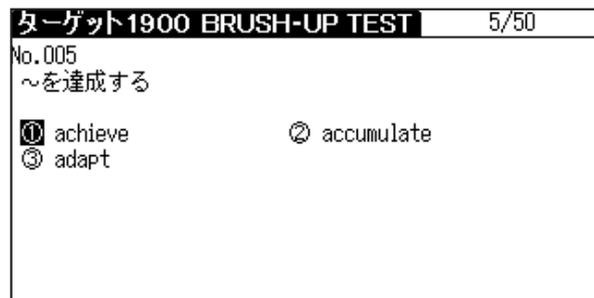
この操作を繰り返し、選択した項目のテスト画面を表示します。

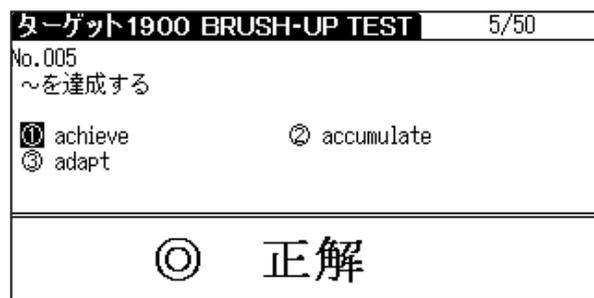
ツリー形式リスト

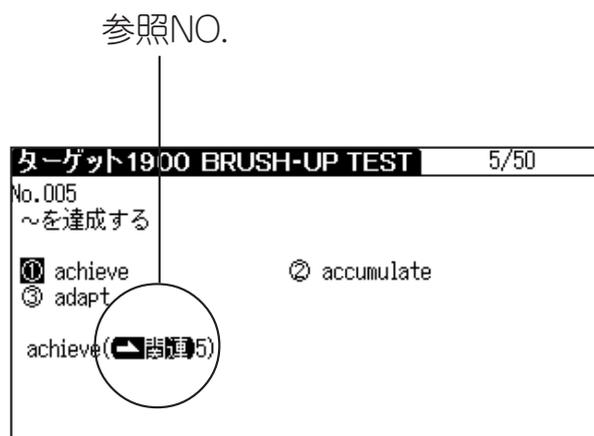
ここでは、「常に試験に出る基本単語 800」→「三択問題で定着度をチェック」→「動詞編300」→「三択問題1～50」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

3 ◀ ／ ▶ を使ってカーソルを移動させ、選択肢の中から解答を選択し、訳・決定 を押します。

ターゲット1900 BRUSH-UP TEST 5/50
No.005
～を達成する
① achieve ② accumulate
③ adapt

4 画面下に正解か不正解かが表示されます。

約2秒後、正解の単語が表示されます。

参照NO.

- 正解の単語とともに、英単語ターゲットの参照NO.が表示されます。参照する場合は 関連／スペル を押します。参照画面で 戻る を押すと解答表示画面に戻ります。

5 訳・決定 を押して、次の問題を表示します。

- テスト画面の設定を行うことができます。
  1の画面で、カーソルを移動させ「⇒設定」を選択します。訳・決定 を押し、設定画面を表示します。
  （設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）
- 英単語（英熟語）BRUSH-UPでは、テストの正解率をグラフで表示することができます。
  （テスト結果グラフ表示 ☞ 67ページ参照）
- 関連モードへの移動
  1の画面で「⇒英単語ターゲットへ」を選んで 訳・決定 を押すと、英単語ターゲットのモードへ移動することができます。英単語ターゲットモード画面で、「⇒ターゲットBRUSH-UPへ」を選択すると、BRUSH-UPのモードに切り替わります。

英検Pass単熟語(3級・準2級・2級)を使う

英検に出題される英単熟語を検索、学習することができます。

（ここでは、英検Pass単熟語2級の画面を例に説明します）

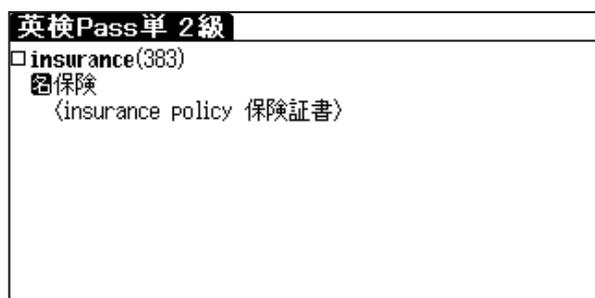
英単語を入力し、単語の意味を調べます

1 メニュー画面から英検Pass単熟語を選んで 訳・決定 を押し、英検Pass単熟語の検索画面を表示します。

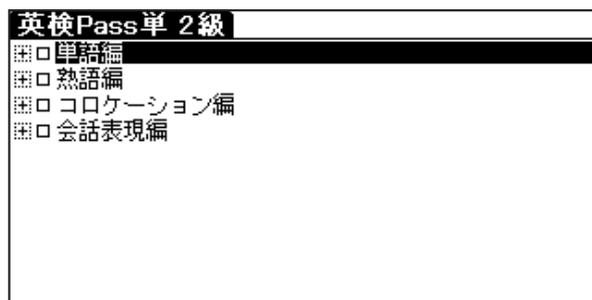
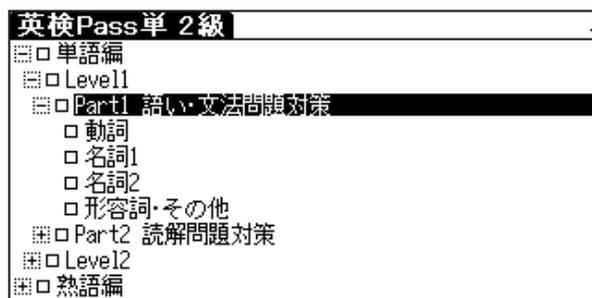
2 単語を検索する場合は「単語」欄に、熟語を検索する場合は「熟語」欄にカーソルを移動させます。文字入力キーを使って単語を入力します。

● 熟語欄では、複数の英単語を シフト N で結んで入力すると、入力した単語すべてを含む熟語が候補表示されます。複数の単語を入力することで候補を絞り込んで検索することができます。

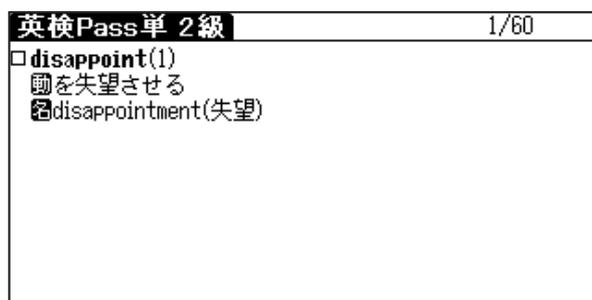
3 ▼／▲ でカーソルを移動させ、単語（熟語）を選んで 訳・決定 を押します。
選択した単語の意味と例文が表示されます。

英検Pass単 2級
□insurance(383)
名保険
〈insurance policy 保険証書〉

英単熟語の意味と例文を学習します

1 英検Pass単熟語の検索画面を表示します。▼ でカーソルを移動させ、「⇒学習」を選んで（訳・決定）を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

英検Pass単 2級
⊞□単語編
⊞□熟語編
⊞□コロケーション編
⊞□会話表現編

2 ▼／▲ で項目を選んで（訳・決定）を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、「単語編」→「Level1」→「Part1」→「動詞」の順に選択します。

ツリー形式リスト

（ツリー形式リスト - 項目選択の方法 ☞ 65ページ参照）

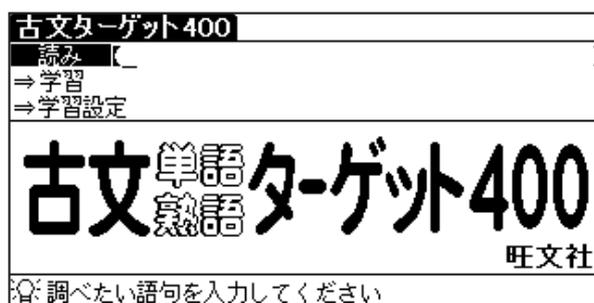
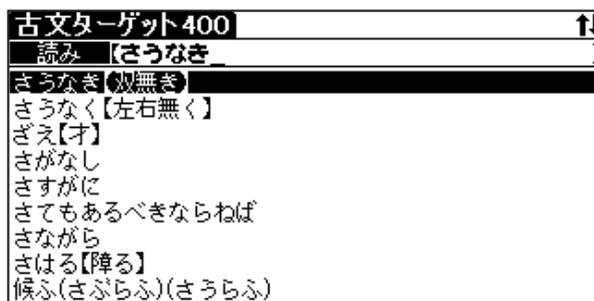
3 本文画面で（訳・決定）を押すと、次の単語の本文画面が表示されます。

本文画面

● 学習画面の設定を行うことができます。
1の画面で、カーソルを移動させ「⇒学習設定」を選択します。（訳・決定）を押し設定画面を表示します。
（設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）

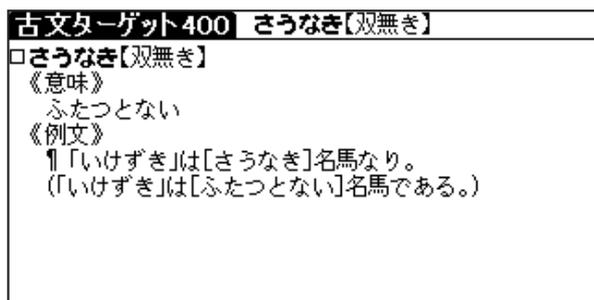
古文単語・熟語ターゲットを使う

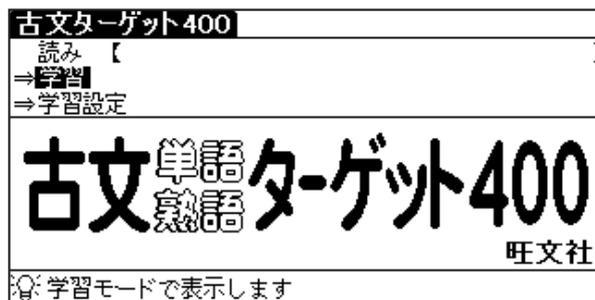
単語の読みを入力し、語義を検索します

［例題］「双無き（さうなき）」の語義を調べます

1 メニュー画面から古文単語・熟語ターゲット400を選んで 訳・決定 を押し、古文単語・熟語ターゲット400の検索画面を表示します。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って語句を入力します（ここでは「さうなき」を入力します）。画面に入力文字に該当する語句が五十音順に候補表示されます。

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

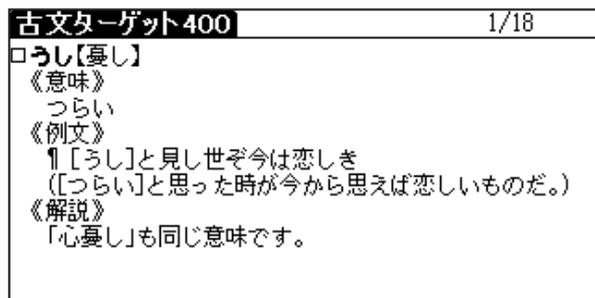
● 収録されていない語句を入力した場合は、その語句に一番近いものから五十音順に表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、語句を選択します（ここでは「さうなき」を選択します）。 訳・決定 を押して本文画面を表示します。

古文単語・熟語を学習します

1 古文単語・熟語ターゲット400の検索画面を表示します。▼ でカーソルを移動させ、「⇒学習」を選んで 訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

2 ▼ ／▲ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、「古文を読むための基本単語・熟語」→「現代語にはない単語」の順に選択します。

ツリー形式リスト

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

3 本文画面で シフト▼ を押すと、次の単語の本文画面が表示されます。

本文画面

● 学習画面の設定を行うことができます。

1の画面から、▼ でカーソルを移動させ、「⇒学習設定」を選択します。訳・決定 を押し設定画面を表示します。

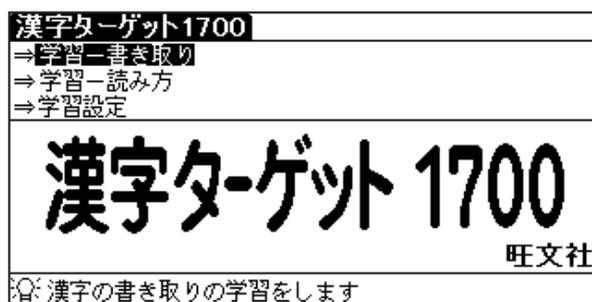
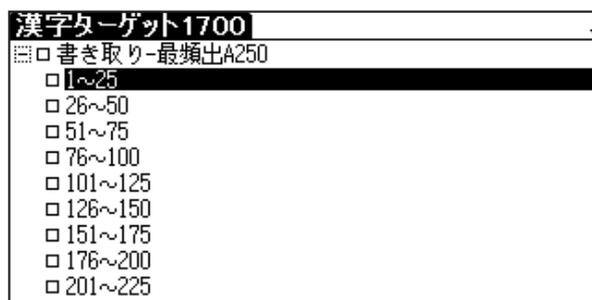
（設定の仕方と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）

漢字ターゲット1700・漢検プチドリル（3級、準2級、2級）を使う

問題を解きながら漢字を学習します

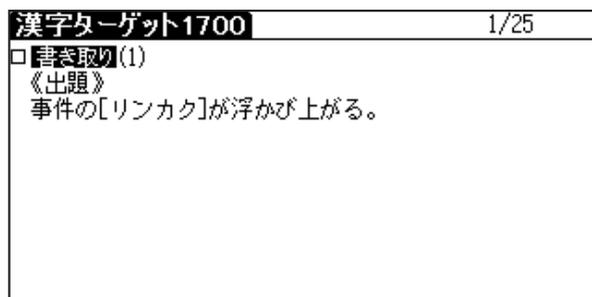
［例題］「書き取り - 最頻出A250・1～25」を学習します
（ここでは、漢字ターゲット1700の書き取りを例として説明します）

1 メニュー画面から漢字ターゲット1700を選んで 訳・決定 を押し、漢字ターゲット1700の画面を表示します。

漢字ターゲット1700
⇒学習－書き取り
⇒学習－読み方
⇒学習設定
漢字ターゲット 1700
旺文社
漢字の書き取りの学習をします

2 ▼／▲ でカーソルを移動させ、「⇒学習 - 書き取り」を選んで 訳・決定 を押すと、ツリー形式の項目リストが表示されます。

● 漢字ターゲット1700では、「⇒学習 - 書き取り」と「⇒学習 - 読み方」の2種類ありますので、どちらかを選択します。

漢字ターゲット1700
□ 書き取り-最頻出A250
□ 1～25
□ 26～50
□ 51～75
□ 76～100
□ 101～125
□ 126～150
□ 151～175
□ 176～200
□ 201～225

3 ▼／▲ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、「書き取り- 最頻出A250」→「1～25」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法
☞ 65ページ参照）

漢字ターゲット1700　1/25
□ 書き取り(1)
《出題》
事件の[リンカク]が浮かび上がる。

4 学習画面で 訳・決定 を押すと、正解と解説が表示されます。再度 訳・決定 を押し、次の問題を表示します。

漢字ターゲット1700　1/25
□書き取り(1)
《出題》
事件の[リンカク]が浮かび上がる。

《解答》
輪郭
●アウトライン。

● 学習画面の設定を行うことができます。
1の画面から、▼ でカーソルを移動させ「⇒学習設定」を選択します。 訳・決定 を押し、設定画面を表示します。
（設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）

世界史・日本史年代暗記ターゲットを使う

世界史・日本史上の事柄を年号から調べることができます。また、語呂からも検索ができ、年号と語呂の両方を使って絞り込み検索ができます。

年号を入力し、年号から検索します

［例題］「1519」の年号について調べます
（ここでは世界史年代暗記メニューの場合を例として説明します）

1 メニュー画面から世界史暗記ターゲットを選んで 訳・決定 を押し、世界史年代暗記ターゲットの検索画面を表示させます。

2 年号入力欄に文字入力キーを使って年号を入力します（ここでは「1519」を入力します）。

画面に入力年号に該当する項目が年号順に候補表示されます。

● 収録されていない年号を入力した場合は、“見出し語にありません”のメッセージが表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい年号を選択します。

訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

● 見出し語には、年号と語呂が表示されます。

世界史年代暗記ターゲット315
□1519(いち ごん い く)
一言【いちごん】「行く」とマガリャンイス氏

マガリャンイス(マゼラン)の世界周航(~22)
1519年、マガリャンイスは、スペイン王室の命令で、世界一周の大航海に出発した

「日本史年代暗記ターゲット」で年号から検索する場合も、1～3の操作方法で検索することができます。

語呂を入力し、語呂から検索します

［例題］「いちご」の語呂を入力し、検索します

1 世界史年代暗記ターゲットの検索画面で、▼ を押してカーソルを語呂に移動させます。
語呂を入力します（ここでは「いちご」を入力します）。
入力した語呂に該当する年号が年号順に候補表示されます。
（文字入力について ☞ 21ページ参照）

世界史年代暗記ターゲット315
年号【　】
語呂【いちご_】
1517年　一語「否【いな】」とルターいい
1519年　一言【いちごん】「行く」とマガリャンイス氏
1533年　一期散々インカ国

2 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、項目を選択します。
次に 訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

世界史年代暗記ターゲット315
□**1517**(いち ご い な)
一語「否【いな】」とルターいい

ルターの「九十五カ条の論題」〔マムルーク朝滅亡〕
1517年、ルターが贖宥状【しょくゆうじょう】を批判する
「九十五カ条の論題」を発表し、宗教改革が始まった
●「九十五ヵ条の論題」=教皇レオ10世の贖宥状(免罪符)
発売(→サン=ピエトロ大聖堂の改築)を批判
●「キリスト者の自由」=聖書第一主義・信仰義認説・万人
司祭主義

年号と語呂を入力し、絞り込み検索をします

［例題］「19」の年号と「ひと」の語呂を入力し、絞り込み検索をします

1 年代の検索画面で年号を入力します。その後、▶ を押してカーソルを語呂に移動させ、語呂を入力します（ここでは「19」「ひと」を入力します）。

入力した年号と語呂に該当する項目が絞り込み検索され、年号順に候補表示されます。

2 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、項目を選択します。

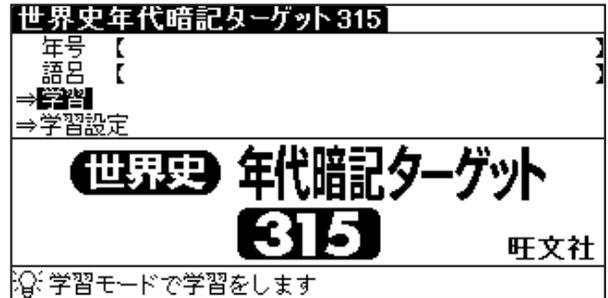
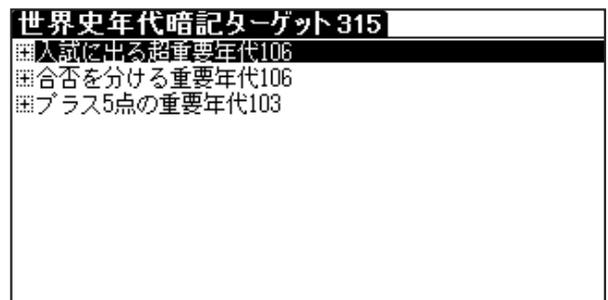
次に （訳・決定） を押して、本文画面を表示させます。

● カーソルを語呂に移動させた後、年号を入力しなおすには、▶ でカーソルを年号入力欄に戻します。

世界史年代暗記ターゲット315
□1968(ひと く ろう や)
人、苦労止む「プラハの春」

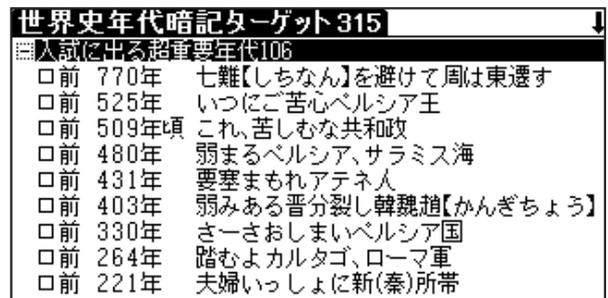
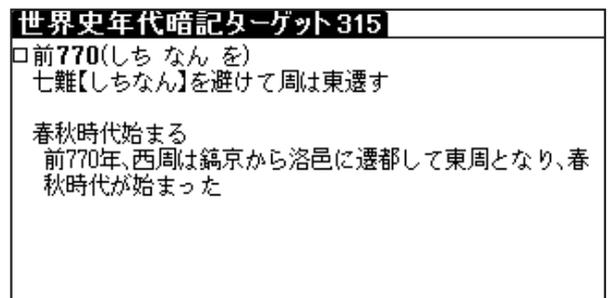
「プラハの春」(チェコ事件)
1968年、チェコの自由化・民主化の改革は、ソ連と東欧4か国の軍事介入で挫折した

重要年代について学習します

1 世界史年代暗記ターゲットの検索画面を表示させ、▼ で「⇒学習」を選択します。

2 訳・決定 を押すと、世界史年代暗記学習のリスト画面が表示されます。

● 世界史年代暗記ターゲット・日本史年代暗記ターゲットのリスト画面では文字サイズの変更はできません。

世界史年代暗記ターゲット315
入試に出る超重要年代106
合否を分ける重要年代106
プラス5点の重要年代103

3 リストから学習したい項目を選択し、訳・決定 を押します（ここでは「入試に出る超重要年代106」を選択します）。

世界史年代暗記ターゲット315
入試に出る超重要年代106
□前 770年 七難【しちなん】を避けて周は東遷す
□前 525年 いつにご苦心ペルシア王
□前 509年頃 これ、苦しむな共和政
□前 480年 弱まるペルシア、サラミス海
□前 431年 要塞まもれアテネ人
□前 403年 弱みある晋分裂し韓魏趙【かんぎちょう】
□前 330年 さーさおしまいペルシア国
□前 264年 踏むよカルタゴ、ローマ軍
□前 221年 夫婦いっしょに新(秦)所帯

4 「入試に出る超重要年代106」のリスト画面が表示されます。

▼ ／▲ で学習したい項目を選んで 訳・決定 を押すと、本文画面が表示されます。

世界史年代暗記ターゲット315
□前770(しち なん を)
七難【しちなん】を避けて周は東遷す

春秋時代始まる
前770年、西周は鎬京から洛邑に遷都して東周となり、春秋時代が始まった

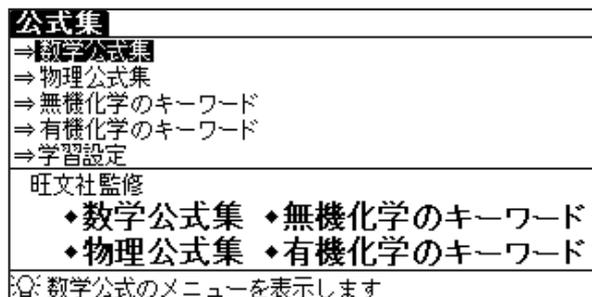
● シフト ▲ ／▼ を押すと、前見出し画面、次見出し画面に移動できます。

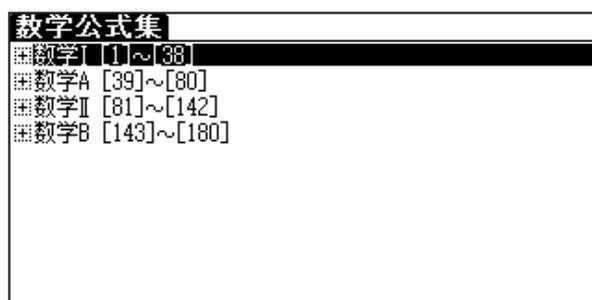
公式集を使う

公式集には4種類のコンテンツが収録されています。
ここでは、まず数学公式集と物理公式集について説明します。

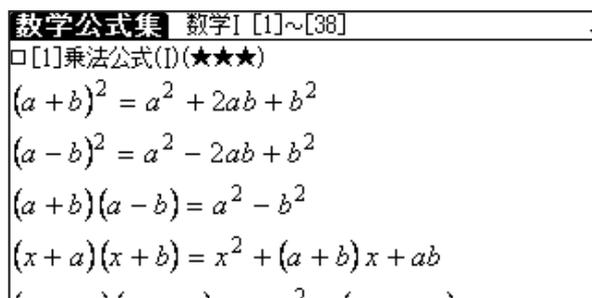
数学公式集と物理公式集を学習します

1 メニュー画面から公式集を選んで 訳・決定 を押し、公式集の画面を表示します。

公式集
⇒数学公式集
⇒物理公式集
⇒無機化学のキーワード
⇒有機化学のキーワード
⇒学習設定
旺文社監修
◆数学公式集 ◆無機化学のキーワード
◆物理公式集 ◆有機化学のキーワード
数学公式のメニューを表示します

2 ▼／▲でカーソルを移動させ、「⇒数学公式集」か「⇒物理公式集」のどちらかを選択します。訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。

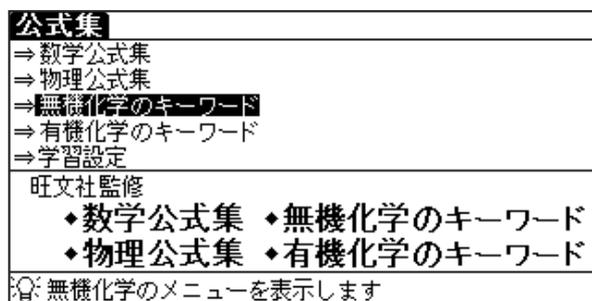
数学公式集
⊞数学Ⅰ [1]~[38]
⊞数学A [39]~[80]
⊞数学Ⅱ [81]~[142]
⊞数学B [143]~[180]

3 ▼／▲で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。ここでは、数学公式集「数学Ｉ」→「第１章　数と式」→「乗法公式（Ｉ）」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

数学公式集 数学Ⅰ [1]~[38]
□[1]乗法公式(Ⅰ)(★★★)
$(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$
$(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$
$(a+b)(a-b)=a^2-b^2$
$(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$

4 本文画面で シフト▼ を押すと、次の公式の本文画面が表示されます。

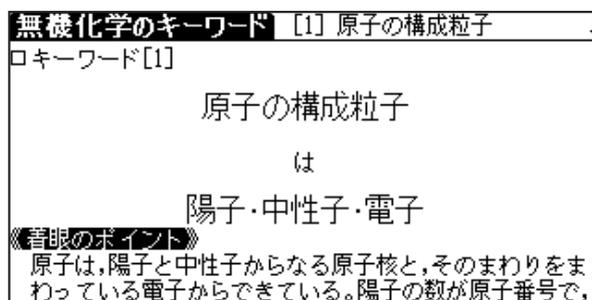
無機化学のキーワードと有機化学のキーワードを学習します

1 公式集の画面を表示します。▼ ／▲ でカーソルを移動させ、「⇒無機化学のキーワード」か「⇒有機化学のキーワード」のどちらかを選択します。

公式集
⇒数学公式集
⇒物理公式集
⇒無機化学のキーワード
⇒有機化学のキーワード
⇒学習設定
旺文社監修
◆数学公式集 ◆無機化学のキーワード
◆物理公式集 ◆有機化学のキーワード
無機化学のメニューを表示します

訳・決定 を押すとツリー形式の項目リストが表示されます。
▼ ／▲ で項目を選んで 訳・決定 を押します。この操作を繰り返し、選択した項目の本文画面を表示します。
ここでは、「⇒無機化学のキーワード」→「［1］原子の構成粒子」の順に選択します。

（ツリー形式リスト - 項目の選択方法 ☞ 65ページ参照）

2 本文画面で シフト▼ を押すと、次の本文画面が表示されます。

無機化学のキーワード ［1］原子の構成粒子
□キーワード［1］
原子の構成粒子
は
陽子･中性子･電子
《着眼のポイント》
原子は,陽子と中性子からなる原子核と,そのまわりをまわっている電子からできている。陽子の数が原子番号で,

本文画面

- 数学公式集の本文画面で表示される★は、重要度を示しています。★の数が多いほど、重要な公式であることを示しています。
- 物理公式集の本文画面で表示される (A)、(B)、(C)は重要度を示しています。(A)が最も重要な公式で(B)→(C)の順となります。
- 公式集では、学習画面の設定を行うことができます。
  公式集の画面で「学習設定」を選んで 訳・決定 を押し、設定画面を表示します。
  （設定の方法と設定内容 ☞ 69、70ページ参照）

複数辞書検索機能を使う

調べたい語句を、収録した辞典の内容から同時に調べることができます。語句の語義や漢字、英訳などをまとめて調べたい時に大変便利です。

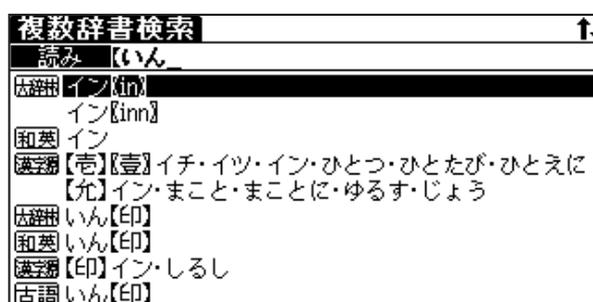
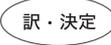
読み（日本語検索）：大辞林・古語辞典・漢字源・和英辞典
世界史事典・日本史事典・生物事典
四字熟語・故事ことわざ

スペル（英語検索）：英和辞典・英英辞典・語義イメージ辞典
英単語ターゲット・大辞林（略語検索）

日本語の読みを入力し、語義や漢字、英訳などを同時に検索します

［例題］「いん」を入力し、複数の辞典で同時に検索します

1 複数検索 を押し、複数辞書検索の検索画面を表示させます。

2 読み入力欄に文字入力キーを使って単語を入力します（ここでは「いん」と入力します）。画面に入力文字に該当する語句が収録辞典を表示するアイコンとともに五十音順に候補表示されます。

（文字入力について ☞ 21ページ参照）

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します。次に 訳・決定 を押して、語義や漢字、または英訳の本文画面を表示させます。

- どの辞典にも収録されていない語句を入力した場合は、入力した語句に一番近い語句から五十音順に表示されます。
- 画面上に表示されるアイコンは以下の辞典を表します。

大辞林：大辞林	漢字源：漢字源	世界史：世界史	生物事典：生物
古　語：古語	和　英：和英	日本史：日本史	四字熟語：四字
故事ことわざ：故事			

- 複数辞書検索の本文画面で シフト ▲ ／▼を押した場合は、複数辞書検索の中でヒットした前後の見出し語の本文画面を表示します。

英単語を入力し、英文での意味表示、和訳、略語などを同時に検索します

〔例題〕英単語「aid」を入力し、複数の辞典で同時に調べます

1 複数辞書検索の検索画面を表示させます。

▼でカーソルをスペル入力欄に移動させます。

2 文字入力キーを使って英単語を入力します（ここでは「aid」を入力します）。画面に入力文字に該当する語句が収録辞典を表示するアイコンとともにアルファベット順に候補表示されます。

- どの辞典にも収録されていない単語を入力した場合は、入力した単語に一番近いものからアルファベット順に表示されます。
- 画面上に表示されるアイコンは以下の辞典を表します。

英和：英和　語義イメージ：イメージ　大辞林（略語）：大辞林
英英：英英　英単語：英単

3 ▼ ／▲ でカーソルを移動させ、調べたい語句を選択します。次に 訳・決定 を押して、英文での意味や和訳、または略語などの本文画面を表示させます。

- 複数辞書検索の本文画面で シフト ▲ ／▼ を押した場合は、複数辞書検索の中でヒットした前後の見出し語の本文画面を表示します。

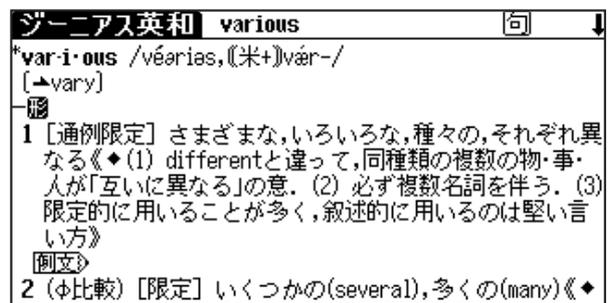
マルチジャンプ機能を使う

指定した辞典へジャンプします

調べた語句の意味や、例文の中に使われている単語、参照記号（⇀）を足掛かりとして、他の辞典または参照見出しに移ってそれらの意味をさらに詳しく調べることができます。

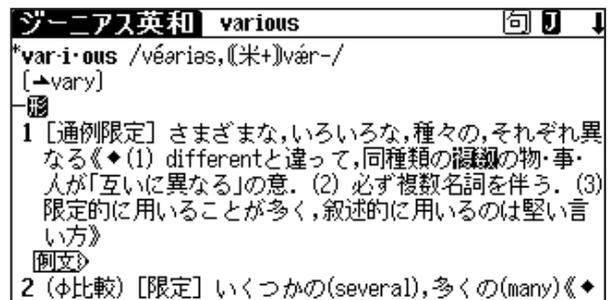
［例題］「various」の本文画面中の「複数」の意味を調べます

1 英和辞典で「various」の本文画面を表示させます。

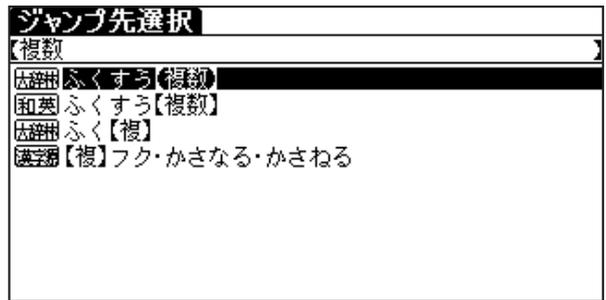
（検索方法 ☞ 32ページの1〜3参照）

2 筆順／ジャンプ を押すと、見出し語「various」が反転し、Jが画面右上に表示されます。▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、本文中の「複数」を反転表示させます。

（2文字以上選択する場合 ☞ 103ページ参照）

ジーニアス英和 various 句 J
*var·i·ous /véəriəs,((米+))vǽr-/
[⇀vary]
―形
1 [通例限定] さまざまな,いろいろな,種々の,それぞれ異なる《◆(1) differentと違って,同種類の複数の物・事・人が「互いに異なる」の意. (2) 必ず複数名詞を伴う. (3) 限定的に用いることが多く,叙述的に用いるのは堅い言い方》
例文》
2 (φ比較) [限定] いくつかの(several),多くの(many)《◆

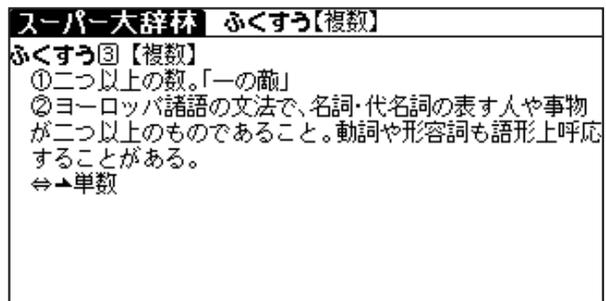
● ジャンプを解除する場合は、戻る を押してください。

3 訳・決定 を押すとジャンプ先の候補リストが表示されます。

● どの辞典へジャンプさせるかがはっきりしている場合は、訳・決定 を押す代わりにジャンプ先の辞典キーを押すと直接指定の辞典へジャンプします（指定したジャンプ先に該当の見出し語がない場合は“見つかりませんでした”とメッセージが表示されます）。

ジャンプ先選択
【複数】
大辞林 ふくすう【複数】
和英 ふくすう【複数】
大辞林 ふく【複】
漢字源 【複】フク・かさなる・かさねる

▼ ／▲ でカーソルを移動しジャンプ先を指定します。その後、再度 訳・決定 を押してジャンプを実行します。（ここでは「大辞林 ふくすう【複数】」を選びます）。

4 大辞林の「複数」の本文画面が表示されます。

● 複数の候補がある場合、リスト表示されますので、▼ ／▲ でカーソルを移動し、ジャンプ先を指定します。候補が一語しかない場合、直接その語の本文画面にジャンプします。

スーパー大辞林 ふくすう【複数】
ふくすう③【複数】
①二つ以上の数。「一の敵」
②ヨーロッパ諸語の文法で、名詞・代名詞の表す人や事物が二つ以上のものであること。動詞や形容詞も語形上呼応することがある。
⇔単数

ジャンプ先を指定するウィンドウは、選択している語句によって2つに分類されます。

①：日本語を選択している場合、次の辞典がジャンプ先の対象となります。

- 大辞林　大辞林
- 和英　ジーニアス和英辞典
- 漢字源　漢字源
- 四字　四字熟語
- 古語　古語辞典
- 世界史　世界史事典
- 日本史　日本史事典
- 故事　故事ことわざ辞典
- 生物　生物事典

②：英語を選択している場合、次の辞典がジャンプ先の対象となります。

- 英英　英英辞典
- 英和　ジーニアス英和辞典
- イメージ　語義イメージ辞典
- 英単　英単語ターゲット
- 大辞林　大辞林略語検索

前の画面に戻る

一つ前の画面に戻るときは 戻る を押します。

● ジャンプ後の本文画面で 戻る を押すと、ジャンプ先選択の画面に戻ります。

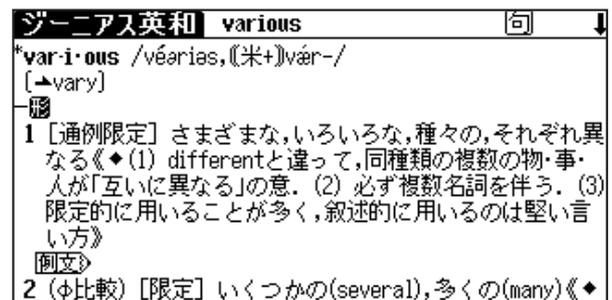
参照ジャンプを実行します

訳語や語義を調べている際に「➡」が画面上に表示された場合は、その単語や語句の参照語にジャンプすることができます。

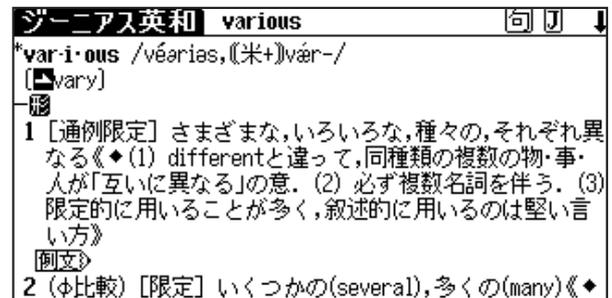
［例題］「various」の本文画面中にある参照語「vary」にジャンプします（100ページ操作1からの続き）

1 英和辞典で「various」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 32ページの1～3参照）

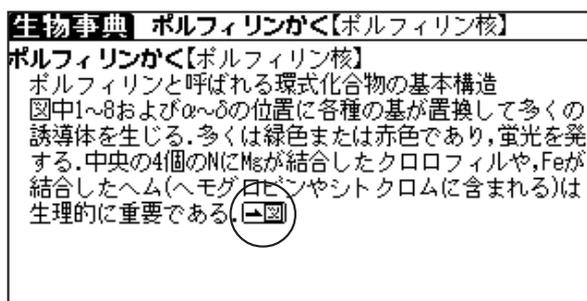
ジーニアス英和 various
*var·i·ous /véəriəs,(米+)vǽr-/
[➡vary]
形
1 [通例限定] さまざまな,いろいろな,種々の,それぞれ異なる《◆(1) differentと違って,同種類の複数の物・事・人が「互いに異なる」の意. (2) 必ず複数名詞を伴う. (3) 限定的に用いることが多く,叙述的に用いるのは堅い言い方》
例文
2 (φ比較) [限定] いくつかの(several),多くの(many)《◆

2 筆順/ジャンプ を押すと見出し語「various」が反転します。▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、「➡」を反転させます。

- J が画面右上に表示されます。
- ジャンプを解除する場合は 戻る を押してください。

ジーニアス英和 various
*var·i·ous /véəriəs,(米+)vǽr-/
[➡vary]
形
1 [通例限定] さまざまな,いろいろな,種々の,それぞれ異なる《◆(1) differentと違って,同種類の複数の物・事・人が「互いに異なる」の意. (2) 必ず複数名詞を伴う. (3) 限定的に用いることが多く,叙述的に用いるのは堅い言い方》
例文
2 (φ比較) [限定] いくつかの(several),多くの(many)《◆

3 「➡」が反転表示されている状態で 訳・決定 を押すと、参照語「vary」の本文画面へジャンプします。

ジーニアス英和 vary
*var·y /véəri,(米+)vǽri/
(同音very;類音berry,bury)[「変る」が本義]派variable(形),various(形),variation(名)
動(-·ies/-z/;-·ied/-d/;～·ing)
自
1 [SV(M)]〈同一の事・物・人が〉(形・性質などの点で)[…によって/…から…まで/…の間で]変る,変化[変動]する [with, according to/from ... to .../between]《◆changeと異なり部分的にしだいに変ることをいう》
例文

生物辞典の本文画面に [図] が表示されている場合は、▼／▲／◀／▶でカーソルを移動させ、[図] を反転させて 訳・決定 を押すと、参照画像を表示させることができます。

生物事典 ポルフィリンかく【ポルフィリン核】
ポルフィリンかく【ポルフィリン核】
ポルフィリンと呼ばれる環式化合物の基本構造
図中1～8およびα～δの位置に各種の基が置換して多くの誘導体を生じる.多くは緑色または赤色であり,蛍光を発する.中央の4個のNにMgが結合したクロロフィルや,Feが結合したヘム(ヘモグロビンやシトクロムに含まれる)は生理的に重要である.[図]

(手順は参照ジャンプと同様です ☞102ページ参照)

2文字以上の熟語を選択する場合

ジャンプしたい単語が2文字以上である場合は、筆順/ジャンプ を押した後▼／▲／◀／▶でカーソルを選択したい語句の最初の文字まで移動させます。次に 筆順/ジャンプ を押すと画面上の [J] が反転します。その後、▶ を押して反転文字範囲をひろげてください。

- 記号や記号を含む文字列は選択できません。
- 戻る を押すとジャンプを解除します。

関連語句を調べる

慣用連語、複合語、成句、句動詞を表示します

英英辞典、英和辞典、和英辞典、古語辞典の本文画面右上に次のマークが表示されている場合は、その見出し語を使った慣用連語、複合語、成句、句動詞のリスト画面にジャンプすることができます。

英和辞典 ……[句] 成句／[複] 複合語	古語辞典 ……[慣] 慣用連語／[複] 複合語
英英辞典 ……[I] 成句／[P] 句動詞	和英辞典 ……[複] 複合語

［例題］英和辞典の本文画面から成句リストにジャンプします
（ここでは英和辞典の場合を例として説明します）

1 英和辞典で「apple」の本文画面を表示させます。画面右上に [句] が表示されていることを確認します。

（検索方法 ☞ 32ページの1～3を参照）

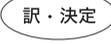
```
ジーニアス英和 apple                    句 複  ↓
*ap·ple /ǽpl/
─名(複~s/-z/) Ⓒ
 1 リンゴ《◆fruitの中で最も典型的なものとされる; cf.
   ➡carrot,➡robin》;=➡~ tree
  例文》
  解説》
 2 リンゴに似た果実《crab ~, love ~, May ~など》.
 3 (形・色などが)リンゴに似たもの;《米俗》野球ボール.
 4 [the A~]《米俗》=➡Big Apple.
 5 《米俗》白人べったりのインディアン(cf. ➡banana 3).
```

2 関連／スペル ◯ を押して、「apple」の成句リストを表示させます。

▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい成句を選択します（ここでは「apple of discord」を選択します）。

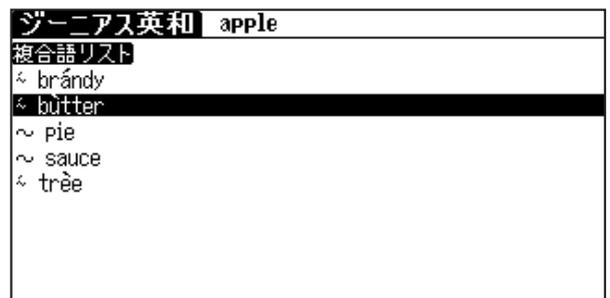
```
ジーニアス英和 apple
成句リスト
ápple of díscord
pólish ápples [the ápple]
the ápple of O's [the] éye
the ápple of lóve
the ápple of Sódom =the Déad Sèa ápple [frúit]
```

3 次に （訳・決定） を押して、本文画面該当箇所を表示させます。

ジーニアス英和 apple 句複
成ápple of díscord
〖ギ神〗[the ～] 不和のリンゴ《トロイ戦争の原因となった黄金のリンゴ》;〖文〗[the/an ～] 争い[議論]の原因.
成pólish ápples [the ápple]
〖米俗〗ごまをする《◆生徒がピカピカにみがいたリンゴを先生に贈って点数をかせごうとしたことから;
→～-polish, →～-polisher》.
成the ápple of O's [the] éye
[もと「ひとみ」の意から]〖略式〗(〈人〉が)非常に大切にしているもの;(息子・娘・孫・ボーイ[ガール]フレンドなど

［例題］英和辞典の本文画面から複合語リストにジャンプします

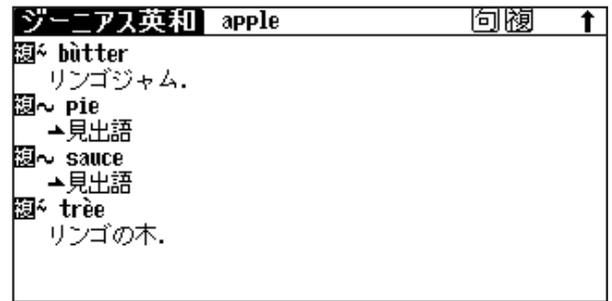
1 英和辞典「apple」の本文画面右上に複が表示されていることを確認します。

ジーニアス英和 apple 句複
*ap·ple /ǽpl/
━名(複～s/-z/) Ⓒ
1 リンゴ《◆fruitの中で最も典型的なものとされる; cf. →carrot, →robin》; =→～ tree
例文
解説
2 リンゴに似た果実《crab ～, love ～, May ～など》.
3 (形・色などが)リンゴに似たもの;〖米俗〗野球ボール.
4 [the A～]〖米俗〗=→Big Apple.
5 〖米俗〗白人べったりのインディアン(cf. →banana 3).

2 （関連/スペル） を2回押して、「apple」の複合語リストを表示させます。

▼／▲ でカーソルを移動させ、調べたい複合語を選択します（ここでは「～butter」を選択します）。

● 本文画面上に句が表示されている場合は、先に成句リストが表示されます。複合語リストを表示するためには、2回 （関連/スペル） を押してください。

● 複合語リスト画面で （関連/スペル） を再度押すと、本文画面に戻ります。

3 次に（訳・決定）を押して、本文画面該当箇所を表示させます。

古語辞典で慣用連語・複合語リストを表示させる場合も、英和辞典の操作方法と同じです。

和英辞典の本文画面で（関連/スペル）を押すと複合語リストが表示され、もう1度（関連/スペル）を押すと本文画面に戻ります。

英英辞典で本文画面右上に I P の両方が表示されている場合、（関連/スペル）を押すとまず成句（I）リストが表示されます。句動詞（P）リストを表示させるには、もう1度（関連/スペル）を押してください。

単語帳を使う

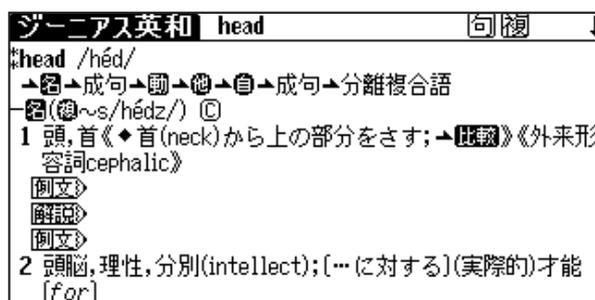
各辞典に収録されている単語を単語帳に登録することができます。また、登録した後に指定した単語帳に分類することもできます。

覚えたい語句を単語帳に登録します

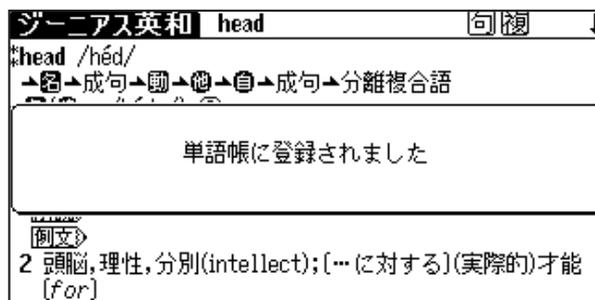
［例題］32ページで調べた英単語「head」を単語帳に登録します

1 英和辞典で「head」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 32ページの1〜3参照）

ジーニアス英和 head
‡head /hέd/
▲名▲成句▲動▲他▲自▲成句▲分離複合語
━名(複～s/hέdz/) Ⓒ
1 頭,首《◆首(neck)から上の部分をさす;▲比較》《外来形容詞cephalic》
例文》
解説》
例文》
2 頭脳,理性,分別(intellect);[…に対する](実際的)才能[for]

2 登録/削除 押すと、画面に“単語帳に登録されました”のメッセージが表示され、表示中の単語本文画面が単語帳に登録されます。

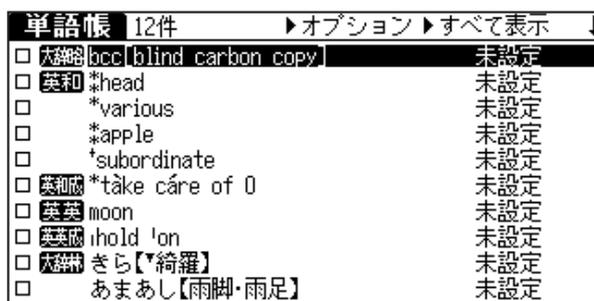
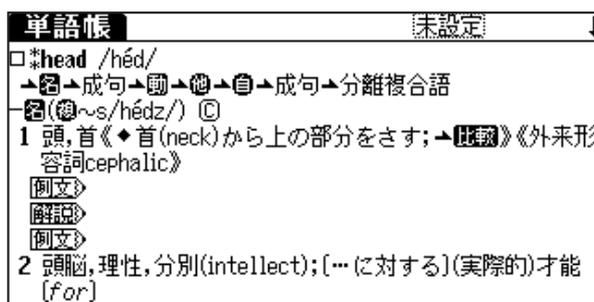
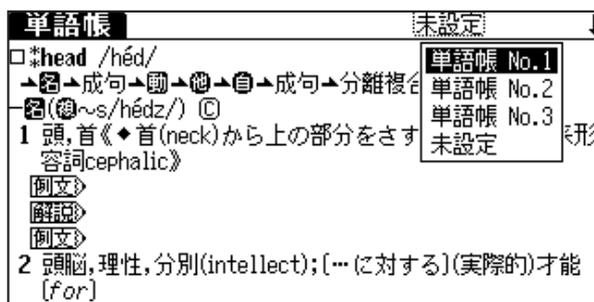
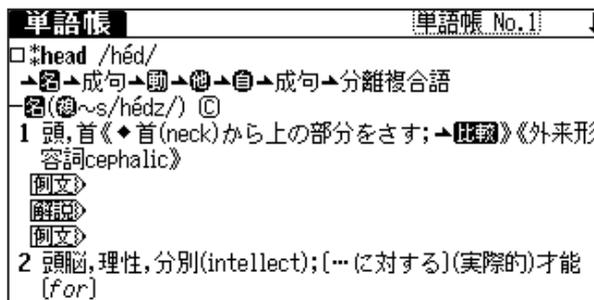
● 単語帳には合計1000件の単語を登録することができます。

ジーニアス英和 head
‡head /hέd/
▲名▲成句▲動▲他▲自▲成句▲分離複合語
単語帳に登録されました
例文》
2 頭脳,理性,分別(intellect);[…に対する](実際的)才能[for]

単語帳は、大辞林・英和辞典・和英辞典・英英辞典・漢字源・生物事典・古語辞典・語義イメージ辞典・世界史事典・日本史事典・四字熟語辞典・故事ことわざ辞典・英単語ターゲット1900・英熟語ターゲット1000で使用することができます。

※上記以外の辞典・モード、例文検索で表示された本文画面は単語帳に登録できません。

登録した単語を分類します

［例題］107ページで登録した英単語「head」を単語帳Ｎｏ.1に分類します
（ここでは単語が複数登録されている場合を例に挙げます）

1 単語帳 を押して、単語帳リスト画面を表示させます。
▼ ／▲で分類したい単語を選択し、訳・決定 を押すと選択した単語の本文画面が表示されます（ここでは「head」を選択します）。

2 画面右上の分類表示が「未設定」になっていることを確認し、シフト 単語帳設定 文字サイズ を押します。

3 分類先がプルダウン表示されますので、▼ でカーソルを移動させ、分類先の単語帳を選択します（ここでは「単語帳Ｎｏ.1」を選択します）。

4 訳・決定 を押すと表示中の単語が「単語帳Ｎｏ.1」に分類され、画面右上の分類表示が「単語帳Ｎｏ.1」に変わります。

● 分類先を変更したい場合は、同じ手順で分類先を選択しなおします。
● 単語の分類を行う場合は、必ず分類したい単語の本文画面を表示した状態で シフト 単語帳設定 文字サイズ を押してください。リスト画面では分類はできません。

リスト画面で表示する単語帳を選択します

［例題］「単語帳Ｎｏ.1」に分類されている単語のみリスト表示します

1 単語帳 を押して、単語帳リスト画面を表示します。

● 画面右上の表示が「すべて表示」になっている場合は、単語帳に登録されている単語がすべて表示されています。

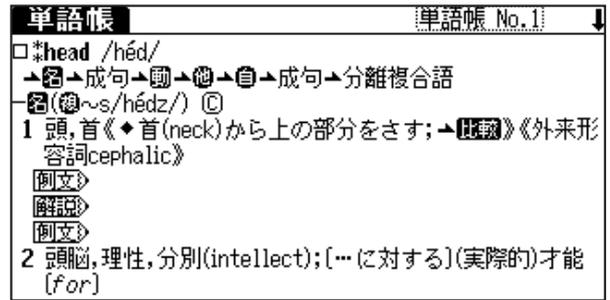
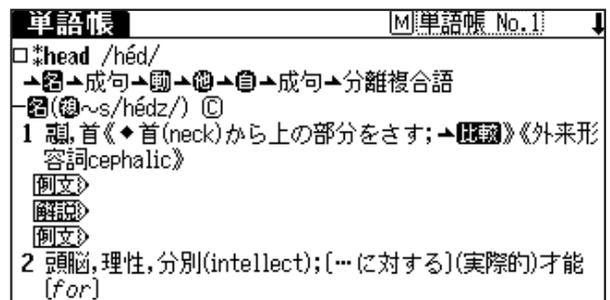
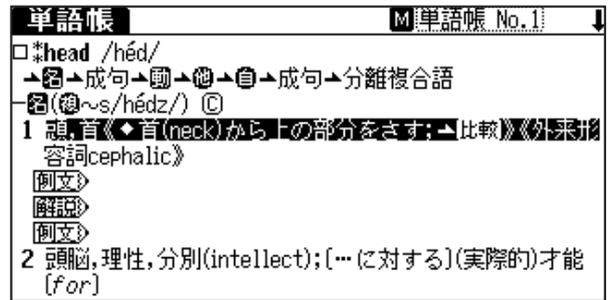
2 シフト 単語帳設定 文字サイズ を押すと画面上のオプションメニューがプルダウン表示されます。▶ でカーソルを右に移動させると、表示項目がプルダウン表示されます。

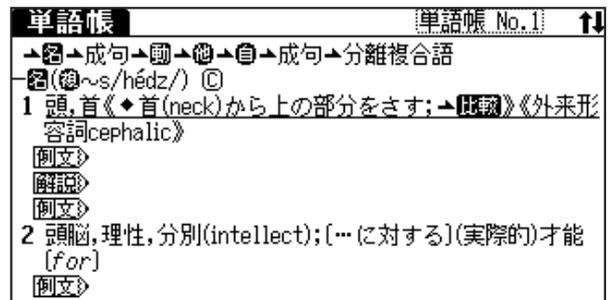
▼ でカーソルを移動させ表示項目を選択します（ここでは「単語帳Ｎｏ.1」を選択します）。

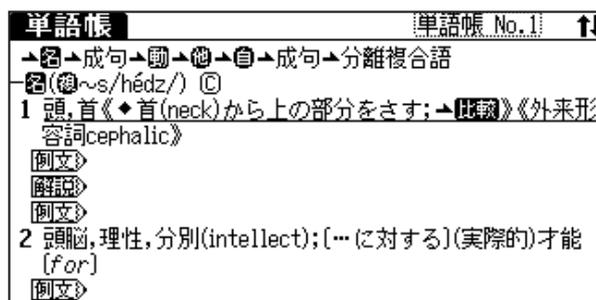
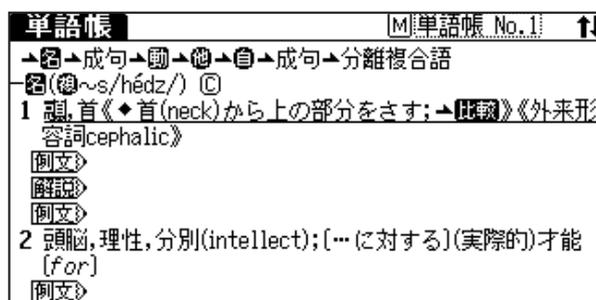
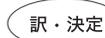
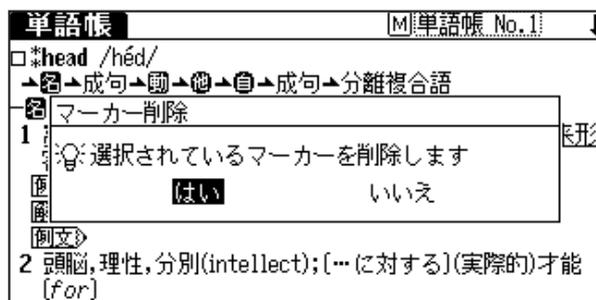
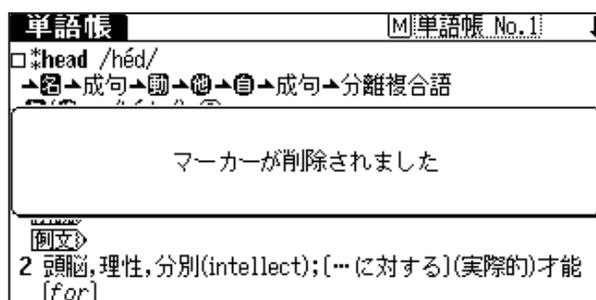
3 訳・決定 を押すと、「単語帳Ｎｏ.1」に登録されている単語のみがリスト表示され、画面右上の表示項目が「単語帳Ｎｏ.1」に変わります。

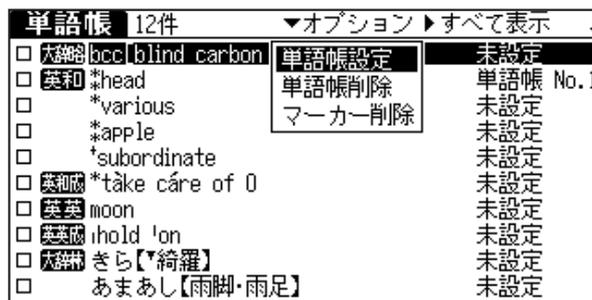
● 表示したい単語帳を切り替えたい場合には、同じ手順で表示させる単語帳を選択しなおします。「すべて表示」を選択すると、単語帳に登録されている単語すべてが表示されます。

マーカー機能を使います

1 単語帳 を押して単語帳リスト画面を表示させます。▼／▲で学習したい単語を選択して 訳・決定 を押し、本文画面を表示させます（ここでは「head」を選択します）。

2 本文画面表示中に マーカー/ブックマーク を押すと、画面上部に Ⓜ が表示されます。▼／▲／◀／▶でアンダーラインを引きたい箇所の文頭にカーソルを移動させ、マーカー/ブックマーク を押します。

3 ▶でアンダーラインを引きたい箇所の終わりまでカーソルを移動させ、訳・決定 を押します。

4 選択した箇所にアンダーラインが引かれて表示されます。

● 登録した単語1つにつき、5箇所までアンダーラインを引くことができます。

アンダーラインを消します

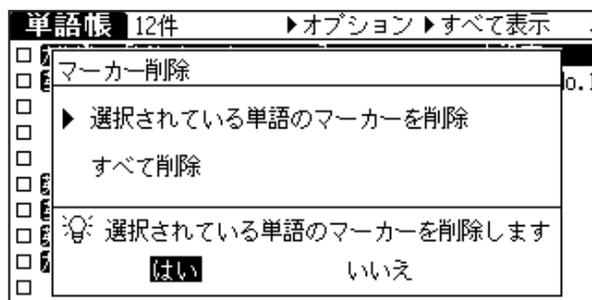
1 アンダーラインを引いた単語の本文画面を表示させます（ここでは「head」の本文画面を表示させます）。

2 本文画面表示中に マーカー ブックマーク を押すと、画面上に Ⓜ が表示されます。
アンダーラインを引いた箇所の先頭にカーソルを移動させ、 登録/削除 を押します。

3 画面に“選択されているマーカーを削除します”のメッセージが表示されますので、カーソルを移動させ「はい」を選択した後、 訳・決定 を押します。

4 “マーカーが削除されました”のメッセージが表示され、アンダーラインが消された本文画面が表示されます。

オプションメニューからアンダーラインを消します

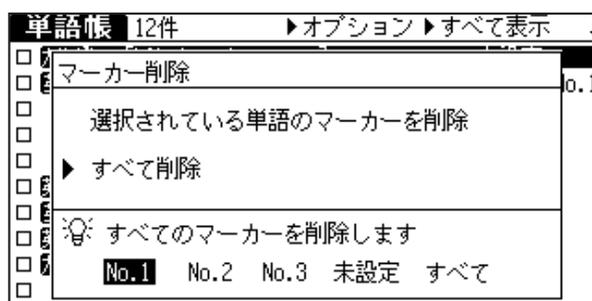
1 単語帳リスト画面で シフト ○（単語帳設定／文字サイズ） を押すと、オプションメニューがプルダウン表示されます。

2 ▼で「マーカー削除」を選択し 訳・決定 を押すと、マーカー削除の画面が表示されます。

以下の項目からアンダーラインを削除する単語を選びます。

選択されている単語のマーカーを削除	リスト画面で選択されている単語の本文画面中のアンダーラインのみを削除します。
すべて削除	特定の単語帳、または登録されている単語すべての本文画面中のアンダーラインを削除します。

選択されている単語のマーカーを削除する場合

▼／▲で「選択されている単語のマーカーを削除」を選びます。次に◀／▶で「はい」を選んで 訳・決定 を押すと、選択されている単語の本文画面からアンダーラインが消されます。

すべてを削除する場合

▼／▲で「すべて削除」を選び、◀／▶で単語帳を選択します。訳・決定 を押すと、選択した単語帳に登録されているすべての単語本文画面からアンダーラインが削除されます。

● 選択した単語や単語帳の中の単語にアンダーラインが引かれていない場合は、“マーカーが登録されていません”のメッセージが表示されます。

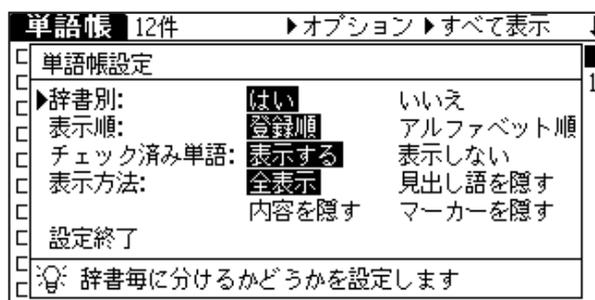
単語帳に登録された単語の本文画面表示中に シフト▲ または シフト▼を押すと、単語帳に登録された単語の前後の単語本文画面が表示されます。
リスト画面で表示する単語帳を選択した後、特定の単語帳に登録されている単語の本文画面を表示させ、シフト▲／▼キーを押すと、同じ単語帳に分類されている前後の単語の本文画面を表示します。

☑チェックボックス

単語帳リスト画面、または本文画面の見出し語の頭にある☑チェックマークボックスに、☑(履歴)を押すとチェックマークを入れることができます。再度☑(履歴)を押すと、チェックマークを解除することができます。
単語帳設定画面でチェックマークをつけた単語の表示・非表示を設定することができます。
(単語の表示設定 ☞114ページ参照)

単語帳の設定をします

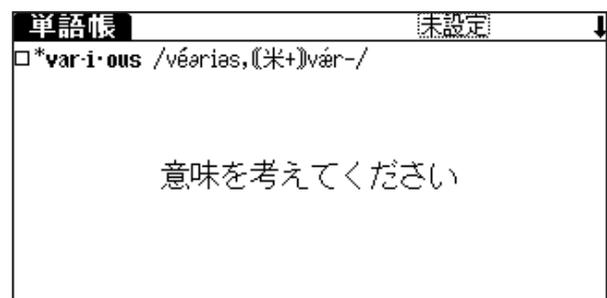
1 単語帳 を押して、単語帳リスト画面を表示させます。
シフト 単語帳設定(文字サイズ) を押すとオプションメニューがプルダウン表示されます。

2 ▼ で「単語帳設定」を選択し、訳・決定 を押すと単語帳設定画面が表示されます。

3 ▼／▲で設定したい項目を選択し、◀／▶で内容を選択します。その後、「設定終了」を選択し、(訳・決定)を押して設定内容を保存します。

● 以下を参考に項目を選んで、設定してください。

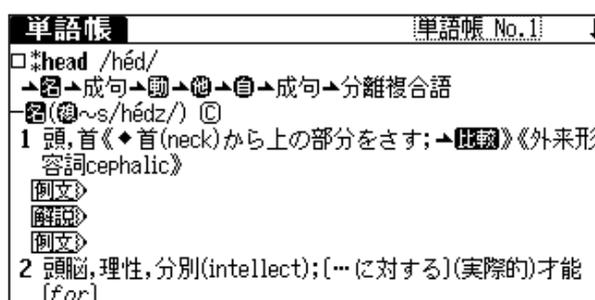
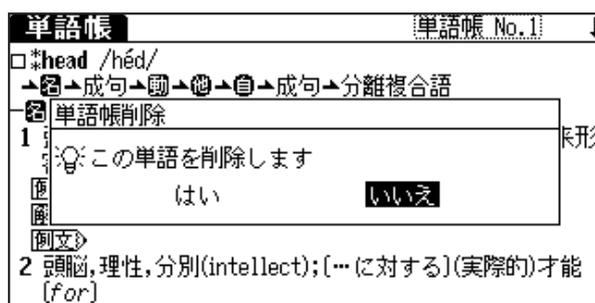
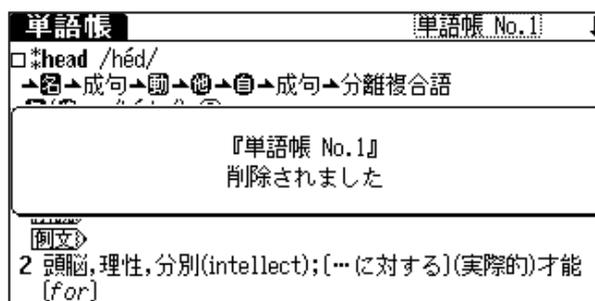
項目	内容	説明
表示順		登録単語の表示順序を示します。
	登録順	単語帳に登録した順番です。初期設定は「登録順」に設定されています。
	アルファベット順	英単語ならアルファベット順、日本語なら五十音順に表示します。
辞典別		辞典ごとに分けるかどうかを設定します。
	はい	辞典ごとに分けて表示します。初期設定は「はい」に設定されています。
	いいえ	辞典ごとに分けることなく登録順またはアルファベット順に表示します。
チェック済み単語		チェックマーク（☑）を入れた単語の表示を設定します。
	表示する	チェック済み単語を表示します。初期設定は「表示する」に設定されています。
	表示しない	チェック済み単語を表示しません。
表示方法		単語帳の表示方法を設定します。
	すべて表示	単語、単語の本文内容をすべて表示します。初期設定は「すべて表示」に設定されています。
	見出し語を隠す	単語を隠して表示します。
	内容を隠す	単語の本文内容を隠して表示します。
	マーカーを隠す	アンダーラインを引いた箇所を隠して表示します。

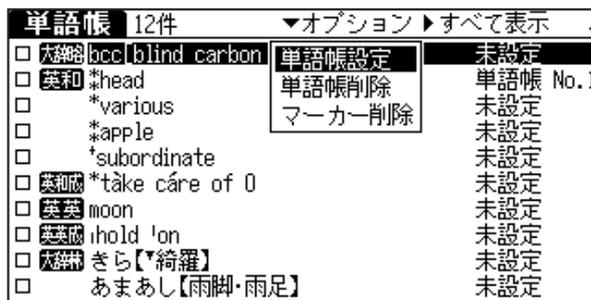
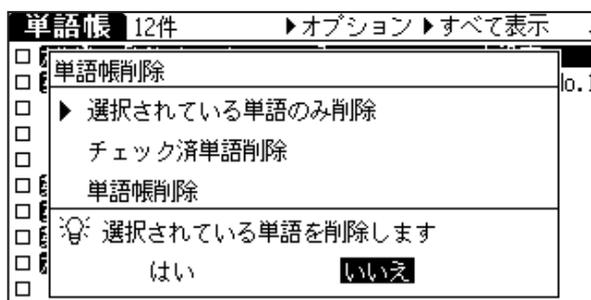
表示方法について

表示方法で「見出し語を隠す」「内容を隠す」「マーカーを隠す」のいずれかを選んで設定すると、単語帳に登録された単語の本文画面でそれぞれの項目が隠されて表示されます。
次に(シフト)▼を押すと、隠されていた内容が表示されます。

単語帳のデータを削除します

各辞典の単語帳に登録したデータは、1単語ずつまたは単語帳ごとにまとめて削除することができます。

1単語ずつ削除する

1 削除したい単語の本文画面を表示させます（ここでは「head」を削除します）。

2 登録/削除 を押すと、画面に“この単語を削除します”のメッセージが表示されます。

3 「はい」を選択した後 訳・決定 を押すと、“削除されました”が表示され、表示中の単語が単語帳から削除されます。

指定項目の単語を削除する

1 単語帳リスト画面で シフト 単語帳設定／文字サイズ を押すと、オプションメニューがプルダウン表示されます。

2 ▼ で「単語帳削除」を選択して 訳・決定 を押すと、単語帳削除画面が表示されます。

3 以下の項目から削除したい単語に応じて項目を選びます。

選択されている単語のみ削除	リスト上で選択した単語のみ削除する場合
チェック済み単語削除	チェックを付けた単語を削除する場合
	単語帳Ｎｏを選ぶと、選択した単語帳の中のチェック済み単語をすべて削除します。
単語帳削除	単語帳ごと、または登録されているすべての単語を削除する場合
	・削除したい単語帳Ｎｏを選ぶと、選択した単語帳の中のすべての単語を削除します。 ・「すべて」を選ぶと単語帳に登録されたすべての単語を削除します。

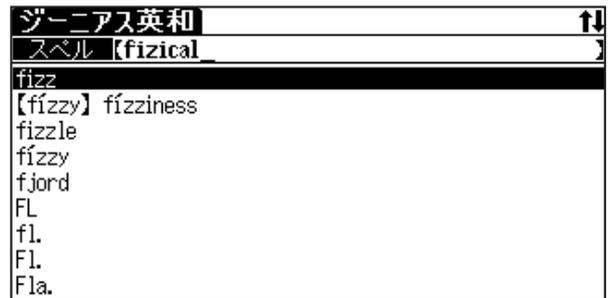
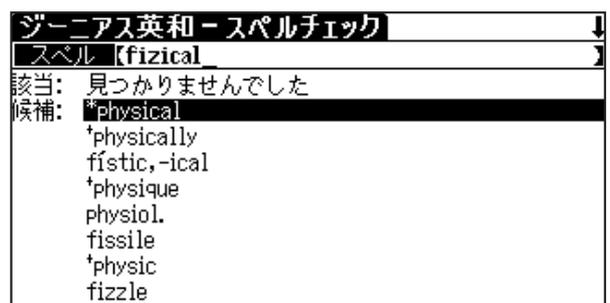
4 ▼／▲ で単語帳削除の項目を選び、◀／▶ で「はい」「いいえ」、または単語帳Ｎｏを選択します。訳・決定 を押すと、選択した単語が削除されます。

● 削除しない場合は、戻る を押すと単語リスト画面に戻ります。

スペルチェック機能を使う

英単語のつづりがはっきりわからない時は、スペルチェック機能で曖昧なつづりのまま候補を絞り込むことができます。

［例題］「fizical」と入力し、「physical」を検索してみます

1 英和辞典のスペル入力欄に、曖昧なつづりの英単語を入力します（ここでは「fizical」と入力します）。

2 関連/スペル を押すと、入力された文字にスペルチェックがかけられ、該当する英単語が「該当」欄に、候補が「候補」欄に表示されます。

● 該当する語がない場合は、「該当」欄には“見つかりませんでした”と表示され、入力文字に類似した単語が「候補」欄に表示されます。

3 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは「physical」を選択します）。
訳・決定 を押して、本文画面を表示させます。

ジーニアス英和 physical 句 複
*phys·i·cal /fízikl/
[→physic]派physically(副)
━形(比較)
1 [通例限定] 身体の,肉体の(↔mental)《◆肉体の機能的側面を強調する; cf. →bodily》
例文
2 [限定] 物理学の;物理的な;自然科学の;自然法則の
例文
3 [限定]《正式》物質の,自然の(material)(↔spiritual, moral);形而(けいじ)下の(↔metaphysical);現実の

スペルチェック機能は、英英検索・英和検索のスペル入力欄でのみ使用できます。

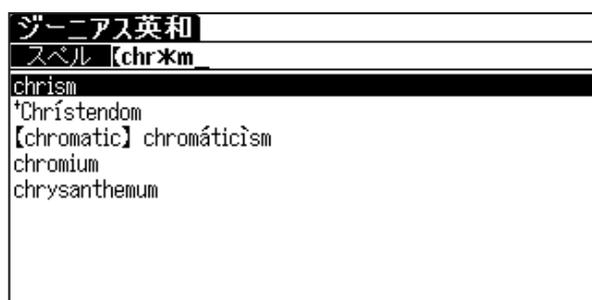
ワイルドカードサーチ機能を使う

英単語のつづりや曖昧な語句を調べる時に、分かるところまで文字を入力し、不明なところは「＊」（アスタリスク）または「？」（クエスチョン）を入力して候補を絞り込むことができます。また、語句の最初に「＊」を付けると、入力した語句が最後につく言葉を逆引きすることもできます。

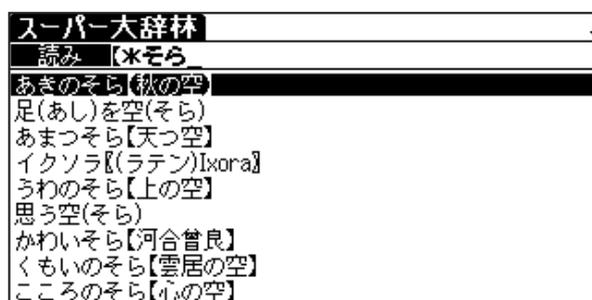
不明な文字の代わりに入力する「＊」/「？」をワイルドカードといいます。「＊」は指定文字数に制限がないことを意味します。それに対して「？」は、１つで1文字のみ指定します。（「？？」と入力すれば2文字を指定したことになります。）
「？」を入力するには シフト V を押し、「＊」を入力するには シフト B を押します。

［例題1.］「ジーニアス英和辞典」で「菊(chrysanthemum)」のつづりを「＊」（アスタリスク）を使って調べます

「chr＊m」と入力します。

検索対象となる単語は「chr」で始まり、最後が「m」であれば、その間はどんな文字で何文字でもかまわないということになります。

［例題2.］ 大辞林で語尾に「そら」のつく語句を逆引きします

読み入力欄に「＊そら」と入力します。

● 「そら」が最後につく語句が五十音順に候補表示されます。
● 大辞林逆引き検索を使うと、＊を入力せずに逆引き検索することができます。
（語句の語尾につく文字を入力し、逆引き検索をします ☞ 30ページ参照）

［例題3.］「ジーニアス英和辞典」で「信じる（believe)」の2文字目が、「i」か「e」か曖昧です。「？」（クエスチョン）を使って調べます

「b?lieve」と入力します。

検索対象となる単語の文字数は7文字と決められます。その上で2文字目はどの文字でもよいということになります。？は、単語の文字数がわかっている時の検索に便利です。

- 該当する候補がない場合は、「見出し語にありません」が表示されます。
- 先頭に＊（アスタリスク）を使った場合、検索時間が長くなることがあります。途中で検索を中止する場合は、戻る を押してください。「＊」は1カ所だけ入力できます。

ワイルドカードサーチは、語義イメージ辞典・古語辞典・四字熟語辞典・故事ことわざ辞典・世界史事典・日本史事典・複数辞典検索（日英）・和歌・俳句検索・人名検索と、大辞林（読み・逆引き・略語検索）・英和／英英スペル入力検索・和英／漢字源読み検索・英単語検索・世界史年代／日本史年代暗記語呂検索・生物事典・英検Pass単熟語（3級・準2級・2級)単語検索・古文単語・熟語ターゲット400で使用することができます。

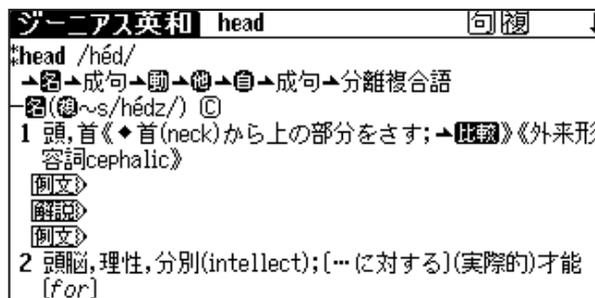
履歴機能を使う

今までに調べた語句や事柄、人名を履歴として一覧表示させ、見出し語を引き直すことができます。

［例題］以前に英和辞典で調べた「head」を引き直します

1 英和辞典の検索画面でカーソルをスペル入力欄に移動させるか、または英和スペル入力検索から表示させた本文画面で ◯（履歴）を押します。英和スペル入力検索で今までに調べた英単語が履歴表示されます。

● 語句は、各辞典各検索モードごとに最新のものから50語まで記憶されています（履歴が50語以上になった場合は、新しく語句を調べる度に、古いものから順に消去されていきます）。

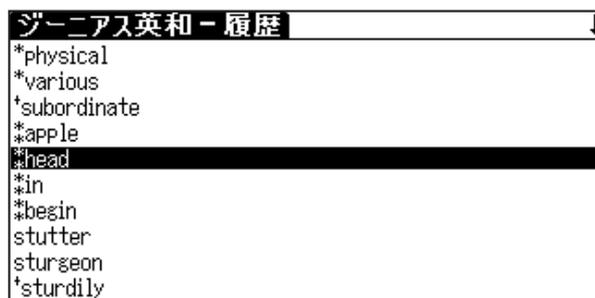
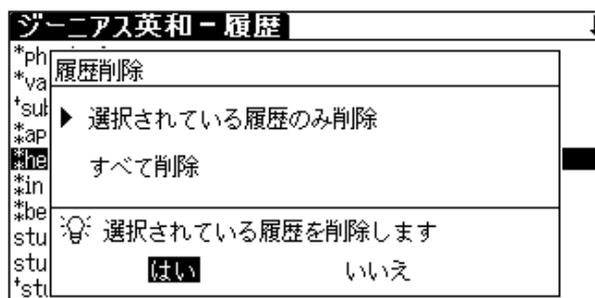
2 ▼／▲でカーソルを移動させ、調べたい英単語を選択します（ここでは「head」を選択します）。
それから（訳・決定）を押して、本文画面を表示させます。

● 履歴から選択した単語の本文画面（シフト）▼／▲を押すと、表示中の単語と同じ辞典またはモードの前後の見出し語の本文画面が表示されます。

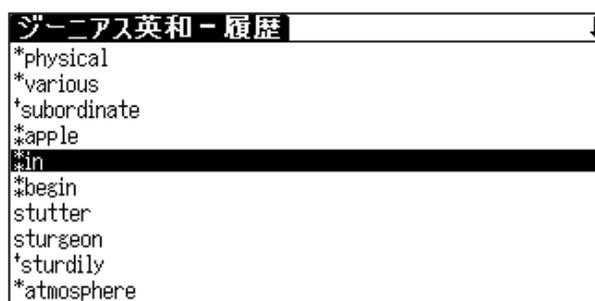
> 学習コンテンツのツリー形式項目リストから本文を表示させた場合には履歴が残りません。それ以外のモードでは履歴が記録されます。

履歴を削除します

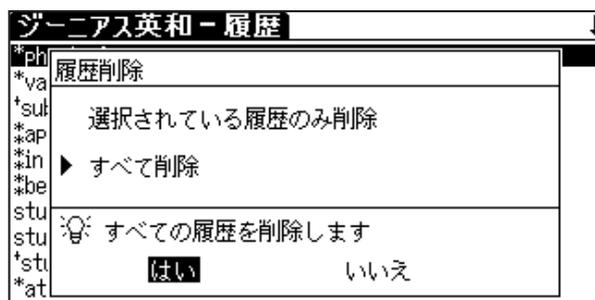
各辞典の履歴は、1単語ずつ、またはモードごとにまとめて削除することができます。

1単語ずつ削除します

1 英和辞典から履歴リスト画面を表示させます。▼ でカーソルを移動させ、履歴リストから削除したい単語を選択します。

2 登録/削除 を押すと、履歴削除の画面が表示されます。
▼ ／▲で「選択されている履歴のみ削除」を選択し、◀ ／ ▶ で「はい」を選んで 訳・決定 を押します。

3 選択した履歴が削除され、履歴リスト画面または検索画面に戻ります。

● 削除を中止する場合は 戻る を押すか、「いいえ」を選択した後、訳・決定 を押してください。

辞典・モードごとに削除します

1 英和辞典の履歴リスト表示画面で 登録/削除 を押すと、履歴削除の画面が表示されます。

▼／▲で「すべて削除」を選択し、◀／▶で「はい」を選んで 訳・決定 を押します。

2 表示中の辞典・モードの履歴がすべて削除され、検索画面に戻ります。

● 削除を中止する場合は 戻る を押すか「いいえ」を選択した後、訳・決定 を押してください。

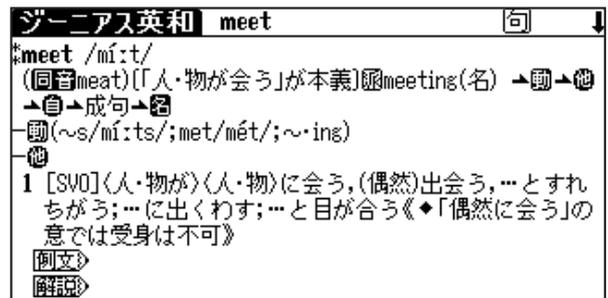
● 履歴は各モードごとに登録されています。表示しているモードの履歴だけを削除しますので、別のモードの履歴を削除する場合は、そのモードの履歴を表示させてから 登録/削除 を押してください。

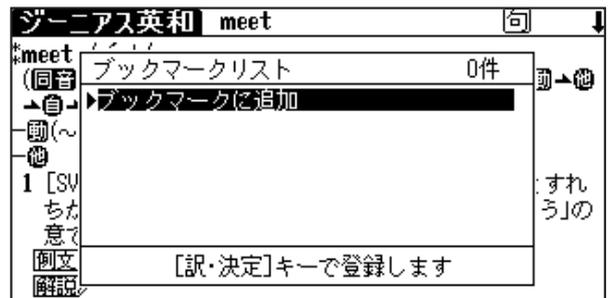
ブックマーク機能を使う

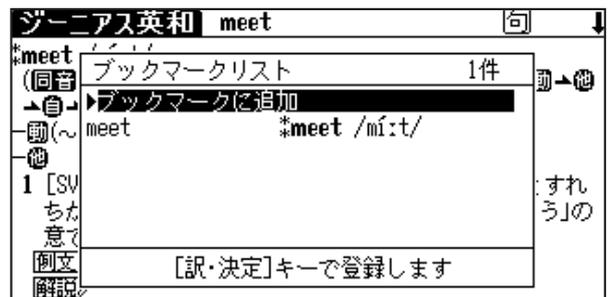
覚えたい単語や語句をブックマークに登録することができます。

［例題］ 英和辞典の「meet」をブックマークに登録します

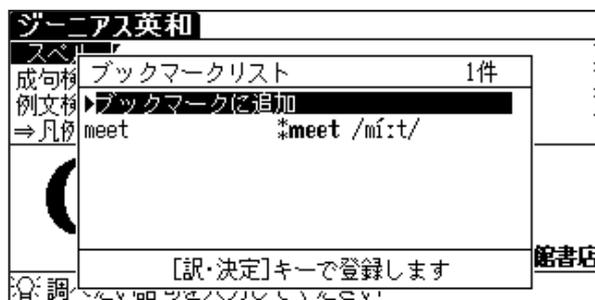
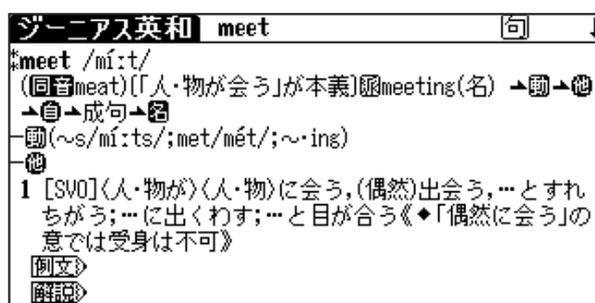
1 英和辞典で「meet」の本文画面を表示させます。

（検索方法 ☞ 32ページの1〜3参照）

2 本文画面表示中に マーカー/ブックマーク を押すと、ブックマークリストの画面が表示されます。

▼／▲で「ブックマークに追加」を選択します。

3 訳・決定 を押すと表示中の単語の表示画面がブックマークに登録されます（ここでは「meet」の本文画面1ページ目が登録されます）。

- ブックマークに同じ単語の同じ表示画面がすでに登録されている場合は、“既にブックマークに登録されています”のメッセージが表示されます。同じ単語でも表示箇所が違う場合は登録することができます。
- ブックマークには全辞典合計500件の箇所を登録することができます。
- ブックマークリスト画面右上に、表示中の辞典の中でブックマークに登録されている件数が表示されます。
- 本文画面に戻るには 戻る を押します。

ブックマークに登録された単語を表示します

［例題］ブックマークに登録された「meet」の本文画面を表示します

1 英和辞典の検索画面または本文画面表示中に（マーカー/ブックマーク）を押すと、ブックマークリスト画面が表示されます。

2 ▼／▲でカーソルを移動させ、リストの中から表示させたい単語を選択します（ここでは「meet」を選択します）。次に（訳・決定）を押すと、登録された単語の本文該当箇所が表示されます。

単語をブックマークから削除する

ブックマークに登録した単語を削除する場合は、ブックマークリストを表示させ、削除したい単語を選択します。（登録/削除）を押すと、ブックマーク削除の画面が表示されますので、▼で「選択されているブックマークのみ削除」を選択し、◀／▶で「削除」を選んで（訳・決定）を押すと、選択した単語が削除されます。「すべて削除」を選択すると、表示中の辞典のブックマークに登録した単語をすべてまとめて削除します。

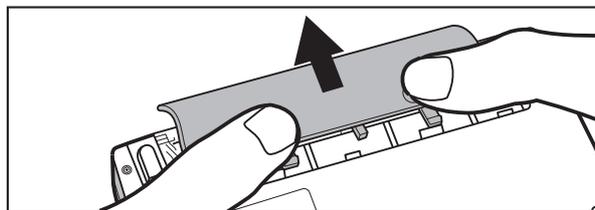
● 削除しない場合は「キャンセル」を選んで（訳・決定）を押すと、ブックマークリスト画面に戻ります。

ブックマーク機能は、大辞林・英和辞典・和英辞典・英英辞典・漢字源・四字熟語辞典・故事ことわざ辞典・ロイヤル英文法・語義イメージ辞典・古語辞典・世界史事典・日本史事典・英会話とっさのひとこと辞典・生物事典の本文画面で使用することができます。

QUICK REFERENCE

Before the initial use

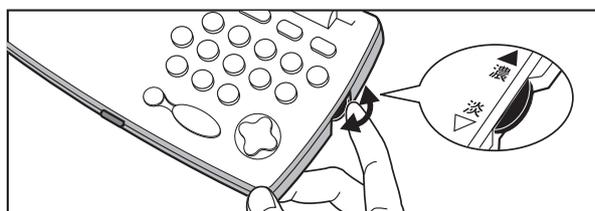
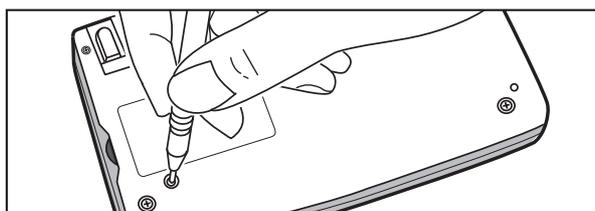
■ Insert the batteries

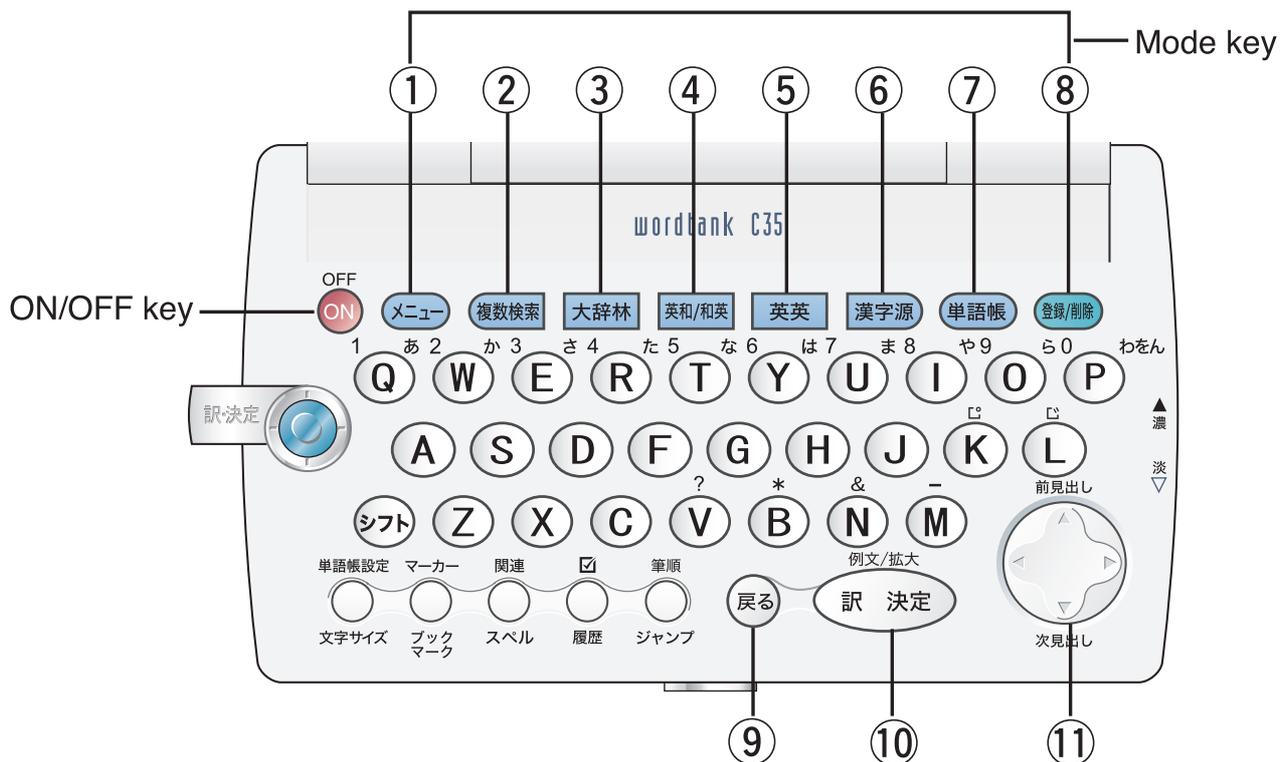
①Turn off the unit, and then position your thumbs on the arrows in the battery compartment cover located on the bottom of the unit. Push the cover to the direction of the arrows to remove the cover.

②Insert the two attached batteries, making sure that their poles (＋ and －) point to the correct direction.

■ Reset the unit

①Press the reset button on the bottom of the unit.

②Press the open/close button while opening the top cover.

③Use the contrast adjustment dial on the right side of the unit to adjust the contrast of the display.

④When the message "システムを初期化しますか？" ("Do you want to reset?") appears, select "はい"("Yes"), and then press the 訳 決定 key. In a short time, the menu screen appears and this unit will be ready to use.

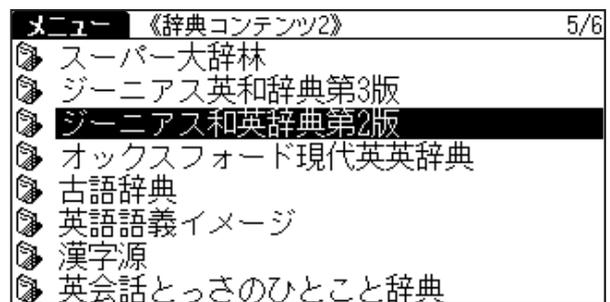
Keys and their functions

①	メニュー	Press to display the menu screen.
②	複数検索	Press to display the search screen for the multiple dictionary search.
③	大辞林	Press to display the search screen for the Super Daijirin (Japanese dictionary).
④	英和/和英	Press to display the search screen for the English-Japanese or Japanese-English dictionary. Each press of the key switches the screen of one dictionary to the other.
⑤	英英	Press to display the search screen for the English dictionary.
⑥	漢字源	Press to display the search screen for the Kanjigen.
⑦	単語帳	Press to display the initial screen for Wordmemo.
⑧	登録/削除	While a search result screen is displayed, press to register a displayed word to Wordmemo. While entering characters, press to delete the last character entered.
⑨	戻る	Press to go back to one screen at a time.
⑩	例文/拡大 訳 決定	Press to search for a word, phrase or translation or to perform various functions.
⑪		Press to move the cursor.

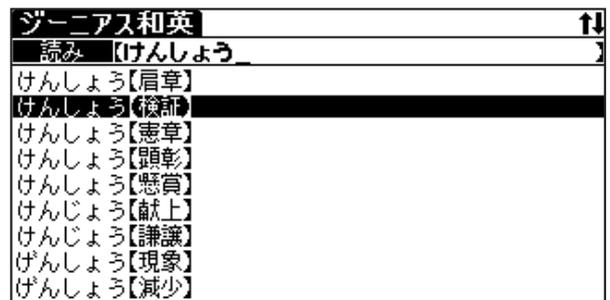
Basic operations

■ Turn on/off the unit

Press the OFF/ON key to turn on the unit and the screen viewed last time will appear (resume feature). In another way, press any mode key of each dictionary to turn on the unit, and the initial screen of a chosen dictionary will be shown up. With the screen being turned on, press the OFF/ON key to turn off the unit (The unit itself will automatically turn off to save energies/batteries in case it has not been used for a certain period <Auto power off function>.).

■ Move the cursor and select an item in the menu

Use the cursor keys to move the cursor from up to down to select an mode in the menu or to select the input box of the search screen. A chosen mode will be highlighted as seen on the right. On the menu screen, when a mode is selected and the 訳・決定 key is pressed, a search screen of a chosen mode will appear.

■ Search

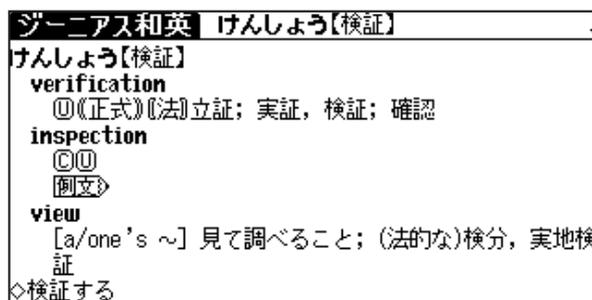
Move the cursor to select an input box. Enter a searching word/phrase with the character input keys, and a list of matched entry words/phrases will be displayed. Select a matched word/phrase, and then press the 訳・決定 key to display the search result screen for the word/phrase.

＊With a search result screen displayed, press the 単語帳設定/文字サイズ key to change the text display size.

■ Scroll through the screen

The arrows ⬆⬇ on the right side of the screen indicate that the contents of the screen cannot be fully displayed. Press the ▲/▼ key to scroll up or down one line at a time of the screen. With a result screen displayed, press the ▶ key to scroll forward to the next screen of text, or press the ◀ key to scroll backward to the previous screen of text. When a search

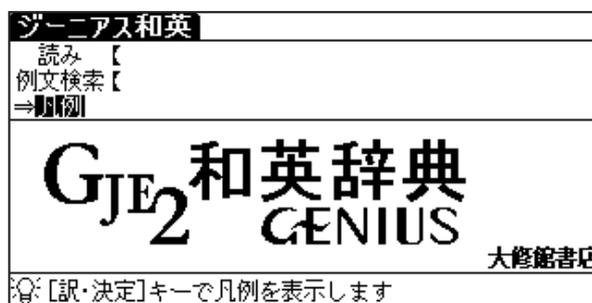
result screen is displayed, press the シフト▲ key to display the search result screen for the previous screen for the previous entry in the current dictionary, or press the シフト▼ key to display the search result screen for the next entry.

■ View example sentences, explanations or reference list

If 例文, 解説, EXAMPLE appears in the search result screen, press the 訳・決定 key to display the example sentence, explanation or reference. Press the 訳・決定 key again to hide the example sentence, explanation or reference.

■ Return to the list of matched entries

While a search result screen is displayed, press the 戻る key to return to the list screen of matched entries.

■ View explanatory notes of dictionaries

If ⇨凡例 appears on the left side of the search screen of each dictionary screen, explanatory notes are available. Move the cursor on the search screen to select " ⇨凡例 ", and then press the 訳・決定 key to display the screen of the explanatory notes.

■ Tree structure list — Descriptions of [+] and [–] —

[+] in front of an item on the tree structure list indicates that the item contains sub-items. Select an item with [+] in front of it, and then press the 訳・決定 or ▶ key to display the list of sub-items.

Press the 戻る or ◀ key to return to the condition before the sub-items were displayed. [–] in front of an item indicates that no sub-items are contained for the items.

> ＊ **Switch the display language**
> At the Setup menu screen, the display language can be switched between Japanese and English. The Setup menu screen can be displayed from the Menu screen.

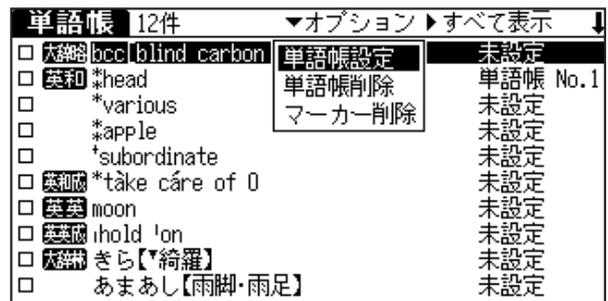
Using the Wordmemo

■ Register a word

With the search result screen of each dictionary displayed, press the 登録/削除 key to register the word currently displayed to the Wordmemo.

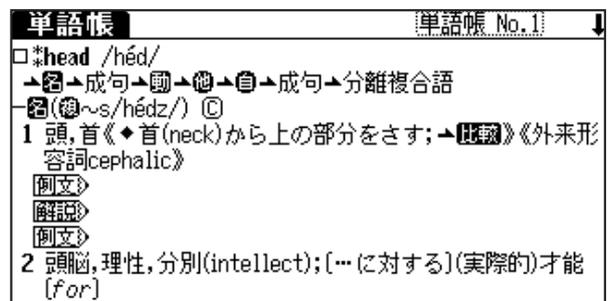
■ Use the Wordmemo

①Press the 単語帳 key to display the Wordmemo screen.

②Press the シフト 単語帳設定/文字サイズ key to display the "オプション" ("Options") menu. At the menu, various settings for Wordmemo are available such as setting Wordmemo and deleting all registered words or markers at once.

③After pressing the シフト 単語帳設定/文字サイズ key, press the ▶ key to display the Wordmemo list. Select the number of the Wordmemo, and then press the 訳・決定 key to display the words only registered in the selected Wordmemo.

■ Categorize words

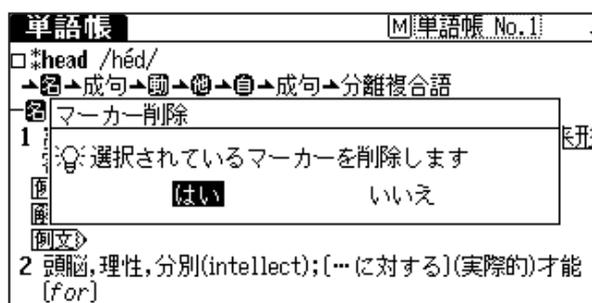
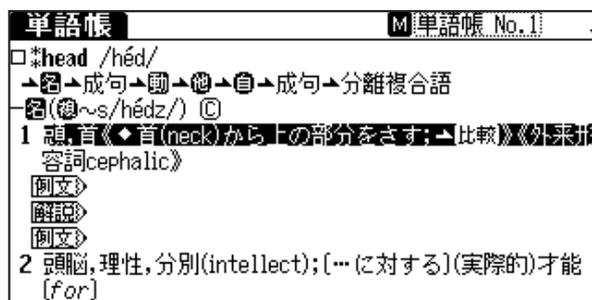
①Select a word from the Wordmemo screen, and then press the 訳・決定 key to display the search result screen for the word.

②Press the シフト 単語帳設定/文字サイズ key to display the category menu. Move the cursor to select a category number of Wordmemo, and then press the 訳・決定 key to categorize the displayed word into the selected Wordmemo.

＊At the Wordmemo screen , press the シフト ☑/履歴 key to put a check mark (☑) on the box next to an entry word. Press シフト ☑/履歴 key again to remove the check mark.

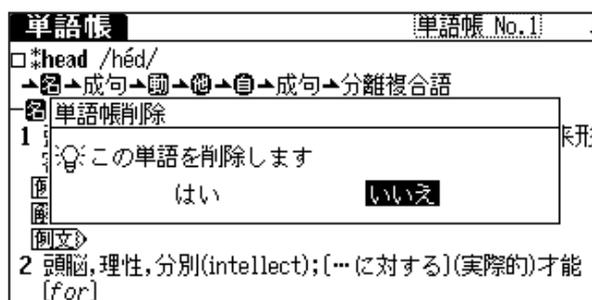
■ Use the Marker function

①Press the [マーカー/ブックマーク] key at the search result screen of Wordmemo, and then move the cursor to the beginning of a text to be underlined.

②Press the [マーカー/ブックマーク] key again, and the use the cursor keys to select the text. Press [訳・決定] key to underline the selected text.

③Press the [マーカー/ブックマーク] key, move the cursor to the underlined text, and then press the [登録/削除] key. When the message "選択されているマーカーを削除します" ("Do you want to delete this marker?") appears, select "はい" ("Yes") and press the [訳・決定] key to remove the underline.

■ Delete data from the Wordmemo

①Display the search result screen of a registered word to delete in Wordmemo, and then press the [登録/削除] key. The message "この単語を削除します" ("Delete word") will appear.

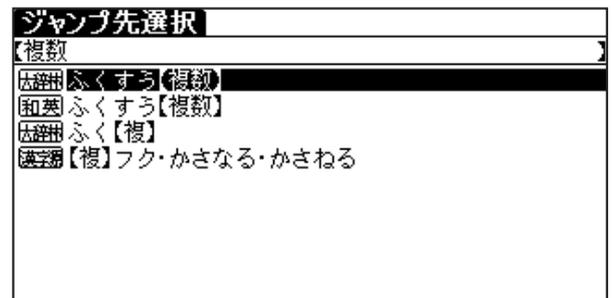
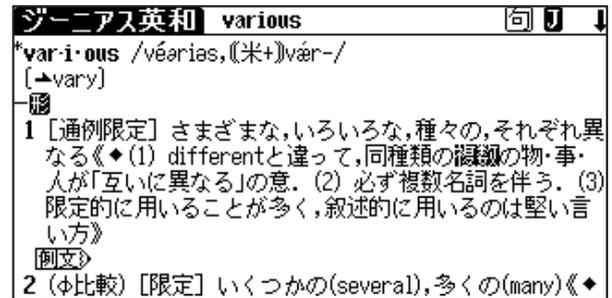
②Select "はい" ("Yes"), and then press the [訳・決定] key to delete the displayed word from the Wordmemo.

＊At the "Option" menu, all registered words can be deleted at once from the Wordmemo.

Useful functions

■ The multi-jump function

①With a search result screen displayed, press the 筆順◯ジャンプ key to highlight an entry word. Move the cursor to select a word to search.

＊In case having more than two letters to search, select the first letter, press the 筆順◯ジャンプ key again, and move the cursor to select the other characters.

②Select the word and press the 訳・決定 key. Then, the list of dictionary jump selections will appear. Move the cursor to select a dictionary, and then press the 訳・決定 key to jump to the selected dictionary.

＊If a selected word is found only in one dictionary, the word will be directly shown at the jumped dictionary screen without having it displayed on the list of dictionary jump selections screen.

＊If ⇀ appears in the screen, select ⇀ to jump to the reference entry.

■ The wildcard search function

Entering an asterisk (＊) or a question mark (?) allows to search for spellings or vaguely remembered words. In addition, putting an asterisk (＊) at the beginning of a word or phrase makes it possible to search reversely for entry words that are generated from the word.

Example: Enter “chr ＊ m” to search for a word beginning with “chr” and ending with “m”, such as “chrism” or “chrysanthemum”.

Enter “ ＊ そら” to search for a word or phrase ending in “そら”, such as “あまつそら” or “うわのそら”.

Enter “b?lieve” to search for “believe” without knowing whether the second letter is “i” or “e”.

(＊) indicates unlimited number of letters, and (?) indicates a single letter.

■ The spell-check function

When an English word is entered in the input box of a search screen, press the 関連/スペル key to check the spelling of the word. A list of matched words with the same spelling or similar spellings will be displayed.

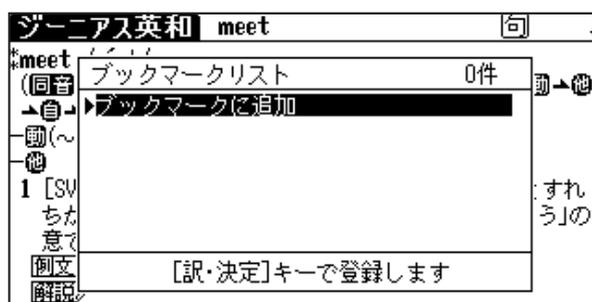
■ The history function

With the search screen of a dictionary or a search result screen displayed, press the ☑/履歴 key to display the list of words previously searched in the dictionary. At the history list screen, press the key 登録/削除 to delete listed words.

■ The Bookmark function

①With a search result screen displayed, press the マーカー/ブックマーク key to bookmark a displayed word to the Bookmark list.

②With the search screen of a dictionary or a search result screen displayed, press the マーカー/ブックマーク key to display a list of bookmarked words in the dictionary. From the list, select a bookmarked word to display, and then press the 訳・決定 key to recall the word.

③With the Bookmark list displayed, press the 登録/削除 key to delete the selected entry from the Bookmark list.

■ The kanji stroke order

①If 筆順 appears in the search result screen of the Kanjigen (kanji dictionary), press the シフト 筆順/ジャンプ key to switch to the stroke order screen and view the stroke order for a main entry character. To return to the search result screen, press the 戻る key. In addition, if the 訳・決定 key is pressed while a search result screen of the Kanjigen or the Super Daijirin is displayed, each character will be enlarged. Move the cursor to select one character at a time to enlarge. Press the 訳・決定 key again to display the text at its original size.

古語辞典

国語・国文法用語解説

- ■ 古文の読解学習に必要な国語用語および国文法（文語文法）用語を収めて解説した。
- ■ 配列は五十音順に従った。
- ■ △印は、この用語解説中に見出し語として収めて解説してある項目。

〔あ〕	天草版 （あまくさばん）	キリシタン版の１つ。文禄（ぶんろく）・慶長（１５９２―１６１５）のころに、天草学林で刊行された本。宣教師の日本語学習書として使われ、当時のことば、特に、口語を知るうえで貴重な資料。「伊曾保（いそほ）物語」「平家物語」「ドチリナ・キリシタン」などがある。
〔い〕	イ音便 （いおんびん）	→音便（おんびん）
	意志の助動詞 （いしのじょどうし）	動作や状態の実現・中止について話し手（書き手）の意志を表す助動詞。文語では、△推量の助動詞のうち「む」「まし」「べし」「じ」「まじ」に、この用法がある。これらのうち、「まし」は疑問の語とともに用いられる場合で、意志といっても、その裏に実現不可能という気持ちが含まれ、「じ」「まじ」は打消の意志を表す。「いざ、いと心安き所にてのどかに聞こえむ（＝申シ上ゲヨウ）」〈源・夕顔〉「しやせまし（＝シタモノダロウカ）せずやあらまし（＝シナイデオイタモノダロウカ）」〈徒然・９８〉
	已然形 （いぜんけい）	文語の△活用形の１つ。「すでに（已）そうなっている事態（然）を表す」ことから已然形という。係助詞「こそ」の結びに使われるほか、「書けど」「よけれども」「遠ければ」のように、助詞「ど」「ども」「ば」が付いて使われる。用法は、 （１）特定の付属語が付いて用いられる場合 ①助詞「ど」「ども」が付いて確定の逆接（…デアルケレドモ）の意を表す。「ははその色はうすけれど」〈古今・秋下〉「文（ふみ）を書きてやれども返りごともせず」〈竹取・貴公子たちの求婚〉 ②助詞「ば」が付いて確定の順接（…デアルカラ・…ナノデ）の意を表す。「春立てば」〈古今・春上〉「吉野（よしの）の山し近ければ」〈古今・冬〉 （２）単独に用いられる場合 ①係助詞「こそ」の結びとなる。「もののあはれは秋こそまされ」〈徒然・１９〉「遣（や）り水より煙（けぶり）の立つこそをかしけれ」〈徒然・１９〉 ➡本文「係り結び（かかりむすび）」 ②上代では、それだけで逆接や順接を表すこともある。「大舟を荒海（あるみ）にこぎ出弥舟（やふね）たけ（＝シキリニ舟ヲコグケレドモ）わが見し子らがまみは著（しる）しも」〈万・７・１２７０〉「家離（さか）りいます吾妹（わぎも）を停（とど）めかね山隠しつれ（＝山ガ隠シテシマッタノデ）心ど（＝シッカリシタ心）もなし」〈万・３・４７４〉

	一般条件（いつぱんじようけん）	→条件法（じょうけんほう）
	異本（いほん）	同一の古典作品であっても、伝えられた本文の違いによって種々の相違のあることがある。その相違は、作者が初稿本を訂正した場合もあるが、多くは、転写の際の誤写や脱落、あるいは追加や書きかえなどによって生じたものである。これら本文に違いのある本を互いに「異本」という。たとえば「源氏物語」には、①青表紙本　②河内（かわち）本　③別本（①②以外のもの）の３類があり、「枕草子」にも、雑纂（ざつさん）形態の伝能因本、三巻本、類纂（るいさん）形態の堺（さかい）本、前田本など多くの異本がある。語り物では特に異本の生じる機会が多く、「平家物語」は２２類４４種の異本がある。
	いろは歌（いろはうた）	→本文「いろは（伊呂波）」
	韻（いん）	漢字の△字音（じおん）を分けて頭声と尾声とにするとき、その尾声を韻という。頭声の子音を除き去った部分で、ふつう１つか２つの母音より成るが、これに子音が付くものもある。韻の部分が同じものや似たものを同韻の字として、詩や律文の句尾に用いて音律を整える。これを△押韻（おういん）、または「韻をふむ」という。なお、韻を△四声（しせい）によって分け、同韻の字を分類して、元代以後、平声（ひょうしょう）３０、上声（じようしょう）２９、去声（きよしよう）３０、入声（につしょう）１７の１０６韻とし、今日も漢詩を作るときなどに用いる。
	隠語（いんご）	仲間意識や秘密を守るために、自分たちの仲間だけに通用する特別な意味をもった語。たとえば「しょば（＝場所）」「しゃり（＝飯）」などの類。博徒（ばくと）・香具師（やし）・犯罪者などが多く用いる。商人が数字を符丁で言ったりするのも１種の隠語である。
〔う〕	ウ音便（うおんびん）	→音便（おんびん）
	受身の助動詞（うけみのじよどうし）	他から動作を受ける意を表す助動詞。文語では「る」「らる」（口語では「れる」「られる」）に、この用法がある。上代には「ゆ」も用いた。「思はぬ人の衣（きぬ）に摺（す）らゆな（＝摺ラレルナ）」〈万・７・１３４２〉。これらの助動詞で表される受身の表現は、国語では生物が主語になることが多く、無生物が主語になることはまれであった。後者の場合を「非情の受身」とよぶことがある。また、国語の受身は、多く被害を受ける意を含み、これを「迷惑の受身」とよぶことがある。「かう討ち捨てられて」〈源・桐壺〉 なお、軍記物では、△使役の助動詞「す」「さす」を受身の箇所に用いることがある。「弓手（ゆんで）のひざ口を射させ、痛手なれば心静かに自害せん」〈平家・４〉などであるが、これはきわめて特殊な表現（受動的な表現をきらったもの）で、△武士詞（ぶしことば）といわれるものである。
	歌枕（うたまくら）	和歌の中に詠まれ、親しまれた諸国の名所。香具山・逢坂山（おうさかやま）・鴫立沢（しぎたつさわ）・白河の関・竜田川など。多くは現地に臨まずに詠まれた。芭蕉（ばしょう）の「おくのほそ道」には、数々の歌枕をたずねたことが記されている。

	打消の助動詞 （うちけしのじょどうし）	否定の助動詞ともいう。文語には「ず」（口語には「ない」「ぬ（ん）」）がある。これに打消推量の「じ」「まじ」を加えることもある。「じ」は「む」の打消で、現代語の「ないだろう」に当たる。「まじ」は「べし」の打消で、現代語の「まい」に当たる。なお「まじ」が用いられるのは中古以降で、上代には「ましじ」が用いられた。「君が心は忘らゆましじ」〈万・２０・４５０６〉。また、この時代の「ゆくへを知らに」〈万・２・２０１〉の「に」も打消の助動詞として扱うことがある。「忘れせなふも」〈万・１４・３４３８〉「寝なへ子」〈万・１４・３５５０〉の「なふ（特殊型）」は東国で行われた打消の助動詞である。
〔え〕	婉曲表現 （えんきょくひょうげん）	物事を述べる場合、事態を直接に表現することをさけて、やんわりとやわらげて表現すること。助動詞の「めり」は婉曲の表現に用いられることがあり、中古末期には例が多い。 また、文法的には、△推量の助動詞「む」「らむ」「けむ」などを用いて、婉曲に表現したり、命令の表現で、命令形を用いると強くなりすぎるというような場合に、推量の助動詞「む」を用いて、「とくこそ試みさせたまはめ（＝ハヤクオタメシニナルノガヨロシイデショウ）」〈源・若紫〉などのように「…したほうがよい」という意の勧誘表現をとったりするのもこの中に入る。
	延言 （えんげん）	「語る→語らふ」「言ふ→言はく」「取る→取らす」のような現象を１音が延びて２音となったとみる江戸時代の文法用語。賀茂真淵（かものまぶち）が「語意考」で取り上げて以来、語釈・語源の説明などに広く用いられたが、現在は延言として説明することはしない。
〔お〕	押韻 （おういん）	詩や韻文で、句の終わりに同じ△韻を用いて音律を整えることをいい、「韻をふむ」ともいう。漢詩の五言絶句では、承・結の２句に、七言絶句では、起・承・結の３句に韻をふむ。このように、語末の音をそろえることを「脚韻」といい、欧米の詩にも例が多い。これに対し、語頭の音をそろえることを「頭韻」といい、わが国の歌や韻文にも例が見える「よき人のよしとよく見てよしと言ひしよし野よく見よよき人よく見」〈万・１・２７〉
	奥書 （おくがき）	→跋（ばつ）・本文「おくがき」
	送り仮名 （おくりがな）	（１）漢字と仮名を用いて文を書くときに、漢字の読み方を明らかにするために、漢字の次に書き添える仮名。「書く」の「く」、「読む」の「む」の類。その表記の基準については、昭和４８年６月内閣告示（昭和５６年一部改正）「送り仮名の付け方」によるものが多い。 （２）漢字を訓読するときに、漢字の右下方（再読の文字には左下方）に添える仮名。助詞・助動詞・活用語尾などを、片仮名で示す。古く、漢字を本体にして「捨て仮名」ともいったが、今は「送り仮名」という。
	男手 （おとこで）	→本文「をとこで」

	躍り字 （おどりじ）	同じ字の繰り返しを示す符号。仮名の「ゝ」「〱」、漢字の「々」「〻」がある。反復符号・繰り返し符号ともいう。たとえば「ちゝはゝ」「もろ〱」「堂々」「堂〻」など。「ゝ」「〻」は中国で漢字の反復に用いられ、「〱」は「ゝゝ」の連綿から生まれたもの、「々」は中国の「〻」を誤ったところからきた国字である。今日では、使用法が固定し、「ちゝ」「山〱」は誤りとする。「〻」も「屢〻（しばしば）」「稍〻（やや）」など特定の場合に用いる。
	折り句 （おりく）	→本文「をりく」
	音 （おん）	→字音（じおん）
	音節 （おんせつ）	音声の単位の１つ。国語で、音を細かに区切って発音するときに、いちばん小さい単位として意識するものをいう。たとえば「秋」はア〔a〕キ〔ki〕、「花」はハ〔ha〕ナ〔na〕の２つに切ることができる。この各々を音節という。〔a〕〔k〕〔i〕〔h〕〔n〕は、それぞれ△単音であるので、ア〔a〕は１単音で１音節、キ〔ki〕ハ〔ha〕ナ〔na〕は２単音で１音節を構成している。撥音（はつおん）「ン」、促音「ッ」も１音節であり、日本語ではこれを除いて音節の終わりには必ず母音が来、このような音節の特徴を開音節という。なお、わが国の仮名は、ふつう１つの音節をそのまま１字として書き表すので「音節文字」といい、ローマ字は、母音と子音を別々に書き表すので「単音文字」という。なお、日本語の音節数は１１０余といわれ、４０００から７０００の音節があるといわれる英語に比較してはるかに少ない。日本語の表音文字である仮名が音節文字であるのも、この音節数が比較的に少ないことと関連しているともいわれる。
	女手 （おんなで）	→本文「をんなで」
	音便 （おんびん）	発音の便宜上、語中・語尾の音節で、もとの音に変化が生じる現象をいう。音便には次の４種がある。 （１）イ音便…語中・語尾のキ・ギ・シ（まれに、リ・テ）の音がイの音に変化する現象。 活用しない語では「きさきのみや」→「きさいのみや」・「まして」→「まいて」など。 文語動詞では、カ行・ガ行・サ行の四段活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」に連なるときに現れる。「いとかうしもおぼい（し）たるは、いかなるにか」〈落窪〉 文語形容詞では、連体形「—き」「—しき」の形が△体言または△終助詞「かな」などに連なるときに現れる。「さすがに若い（き）人にひかれて」〈更級〉 文語助動詞では「べし」「まじ」の連体形「べき」「まじき」が「べい」「まじい」となることがある。「名乗ることはあるまじい（き）ぞ」〈平家〉「はしたなくもあべい（あるべき）かな」〈源・朝顔〉 イ音便が盛んに用いられるようになったのは中古以降で、形容詞連体形のイ音便形「—い」「—しい」は、中世、終止形としても用いられ、

		現在の口語形容詞の終止形・連体形となった。 （２）ウ音便…語中・語尾のク・グ・ヒ・ビ・ミなどの音がウの音に変化する現象。 活用しない語では、「かみべ（頭）」→「かうべ」・「まらびと（客人）」→「まらうと」など。 文語動詞では、ハ行・バ行・マ行の四段活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」などに連なるときに現れる。「ときどき通ひ給う（ひ）けるわかんどほり腹の君」〈落窪〉 文語形容詞では、連用形「―く」「―しく」の形が他の△用言や助詞「て」に連なるときに現れる。「ただ春宮（とうぐう）をぞ、いと恋しう（く）思ひ聞こえ給ふ」〈源・葵（あふひ）〉 ウ音便は上代にはあまり用いられず、中古以降盛んに用いられるようになった。 （３）撥（はつ）音便…語中・語尾のニ・ビ・ミ・リ・ルの音が撥音「ん」に変化する現象。 文語動詞では、バ行・マ行の四段活用、△ナ行変格活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」に連なるときに現れる。「わかすすきに手きるきるつんだる（つみたる）菜を」〈土佐〉「朋友死んで（死にて）よらんところなし」〈仮名論語〉 △ラ行変格活用・文語形容詞・形容動詞（ナリ活用）の連体形が助動詞「なり」「めり」に連なるときに現れる。「木幡（こはた）山はいとおそろしかん（る）なる山ぞかし」〈源・浮舟〉「をかしと目とまることはあん（る）めれど」〈玉勝間〉 なお、撥音は、表記されなかったり、他の字で代用されたりしている場合がある。 （４）促（そく）音便…語中・語尾のキ・シ・チ・ヒ・リの音が促音（＝ツマル音）「っ」に変化する現象。 文語動詞では、タ行・ハ行・ラ行の四段活用、△ラ行変格活用の連用形が助詞「て」・助動詞「たり」に連なるときに現れる。「各（おのおの）弓を引きて箭（や）を放って（放ちて）馳（は）せ違（か）ふ」〈今昔〉 促音便は中古後期に広く行われるようになったが、その初期にすでに促音便があったと思われる例がある。ただし、促音を表す文字がなかったので、その表記はない。
〔か〕	会意 （かいい）	△六書（りくしょ）の１つ。今までにできあがっている漢字を２つ以上組み合わせて１つの字形を作り、特定の意味と音とを表すもの。たとえば「林」は木がたくさん茂っている場所、「炎」は火が盛んに燃えるさまを表している。会意は、△象形や△指事の構成方法を一歩進めたものといえる。➡六書（りくしょ）
	開音節 （かいおんせつ）	→音節（おんせつ）
	開合 （かいごう）	「開」は開音・開口音ともいい、口の開きの広い音、「合」は合音・合口音ともいい、口の開きの狭い音。古く、オ列長音に開音〔ɔː〕合音〔oː〕の２種があり、歴史的仮名遣いでいえば、オウ・コウなどは

		鎌倉時代から長音化し、室町時代末に合音〔oː〕となり、アウ・カウ・アフ・カフは、鎌倉時代にアオ・カオ、室町時代に開音〔ɔː〕となり、その後近世初期までに合音〔oː〕となって、一本化した。
	回想の助動詞 （かいそうのじよどうし）	➡過去の助動詞（かこのじよどうし）
	返り点 （かえりてん）	漢文を訓読するとき、国語の語順に合うように、下から上に返って読むことを示す符号。返り点には、（１）レ点（レ）、（２）一二点（一、二、三…）、（３）上下点（上、下または上、中、下）、（４）甲乙点（甲、乙、丙…）、（５）天地点（天、地または天、地、人）があり、レ点で間に合わないときに、一二点、一二点で間に合わないときに上下点というように、用いる順序が決められている。レ点は１字だけ返る場合で、下の字の左肩に添え、その他の点は左下方に添える。２字の熟語に返る場合は、熟語の上の字の左下方に、３字の熟語に返る場合は、いちばん上の字の左下方に添える。
	係助詞 （かかりじよし）	➡係助詞（けいじよし）
	カ行変格活用 （かぎようへんかくかつよう）	動詞の活用の１つ。略してカ変という。活用形はイ・ウ・オの三段の音からなり、ウ段音に「る」「れ」、オ段音に「よ」の付いたものである。また、活用は語幹と語尾の区別がない。文語の命令形は中古までは「こちゐて来（こ）（＝コチラヘ連レテコイ）」〈更級〉のように「こ」の形も用い、のちには「こよ」がもっぱら用いられた。活用する動詞は、文語では「来（く）」（口語では「来（く）る」）１語だけであるが、これが他の動詞と複合して「参りく」「まうでく」「出（い）でく」などのカ変の複合動詞をつくることがある。
	隠し題 （かくしだい）	➡本文「かくしだい」
	格助詞 （かくじよし）	△体言、または体言に準じる語（用言・助動詞の連体形）などに付いて、それの付いた文節が、それを受ける文節に対して、どういう資格関係（格）に立つかを示す助詞をいう。 文語の格助詞 （１）主語（主格）を示すもの…が・の 「雀（すずめ）の子を犬君（いぬき）が逃がしつる」〈源氏・若紫〉「うぐひすの鳴く」〈古今・春上〉 （２）連体修飾語（連体格）を示すもの…が・の 「梅が枝（＝梅ノ枝）に」〈古今・春上〉「この源氏の物語」〈更級〉 （３）連用修飾語（連用格）を示すもの…を・に・へ・と・より・から・にて・して 「鳥をうらやみ、霞（かすみ）をあはれび」〈古今・仮名序〉「あづまに行きけるに」〈伊勢・７〉 ［参考］ 上代は△連体修飾語を示すものとして「つ」「な」、△連用修飾語を示すものとして「ゆ」「ゆり」「よ」も用いられた。「沖つ風（＝沖ニ吹ク風）」〈万・１５・３６１４〉「吾家（わぎへ）の方よ（＝ヨリ）」〈記・中〉「田子の浦ゆ（＝ヲ通ッテ）」〈万・３・３２１〉

	語	説明
	確定 （かくてい）	→条件法（じょうけんほう）
	確定条件 （かくていじょうけん）	→条件法（じょうけんほう）
	過去の助動詞 （かこのじょどうし）	過去を表す助動詞。文語では「き」「けり」（口語では「た」）がこれに属する。「き」は過去に存在し、現在は存在しなくなっている事実を表す場合（したがって、おのれの経験として語ることが多い）、「けり」は、過去にあった事実で、それが現在と何らかの関連をもっているということを述べるのに用いられる。「けり」が他から伝え聞いた過去の事実を回想する場合に用いられるのもそうした事情による。この「過去の助動詞」を「回想の助動詞」ということもある。それは、過去という「時」を表すというよりも、過去の事実を回想するという気持ちが強いという理由にもとづく。「鬼のやうなるもの出（い）で来て殺さむとしき」〈竹取・蓬莱の玉の枝〉「人目をもるる涙なりけり」〈続後撰・恋１〉
	仮借 （かしゃ）	△六書（りくしょ）の１つ。漢字そのものの意味内容とは関係なしに、その字の音を借りて別の物や事柄を表すもの。たとえば、「北」はもともと「にげる・そむく」の意であるが、「ホク」の音を借りて方角を表す意に転用する。また「革」は「かわ」の意であるが、「カク」の音を借りて「革新」「改革」というように「あらためる」意に用いる。「△万葉仮名」は、国語を写すために漢字を仮借的に使用したものである。➡六書（りくしょ）
	歌体 （かたい）	一首の歌は、５音・７音を基本単位として、いくつかの句に分かれる。その句の音数の配列の形体によって分類したものを「歌体」という。たとえば、「万葉集」では、短歌（５・７・５・７・７）・長歌（５・７・５・７・５・７……５・７・７）・旋頭歌（せどうか）（５・７・７・５・７・７）の３種があり、ほかに短歌に１句（７音）が加わって、仏足石歌体（５・７・５・７・７・７）というのもある。仏足石歌体は、奈良薬師寺の仏足石歌２１首が、この歌体であるところから名づけられたもの。「みあとつくる石の響きは天（あめ）に到（いた）り地（つち）さへ揺（ゆ）すれ父母（ちちはは）がために諸（もろひと）のために」〈歌謡〉。このほか、これらより古く、上代には、片歌（かたうた）（５・７・７）という歌体もあった。「はしけやし我家（わぎへ）の方（かた）よ雲居（くもゐ）たち来（く）も」〈記・中〉。中古以後になると、今様（いまよう）（７・５・７・５・７・５・７・５）などの諸体を生じた。「仏は常にいませども現（うつつ）ならぬぞあはれなる　人の音せぬ暁（あかつき）にほのかに夢に見え給ふ」〈梁塵秘抄〉
	片仮名 （かたかな）	漢字の字画を省略してできた△表音文字（「ハ」のように漢字「八」の全画からできたものもある）。漢文や仏典の訓読・注釈に際し、「△万葉仮名」の偏（へん）・旁（つくり）・冠・脚など、漢字の一部を用いて記すようになったのが初めで、中古の初期に、南都（＝奈良）の僧侶（そうりょ）たちによって用いられた。その後、一般に通用しはじめ、字体もまちまちであったが、しだいに統一された。片仮名はもともとが漢文の訓点であるため、漢文脈系統のものや注釈などに用いられた。

	活用 （かつよう）	△用言・△助動詞などが、他の語への切れ続きのうえで語形が規則的・体系的に変化すること。たとえば「読む」という語は、助動詞「ず」に付くときには「読ま」、助動詞「けり」に付くときには「読み」、ふつうに言い切るときには「読む」というように変化する。この活用のあるものは、自立語では動詞・形容詞・形容動詞、付属語では助動詞である。 ➡活用形（かつようけい）・活用語尾（かつようごび）
	活用形 （かつようけい）	△用言・△助動詞などの語形変化の形。△未然形・△連用形・△終止形・△連体形・△已然（いぜん）形（口語文法では仮定形）・△命令形の6種類がある。なお、各活用形の名称は、その活用形のもついくつかの用法のうち、おもな用法をとって名づけたものである。したがって、終止形であっても「死ぬべし」のように、終止せずに、下に助動詞などの付く場合がある。また、すべての活用語が6種類の活用形全部をもつとはかぎらず、特に助動詞では未然形や連用形や命令形などを欠く場合も多い。活用形は、古く、各活用形が独自の意味をもったと考えられるが、口語などでは命令形がその活用形としての独自の意味をもつほかは、「書かない」「書けば」のように下に他の語が付いた形で意味がとらえられるようになる。
	活用語 （かつようご）	△活用のある単語をいう。△自立語では、△動詞・△形容詞・△形容動詞、△付属語では△助動詞。
	活用語尾 （かつようごび）	△用言の活用で、形の変わる部分をいう。単に「語尾」ということもある。活用語から△語幹を除いた部分。「読む」という語では「読ま・読み・読む・読む・読め・読め」と変わる。この「ま・み・む・む・め・め」を活用語尾という。国語では、△音節を単位として語形の変化を考えるのがふつうであるから、動詞などの中には語幹と活用語尾との区別がつけられないものもある。たとえば「見る」「来（く）」など。 ↔語幹
	仮定 （かてい）	→条件法（じょうけんほう）
	仮定条件 （かていじようけん）	→条件法（じょうけんほう）
	仮名遣い （かなづかい）	仮名を用いて国語を書き表すうえの規則をいう。仮名遣いが問題とされるのは、同じ音に2種類以上の仮名の書き方があるとき、または同じ仮名に2種類以上の発音があるときである。たとえば、「顔」は「かほ（△歴史的仮名遣い）」「かお（現代仮名遣い）」の2通りがあり、「あ」は「仰（あふ）ぐ」の場合は「ア」、「桜花（あうくわ）」の場合は「オ」と発音するなどである。これらの問題が起こる原因は、表記が固定するのに対して、発音が変化するからで、前例の「顔」を「かほ」と書くのは、古くは「かお」でも「かを」でも書き表せない発音をもっていたからである。仮名遣いを表記方法によって分けたものに、鎌倉初期ごろの「△定家仮名遣い」、江戸初期、契沖（けいちゅう）の定めた「△歴史的仮名遣い」、昭和61年内閣告示「現代仮名遣い」がある。

	可能動詞 （かのうどうし）	可能の意を表す動詞。中世後期ごろに発生した。△四段活用動詞（口語では五段活用動詞）が同じ行の△下一段活用に転じて可能の意味をもつもので、「書く→書ける」、「読む→読める」の類。「これを中とは読めぬぞ」〈史記抄〉
	可能の助動詞 （かのうのじよどうし）	…できる、という意を表す助動詞。文語では「る」「らる」（口語では「れる」「られる」）にこの用法がある。「冬はいかなる所にも住まる」〈徒然・５５〉「胸のみふたがりて、物なども見入れられず」〈源・少女（をとめ）〉。上代には「ゆ」「らゆ」も用いられた。「眠（い）の寝（ね）らえぬに」〈万・１５・３７００〉。これらの助動詞は中古ごろまで打消や反語とともに用いられるのがふつうであり、肯定文の中での用法が多く見られるようになるのは中世以降である。命令形はない。なお△推量の助動詞「べし」も可能の意を表す場合がある。「羽なければ空をも飛ぶべからず」〈方丈〉
	雅文 （がぶん）	古い時代（おもに平安時代）の文章およびその文体をまねて作った文章（△擬古文）をいう。江戸時代には古代の言語を正しく風雅なものと考え、後世の言語を卑俗なもの（俗文といった）とする考え方があって、それから出た名称。➡擬古文（ぎこぶん）
	上一段活用 （かみいちだんかつよう）	動詞活用の１つ。△活用語尾が△五十音図のイ段の音と、それに「る」「れ」などが添加されるという形式をもつもの。文語ではこれに属する動詞は少なく、「着る」「似る」「煮る」「干（ひ）る」「嚏（ひ）る」「簸（ひ）る」「見る」「射る」「鋳（い）る」「沃（い）る」「居（ゐ）る」「率（ゐ）る」のほか、その複合語である「かへりみる」「おもんみる」「試みる」「ひきゐる」「用ゐる」など１０数語である。語幹と活用語尾とに分けられないものが多い。
	上二段活用 （かみにだんかつよう）	文語動詞の活用の１つ。△活用語尾が△五十音図のイ段・ウ段の音と、それに「る」「れ」などが添加されるという形式をもつもの。たとえば「起く」「過ぐ」「落つ」など。この種の活用をする動詞は、口語ではほとんど上一段になるが、「恨む」のように、五段活用をするものがある。また、「生く」「帯ぶ」などは、古く四段にも活用した。
	カリ活用 （かりかつよう）	文語形容詞の活用で「―から」「―かり」「―かる」「―かれ」（ク活用）あるいは「―しから」「―しかり」「―しかる」「―しかれ」（シク活用）の系列を、特に取り出して「カリ活用」ということがある。これらは連用形「―く」「―しく」に動詞「あり」が付いたもので、本来の形容詞の補助活用とみられ、ふつう形容詞の活用の中に含めて考えられている。
	漢語 （かんご）	中国から入ってきた外来語、およびそれにならってわが国で作った音読する漢字の熟語をいう。「客」「剣」「平和」「勇気」などの類。「銭（ぜに）」「梅（うめ）」「絵（ゑ）」なども、中国から入った語といわれているが、その伝来も古く、外来語と考えられないくらいである。漢語は名詞として用いられるものが大部分であるが、動詞…「御覧ず」「装束（さうぞ）く」・形容詞…「怠々（たいだい）し」・形容動詞…「大事なり」「堂々たり」・副詞…「突然」「切（せつ）に」などとしても用いられる。

	感嘆文 （かんたんぶん）	→感動文（かんどうぶん）
	感動詞 （かんどうし）	品詞の１つ。△自立語で△活用がなく、主語・述語・修飾語・被修飾語にもならず、接続することもない。一般に文のはじめにあって、独立語として用いられる。感嘆詞・間投詞・終止詞ともいう。文語の感動詞は意味のうえから次の３種類に分けられる。 （１）感動を表すもの…ああ・あっぱれ・あな・あはや・あはれ・あら・さても・すは　など （２）呼びかけを表すもの…いかに・いざ・いさや・いで・なう・なうなう・やよ　など （３）応答を表すもの…いな・いなや・いや　など
	間投助詞 （かんとうじょし）	種々の語に付いて、文節の終わりにあり、語勢・語調を整え、余情を添え、感動の意を表す助詞。これに属する文語の助詞は「や」「よ」「を」など。上代には、「ろ」「ゑ」なども用いられた。「少納言よ」〈枕・雪のいと高う降りたるを〉「あはれ、いと寒しや」〈源・夕顔〉「昨日今日とは思はざりしを」〈伊勢・１２５〉「よしゑやし浦はなくとも」〈万・２・１３１〉「伊香保ろに」〈万・１４・３４２８〉
	感動文 （かんどうぶん）	文を、その性質上から分類した場合の１種で、感動の意味を表すもの。文のはじめに感動詞がくることが多く、また、切れる文節に感動の意味を示す△終助詞を用いることが多い。「あはれ、いと寒しや」〈源・夕顔〉「三笠（みかさ）の山に出でし月かも」〈古今・羇旅〉➡ 文の種類（ぶんのしゅるい）・平叙文（へいじょぶん）・疑問文（ぎもんぶん）・命令文（めいれいぶん）
	願望の助動詞 （がんぼうのじょどうし）	→希望の助動詞（きぼうのじょどうし）
	刊本 （かんぽん）	一般に印刷刊行された図書をいうが、狭義には、近世およびそれ以前の木活字本、銅活字本、整版本などをいう。➡ 版本（はんぽん）
	完了の助動詞 （かんりょうのじょどうし）	動作または作用が完結している意を表す助動詞。文語では「つ」「ぬ」「たり」「り」がこれに属する。完了の助動詞を時を表すものとする説があるが、時とは区別して考えられる。動作や作用自体に重点をおいて、それが完結する意を表す。 「陣の外に引き棄てつ」〈枕・うへにさぶらふ御猫は〉「つゆ寝ずなりぬ」〈枕・しのびたる所に〉「講師（かうじ）、物、酒おこせたり」〈土佐〉「顔はいと赤く擦（す）りなして立てり」〈源・若紫〉 「つ」「ぬ」の２語の区別については諸説があって定めにくいが、自分の積極的な意志による事態に「つ」、そうでない事態に「ぬ」を用いるという説が有力である。

〔き〕	擬古文（ぎこぶん）	江戸時代から明治初年にかけて、国学者などが主として平安時代の仮名文をまねて作った文章をいう。作者は、賀茂真淵（かものまぶち）・村田春海（はるみ）・橘千蔭（たちばなちかげ）・本居宣長（もとおりのりなが）・藤井高尚（たかなお）・清水浜臣（はまおみ）らが有名である。和文または△雅文ということもある。☛ 雅文（がぶん）
	起承転結（きしようてんけつ）	漢詩の△絶句において、第１句を起句、第２句を承句、第３句を転句、第４句を結句（合句）といい、第１句はその述べるところを起こし、第２句はこれを承（う）け、第３句は変化させるために転じ、第４句は全体を結ぶというように作る。転じて、文章を作る場合などにもこの方法が応用されることがある。
	擬人法（ぎじんほう）	人でないものを人になぞらえて表現する修辞法。無生物を生きもののように考えて「風叫ぶ」「浪（なみ）怒る」や、動植物を人になぞらえて「花笑ひ、鳥歌ふ」という類。古くから用いられ、表現の効果も大きい。
	擬声語（ぎせいご）	物の音響や音声などをそのままをまねて写した語。「とんとん」「かちかち」「ばたばた」「わんわん」「かあかあ」の類。こどもが犬を「わんわん」というように、事物の名や動作は、その音や声を写したことから起こったものが多く、「かり（雁）」「ほととぎす」はその鳴き声を、「すす(啜)る」はその音を模したものといわれる。
	擬態語（ぎたいご）	事物の状態をある音によって象徴的に写した語。軍記物に多い。「信頼卿（のぶよりきよう）の上にむずと付き給ふ」〈平治〉「ほろほろと山吹散るか滝の音」〈笈の小文・芭蕉〉
	既定（きてい）	→条件法（じようけんほう）
	既定条件（きていじようけん）	→条件法（じようけんほう）
	希望の助動詞（きぼうのじよどうし）	希望を表す助動詞。願望の助動詞ともいう。文語では「まほし」「たし」（口語は「たい」）がこれに属する。「まほし」は上代に使われた「まくほし」が転じたものとされ、中古・中世に用いられた。「くはしく御有り様も奏し侍らまほしきを」〈源・桐壺〉。「たし」は中古末期に現れ、中世には「まほし」に代わって用いられるようになった。「家にありたき木は松・桜。松は五葉もよし。花はひとへなる、よし」〈徒然・１３９〉
	疑問文（ぎもんぶん）	文をその性質上から分類した場合の１種で、疑問または反語の意味を表すもの。文中に疑問・反語を表す名詞・副詞・助詞「や」「か」などが用いられ、切れる文節が「や」「か」などで終わることが多い。「雲のいづこに月やどるらむ（疑問）」〈古今・夏〉「月やあらぬ春や昔の春ならぬ（反語）」〈古今・恋５〉☛ 文の種類（ぶんのしゆるい）・平叙文（へいじよぶん）・命令文（めいれいぶん）・感動文（かんどうぶん）
	脚韻（きやくいん）	→押韻（おういん）
	逆接（ぎやくせつ）	→接続（せつぞく）

	逆態接続 （ぎやくたいせつぞく）	→接続（せつぞく）
	旧仮名遣い （きゅうかなづかい）	→歴史的仮名遣い（れきしてきかなづかい）
	校合 （きょうごう）	△写本や△刊本において、他の写本や△流布本（るふぼん）・△異本を対校（＝比べ正スコト）して正しい本文を求める作業。この作業には、諸本の相違した箇所のみを取りあげるものから、字形・行数・文字の加除に及ぶ詳細なものまである。その成果の一部または全部を示した本を「校本（こうほん）」、校訂者がもっとも原本に近いとして示す形を「定本」という。→定本（ていほん）
	去声 （きよしょう）	→四声（しせい）
〔く〕	ク活用 （くかつよう）	文語形容詞の活用の１つ。連用形の語尾が「…く」の形をとるもの。たとえば「よし」「おもしろし」「めでたし」「遠し」などがこれに属する。「〈から〉・く〈かり〉・し・き〈かる〉・けれ・〈かれ〉」（〈　〉内はこの系列から特に取り出してカリ活用とよぶこともある）と活用する。なお、未然形に「く」の形を認める説もある。→カリ活用（かりかつよう）・シク活用（しくかつよう）
	句切れ （くぎれ）	短歌を５・７・５・７・７の５句に分けて、第１句で切れる場合を「初句切れ」、第２句で切れる場合を「２句切れ」というようによぶ。２句切れ・４句切れは△五七調といい、万葉集などに多くみられ、３句切れは△七五調といい、新古今集などに多い。なお、連歌・俳諧（はいかい）でも△切れ字を用いて「句切れ」という語を使用することがある。初句切れ「悔（くや）しかも／かく知らませばあをによし国内（くぬち）ことごと見せましものを」〈万・５・８０１〉。２句切れ「わが背子はいづく行くらむ／奥つ藻の隠（なばり）の山を今日か越ゆらむ」〈万・１・４３〉。３句切れ「見渡せば花も紅葉もなかりけり／浦のとまやの秋の夕暮れ」〈新古今・秋上〉。２句切れ・４句切れ「春過ぎて夏来たるらし／白栲（しろたへ）の衣ほしたり／天の香具山」〈万・１・２８〉
	ク語法 （くごほう）	「言はく」「恋ふらく」「恋しけく」のように、語尾が「く」になって体言のように用いられる活用語の一用法。たとえば「語らく」「老ゆらく」「為（す）らく」「来（く）らく」などのように動詞に付き、「寒けく」「悲しけく」などのように形容詞に付き、「（有ら）なく」「（有り）けらく」などのように助動詞に付く。これらの用法について、従来から諸説があったが、接続がまちまちのために説明しにくかった。そこで、これを統一的に説明するために、「—aku」という語を考え、この語がそれぞれの連体形に付いてできたものであるとする、古くからの説が近年有力になった。たとえば、語らくkataru（連体形）＋aku→katar aku→kataraku　ただ、この考えには、「—aku」という語が単独で用いられた例がない点、△過去の助動詞「き」の連体形「し」に接続した場合、たとえば「言ひしく」などの「—しく」について例外として考えなければならない点など、問題がある。

	屈折語 （くつせつご）	言語の形態的分類の１つ。これを組織する単語が、主として屈折（inflexion）の形態をもっている場合で、印欧語族、ハム・セム語族の諸言語が代表例。屈折とは、ある単語がその語形の一部を変化し、これによって文中における他の語に対する文法的関係を示す方法である。➡膠着語（こうちゃくご）・孤立語（こりつご）
	句点 （くてん）	→句読点（くとうてん）
	句読点 （くとうてん）	文の切れ目に付けるくぎり符号。元来、句点「。（まる・しろまる）」読点「、（てん）」から出た名称で、ふつうには「。」と「、」をいうが、そのほか「，（コンマ）」「．（ピリオド）」「・（なか点・くろまる）」「　」（かぎ）『　』（ふたえかぎ）（　）（まるがっこ）〔　〕（かくがっこ）などを含める場合もある。句読点の古い例は中古初期の点本（漢文に訓点を付けた本）に見えるが、しだいに仮名文に用いられるようになった。
	廓詞 （くるわことば）	江戸時代、遊里で遊女などが使った遊里独特のことば。江戸時代初期に京都の島原で使いはじめられ、のち江戸吉原にも伝わり、著名となった。発生の理由は、客の貴賤（きせん）上下、出身地の違いなどから、その平等性を考慮したものと思われる。「ありんす（＝アリマス）」「わちき（＝ワタシ）」「ぬし（＝オマエサン）」など。
	訓 （くん）	→字訓（じくん）
	訓点語 （くんてんご）	漢文を訓読した言語。△訓点によって書かれているもの、漢文を読み下したものに現れている言語。漢語が多く、漢文にひかれた特殊な語法がある。会話文・引用文が△地（じ）の文と同性質で、敬語も少ない。和文に用いられない古語や独特の語彙（ごい）がある。
	訓読 （くんどく）	漢文を国語の語法に従って逐語的に訳読すること。音のまま読む漢字も、訓で読む漢字もあるが、文全体は国語の語序に従って読む。したがって、漢文と国文とでは語序が異なるので、反読（返読・倒読）が起こり、また同一の漢字を２回読む△再読とか、訓読しない置き字などということが起こる。

〔け〕	係結 （けいけつ）	→本文「係り結び（かかりむすび）」
	敬語 （けいご）	聞き手（読み手）や話の中の人物に対する敬意を表す特別の語や言い方。ふつう、話し手（書き手）が、話の中の人物に関して敬意を表す△尊敬語、動作する人を低めるなどして、その動作の相手を高める△謙譲語（または謙遜（けんそん）語）、話しぶりを丁寧にする△丁寧語の３種類に分類する。「何事をかのたまは（尊敬）む事は承ら（謙譲）ざらむ」〈竹取・貴公子たちの求婚〉「夜ふけ侍り（丁寧）ぬべし」〈源・桐壺〉 →尊敬語（そんけいご）・謙譲語（けんじょうご）・丁寧語（ていねいご）
	敬語動詞 （けいごどうし）	敬語の意味（尊敬・謙譲・丁寧）をあわせもつ動詞。 （１）尊敬語〔文語〕ます・います・たまふ・おはす・おはします・おぼす・のたまふ 〔口語〕いらっしゃる・なさる・くださる （２）謙譲語〔文語〕たまはる・うけたまはる・つかまつる・奉る・参る・まうづ・まかる・申す・聞こゆ 〔口語〕さしあげる・いただく（＝モラウ・食ウ・飲ム） （３）丁寧語〔文語〕侍り・候（さぶら）ふ 〔口語〕ございます・たべる・いただく（＝食ウ）
	形式名詞 （けいしきめいし）	△普通名詞のうち、意味のうえからいって名詞としての実質を備えず、名詞としての一般的形式しかもっていないもの。そのまま単独で用いることはなく、必ず修飾する語を必要とする。「親のため、妻子のためには恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり」〈徒然・１４２〉 ↔ 実質名詞
	係助詞 （けいじょし）	種々の語に付いて、助詞を含む文節に強意・疑問などの意味を添え、それを受ける文節に一定の制約を加える助詞。文語では「は」「も」「ぞ」「なむ」「や」「か」「こそ」がこれに属する。「は」「も」の結びは終止形であるから、他の係助詞のように形態上から結びを制約することはないが、意味上からの制約がある。「ぞ」「なむ」「や」「か」は連体形で結び、「こそ」は已然形で結ぶ。→ 本文「係り結び（かかりむすび）」
	形声 （けいせい）	△六書（りくしょ）の１つ。意味を表す漢字と、音を示す漢字とを組み合わせ、新しい意味を表すように作られた漢字をいう。たとえば△象形文字の「水」は、「みず」という広い意味をもつが、その意味を限定して水に関係するある事物を示すために、「水（＝氵）」に、それぞれ別個の音を示す漢字をそえて別の漢字をつくる。「汁（じふ）」は「十（じふ）」が音を表し「しる」の意。「汗（かん）」は「干（かん）」が音を表し、皮膚から出る水「あせ」の意。「諧声（かいせい）」ともいう。 → 六書（りくしょ）

	敬体 （けいたい）	口語の文体を、おもに指定（断定）の表現に現れる特徴から、常体（―だ体・―である体）・敬体（―です体・―でございます体・―であります体）の２つに分けることがある。敬体は、特に丁寧語を用いた口語の文体で、動詞には「ます」が付くのがふつうである。一般に、話しことばには敬体が多く、書きことばには常体が多い。
	形容詞 （けいようし）	品詞の１つ。△自立語で△活用があり、言い切りの形の語尾が、文語では「し」、口語では「い」になる△用言。物事の性質・状態を表す。活用の種類としては、ク活用（から・くかり・し・きかる・けれ・かれ）・シク活用（しから・しく／しかり・し・しき／しかる・しけれ・しかれ）の２つがある。形容詞の語幹（シク活用は終止形）は「あなおもしろ」のように、単独で用いられ、また「あやしのわざ」のように、助詞「の」を伴って用いられることがある。上代には、語幹（シク活用は終止形）に「み」をつけて、原因・理由を表す用法がある。「都を遠み（＝都ガ遠イノデ）」〈万・１・５１〉「君を愛（うつく）しみ（＝君ガナツカシイノデ）」〈万・４・５６９〉。また、下に「さ」「み」「け」「げ」などを伴って名詞となる場合がある。「暑さに乱れたまへる御有り様を」〈源・帚木（ははきぎ）〉。なお、上代には未然形・已然形に「―け」「―しけ」という形があった。「明けむあしたに消（け）なば惜しけむ」〈万・８・１６５０〉「奈良の大路（おほち）は行きよけど」〈万・１５・３７５０〉。日本語の形容詞は「海青し」のように、それだけで述語になれるという特徴がある。
	形容詞型活用の助動詞 （けいようしがたかつようのじよどうし）	活用のしかたが形容詞に準じる助動詞。文語では、①ク活用型…たし・べし・ごとし　②シク活用型…まほし・まじ（上代は、ましじ・らし）がこれに属する。ただし、活用形は形容詞とまったく同じというのではなく、その活用形のいくつかを欠いているものがある。
	形容動詞 （けいようどうし）	品詞の１つ。△自立語で△活用があり、言い切りの形の語尾が、文語では「なり」「たり」、口語では「だ」となる△用言。物事の性質・状態を表す。文語では、ナリ活用（なら・なりに・なり・なる・なれ・なれ）・タリ活用（たら・たりと・たり・たる・たれ・たれ）の２種類がある。 元来、形容動詞は「静かにあり→静かなり」「堂々とあり→堂々たり」のように、連用形の１つの形としている「―に」「―と」に動詞「あり」が付いたもので、「静かに」「堂々と」だけでは種々の意味（たとえば、打消・推量など）を表すことができないので、「あり」を付けて動詞のように働かせようとしたものである。なお、△タリ活用の語幹は漢語が多い。 形容動詞の語幹は「波静か」のように単独で用いられる。また、下に助詞「の」を伴って用いられることがある。「あはれの鳥と言はぬ時なし」〈万・１８・４１１３〉。接尾語「さ」を伴って名詞ともなる。「しづかさや岩にしみ入る蝉（せみ）の声」〈おくのほそ道・立石寺・芭蕉〉 形容動詞は活用のしかたが動詞に近く、状態性の意味を表し、連用形が副詞法になることが形容詞に近いという、動詞と形容詞との中間の性格の語である。

	形容動詞型活用の助動詞 （けいようどうしがたかつようのじょどうし）	活用のしかたが△形容動詞に準じる助動詞。文語では①ナリ活用型…なり（＝断定）・べらなり　②タリ活用型…たり（＝断定）がこれに属する。
	謙譲語 （けんじょうご）	△敬語の１種。動作する人に関することを謙遜（けんそん）していうことによって、動作を受ける人への敬意を表す言い方。謙遜語とも。文語では、 （１）接頭語…拝―（読）・愚―（見） （２）代名詞…まろ・わらは （３）動詞…聞こゆ（＝申シアゲル）・承る（＝ウカガウ）・奉る（＝サシアゲル）・賜る（＝イタダク）・申す（＝申シアゲル）・まかづ（＝退出スル）・参る・まうづ（＝参上スル・ウカガウ）・候（さぶら）ふ（＝伺候スル） （４）△補助動詞…聞こゆ・奉る・申す・給ふ（下二段活用）・まつる・参らす　など。 なお、文語動詞では、ただ、動作を受ける人への敬意を表すために使われることが多い。
	謙遜語 （けんそんご）	→謙譲語（けんじょうご）
〔こ〕	語彙 （ごい）	ある範囲の単語の集まりを総体的にさしていう。集まりを形づくる個々の単語を直接的にさすのではない。アイヌ語の語彙といえば、アイヌ語に用いられる単語の総体をさし、近松の語彙といえば、近松の作品に現れた単語の総体をさす。したがって「『夕波千鳥』は柿本人麻呂の語彙である」などというのは適当ではない。
	口語 （こうご）	もともとのことばの意味では話しことばをいい、現代語の話しことばと、それにもとづく書きことば（＝口語文）とを合わせてもいう。 ↔ 文語
	合成語 （ごうせいご）	→複合語（ふくごうご）
	膠着語 （こうちゃくご）	言語の形態的分類の１つ。これを組織する単語が、主として膠着（agglutination）の形態をもっているもので、日本語・トルコ語、その他ウラルアルタイ語族の諸言語がそれであるといわれる。膠着とは、単語の前後に、意味があっても独立しない辞を連結してその単語の意味を修飾したり、文中の他の単語に対する文法的関係を示したりする方法である。➡ 屈折語（くっせつご）・孤立語（こりつご）

	呼応 （こおう）	１つの文の中で、前にくるある特定の語によって、これを受ける語が一定の言い方をする現象。副詞の呼応をさしていうことが多い。すなわち△叙述の副詞が前に来るときは、それに応じる語があとに要求される。 （１）打消の語を要求するもの…決して・絶えて・いさ・つゆ・え。「人はいさ心も知らず」〈古今・春上〉 （２）禁止の語を要求するもの…ゆめ・断じて・決して。「ゆめ心おきたまふな」〈源・若菜下〉 （３）「べし」を要求するもの…すべからく・まさに。「すべからくまづその心づかひを修行すべし（＝当然）」〈徒然・２１７〉 ほかに願望・比況・推量・仮定の語を要求するものなどがある。なお、呼応に係り結びの関係を含める場合もある。 ➡　叙述の副詞（じょじゅつのふくし）
	古活字本 （こかつじぼん）	文禄２（１５９３）年以降、慶安（１６４８〜１６５２）年間ごろまでに、活字で印刷刊行された書物をいう。慶長勅版・伏見版・嵯峨本（さがぼん）などが有名であるが、広く民間でも行われていた。銅活字本は少なく、ほとんどが木活字本。江戸時代末期の木活字本に対する語。
	語幹 （ごかん）	△活用語で、活用語尾を除いた、形の変化しない部分をいう。たとえば「読む」の「読（よ）」、「高し」の「高（たか）」、「静かなり」の「静か」など。また「見る」「得（う）」「来（く）」「す」などのように語全体が変化するため、活用語尾との区別ができないものもある。↔　語尾
	語根 （ごこん）	語構成要素の１つで、それだけでは単独に用いられない、また、これ以上分解することのできない単語の基本的意味をもつもの。「ほのめく」「ほのかに」「ほの暗い」「ほのぼの」の「ほの」、「しづかに」「しづ心」「しづしづ」の「しづ」など。 語根は、「ほのめく」のように△接辞と合したり、「ほのぼの」のように、それ自身重なったり、「ほのぐらし」のように他の単語と合したりして単語を作る。語根と接頭語を比較すると、接頭語がそれの付く語に単に付属的な意味を加えるのに対して、語根は、それの付く語の中心となる意味を表しているところが異なる。

	五七調 （ごしちちょう）	わが国の詩歌は、５音・７音を音数律の基本単位として、その反復・配列によって構成されることが多い。五七調は、上５音、下７音の結合から成る調子で、上軽く、下重く、そのために安定感があって、典雅・荘重なリズムを形成する。古く万葉集の長歌に多く見られたが、古今集を経て新古今集の時代になると、△七五調が盛んとなり、五七調は衰えた。長歌の場合は５音・７音の反復でそのまま五七調であるが、短歌では△２句切れや４句切れになる場合を五七調とよぶ。五七調は和歌以外の詩歌にも用いられ、特に明治以後は詩のスタイルの一体として用いられている。
	五十音図 （ごじゅうおんず）	仮名を、縦の行（ぎょう）に△子音、横の列に△母音をそろえて配列した図をいう。 わ ら や ま は な た さ か あ ゐ り い み ひ に ち し き い う る ゆ む ふ ぬ つ す く う ゑ れ え め へ ね て せ け え を ろ よ も ほ の と そ こ お 縦の行は、それぞれ最初のかなによって、ア行・カ行などとよび、横の列は、ア段・イ段などとよぶ。五十音図は国語の音節のすべてを示しているものではない。たとえば、△濁音・△半濁音・△拗（よう）音・△促（そく）音・△撥（はつ）音などがない。しかし、代表的な音節はほぼ集められており、しかもその配列が音節相互の関係を明らかにしているので、古くから音の転換・変化、語源の解釈、仮名遣い、△活用などに用いられている。現在では、仮名の字母表としても用いられ、「いろは」やアルファベットの代わりに、辞書・索引・名簿などにおける見出し語の配列の基準として使われている。 なお、この図の起源については諸説があるが、中古中期ごろにはすでに成立していたと考えられる。ただ古くは配列の順序が今と違っているものがあるなどさまざまであり一定しない。
	詞書 （ことばがき）	➞本文「ことばがき」
	語尾 （ごび）	➞活用語尾（かつようごび）
	固有名詞 （こゆうめいし）	△名詞のうちで、ある１つの事物に限って用いられるもの。人名、地名、書名などがそれである。たとえば、「芭蕉（ばしょう）」「奈良」「万葉集」。これには、「東京駅」「京都市長」のように複合したものもある。

	孤立語 （こりつご）	言語の形態的分類の１つ。これを組織する単語が、主として孤立（isolation）の形で文を構成する習慣があるもので、古代中国語がその例としてあげられる。孤立とは、単語が連なって文を構成するとき、各単語が語尾変化とかその他文法的関係を示す変化をまったくもたないで連結される形態をいう。
〔さ〕	最高敬語 （さいこうけいご）	平安時代に、帝（みかど）や后（きさき）に対する尊敬語として、「たまふ」に尊敬の助動詞「す」「さす」「しむ」を併せた「せたまふ」「させたまふ」「しめたまふ」を用いることが多いので、これを他の場合と区別して最高敬語といっている。このほか、尊敬語の「おはします」「のたまはす」「御覧ぜらる」、謙譲語の「奏す」「啓す」「きこえさす」などもあり、これらも含めていう場合もある。
	再読 （さいどく）	漢文の訓読において、同じ字を2回読むこと。たとえば、「将」は「まさに…す」、「宜」は「よろしく…べし」、「須」は「すべからく…べし」、「当」は「まさに…べし」、「猶」は「なほ…ごとし」、「未」は「いまだ…ず」など。これらは国文法にいう△叙述（陳述）の副詞の、呼応という語法である。
	サ行変格活用 （さぎようへんかくかつよう）	動詞活用の１つ。略してサ変という。活用は（せ・し・す・する・すれ・せよ）。このように活用する動詞は「す」と「おはす」の2語（口語では「する」だけ）である。ただし「す」は他のいろいろな語と合して多くの複合動詞をつくる。 ➡ サ変複合動詞（さへんふくごうどうし） 参考 「おはす」は、四段活用と下二段活用との両様の活用があったとして、サ行変格活用と見ない説もあるが、その根拠となる用例については問題があり、サ変と見るのが妥当であろう。
	サ変複合動詞 （さへんふくごうどうし）	サ行変格活用動詞（文語では「す」、口語では「する」）が、国語の名詞・漢語、その他に付いて、複合動詞となったもの。サ変動詞の「す」だけでは動作を漠然と表すだけであるから、その上に実質を示す語を添えたもので、その数は非常に多い。一例を示すと、 （１）国語の名詞と複合したもの…旅す・やどりす・もみぢす・かうぶりす・心す （２）漢語名詞と複合したもの…奏す・命ず・嘆ず・読経（どきやう）す・保存す （３）形容詞の音便形と複合したもの…全うす・久しうす・かたじけなうす （４）形容動詞と複合したもの…新たにす・専（もつぱ）らにす （５）形容詞の語幹に「み」の付いた名詞と複合したもの…甘んず（甘みす）・安んず（安みす）
	三句切れ （さんくぎれ）	➝句切れ（くぎれ）

<table>
<tr><td>〔し〕</td><td>子音
（しいん）</td><td>△母音に対する名称で、気息の通る路（みち）を、一時閉鎖するか、または狭まりをつくることによって生じる音。子音は、発音される場所によって唇内音・舌内音・喉内（こうない）音の3種に分けられ、発音される方法によって破裂音・摩擦音・破擦音・鼻音・流音の5種に分けられる。なお、声帯の振動によって発音するものを有声音、振動によらないで発音するものを無声音というが、これらを総合して、国語にふつう用いられる子音を表にすると次のようになる。↔母音（ぼいん）
<table>
<tr><th></th><th></th><th>唇内音</th><th>舌内音</th><th>喉内音</th></tr>
<tr><td rowspan="2">破裂音</td><td>無声音</td><td>p</td><td>t</td><td>k</td></tr>
<tr><td>有声音</td><td>b</td><td>d</td><td>ɡ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">摩擦音</td><td>無声音</td><td>F</td><td>s ʃ</td><td>h</td></tr>
<tr><td>有声音</td><td>w</td><td>z ʒ j</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">破擦音</td><td>無声音</td><td></td><td>ts tʃ</td><td></td></tr>
<tr><td>有声音</td><td></td><td>dz dʒ</td><td></td></tr>
<tr><td>鼻音</td><td>有声音</td><td>m</td><td>n</td><td>ŋ N</td></tr>
<tr><td>流音</td><td>有声音</td><td></td><td>r</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td></td><td>使役の助動詞
（しえきのじよどうし）</td><td>他に動作・作用をさせるという意味を表す助動詞。文語では、「す」「さす」「しむ」がこれに属する。「夜ごとに人をすゑて守らせければ」〈伊勢・５〉「名を三室戸（みむろど）斎部（いむべ）の秋田を呼びてつけさす」〈竹取・かぐや姫の生ひ立ち〉「生（しやう）を苦しめて目を喜ばしむるは、桀（けつ）・肘（ちう）が心なり」〈徒然・１２１〉
なお、「す」「さす」「しむ」が尊敬の意を表すことがあるが、その場合は常に「給ふ」「おはします」「らる」などの尊敬を表す語とともに用いられるときで、単独の場合は必ず使役の意である。</td></tr>
<tr><td></td><td>字音
（じおん）</td><td>単に、音（おん）ともいう。中国から伝わった発音に従った漢字の読み方で、呉音（ごおん）・漢音・唐音（または宋音（そうおん））の順に渡来。
（１）呉音…行（ぎやう）・京（きやう）・清（しやう）・和（わ）・火（くわ）
中国南方の呉地方の発音。わが国に最初に入った音で、上代に用いられた。仏教関係の語などに多い。
（２）漢音…行（かう）・京（けい）・清（せい）・和（くわ）・火（くわ）
隋（ずい）・唐（とう）の音をいう。上代以後、正音として伝えられ、漢文や仏典を読む場合に主として用いられた。
（３）唐音（宋音）…行（あん）・京（きん）・清（しん）・和（を）・火（こ）
中古中期以後、近世にかけて、宋・明（みん）・清（しん）の音が中国の商人や、中国より帰国した留学僧（特に禅宗関係）によって伝えられた。</td></tr>
</table>

	字音仮名遣い（じおんかなづかい）	漢字の字音を仮名で表記する場合のきまり。△歴史的仮名遣いの立場では「公(こう)・甲(かふ)・好(かう)・光(くわう)」「東(とう)・答(たふ)・唐(たう)」と書き、現代的仮名遣いの立場では、それぞれ「こう」「とう」と書き表す。今日は現代仮名遣いによる字音仮名遣いが行われている。
	シク活用（しくかつよう）	文語形容詞の活用の１つ。連用形の語尾が「…しく」の形をとるもの。「うつくし」「恋し」などがこれに属する。「〈しから〉・しく〈しかり〉・し・しき〈しかる〉・しけれ・〈しかれ〉」（〈　〉内はこの系列から特に取り出してカリ活用とよぶこともある）と活用する。なお、未然形に「しく」の形を認める説もある。 ➡カリ活用（かりかつよう）・ク活用（くかつよう）
	字訓（じくん）	単に、訓（くん）ともいう。漢字に対する国語の訳語が、その漢字の読み方として固定したもの。たとえば「中」を「なか」「うち」「あたる」、「国」を「くに」と読む類。
	自己敬語（じこけいご）	自敬表現ともいう。自分の動作・事柄・所有に尊敬語を用いること。実際に高貴の人は自分に尊敬語を用いたものであるともいい、また高貴の人のことばを、伝え手や作者の立場から、尊敬語に言い換えたものであるともいう。 「〔大葉子（おおばこ）が自ら詠んだ歌〕大葉子は領巾（ひれ）振らすも」〈欽明紀〉「〔帝（みかど）が、自身の動作を〕顔かたちよしときこしめして、御使ひをたびしかど」〈竹取・御門の求婚〉「〔後白河法皇が、自身の動作を〕御行水をめさばやとおぼしめすはいかがせんずる」〈平家・３・法皇被流〉
	指事（しじ）	△六書（りくしょ）の１つ。象形文字のように、絵画的にその形を表せない事柄を、点または線などを用いたり、象形文字のある部分に符号を付けたりして示すもの。たとえば、「一・二・三」は、線によってその数を表す。「上」は、線の上に点を打って、ある物または基準の上に物があることを示す。「本」は、象形文字と組み合って、「木」の下にしるしを付けて、木の根もとの意を表す。➡六書（りくしょ）
	四声（しせい）	漢字音の高低法。平声（ひょうしょう）・上声（じょうしょう）・去声（きょしょう）・入声（にっしょう）の４種。平声を除いた他の３声を仄声（そくせい）という。平声は平らな調子、上声ははじめが低く語尾が高くなる調子、去声ははじめが高く語尾が低くなる調子、入声はｐ・ｔ・ｋの△子音などで終わる急な調子。平声と仄声を合わせて平仄（ひょうそく）という。
	七五調（しちごちょう）	わが国の詩歌は、５音・７音を音数律の基本単位として、その反復・配列によって構成されることが多い。七五調は、上７音、下５音の結合から成る調子で、上重く、下軽く、そのために不安定な感じがある反面、軽妙流暢（りゅうちょう）なリズムを形成する。和歌においては、古今集から多くなり、新古今集において最も多く用いられた。短歌における七五調とは、△３句切れになる場合をいう。なお、七五調は和歌以外の種々の歌謡、散文の△道行（みちゆき）文などにも用いられ、明治以後は詩のスタイルの一体として広く盛んに用いられている。

	実質名詞 （じつしつめいし）	△普通名詞のうち、具体的にしても抽象的にしても、一定の実質概念のある名詞をいう。たとえば「ことすでに重畳（ちょうでふ）せり（＝事件ガスデニ重ナッテイル）」〈平家・１・殿上闇討〉は、実質を備えているので実質名詞である。これに対して、「ただ今の一念、むなしく過ぐること（＝過ギテ行クコト）を惜しむべし」〈徒然・１０８〉は、実質を備えていないので形式名詞とする。↔ 形式名詞
	指定の助動詞 （していのじよどうし）	→断定の助動詞（だんていのじよどうし）
	自動詞 （じどうし）	動作や作用をそれ自身だけのはたらきとして表す動詞。「水流る（ラ下二）」「湯沸く（カ四）」などで、「水を流す（サ四）」「湯を沸かす（サ四）」のように、一般に「…を…する」という形をとる他動詞と区別される。しかし、自動詞にも他動詞のように「…を」という言い方をする場合もある。「音（ね）を泣く」「寝（い）を寝（ぬ）」。古く、日本語の自動詞は、その動詞の表す事態が当事者と何のかかわりもなく起きたことを述べる場合に用いたとされ、西欧語の自動詞とはその用法が違っていたとされる。↔ 他動詞
	地の文 （じのぶん）	物語・小説などで、会話でない叙述の部分の文章をいう。ふつう、書きことばがおもに用いられるところから、会話文とは語彙（ごい）・語法が異なることが多いが、平安時代の仮名文学では、会話文と地の文とで語彙・語法の差が少ない。そのため、この時代は言文一致の時代ともいわれる。
	自発の助動詞 （じはつのじよどうし）	動作・作用が自然に起こる意を表す助動詞。文語では「る」「らる」（口語では「れる」「られる」）に、この用法がある。上代には「ゆ」も用いられた。「京思ひいでらる」〈源・総角（あげまき）〉「筆を執れば物書かれ」〈徒然・１５７〉「都の手ぶり忘らえにけり」〈万・５・８８４〉「瓜（うり）食（は）めば子ども思ほゆ栗（くり）食めばまして偲（しぬ）はゆ」〈万・５・８０６〉＝自然可能の助動詞。
	下一段活用 （しもいちだんかつよう）	動詞の活用の１つ。△活用語尾が△五十音図のうち「エ」段一段に変化するもの。これに属する動詞は、口語では「得（え）る」「聞こえる」「受ける」など多いが、文語では「蹴（け）る」１語である。「蹴る」は上代にはワ行下二段に活用したようである。「蹴散、これをくゑはららかすと云（い）ふ」〈神代紀〉
	下二段活用 （しもにだんかつよう）	文語動詞の活用の１つ。△活用語尾が△五十音図の「ウ」「エ」二段に変化するもの。「得（う）」「投ぐ」「出（い）づ」「述ぶ」「流る」「聞こゆ」「植う」など。これらは、口語ではすべて下一段活用になる。また、下二段に活用する語で、古く△四段活用であったものがある。「隠る」「恐る」「忘る」「乱る」「埋（うづ）む」「分く」など。
	写本 （しやほん）	筆写された本。写本には著者の「自筆本」と、それを転写した「転写本」とがあり、転写本には、さらに文字を写しただけの「謄写本」と、筆跡まで模した「模写本」とがある。また、模写本は、原本を傍らに置いてこれを模した「臨模本」と、薄く透明な紙をのせてなぞった「影写本」とに分かれる。わが国の写本は、古く仏書・漢籍の筆写に始まり、しだいに史書・歌集・物語などに及んだ。

	終止形 （しゅうしけい）	△活用形の１つ。文の終止に使われる。文語では文を終止するほか、「らむ」「めり」「べし」などの助動詞や、「とも」「や」「な」などの助詞に連なる用法がある。「しづ心なく花の散るらむ」〈古今・春下〉「今更に山へ帰るなほととぎす」〈古今・夏〉。活用形のうち、いちばんもとになる形と考えられて、「基本形」「基本の形」ともいわれる。
	終止法 （しゅうしほう）	単語が言い切りの用法に立つことをいう。この場合、品詞や語形に一定の制約がある。常に終止法に立つ品詞は、感動詞と終助詞だが、△体言・形容詞、形容動詞の語幹もこの用法に立つことがある。「風かよふ寝ざめの袖（そで）の花の香にかをる枕（まくら）の春の夜の夢」〈新古今・春下〉「あな、きよら」〈源・柏木（かしはぎ）〉。△活用語では終止形・命令形がこの用法をもっているが、係り結びの関係から連体形・已然形がこの用法に立つこともある。
	修飾語 （しゅうしょくご）	他の文節に連なって、その意味をくわしく限定する文節。△用言を修飾するものを連用修飾語、△体言を修飾するものを連体修飾語という。「蓑虫（みのむし）いとあはれなり」〈枕・虫は〉「花ぞむかしの香に匂（にほ）ひける」〈古今・春上〉➡被修飾語（ひしゅうしょくご）
	終助詞 （しゅうじょし）	文末にあって種々の語に付いて、疑問・反語・禁止・詠嘆・感動・命令・願望・強意などの意を表し、文を終止させる助詞。これに属する助詞は、「か」「かな」「が」「がな」「かし」「なむ」「ばや」など。ほかに、「かも」「がも」「な」「ね」「に」「こそ」などがあるが、これらは上代に多く用いられた。「心知れらむ人に見せばや」〈後撰・春下〉「はや言へかし」〈土佐〉➡助詞（じょし）
	重箱読み （じゅうばこよみ）	漢字の熟語・複合語で、たとえば「重箱（じゅうばこ）」（食物などを入れる重ね箱）のように、上部を△音で読み、下部を△訓で読む読み方。「合羽（かっぱ）」も同様なので「合羽読み」ともいう。そのほか「縁組（えんぐみ）」「頭取（とうどり）」「王手（おうて）」なども、この読み方。➡湯桶読み（ゆとうよみ）
	重文 （じゅうぶん）	△主語・△述語の関係を基準として考えた文の構造の１つ。１つの文において、対等の主語・述語の関係が２つ以上成り立っているものをいう。 山（主）　紫にして（述）　―対―　水（主）　明らかなり（述） 山・紫にして＝対、水・明らかなり＝対、両者が対
	熟語 （じゅくご）	△複合語の１種。２つ以上の単語が結合して、ある固定した意味を表す語。「春風」「落ち葉」「嬉（うれし）涙」「足弱（あしよわ）」など。➡複合語（ふくごうご）

	主語 （しゅご）	文の成分の１つ。「何がどうする」「何がどんなである」「何が何である」などの文で、「何が」に相当する△文節。主語は述語に呼応し、述語の前に位置するのが原則であるが、省略される場合が多い。主語を構成する文節は、だいたい次のようなものから成り立っている。①△体言、または体言に助詞の付いたもの。「風吹き、雨さへ降りぬ」②用言・活用連語の連体形、またはそれに助詞の付いたもの。「雁（かり）などのつらねたるが、いとちひさく見ゆるはいとをかし」〈枕・春はあけぼの〉③対等の語を並列したり、助詞・接続詞で結合させたりしたもの。「人は、かたち・ありさまのすぐれたらんこそ、あらまほしかるべけれ」〈徒然・１〉。日本語では主語が不可欠の要素でもないということ、他の修飾語との用法上の区別がつけにくいということなどから、修飾語の１種であるとする説もある。↔ 述語
	述語 （じゅつご）	文の成分の１つ。「何がどうする」「何がどんなである」「何が何である」などの文で、「どうする」「どんなである」「何である」に相当する△文節。述語は日本語では文末に位置し、文の内容を統合する。述語を構成する文節は、次のようなものから成り立っている。①△用言・活用連語、またはそれに助動詞の付いたもの。「風吹き、雨さへ降りぬ」②△体言、または体言に助詞の付いたもの。「火もとは、樋口富（ひぐちとみ）の小路とかや」〈方丈〉③用言・活用連語に補助用言の付いたもの。「宝を費やし、心を悩ますことは、すぐれてあぢきなくぞ侍る」〈方丈〉④対等の語の重なったもの。「綾（あや）も物の色も珍らかに清らなり」↔ 主語
	順接 （じゅんせつ）	→接続（せつぞく）
	準体言 （じゅんたいげん）	活用語の連体形が、活用語としての意味・性質をもちながら、一方では△体言の資格をもって扱われるものをいう。「愛憐（あいれん）の情うすきに似たり」の「うすき」、「過ぎたるは及ばざるが如（ごと）し」の「過ぎたる」「及ばざる」など。山田孝雄氏の説。
	準体助詞 （じゅんたいじょし）	「これは私のです」「新しいのがよい」の「の」のように、それ自身としては断続の意味をもたず、種々の語に付いて体言と同じはたらきをする助詞。文語では「の」「が」など。「前（さき）の守（かみ）今の（＝今ノ守）も」〈土佐〉「この歌はある人のいはく大伴（おほともの）黒主が（＝大伴黒主ノ歌）なり」〈古今・雑上〉 参考　準体助詞は、橋本進吉氏の説く助詞の１つ。格助詞として取り扱う説もある。
	順態接続 （じゅんたいせつぞく）	→接続（せつぞく）

	序 （じょ）	（1）書物などの初めに記す文で、「はしがき」ともいう。著作に至った由来などを書く場合が多い。古今和歌集には、仮名序と真名序とがある。↔ 跋（ばつ） （2）「序詞」を「序」ということがある。☛ 序詞（じょし）
	象形 （しょうけい）	△六書（りくしょ）の1つ。物の形をかたどったもので、漢字の原型をしのばせる文字である。日・月・山・木・人・口・馬・魚・弓・刀・門・戸など。☛ 六書（りくしょ）
	条件法 （じょうけんほう）	前に述べた事柄が、あとに述べた事柄の条件になっている場合の用法で、次の3種がある。 （1）仮定条件…ある事柄を仮定した表現法 ①順接…「もし…なら」の形。文語では接続詞「さらば」「しからば」を用い、また、△活用語の未然形に接続助詞「ば」を付ける。 ②逆接…「もし…ても」の形。文語では接続詞「さりとて」を用い、また、動詞の終止形・形容詞の連用形に「と」「とも」を付ける。 （2）確定（既定）条件…ある事柄が既に成り立ったものとしての表現法 ①順接…「…なので」の形。文語では接続詞「されば」「しかれば」などを用い、また、△活用語の已然形に接続助詞「ば」を付ける。 ②逆接…「…だけれど」の形。文語では接続詞「さりながら」「さるに」「しかれども」などを用い、また、活用語の已然形に接続助詞「ど」「ども」を付ける。 （3）一般（恒常）条件…ある事柄がある場合には、いつもきまって同じ結果を生じるとしての表現法 ①順接…「であればいつも…（だ）」の形。活用語の已然形に接続助詞「ば」を付ける。 ②逆接…「…であってもいつも…（だ）」の形。活用語の已然形に接続助詞「ど」「ども」を付ける。☛ 接続（せつぞく）
	畳語 （じょうご）	△複合語の1種。同一の語を重ねてつくった語。「ほのぼの」「われわれ」「重ね重ね」「人々」など。また、広義には同じような意味を重ねた語をいうこともある。「広大」「展開」「狭隘（きょうあい）」など。
	上声 （じょうしょう）	→四声（しせい）
	常体 （じょうたい）	→敬体（けいたい）
	状態の副詞 （じょうたいのふくし）	△副詞の1種。主として動詞を修飾して、その動作・作用の状態をくわしく定める副詞。「大蛍ゆらりゆらりと通りけり」〈おらが春・一茶〉「つれづれと降り暮らして」〈源・帚木（ははきぎ）〉。また、状態の副詞の中には、下に助詞「の」を伴って体言を修飾するものがある。「しばしの程」「すべての国々」「わざとの使ひ」＝情態の副詞。

	初句切れ （しょくぎれ）	→句切れ（くぎれ）
	序詞 （じょことば）	→序詞（じょし）
	助詞 （じょし）	品詞の１つ。△付属語で△活用がないもの。 （１）△自立語（または自立語に助動詞の付いたもの）に付いて、その語と他の語との関係を示すはたらきをする。「梅が枝（え）」「夏の夜」（連体修飾） （２）その語に一定の意味を添えるはたらきをする。「風さへ吹き出（い）でたり」（添加） 助詞は、どういう語に付き、どういう語にかかっていくかという基準に従って、次の６種類に分けられることが多い。 （１）格助詞　（２）接続助詞　（３）係助詞　（４）副助詞 （５）終助詞　（６）間投助詞　→　各項参照 これらのうち、係助詞と副助詞とを合わせて副助詞、終助詞と間投助詞とを合わせて終助詞とし、全部で４種類とすることもあり、また、これらのほかに、△並列助詞、△準体助詞などを立てる説もある。＝テニヲハ・助辞。
	助字 （じょじ）	漢文で、文末に用いる「也」「焉」「哉」「乎」「歟」、格を示す前置の「於」「于」、代名詞的な後置の「之」「者」、接続を示す「而」「以」、動詞の相に関する「令」「使」「被」などをいう。これらは、漢文訓読の場合、国語の助詞・助動詞に当たるもので、そのうちには国語にあてて読む習慣がないものもあって、それを「置き字」とよぶことがある。
	叙述の副詞 （じょじゅつのふくし）	△副詞の１種。修飾される △用言の叙述のしかたを限定して、これに一定の言い方を要求する副詞。この叙述の副詞を受けて一定の言い方で結ぶ関係を「副詞の呼応」という。＝陳述（ちんじゅつ）の副詞・呼応の副詞。 (１)打消の語を要求するもの…いさ・つゆ・必ずしも・え・つやつや (２)禁止の語を要求するもの…ゆめ・断じて (３)願望の語を要求するもの…なにとぞ・ひとへに・いかで (４)比況の語を要求するもの…あたかも・さながら (５)推量の語を要求するもの…恐らく(は)・けだし・いかばかり (６)打消推量の語を要求するもの…よも・をさをさ (７)仮定の語を要求するもの…もし・たとひ・よし（や）・かりに (８)断定・肯定の語を要求するもの…正に・実に (９)疑問・反語の語を要求するもの…いかで（か）・など（か）・豈（あに）・いづくんぞ (10)「べし（当然・適当・命令）」を要求するもの…すべからく・宜（よろ）しく・当（まさ）に
	助数詞 （じょすうし）	接尾語の１種。数を表す語に添えて、その数量や順序を示すもの。「一本」「三冊」「五号」。→ 数詞（すうし）

	助動詞 （じょどうし）	品詞の１つ。△付属語で△活用のあるもの。それ自身では△文節を作らず、△自立語に付いて、種々の意味を添えてその叙述を助ける。「散らむ」「咲きけり」「我も人なり」 助動詞の分類については、(１)接続による分類　(２)活用による分類　(３)意味による分類　の3方面から考えられる。 (１)接続による分類 ①△用言または助動詞に付くもの (ア)未然形に付くもの…す・さす・しむ・る・らる・ず・む・むず・じ・まほし・まし・り（サ変のみ） (イ)連用形に付くもの…き・けり・つ・ぬ・たり(完了)・たし・けむ (ウ)終止形に付くもの…べし・まじ・らむ・めり・らし・なり（伝聞）（以上、ラ変・形容詞・形容動詞以外に） (エ)連体形に付くもの…べし・まじ・らむ・めり・らし（以上、ラ変・形容詞・形容動詞に）・なり（断定）・ごとし (オ)已然形に付くもの…り（四段のみ） ②△体言その他に付くもの 体言に付くもの…なり・たり（断定） 助詞に付くもの…ごとし (２)活用による分類 ①動詞型 (ア)四段型…む・けむ・らむ・す（尊敬）・ふ（継続） (イ)下二段型…す・さす・しむ・る・らる・つ (ウ)ラ変型…たり(完了)・り・けり・めり・なり（伝聞） (エ)サ変型…むず (オ)ナ変型…ぬ ②形容詞型 (ア)ク活型…たし・べし・ごとし (イ)シク活型…まほし・まじ ③形容動詞型…なり（断定）・たり（断定） ④特殊型…ず・まし・き・らし・じ（「らし」「じ」を無変化型とする説もある） (３)意味による分類 ①使役…す・さす・しむ ②受身…る・らる ③可能…る・らる ④自発…る・らる ⑤尊敬…る・らる・す・さす・しむ ⑥打消…ず・じ・まじ ⑦推量…む・むず・けむ・らむ・らし・べし・まじ・じ・まし・めり ⑧過去…き・けり ⑨完了…つ・ぬ・たり・り ⑩希望…たし・まほし ⑪断定…なり・たり ⑫比況…ごとし ⑬伝聞・推定…なり

	自立語 （じりつご）	それみずからで１つの△文節になることができる単語をいう。自立語で△活用のあるものに動詞・形容詞・形容動詞があり、活用のないものに名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞がある。↔付属語
〔す〕	推定の助動詞 （すいていのじょどうし）	△推量の助動詞の１つ。あるよりどころによってかなりの確実性を認めつつ推量する意味を表す。文語では「らし」がこれに属する。「この川にもみぢ葉流る奥山の雪げの水ぞ今まさるらし」〈古今・冬〉の「この川にもみぢ葉流る」が推定のよりどころを示している。このように「らし」はその推定のよりどころが文中に示されることが多い。終止形に接続する「なり」にも推定の意がある。 ➡ 伝聞推定の助動詞（でんぶんすいていのじょどうし）
	推量の助動詞 （すいりょうのじょどうし）	推量の意を表す助動詞。文語では推量の助動詞が分化・発達していて多様性に富んでいる。 （１）む…（ふつうの推量）「夕べには朝（あした）あらむことを思ひ」〈徒然・９２〉 （２）むず…（ふつうの推量）「遠き御守りでこそ候はむずれ」〈平家・７・忠度都落〉 （３）らむ…（現在の推量）「六条わたりにも、いかに思ひ乱れ給ふらむ」〈源・夕顔〉 （４）けむ…（過去の推量）「前（さき）の世にも御契りや深かりけむ」〈源・桐壺〉 （５）べし…（必然・当然の推量）「漢詩（からうた）などいふべし（＝吟ジテイルニチガイナイ）」〈土佐〉 （６）めり…（主観的推量）「今様は、むげにいやしくこそなり行くめれ（＝ヨウダ）」〈徒然・２２〉 （７）まし…（△反実仮想）「この木なからましかばとおぼえしか」〈徒然・１１〉 （８）らし…（根拠のある推定）「秋の夜は露こそことに寒からし（＝冷タイニチガイナイ）」〈古今・秋上〉 推定の助動詞（すいていのじょどうし） （９）じ…（打消の推量）「心に思ひ残すことは、あらじかし」〈源・若紫〉 （10）まじ…（打消の推量）「さる人あるまじければ」〈徒然・１２〉 なお、これらの助動詞は、推量から転じて、意志・希望・勧誘・仮定・婉曲（えんきょく）などの意を表すのにも用いられる。
	数詞 （すうし）	名詞の１つ。数量、または数によって順序を表すもの。 （１）数量の数詞（基数詞）…一つ・二・三本・四冊・五軒 （２）順序の数詞（序数詞）…第一・二番・三つ目・四号・五位 上記のうち、いくつ・何本・何番のように、不定の数量や順序を表すものを不定数詞ということがある。また、「三本」「五軒」などの「三」「五」のように数を表す語を本数詞、「本」「軒」のように数を表す語に添えたものを△助数詞という。➡ 助数詞（じょすうし）

〔せ〕	清音 （せいおん）	△五十音図の各音節と、それに応じる△拗音（ようおん）の各音節（キャ・キュ・キョ・シャ・シュ・ショ・チャ・チュ・チョ・ニャ・ニュ・ニョ・ヒャ・ヒュ・ヒョ・ミャ・ミュ・ミョ・リャ・リュ・リョ）をいう。すなわち、△子音を全く含まないア行の△音節と、無声子音のｋ・ｓ・ｔ・ｈ、有声子音のｎ・ｍ・ｙ・ｒ・ｗを含む音節をいう。 ➡ 濁音（だくおん）・半濁音（はんだくおん）
	絶句 （ぜつく）	漢詩の一体。△起承転結の４句から成る。各句の字数によって、五言絶句・七言絶句の２種がある。△律詩とともに、南北朝から唐にかけて完成された近（今）体詩。△押韻（おういん）・△平仄（ひょうそく）などにも厳密なきまりがある。
	接辞 （せつじ）	△接頭語と△接尾語の総称。単独に用いられることがなく、必ず他の単語に付いてある意味を添える。「み空（＝接頭語）」「春めく（＝接尾語）」。➡ 接頭語（せつとうご）・接尾語（せつびご）
	接続 （せつぞく）	前に述べる事柄と、あとで述べる事柄とのつながりの関係をいう。次の２種がある。 (１)順接（じゅんせつ）…順態接続ともいう。あとで述べる事柄が、前に述べる事柄の順当な結果であると考えられる場合。接続詞の「さらば」「しからば」（以上、仮定）「されば」「しかれば」（以上、確定）などを用いたり、活用語の未然形（仮定）・已然形（確定・一般条理）に△接続助詞「ば」を付けて表したりすることが多い。 (２)逆接（ぎゃくせつ）…逆態接続ともいう。あとで述べる事柄が、前に述べる事柄の順当でない結果であると考えられる場合。△接続詞の「さりとて」（仮定）「さりながら」「さるに」「しかれども」（以上、確定）などを用いたり、動詞の終止形や形容詞の連用形に、接続助詞「と」「とも」を付け、また、△活用語の已然形に接続助詞「ど」「ども」を付けて表したりすることが多い。
	接続語 （せつぞくご）	仮定・事実を示して、ある条件を提示する文節。たとえば、「しかれども、ひねもすに浪（なみ）・風たたず」〈土佐〉のような△接続詞、「日あしければ、船出（い）ださず」〈土佐〉のように△接続助詞が付くものなどを「接続語」とする。接続語をたてない立場では、これらを「連用修飾語」と見る。
	接続詞 （せつぞくし）	品詞の１つ。△自立語で△活用がなく、主語・述語・修飾語のいずれにもならず、文の構成のうえからは比較的独立していて、もっぱら文節や文を接続する語。 (１)その種類は、意味のうえから次の４通りに分けられる。所属する語は文語の場合を示す。 ①並立の意を表すもの…および・ならびに・また ②添加の意を表すもの…なほ・かつ・しかうして・しかも ③選択の意を表すもの…または・あるいは・あるは・もしくは・もしは ④条件を表すもの (ア)順接…かかれば・かくて・かくして・しからば・しかれば・さらば・されば・したがって・よって・ゆゑに (イ)逆接…されど・さりながら・さるを・しかるに・しかれども・

		ただし (2)用法としては、前のことばの受け方によって、次の2つの場合がある。 ①1つの文の中にあって、△文節と文節とを結びつける。「朱雀院（すざくゐん）ならびに村上二代の御母后（ははきさき）におはします」〈大鏡・基経〉「行く川の流れは絶えずしてしかももとの水にあらず」〈方丈〉 ②2つの文を結びつける。「死期すでに近し。されどもいまだ病（やまひ）急ならず」〈徒然・241〉
	接続助詞 （せつぞくじょし）	活用語またはそれに準じるものに付いて、それの付いた語の意味を、次の△用言または用言に準じるものに続ける助詞。 (1)接続による分類 ①未然形に付くもの…ば・で ②連用形に付くもの…て・して・つつ・ながら ③終止形に付くもの…と・とも（形容詞は連用形に接続） ④連体形に付くもの…が・に・を・も ⑤已然形に付くもの…ば・ど・ども (2)意味による分類 ①条件　(ア)仮定　順接…ば・と 逆接…と・とも (イ)確定　順接…ば・して・で 逆接…ど・ども・が・に・を・も ②列叙　(ア)異時…て (イ)同時…て・つつ・ながら・や
	接頭語 （せっとうご）	△接辞の1つ。それ自身で単独に用いられることがなく、必ずほかの単語の上に付いて、それらにある意味を添えるもの。接頭語が付いてできた語の品詞は、接頭語の付かないもとの語と同一である。 (1)名詞に付くもの…み(御)代・おん(御)声・ご(御)病気・み空・ま昼・さ霧・を(小)川 (2)動詞に付くもの…さまよふ・との曇る・たばしる・い行く・うち見る (3)形容詞に付くもの…たやすし・いちはやし・け近し・を(小)暗し・うすら寒し
	接尾語 （せつびご）	△接辞の1つ。それ自身で単独に用いられることがなく、必ずほかの単語の下に付いて、それらにある意味を添えるもの。この点、△助詞または△助動詞に似ているが、助詞・助動詞は自由にどんな語にも付くのに対して、接尾語は、付く語が限られていて、慣用のものだけにしか付かない。接尾語が付いてできた語の品詞は、接尾語によってきまる。そこで、これが付いて、その語の品詞が変わらないものと、変わるものとの2種がある。 (1)品詞が変わらないもの…入道どの・私ども・君たち・これら・殿ばら (2)品詞が変わるもの ①名詞を作るもの…深み・高さ・眠げ

		②動詞を作るもの…春めく・鄙（ひな）ぶ・黄ばむ・花やぐ ③形容詞を作るもの…男らし・をこがまし・なまめかし ④形容動詞を作るもの…しのびやかなり・悲しげなり ⑤副詞を作るもの…身づから・手づから
〔そ〕	候文 （そうろうぶん）	文語文のうち、おもに書簡に用いられた１種の文体。「候（そうろう）」という語が「あり」の代わりに、また△補助動詞として、文末に多く用いられたところからこの名がある。平安時代から私的な文書に使われはじめ、鎌倉時代以後は盛んに用いられるようになり、江戸時代になると公文書にも使われた。明治以後にも長く残っていたが、現在は私的にもきわめて少なくなった。
	促音 （そくおん）	現代の表記で、少し小さい「っ」で書かれる音韻。「つまる音」ともいう。「あっぱれ」「いっさい」など。漢字音の影響によって生じたといわれるが、古くはその表記法が動揺していて、その位置に何の表記もなかったことがある。現代の表記法が確立したのは平安時代末期（１２世紀）ごろという。
	促音便 （そくおんびん）	音便（おんびん）
	尊敬語 （そんけいご）	△敬語の１種。話の中のある人を敬うために、その人に関することに特別の表現をする言い方。文語の場合を分類すると、次のようになる。 (１)尊敬の意の接辞を用いる ①接頭語…み（—代・—心）・おん（—身・—有り様）・貴（—兄）・尊（—父）・令（—息）・高（—見）・芳（—翰（かん）） ②接尾語…殿（入道—）・氏（田中—）・女史（跡見—）・うぢ（近藤—） (２)尊敬の意の単語を用いる ①名詞…上・君・おこと ②代名詞…貴殿・みまし ③動詞…あそばす（＝ナサル）・います・ます・まします・おはす・おはします（＝イラッシャル）・大殿ごもる（＝オ寝（やす）ミニナル）・のたまふ（＝オッシャル）・おぼす・おぼしめす（＝オ思イニナル）・きこす・きこしめす（＝オ聞キニナル・召シ上ガル）・御覧ず（＝ゴランニナル）・しろす・しろしめす（＝オ知リニナル・オ治メニナル）・たぶ・たまふ（＝クダサル） ④補助動詞…おはす・おはします（眺め—）・たまふ（書き—）・たぶ・たうぶ（侍り—）。 ⑤助動詞…る・らる・す（下二段）・さす・しむ（上代は、す（四段）も）
	尊敬の助動詞 （そんけいのじよどうし）	尊敬の意を表す助動詞。文語では「る」「らる」「す（下二段）」「さす」「しむ」に、この用法がある。「す」「さす」「しむ」は使役の意から尊敬の意に転じたもので、単独で用いられることがなく、常に「たまふ」「らる」のような△尊敬語に重ねて用いられる。「つゆまどろまれず明かしかねさせたまふ」〈源・桐壺〉「この大臣（おとど）

		の作らしめ給へりける詩を」〈大鏡・時平〉。なお、上代には「す（四段）」も用いられた。「この岳（をか）に菜摘ます（＝摘ンデイラッシャル）児（こ）」〈万・１・１〉
	尊大語 （そんだいご）	自分の権威を誇示したり、自分の地位の高さを明らかにしたりするために、話し手が自分に対して尊敬語を用いたり、聞き手の動作に謙譲語を用いたりして、話し手である自分を高める言い方。「大納言これを聞きてのたまはく、『船に乗りては、楫取（かぢとり）の申すこと（＝コノワタシニ申シアゲルコト）をこそ、高き山とたのめ、などかく頼もしげなく申すぞ（＝コノワタシニ申シアゲルノダ）』」〈竹取・竜の頸の玉〉
〔た〕	対偶中止法 （たいぐうちゅうしほう）	２つの文節が対等の関係にあるとき、下の対等語の意味（打消、受身など）が、上の対等語に及び、上の対等語が連用形の△中止法をとることをいう。たとえば、「今めかしく、きららかならねど」〈徒然・１０〉の「ね」は打消の助動詞であるが、「きららかなり」だけを打ち消しているのではなく、「今めかし」も打ち消している。この場合の「今めかしく」が対偶中止法である。「走る獣は、をりにこめ、くさりをさされ、飛ぶ鳥は、翼をきり、籠（こ）に入れられて」〈徒然・１２１〉は、「さされ」の「れ」、「入れられて」の「られ」は受身の助動詞であるが、いちいち「こめられ」「きられ」といわないで「こめ」「きり」というように対偶中止法が用いられている。
	体言 （たいげん）	事物の実体を表す語の意。△名詞・△代名詞・△数詞の３品詞がこれに属するとされるが、日本語の文法上の性質からみて、これら３つを区別する必要はないと考えられるので、代名詞と数詞を名詞の中に含め、体言すなわち名詞であるとする説がふつう認められている。体言の文法上の特質としては、（１）それだけで△文節を構成することができる　（２）活用がない　（３）文の主語になることができる　（４）△格助詞を伴うことができる　などが挙げられる。↔ 用言
	体言止め （たいげんどめ）	和歌などにおいて、たとえば「駒（こま）とめて袖（そで）打ちはらふかげもなし佐野のわたりの雪の夕暮れ」〈新古今・冬〉のように、第５句を体言でいいきる言い方をいう。俳句や散文などにもこの種の言い方があり、これも「体言止め」ということがある。体言止めは、いいきったあとに余韻・余情が残るので、詠嘆の心情を表現する場合に用いられる。新古今集には、この修辞法が多く使われていて、１つの特徴をなしている。
	対等語 （たいとうご）	→対等の関係（たいとうのかんけい）
	対等の関係 （たいとうのかんけい）	２つまたはそれ以上の△文節が、互いに対等の資格で連なっている場合、そのそれぞれの文節を対等の関係にあるといい、それぞれの文節を「対等語」という。対等の関係を「並立（へいりつ）の関係」とよび、対等語を「並立語」と名づける説もある。 この関係には、次の２つの場合がある。 （１）２つ以上の用言の連なっているもの。「生まれ、死ぬる人、いづ方より来たりて、いづ方へか去る」〈方丈〉「神楽（かぐら）こそ、

なまめかしく、おもしろけれ」〈徒然・16〉
（2）2つ以上の体言の連なっているもの。「作文（さくもん）、和歌、管絃（くわんげん）の道、また有職（いうそく）に公事（くじ）の方、人の鏡ならんこそいみじかるべけれ」〈徒然・1〉「山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば」〈古今・冬〉
対等語は、その位置を互いにとりかえても（（1）の用言の場合には語形の一部に変化が生じるが）その関係は変わらない。たとえば、「神楽（かぐら）こそ、なまめかしく　おもしろけれ」は、「神楽こそ、おもしろく　なまめかしけれ」と言いかえることができる。

代名詞（だいめいし）

△名詞（体言）の1種。事物の名に代えて、直接にそのものを指示していう語。これには次の2種類がある。
（1）人代名詞
　自称は話し手（書き手）が自己をさし示すのに用い、対称は、相手（聞き手・読み手）をさし示すのに用い、他称は相手以外の者をさし示すのに用いる。他称のうちで近称は話し手に近い者を、中称は相手に近い者を、遠称は話し手からも相手からも遠い者をさす。不定称は話し手にわからない者、また、さす者がきまらない場合に用いる。

自　称	対　称	他　称			不定称
		近称	中称	遠称	
あ・あれ わ・われ おのれ それがし わらは 余・予	な なれ なんぢ そこ そち そなた	こ これ	そ それ	か かれ あ あれ	た たれ なにがし それがし

（2）指示代名詞

	近称	中称	遠称	不定称
事　物	こ これ	そ それ	か かれ あ あれ	いづれ なに
場　所	ここ	そこ	あそこ あしこ かしこ	いづこ いづく いづら
方　向	こち こなた	そち そなた	あち あなた かなた	いづち いづかた

このほか、△反照代名詞と呼んで、「おの」「おのれ」などの語を区別していうこともある。

濁音（だくおん）

ガ・ザ・ダ・バ行と、それに応じる△拗音（ようおん）の△音節（ギャ・ギュ・ギョ・ジャ・ジュ・ジョ・ヂャ・ヂュ・ヂョ・ビャ・ビュ・ビョ）をいう。すなわち、有声・無声の対立をもつ有声子音を含む音節をいう。
➡清音（せいおん）・半濁音（はんだくおん）

	他動詞 （たどうし）	動作や作用を他に対するはたらきかけ、または他をつくりだすはたらきとして表す動詞。「水を流す（サ四）」「湯を沸かす（サ四）」のように、一般に「…を…する」という形をとり、「水流る（ラ下二）」「湯沸く（カ四）」の△自動詞と区別される。他動詞だけの動詞には、打つ・殺す・招く（四）・着る（上一）・蹴（け）る（下一）・投ぐ・兼ぬ（下二）などがある。 古く、日本語の他動詞は、その動詞の表す事態が、当事者の意図に基づいて起きたことを述べる場合に用いたとされ、目的語との関係で他動詞が決定される西欧語の他動詞とは、その用法が異なっていたとされる。↔ 自動詞
	タリ活用 （たりかつよう）	文語形容動詞の活用の１つ。終止形が「…たり」といいきるもの。この活用形は、元来副詞「…と」の形にラ変動詞「あり」が結合してできたもので、「…と・あり」から「…たり」に転じたもの。タリ活用は漢語をもととする場合が多く、中古・中世の漢文訓読体の文章や和漢混交文の中に見られることが多い。（たら・たりと・たり・たる・たれ・たれ）と活用する。「青山峨々（がが）として松吹く風索々（さくさく）たり」〈平家・１０・千手前〉
	田居にの歌 （たゐにのうた）	「手習いの詞（ことば）」の１つ。同じ仮名をくり返すことなくつくった４７字の歌詞で、天禄元年（９７０）源為憲（ためのり）の著した「口遊（くちずさみ）」に見える。 たゐ(田居)にい(出)で　な(菜)つ(摘)むわれ(我)をぞきみ(君)　め(召)すと　あさ(求食)りお(追)ひゆ(行)くやましろ(山城)の　う(打)ちゑ(酔)へるこ(子)ら　もは(藻葉)ほ(干)せよ　えふね(舟)　か(繋)けぬ 作者は不明。成立は「口遊」の著作に近いころかと思われる。「△あめつちの詞」と違って、ア行の「え」とヤ行の「え」の区別がない。 ➡ 本文「あめつちの詞（あめつちのことば）」
	単音 （たんおん）	音声学のうえでの最小単位。簡単にいえば、単独に発音することのできる音声である。単音には△母音と△子音とがある。たとえば、ア（a）も単音、カ（ka）の（k）も（a）も単音である。カ（ka）のように単音が２つ連なったものは、別に△音節（おんせつ）という。➡ 音節
	断定の助動詞 （だんていのじょどうし）	ある事柄を「…である」「…だ」と判断し、いいきる意を表す助動詞。文語では「なり」「たり」がこれに属する。「たり」は体言だけに付く。また「たり」は中古には用例が少なく、中世以降、△和漢混交文などに多く用いられた。伝聞推定の「なり」や完了の「たり」とは、他の語への接続や意味のうえから区別される。「心憂（う）の事や、翁丸（おきなまろ）なり」〈枕・うへにさぶらふ御猫は〉「忠盛（ただもり）備前守（びぜんのかみ）たりし時」〈平家・１・殿上闇討〉＝指定の助動詞。
	単文 （たんぶん）	△主語・△述語の関係を基準として考えた文の構造の１つ。主語・述語の関係がただ１回しか成立していない最も単純なもの。 ➡ 複文（ふくぶん）・重文（じゅうぶん）

		花の色は　移りにけりな。 主　　　述 竹取りの翁（おきな）といふ者　ありけり。 主　　　　　　述
〔ち〕	中止法 （ちゅうしほう）	△連用形の用法の１つ。文を途中で一時中止する用法で、前の△文節と後の文節とが対等の関係にある場合が多い。この中止法に立つ連用形を、特に中止形ということがある。「山吹の清げに、藤（ふぢ）のおぼつかなき様したる」〈徒然・１９〉「遠き家は煙（けぶり）にむせび、近きあたりはひたすら焔（ほのほ）を地にふきつけたり」〈方丈〉
	直音 （ちょくおん）	△五十音図の各音節。すなわち、△母音だけから成る△音節、または△子音と母音とから成る音節。現代の表記では、仮名１字で書く。 ↔拗音（ようおん）
	陳述の副詞 （ちんじゅつのふくし）	→叙述の副詞（じょじゅつのふくし）
〔つ〕	対句 （ついく）	修辞法の１つ。意義の相対する２つ以上の同形式の句を並べて、対立させた形式。意味の明瞭（めいりょう）・音調の快感・暗唱のしやすさなどという効果をねらって、同語の繰り返しの発達したものと思われる。元来は漢詩文の修辞であるが、わが国でも古くから用いられ、祝詞（のりと）・記紀歌謡・万葉集（長歌）、その他語り物などに好んで用いられた。「賢（さか）し女（め）をありと聞かして麗（くは）し女をありと聞こして、さ婚（よば）ひにあり立たし婚ひにあり通はせ」〈記・上〉「落花の雪に踏み迷ふ片野の春の桜狩り、紅葉の錦（にしき）を着て帰る嵐（あらし）の山の秋の暮れ……」〈太平記・２〉＝対偶法。
	月並調 （つきなみちょう）	古い伝統を守るだけで、新しみのない卑俗な俳句をいう。もと正岡子規（まさおかしき）の新派運動から見て、伝統を守る旧派に対して「月並風（つきなみふう）」といったところから生じた。「月並」とは月次（つきなみ）で、例月の俳句会をいう。
〔て〕	定家仮名遣い （ていかかなづかい）	平安時代の末にまとめられた仮名遣いの規範。藤原定家の書と考えられる「下官集（げかんしゅう）」に「をお」「えへゑ」「ひゐい」の３類８字について約７０語を挙げ、「をみなへし」「おく山」「おもふ」「ふえ」のようにそれぞれ用いるべき仮名を示している。これは、当時混乱していた仮名の使い方を正そうとして、その準拠を平安後半期の文献に求めたものである。俗に、行阿（ぎょうあ）の撰（せん）した「仮名文字遣い」（貞治２年、１３６３年以後の成立）が「定家仮名遣い」の名で世に伝えられたが、これは、行阿の祖父親行が定家の承認を得た項目を根拠にし、「定家仮名遣い」を基にして増補したものと考えられる。実例を見ると、「定家仮名遣い」には「を（お）くつゆ」「お（を）しむ」「お（を）のへの松」など若干の誤りを含むが、現在では、この「お」「を」の使い分けはアクセントの違いによるものと理解されている。
	程度の副詞 （ていどのふくし）	△副詞の１種。△用言を修飾して、その状態の程度をくわしく限定する語。「やや深う入る所なりけり」〈源・若紫〉「山ぎは少しあかり

		て」〈枕・春はあけぼの〉。また、「いま暫（しばら）く」「ただ一人」などのように、他の副詞や数量・場所・方角などを表す体言を修飾する場合がある。
	丁寧語 （ていねいご）	△敬語の１種。話し手（書き手）が自分の言葉づかいを丁寧にすることによって、聞き手（読み手）に敬意を表す言い方である。「文語」では「侍り」「候ふ」の２語がこれで、動詞および補助動詞として用いられる。口語の「お」は丁寧語としても使われるが、文語の「御（おん）・（お）」は、尊敬の意をもつので、丁寧語ではない。「はやう、まだ下臈（げらふ）に侍りしとき、あはれと思ふ人侍りき」〈源・帚木（ははきぎ）〉「年改まりて何事かさぶらふ」〈源・浮舟〉（以上、動詞）「山の鳥も驚かしはべらむ」〈源・若紫〉「おのづからかたのやうにまねび候ひなむ」〈狭衣〉（以上、補助動詞）。丁寧語は尊敬語・謙譲語が転ずることが多く、区別のむずかしいことがある。
	定本 （ていほん）	流布している多数の△異本を研究し、伝承・書写の誤りを校訂して、最も正確に原本に近く到達したと考えられる本文。広義には厳密な意味でなく、標準的な本文というくらいに使われることもある。
	底本 （ていほん）	ある本の本文を校訂（他の伝本と比べて本文を訂（ただ）すこと）するに当たって、その主たるよりどころとした本。「藍本（らんぽん）」（「青は藍（あい）より出（い）づ」の故事から）ともいい、また「定本」とまぎらわしいので、「そこほん」とも呼ばれる。一般に原本に近い古写本や流布本が底本に選ばれることが多い。 ➡ 校合（きょうごう）
	転注 （てんちゅう）	△六書（りくしょ）の１つ。漢字を変えずにその漢字の意義を転用することをいう。この場合、△字音が変わるのがふつう。たとえば、「楽（がく）（＝音楽）」は常に人の心をなごやかにし、たのしませるところから、「たのしむ」の意に転用され、音も「ラク」と変わる類。 ➡ 六書（りくしょ）
	伝聞推定の助動詞 （でんぶんすいていのじょどうし）	ある事実を他から聞いたことにもとづいて述べ（伝聞）、また、ある根拠にもとづく不確実な判断で、事実をその音・声や周囲の状況から推測・判断して述べる（推定）助動詞。伝聞は口語の「…そうだ」、推定は口語の「…ようだ」と言い換えられる。これに属する文語の助動詞は、活用語の終止形に接続する「なり」である。「この十五日になむ月の都よりかぐや姫の迎へにまうで来（く）なる（伝聞＝来ルソウデス）」〈竹取・かぐや姫の昇天〉「吉野（よしの）なる夏実（なつみ）の川の川淀（かはよど）に鴨（かも）ぞ鳴くなる（推定＝鳴イテイルヨウダ）山かげにして」〈万・３・３７８〉。この用法は江戸時代以来、詠嘆を表すとされていたが、今では伝聞推定という説が広く認められている。なお、助動詞「けり」も過去の事実の伝聞の意味を表す場合がある。「昔、男ありけり（＝イタソウダ）」〈伊勢・２〉
〔と〕	頭韻 （とういん）	→押韻（おういん）
	唐音 （とうおん）	→字音（じおん）

	用語	説明
	動詞 （どうし）	品詞の1つ。△自立語で△活用があり、言い切りの形の語尾がウ段（文語のラ変だけがリ）となる△用言。それだけで述語になることができ、事物の動作・作用・存在を表す。活用のしかたから、文語動詞では9種類（四段・上一段・上二段・下一段・下二段・カ変・サ変・ナ変・ラ変）、口語では5種類（五段・上一段・下一段・カ変・サ変）に分けられる。別に、△自動詞・△他動詞の分け方や、△敬語動詞、△補助動詞の分け方もある。
	動詞型活用の助動詞 （どうしがたかつようのじょどうし）	活用のしかたが動詞に準じている助動詞。文語では、 ①四段型…む・けむ・らむ・す（尊敬）・ふ（継続） ②下二段型…す・さす・しむ・る・らる・つ ③ラ変型…たり（完了）・り・けり・めり・なり（伝聞） ④サ変型…むず ⑤ナ変型…ぬ ただし、△活用形は動詞とまったく同じというのではなく、その活用形のいくつかを欠いているものもある。
	倒置 （とうち）	修辞法の1つ。感動・余韻を表したり語勢を強めたり、または語調を整えたりするために、△文節の順序を変える表現法。和歌や会話に多い。「契りきなかたみに袖（そで）をしぼりつつ末の松山波越さじとは」〈後拾遺・恋4〉
	読点 （とうてん）	→句読点（くとうてん）
	ト書き （とがき）	演劇などの台本で、せりふのあと、または前に、出演者の動作などを指示した部分。たとえば、 ○正兵衛「もはや逃れぬわが命、この場において潔く」 　ト腹を切らうとする。 　〈歌舞伎・十六夜清心（いざよひせいしん）〉 ○白蓮「……内に居るから案じるな」 　ト奥よりお虎（とら）出て来たり、 　お虎「御新造様、さぞお嬉（うれ）しうござりませう。……」 〈歌舞伎・十六夜清心〉 のように、「ト」から書き始めるのでこの名が生まれた。のちには、必ずしも「ト」がなくても、この部分を「ト書き」とよぶ場合がある。
	特殊活用型の助動詞 （とくしゅかつようがたのじょどうし）	活用のしかたが特殊で、△用言のいずれにも似ていない助動詞。文語では、「ず」（打消）「まし」（反実仮想）「き」（過去）「じ」（打消推量・打消意志）「らし」（推量）がこれに属する。このうち「じ」「らし」を△無変化型の助動詞として、別に立てる考えもある。
	独立語 （どくりつご）	△主語・△述語・△修飾語などのいずれにも属せず、比較的独立して用いられる△文節。形のうえでは独立しているように見えるが、意味のうえで関連をもつ。感動・呼びかけ・応答・提示・接続などの場合に用いられる。「あはれ今年の秋もいぬめり」〈千載・雑上〉「いでや、この世にうまれては」〈徒然・1〉「さて冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ」〈徒然・19〉＝独立節。

〔な〕	ナ行変格活用 （なぎょうへんかくかつよう）	文語動詞の活用の１つ。△五十音図のナ行における△母音の転換（ナ・ニ・ヌ・ネ）と、連体形に「る」、已然形に「れ」の添加とを合わせた活用形式をもつもの。これに属する動詞は、文語の「死ぬ」「往（い）ぬ」の２語であるが、「死ぬ」は口語では五段活用となり、「往ぬ」は標準的な口語では用いられない。完了の助動詞「ぬ」が、ナ行変格と同形式の活用をするのは、「往ぬ」と意味において通うものがあるからだと思われる。「ぬ」の語源は「往ぬ」からであるとの説もある。「な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね」と活用する。
	ナリ活用 （なりかつよう）	文語形容動詞の活用の１つ。終止形が「…なり」の形をとる。「きよらなり」「静かなり」など。元来、「…に」の形と、ラ変動詞「あり」との融合したものであるから、活用の形はラ行変格と同じである。しかし、元の形である「…に」もそのままで連用形として認めるので、その点でラ変と異なる。「夕日はなやかにさして、…烏（からす）のねどころへ行くとて三つ四つ二つなど飛びゆくさへあはれなり」〈能因本枕・春はあけぼの〉
〔に〕	二句切れ （にくぎれ）	→句切れ（くぎれ）
	入声 （につしよう）	→四声（しせい）
〔は〕	排律 （はいりつ）	漢詩の一体。△絶句・△律詩とともに近（今）体詩の１つ。絶句は４句、律詩は８句と定められているのに対し、句数はおおよそ１２句以上できまりがない。首聯（しゅれん）と尾聯（びれん）は律詩に準じ、中間の聯はそれぞれ△対句をなしている。杜甫（とほ）の「傷春」（５言）、呉穀人の「仏手柑」（７言）はその例である。
	跋 （ばつ）	著書の末尾に記す文で、「奥書（おくがき）」または「後書（あとがき）」ともいう。その書の由来などを研究する場合に参考になることが多い。たとえば、枕草子の跋文は、その成立事情や、流布の経緯、題号の問題などについて、重要な問題を提供している。↔序
	撥音 （はつおん）	現代の表記で「ん」「ン」と書かれる音韻。「はねる音」ともいう。漢字音の影響によって生じたといわれるが、古くはその表記法が動揺していて、その位置に表記がなかったり、「む」や「い」を用いたりした。現代のような表記法が確立したのは、だいたい平安時代末期（１２世紀）ごろという。
	撥音便 （はつおんびん）	→音便（おんびん）

	反語 （はんご）	話し手が、肯定あるいは否定の確信をもっていながら、一応疑問の形で相手に問いかける言い方。疑問に対する答えを求めるのではなく、確信している答えが発せられるのを期待することによって、強調または余情を投げかける表現法である。文語では、「や」「か」のほか、「やは」「かは」「やも」「かも」を使うことが多い。「寝（い）もぬらめやも（＝ネラレヨウカ、イヤ、ネラレハシナイ）古（いにしへ）思ふに」〈万・１・４６〉「月やあらぬ春や昔の春ならぬ」〈伊勢・４〉「あとまで見る人ありとはいかでか知らん（＝ドウシテ知ロウカ、イヤ、知ルハズガナイ）」〈徒然・３２〉
	反実仮想 （はんじつかそう）	すでに存在する事実に反対の状態を仮定して、その仮定のもとである状態を想像して述べる推量表現。「もし…だったら…だろう（のに）」と言い換えられる。古代は「…ませば…まし」の形、中古以後は「…ましかば…まし」「未然形＋ば…まし」の形で表されることが多い。「わが背子（せこ）と二人見ませばいくばくかこの降る雪のうれしからまし」〈万・８・１６６２〉「まして竜（たつ）を捕らへたらましかば、又こともなく、我は害せられなまし」〈竹取・竜の頸の玉〉
	反照代名詞 （はんしようだいめいし）	△代名詞の１つ。「おの」「おのれ」「自分」などのように、自称・対称・他称にかかわりなく、その人自身、その物自体をそれに再び戻ってさし示す代名詞である。「橘（たちばな）はおのが枝枝なれれども玉に貫（ぬ）くとき同（おや）じ緒に貫く」〈天智紀〉「人はおのれ（＝自分自身）をつづまやかにし」〈徒然・１８〉＝反射代名詞・再帰代名詞。
	反切 （はんせつ）	中国で、字音を示すために用いた１つの方法で、求める字の頭音と同じ頭音の字を上に、求める字の△韻と同韻の字を下において、この2字から字音を求めるもの。たとえば「東」について、「徳紅反」とあれば、徳（tok）の頭音（t）と、紅（hong）の韻（ong）とによってtongの音を導き出す方法。なお、唐代までは「○○反」、宋（そう）以後は「○○切」といい、日本では、「かへし」ともいった。
	半濁音 （はんだくおん）	パ行とそれに応じる△拗（よう）音の△音節（ピャ・ピュ・ピョ）をいう。半濁音といっても、音韻上では、Pはｂに対するもので、ｂが有声音・濁音であるのに対し、Pは無声音・清音という関係にある。「半」というのは、中世に濁音を「◦◦」の印で示したのに対し、半濁音を「◦」で示すところからきているという。「◦」の符号は元来は古辞書で清音に読む印として使われていたが、室町時代末期ごろから半濁音の符号として用いられるようになった。➡清音（せいおん）・濁音（だくおん）

	版本 （はんぽん）	印刷された図書・書物の意。板本・刻本・摺（す）り本・摺（す）り巻とも称する。 現存する版本で最古のものは、称徳天皇の発願による１枚板の「百万塔陀羅尼（だらに）」〈宝亀元年（７７０）〉である。平安時代末期から鎌倉時代には、「春日（かすが）版」が最も名高く、奈良興福寺の僧院が講学に必要な経典を出版した。ついで奈良の版本の影響のもと、高野山の「高野版」、紀州の「根来（ねごろ）版」、延暦（えんりやく）寺の「比叡（ひえい）版」が現れ、また京都では知恩院を中心とする「浄土教版」、また別に「東寺版」の開版を見るに至った。室町時代には、宋（そう）・元の刊本が輸入され、五山中心の禅僧によってその複製が行われ（五山版）、仏典・儒書が盛んに刊行された。室町時代末期に至ると西洋および朝鮮から活字印刷の技術がそれぞれ別に輸入され、出版はいよいよ盛んになり、ついに江戸時代初期の活字本黄金時代を迎えた。刊本の需要の増加につれて、版本は活版から多く製版印刷に転じ、営業者の版元による「町版」の普及を見るに至り、仮名草子・浮世草子の類が刊行され世に迎えられた。さらに、江戸時代中期以降には、読本（よみほん）・洒落（しやれ）本などのほか、国学関係の書、俳諧（はいかい）書などの版本が盛んに出版された。
〔ひ〕	比況の助動詞 （ひきようのじよどうし）	１つの意義を他の意義に比べ、たとえて述べる助動詞。比喩（ひゆ）の助動詞ともいう。述べようとする事物・状態を具体化してわかりやすくしたり、また、あからさまに表現できない事柄について抽象化したり、婉曲（えんきよく）にしたりするときに用いる。文語では「ごとし」がこれに属する。「道に長じぬる一言、神のごとしと人思へり」〈徒然・１４５〉
	被修飾語 （ひしゆうしよくご）	文の成分の１つ。修飾語によって修飾される語または△文節。国語では語序のきまりがあり、修飾語のあとに来るのがふつうで、特別の場合を除き先行することはない。☛修飾語（しゆうしよくご）
	非情の受身 （ひじようのうけみ）	→受身の助動詞（うけみのじよどうし）
	否定の助動詞 （ひていのじよどうし）	→打消の助動詞（うちけしのじよどうし）
	比喩・譬喩 （ひゆ）	ある事物を表現する場合、これに類似する他の事物によって表現すること。これには直喩・隠喩・諷喩（ふうゆ）・活喩がある。(１)直喩…「たとへば」「あたかも」「如（ごとし）」「似たり」などの語を用いる。「蟻（あり）のごとく集まる」　(２)隠喩…「たとへば」「如し」などの語を用いないでいう。「雪の肌」「氷の刃（やいば）」　(３)諷喩…裏面にある意味をこめて婉曲（えんきよく）にいう。たとえ話。寓話。「井の中の蛙（かわず）大海を知らず」 (４)活喩…△擬人法に同じ。「花笑ひ鳥歌ふ」
	表意文字 （ひよういもじ）	「意字」ともいう。漢字など、おのおのの文字がある意味に対応している文字。意味だけを表すのではなく、音をも表すことから表意文字の名は適当でないとし、むしろ語と対応するのであるとして、表語文字という名が使われるようにもなった。↔ 表音文字（ひようおんもじ）

	表音文字 （ひようおんもじ）	「音字」ともいう。△字音がその言語に用いられる音の単位である△単音１個または△音節１個を表す文字。前者（単音文字）にはローマ字などがあり、後者（音節文字）には、日本の仮名文字などがある。 ↔ 表意文字（ひよういもじ）
	表語文字 （ひようごもじ）	→表意文字（ひよういもじ）
	平声 （ひようしよう）	→四声（しせい）
	平仄 （ひようそく）	→四声（しせい）
	平仮名 （ひらがな）	国語を表記する△表音文字（音節文字）。古くは「かな」「かんな」といわれ、「△万葉仮名」を草書体にくずして書く「草仮名（そうがな）」が、さらにやわらげられ、簡略化されてできた文字である。平仮名の字体が現行のものに一定したのは明治時代以後で、その以前には、異体の文字「△変体仮名」も併用された。平仮名の作者を弘法（こうぼう）大師とするのは根拠のない俗説で、中古初期、相当の年月にわたって、多くの人の手によって成立したものと推定される。平仮名は、最初、主として消息や和歌を記すのに用いられ、しだいに日記や物語類まで書かれるようになったらしい。当時、漢字・漢文は男子の専有物であり、女性は多く平仮名を用いたので、平仮名は「女手（おんなで）」とも称されたが、男性も場合に応じて平仮名を利用し、和歌や物語などを記した。
	品詞 （ひんし）	単語を性質・形態・用法にもとづいて分類した種別。個々の単語は、それぞれいずれかの品詞に所属することになり、また、所属品詞を確認することによって、その語の文法上の性質や職能を明らかにすることができる。単語を分類することを「品詞分類」というが、通常、△動詞・△形容詞・△形容動詞・△名詞・△副詞・△連体詞・△接続詞・△感動詞・△助動詞・△助詞の１０品詞に分類される。
	品詞の転成 （ひんしのてんせい）	１つの単語が、形はほぼもとのままで、もとの品詞の意味・用法が変わって、他の品詞としての性質をもつようになることをいう。(１)名詞に転成したもの…光・遊び（動詞から）、遠く・辛子（からし）（形容詞から）、あはれ（感動詞から）　(２)代名詞に転成したもの…君（きみ）・僕（ぼく）（名詞から）　(３)動詞に転成したもの…悲しむ（形容詞から）　(４)形容詞に転成したもの…騒がし（動詞から）、いとどし（副詞から）　(５)副詞に転成したもの…つゆ（名詞から）、たとひ（動詞から）　(６)接続詞に転成したもの…および（動詞から）、なほ（副詞から）　(７)感動詞に転成したもの…あれ（代名詞から）、いかに（副詞から）　など。

〔ふ〕	複合語 （ふくごうご）	合成語ともいう。２つ以上の単語が合して、１つの意味を表す新しい単語になったものをいう。☛ 熟語（じゅくご）・畳語（じょうご）・連濁（れんだく） 複合名詞…山ざくら・落ち葉 複合動詞…旅立つ・高鳴る 複合形容詞…待ち遠し・かろがろし 複合副詞…誠に・何とぞ 複合接続詞…並びに・または
	副詞 （ふくし）	品詞の１つ。単語のうち、△自立語で△活用がなく、主語になれず、主として△用言を修飾するものをいう。「風雨なほやまず」（動詞を修飾）「紅葉いとうるはし」（形容詞を修飾）「海上きはめておだやかなり」（形容動詞を修飾）。 なお、次のような語は連用修飾語であるが副詞とは認められないから、区別する必要がある。 （１）「昔（＝名詞）男ありけり」「草子に歌一つ（＝名詞）書け」 （２）「白く（＝形容詞）なりゆく山ぎは」 （３）「枝もたわわに（＝形容動詞）なりたる」「秋風蕭々（せうせう）と（＝形容動詞）吹く」 副詞は、その表す意味や機能のうえから、△状態の副詞・△程度の副詞・△叙述の副詞の３種に分けられる。それぞれの項を参照。
	副詞法 （ふくしほう）	△活用形の用法の１つ。主として、△形容詞・△形容動詞の連用形が、副詞のように用言を修飾する用法をいう。連用法ともいう。「紫だちたる雲の細く（＝形容詞）たなびきたる」「静かに（＝形容動詞）思へば」「悠然と（＝形容動詞）山を見る」
	副助詞 （ふくじょし）	種々の語に付属してある意味を添え、△副詞のようにそれを受ける△文節を修飾する△助詞。文語では「だに」「さへ」「すら」「のみ」「ばかり」「まで」「など」がこれに属する。「散りぬとも香（か）をだに（＝セメテ香リダケデモ。限定ノ意）残せ梅の花恋しき時の思ひ出（い）でにせむ」〈古今・春上〉「春雨ににほへる色も飽かなくに香（か）さへ（＝香リマデガ。添加ノ意）なつかし山吹の花」〈古今・春下〉「和泉（いづみ）の国まで（＝帰着点ノ意）と平らかに願立つ」〈土佐〉
	複文 （ふくぶん）	△主語・△述語の関係を基準として考えた文の構造の１つ。１つの文において、主語・述語の関係が△対等の関係でなく、２回以上成り立つ文、すなわち文中に従属節を含む文をいう。☛ 単文（たんぶん）・重文（じゅうぶん） 「雨など　降るも　をかし」〈枕・春はあけぼの〉 主　　述　　述 主

	語	説明
	武士詞 （ぶしことば）	武士が味方に関して不吉なことばを忌みきらって用いた△忌み詞の１つ。たとえば、戦場などで縁起をかつぎ、士気を鼓舞する必要から、「討たれて」を「討たせて」、「射られ」を「射させ」などといった例が軍記物語に見える。武者詞（むしやことば）・武家詞（ぶけことば）・陣中詞（じんちゅうことば）ということもある。
	付属語 （ふぞくご）	その語単独では△文節になることがなく、常に△自立語に付属して用いられるもの。自立語のように概念を表すことがなく、概念と概念との結びつきの関係や、概念に対する話し手の気持ちや態度を表す語で、△活用のある△助動詞と活用のない△助詞がこれに属する。「名利につかはれて　静かなる　いとま　なく　一生を　苦しむるこそ　愚かなれ」〈徒然・３８〉↔自立語
	部立 （ぶだて）	歌集などで、歌を配列するために、部類・部門に分けること。たとえば、万葉集では、雑歌（ぞうか）・相聞（そうもん）・挽歌（ばんか）・正述心緒（せいじゆつしんしよ）歌・寄物陳思（きぶつちんし）歌・譬喩（ひゆ）歌に分けたり、勅撰（ちょくせん）和歌集では、四季（春・夏・秋・冬）・恋・物名（もののな）・賀・哀傷・羇旅（きりよ）・雑（ぞう）・雑体（ぞうたい）・連歌（れんが）・神祇（じんぎ）・釈教（しゃくきょう）などに分けたりしているのが、それである。
	普通名詞 （ふつうめいし）	△名詞の１種。同じ種類の事物に共通して用いられる普通一般の名詞をいう。たとえば、「人・山・川・花・月」など。「月・太陽」などは、この世に１つしか存在しないところから△固有名詞のように考えたくなるが、他と区別するためにつけられた名称でないから普通名詞と見る。また、「太郎」なども、長男の意であれば普通名詞、人名であれば固有名詞ということになる。
	文 （ぶん）	言語単位の１つ。一続きの、あるまとまった思想を表していて、その終わりで音の切れるものをいう。文の定義づけは、簡単にはできないが、内にある思想内容と外に現れた言語形式の両面から考えてみると、（１）文は事柄の表現に、さらにそれに関する言語主体の態度・気持ちなどの表現（判断・推量・要求・感動など、すなわち陳述）が加わって１まとまりとなる、（２）音の連続であり、前後には必ず音の切れ目がある、（３）文の終わりには特殊の音調が加わり、それによって文の断止が明らかに示される、（４）書きことばにおいては、文の終わりに句点「。」を付けるのがふつうである、などの特質をあげることができる。このように、文法上の「文」は、ことばによって１つのまとまった思想や判断・情緒を相手に伝達するものであるから、構造上１つの△文節のものもあり、成分としては、△主語・△述語・その他の要素が省略される場合もある。
	文語 （ぶんご）	△口語に対することばで、本来は書きことば（文章語）のことであるが、ふつうには、現代語に対する古典語という意味に用いることが多い。特に、古典語の中でも、主として、その標準的なものとして考えられてきた中古の文法にもとづく言語体系をさす場合がある。「文語文」とか「文語文法」という場合は、この場合に近い。↔口語

	文節 （ぶんせつ）	言語単位の１つで、単語と文の中間に位するもの。文素・語節とよぶこともある。文を実際上の言語として不自然でないまでにできるだけ細かく区切った場合の１つの区切りをいう。実際に用いる言語として意味のわかる最小の一区切り（意味上の単位）であり、外形上からは息の一段落と一致するところ（音声上の単位）である。つまりそれだけはいつも一続きに発音され、その前後に音の切れ目を置くことができる。構成上からは１単語（△自立語）から成るものと、２つ以上の単語（自立語１つと△付属語１つ以上）から成るものがあり、文節が文を構成する場合の関係についてみると、続く文節と切れる文節とに分けられる。「よどみに｜浮かぶ｜うたかたは｜かつ｜消え｜かつ｜結びて｜久しく｜とどまりたる｜ためし｜なし」〈方丈〉
	文体 （ぶんたい）	文章は、その記載形式や語彙（ごい）、もしくは表現法によって、さまざまな特殊性や類型を生じる。その、それぞれの型を文体とよぶ。したがって、型に分ける基準によって、いろいろな面から文体を設定することができる。たとえば、 （１）記載形式による——漢文体・宣命（せんみよう）体・東鑑（あづまかがみ）体 （２）語彙・語法による——候文体・和文体・漢文直訳体・文語体・口語体 （３）修辞による——散文体・韻文体・四六駢儷（べんれい）体など。
	文の種類 （ぶんのしゆるい）	文の構造のうえから、特に△主語・△述語の関係を基準として、△単文・△複文・△重文の３種に分ける場合と、文の叙述のしかたと、切れる文節に現れる形のうえの特徴から、△平叙文・△疑問文・△命令文・△感動文の４種に分ける場合とがある。これらの分類は、国語の性格からいって、主語・述語の関係だけを基準としたり、叙述のしかたや特徴だけを基準としたりしているので、明確な分類とはいいにくい。
〔へ〕	平叙文 （へいじよぶん）	文をその性質上から分類した場合の１種で、肯定・否定・推量・決意・比況など、ふつうの意味を叙述するもの。切れる△文節が△用言または△助動詞の終止形で終わるのがふつうだが、文語では△係り結びの場合があって、「ぞ」「なむ」には連体形、「こそ」には已然形で結ぶ。「かきつばた咲きたり」（肯定）「みな人見知らず」（否定）「飛び降るとも降りなむ」（推量）「早く行かむ」（決意）「花の散るは吹雪のごとし」（比況）➡ 文の種類（ぶんのしゆるい）・感動文（かんどうぶん）・命令文（めいれいぶん）・疑問文（ぎもんぶん）
	並立語 （へいりつご）	➡対等の関係（たいとうのかんけい）

	並列助詞 （へいれつじょし）	△助詞の１つ。種々の語に付いて、並列する意を示すもの。文語では「と」「の」「や」「か」などがある。「夏と秋とゆきかふ空のかよひ路は」〈古今・夏〉「唐（から）の大和（やまと）のめづらしくえならぬ調度ども並べおき」〈徒然・１０〉「人々の花や蝶（てふ）やとめづるこそはかなうあやしけれ」〈堤中納言・虫めづる姫君〉「あるかなきかにうつる朝顔」〈源・朝顔〉。ただし、助詞の分類において並列助詞を立てない場合は、右の「と」「の」は△格助詞、「や（間投助詞ともする）」「か」は△係助詞に含めて扱う。本書もその立場をとっている。＝並立助詞。
	並立の関係 （へいりつのかんけい）	→対等の関係（たいとうのかんけい）
	変体仮名 （へんたいがな）	仮名の１つ。現在一般に用いられる字体以外の異体の△平仮名をいう。一口に、平仮名といっても字源の漢字の違いや、くずし書きの程度によって、種々の字体のものが生まれて、並び行われてきたが、明治時代末期ごろから現在の字体だけが、ふつうに使用され、他は「変体仮名」と称され、書道などにだけ用いられるようになった。
〔ほ〕	母音 （ぼいん）	△子音に対する名称で、気息の通る路（みち）で閉鎖または狭めの起きない音。国語にふつうに用いられる母音は、ａ・ｉ・ｕ・ｅ・ｏの五音である。↔子音
	方言 （ほうげん）	１つの国語が、地方によって別々に発達して、音韻・文法・語彙（ごい）のうえで、いくつかの言語団に分かれたときに、それぞれの分団の言語全体をさして、方言という。方言が生じるのは、各地域の社会状態の特殊性や、各地間の交通の疎隔によることが多い。万葉集の「東歌（あづまうた）」や「防人（さきもり）の歌」には、当時の東国方言がみえる。
	補助形容詞 （ほじょけいようし）	補助用言の１つ。他の語に付いて、これに付属的な意味を添える△形容詞をいう。△用言であって、もとの意味を失い、△助動詞と同じ用法をもつようになったもの。「天気がよくない（口語）」の「ない」や、「木々の木の葉、まだいと繁（しげ）うはなうて」〈能因本枕・正月一日は〉の「なし」がこれに当たる。

	補助動詞（ほじょどうし）	△補助用言の１つ。他の語に付いて、これに付属的な意味を添える△動詞をいう。△用言であって、もとの意味を失い、△助動詞と同じ用法をもつようになったもの。「その本を取ってください（口語）」。文語では、用法上からは次のように分類することができる。 （１）「に」「にて」とともに△体言に付いて、指定の「である」の意を表す。「雪の降りたるはいふべき（サマ）にもあらず」〈枕・春はあけぼの〉「渡し守にて候ふ」〈謡・隅田川〉 （２）形容詞・形容動詞に付く「ある」の意味の動詞。「うつくしう侍り」「賢うおはします」 （３）動詞の連用形に付いて、敬意を表す動詞。「御子さへ生まれ給ひぬ」〈源・桐壺〉「あはれに見奉る」「竹の中より見つけ聞こえたりしかど」〈竹取・かぐや姫の昇天〉「ぜひもなくおもしろう狂ひ候ふを見候ふよ」〈謡・隅田川〉 （４）「て」を伴う動詞に付く動詞。「聞きて侍り」「西行の庵室（あんじち）に着きて候ふ」〈謡・西行桜〉
	補助の関係（ほじょのかんけい）	「吾輩（わがはい）は猫である」「君もをかしと聞きたまふ」〈源・若菜〉。この傍点の△文節と傍線の文節の関係をみると、前の文節がおもな意味を表し、あとの文節はこれに付属して補助的な意味を添えている。このような連なり方を「補助の関係」または「付属の関係」という。この場合、後の文節は常に△補助用言である。補助の関係は、△用言とそれに付く△助動詞との関係によく似ていて、文例の「猫である」「聞きたまふ」は、ほとんど１文節のようなはたらきをしている。しかし、これらを補助の関係に立つ２つの文節と見なすのは、この場合「ある」「たまふ」などの語が、「ここに本がある」「御衣（おほんぞ）をたまふ」のように、時に応じて独立の本動詞としての機能をもっており、完全に助動詞になりきってはいないからである。
	補助用言（ほじょようげん）	△用言が、もとの意味を失い、△助動詞と同じく補助的用法に用いられるようになったものをいう。△補助動詞と△補助形容詞の２種がある。これらの語は意味・用法のうえでは助動詞に相当するが、形態のうえではそれだけで△文節をつくることができるから、自立語として扱われる。➡補助動詞（ほじょどうし）・補助形容詞（ほじょけいようし）
	梵語（ぼんご）	サンスクリット（古代インド・アリアン語）。ギリシャ語やラテン語と同系統のインド・ヨーロッパ語族に属する。紀元前から会話語としての性格を失い、その後は文章語として用いられた。仏教の伝播（でんぱ）に伴い、漢訳仏典を通じてわが国の日常語にも吸収され、今日もなお使われているものがある。たとえば、僧（ソー）・旦那（ダンナ）・卒塔婆（ソトバ）・袈裟（ケサ）・舎利（シャリ）・刹那（セツナ）など。

〔ま行〕	枕詞 （まくらことば）	国語の修辞の１つ。一定の語に冠して修飾または句調を整えるのに用いる語句。主として、上代・中古の和歌などに用いられ、５音がふつうであるが、古いものには、４音（うま酒→三輪、つぎねふ→山城）などもあり、３音（千葉の→葛野（かづの））のものもある。枕詞の起源は、神名・人名・地名に冠して用いられたもので、元来は呪術（じゅじゅつ）的なほめことばであったろうという。歌謡が和歌となり、文芸作品の性質を帯びるにしたがって、枕詞も本来の性質を失って声調的・情緒的な修辞上の技巧に変質していったと思われる。枕詞の使用は上代の記紀からみられ、「万葉集」に最も多彩に生き生きと用いられているが、「古今集」以後ではその数も僅少（きんしょう）となり、内容の空虚な形式的修辞に化している。 枕詞の中で上代からあったと推定されるものには「あしひきの」「あをによし」「ひさかたの」などがあり、語義やかかり方の不明なものが多い。語義の解釈しうるものや、動詞・形容詞・語句などにかかるものは成立がおそく、なかには人麻呂などの歌人による創作もあると推定される。その修飾する語句へのかかり方には、およそ次の２種類が考えられる。 （１）意味の関連によるもの…天離（あまざか）る→鄙（ひな）くさまくら→旅　菅（すが）の根の→長き　垂乳根（たらちね）の→母・親 （２）音の関連によるもの…葦田鶴（あしたづ）の→たづたづし　さゆり花→後（ゆり）　柞葉（ははそは）の→母　＝冠辞・頭辞。
	未然形 （みぜんけい）	△活用形の１つ。助動詞「む」・助詞「ば」に続いて、まだ(未)実際には起きていない事実(然)を述べるのに用いられ、未然形とよばれる。単独で文中に用いられた例はなく、常に次の助動詞・助詞に続く形として用いられる。 （１）助動詞…ず・む・じ・す（四段・ナ変・ラ変だけ）・さす（四段・ナ変・ラ変以外）・しむ・る（四段・ナ変・ラ変だけ）・らる（四段・ナ変・ラ変以外）・まほし・まし・り（サ変だけ） （２）助詞…ば・で・な…そ（カ変・サ変だけ）・ばや・なむ
	道行文 （みちゆきぶん）	地名を追いながら、道中の風景や旅情などを織りこんで作る詞章。多く△七五調で、接続には掛詞などの技巧が見られる。宴曲・軍記物・謡曲・浄瑠璃（じょうるり）などに用いられ、わが国独特の表現形式である。「…憂きをば留めぬ相坂の、関の清水に袖（そで）濡（ぬ）れて、末は山路を打出の浜、沖を遥かに見渡せば、塩ならぬ海にこがれ行く、身を浮舟の浮き沈み、駒も轟（とどろ）と踏み鳴らす、勢多の長橋打ち渡り、行き交ふ人に近江路や、世のうねの野に鳴く鶴も、子を思ふかと哀れなり」〈太平記・２〉
	武者詞 （むしやことば）	→武士詞（ぶしことば）

	無変化型の助動詞 （むへんかがたのじょどうし）	△活用形の用法は備えていても、活用形に変化が見られない助動詞。文語では「じ」（打消推量）「らし」（推量）がこれに属する。無変化型の助動詞を特に立てないで、特殊活用型の助動詞に含める考えもある。本書はこの立場をとっている。
	名詞 （めいし）	品詞の１つ。事物の概念を名称によって表した語。△自立語で、△活用がなく、△主語になることができる。広義には、名詞すなわち△体言とするが、一般には△代名詞・△数詞とともに体言の１種とされる。名詞を△普通名詞・△固有名詞に分け、また別に△実質名詞と△形式名詞に分けることもある。
	命令形 （めいれいけい）	△活用形の１つ。単独で言い切り、聞き手への「命令」の意を表すのがふつうであるが、「許容」「放任」の意に用いられる場合もある。たとえば、「今は西海の浪（なみ）の底に沈まば沈め」〈平家・７・忠度都落〉「勝手にせよ」など。上一段・上二段・下一段・下二段・カ変・サ変の動詞の命令形は、「見よ」「起きよ」「受けよ」「来（こ）よ」のように「よ」を伴うが、この「よ」を助詞と見る説もある。カ変の命令形は、中古ごろまでは「よ」を伴わない「来（こ）」の形を用いた。また、口語の△可能動詞は性質上、命令形を欠いている。△形容詞にも命令形はないが、文語では△カリ活用の「…かれ」という形をあてている。△助動詞は、同じ語形の語でも、それぞれの語の意味から、命令形をもつものと欠くものとがある。
	命令文 （めいれいぶん）	文をその性質上から分類した場合の１種で、命令・禁止・希望・要求などの意味を表すものをいう。「希望文」ということもある。切れる△文節に、△用言または△助動詞の命令形を用いるか、その意味を表す語を添えるか、または禁止や願望・希望の語を添えることが多い。「心して降りよ」（命令）「あやまちすな」（禁止）「外山（とやま）の霞（かすみ）立たずもあらなむ」（願望）「昔を今になすよしもがな」（希望）　➡ 文の種類（ぶんのしゅるい）・平叙文（へいじょぶん）・疑問文（ぎもんぶん）・感動文（かんどうぶん）
	迷惑の受身 （めいわくのうけみ）	→受身の助動詞（うけみのじょどうし）
	木版本 （もくはんぼん）	元来、木版本の意であった「版本」が、広く「写本」に対して印刷本をいうようになって、版木に彫って印刷するものを改めて区別する時、「木」をつけていう。版木を彫るには薄い和紙に彫るべき文字や絵図を書き、これを裏返しに版木に貼（は）りつけて刻む。この文字や絵図を「版下（はんした）」といい、その筆耕者を「版下書き」といった。版木は、日本では桜を使ったが、中国では梓（あずさ）を用いたので「上梓（じょうし）」の語がある。なお、「整版本」「槧本（ざんぽん）」も同義である。

	文選読み （もんぜんよみ）	漢文訓読における読み方の１種で、たとえば「関々雎鳩」〈詩経〉を「クヮンクヮントヤハラギナケルショキウノミサゴハ」と読むように、同一の漢語・漢字を最初、音で読み、続いて訓でもう一度読む読み方。これを文選読みというのは、中国の詩文集「文選」の読み方に顕著にこの方法が伝えられたからで、すでに「太平記」などの漢文訓読調の文章にも見られるが、形式化したのは江戸時代であるという。
〔や行〕	湯桶読み （ゆとうよみ）	漢字の熟語・複合語で、たとえば「湯桶（ゆとう）」（食後に飲む湯を入れる器）のように、上の漢字を△訓で読み、下の漢字を△音で読む読み方。「初陣（うひぢん）」「手本（てほん）」「野宿（のじゅく）」などもこの例である。➡重箱読み（じゅうばこよみ）
	拗音 （ようおん）	キャ・キュ・キョのようにヤ行のヤ・ユ・ヨや、クヮ・グヮのようにワを他の仮名の右下に小書きして表す音。前者を開拗音（ヤ行拗音）、後者を合拗音（ワ行拗音）ともいう。↔直音（ちょくおん）
	用言 （ようげん）	△自立語で活用のある語。事物の動作・存在・性質・状態を表し、単独で述語になることができる。活用形式によって、次の３品詞に分ける。↔体言 （１）△動詞（終止形がウ段の音で終わるもの。ただし、文語ラ変はイ段「り」） （２）△形容詞（終止形が「し」（文語）、「い」（口語）で終わるもの） （３）△形容動詞（終止形が「なり・たり」（文語）、「だ」（口語）で終わるもの）
	様態の助動詞 （ようたいのじょどうし）	物の存在のしかた、人の行動・ようすなどについて、「…のようすだ」「…のように見える」と、不確かな断定を表す助動詞をいう。口語では「ようだ」「そうだ」「ふうだ」（形容動詞型）がこれに属する。文語では推量の助動詞「めり」（ラ変動詞型）をこれに加える説もある。これらは不確かな判断を表す性質をもつところから、やわらげて言う表現（婉曲（えんきょく）な叙述）にも使われる。
	四段活用 （よだんかつよう）	文語動詞の活用の１つ。「待つ」「思ふ」のように、△活用語尾が△五十音図のアイウエの四段に活用する形式をもつもの。終止形・連体形が同形、已然形・命令形が同形で、連用形に△音便がある。口語動詞の場合は、助動詞「う」がつくとき、未然形に「書こう」「待とう」などとオ段が加わるので「五段活用」という。
〔ら行〕	ラ行変格活用 （らぎょうへんかくかつよう）	文語動詞の活用の１つ。略してラ変ともいう。四段活用に似ているが、その違いは終止形がイの段（「り」）で終わることである。「ら・り・り・る・れ・れ」と活用する。これに属する語は「あり」「居（を）り」「はべり」「いまそがり」がある。「あり」「居り」「はべり」は、口語では「ある」「居（お）る」「はべる」と五段活用になり、「いまそがり」は用いられない。

	六書 （りくしょ）	漢字を語の書き表し方から６分類した総称。△象形（しょうけい）・△指事・△会意・△形声・△転注・△仮借（かしゃ）の６つをいう。六書は後漢ごろから説かれたが、六書の原理を用いて当時の文字を分類し、それぞれの文字の正しい意味を定めたのが後漢の許慎（きょしん）の「説文（せつもん）解字」１５編（西暦１００年ごろ成立）である。➡会意（かいい）・仮借（かしゃ）・形声（けいせい）・指事（しじ）・象形（しょうけい）・転注（てんちゅう）
	律詩 （りつし）	漢詩の一体。単に「律」ともいう。２句を一組みとして、首聯・頷聯（がんれん）・頸聯（けいれん）・尾聯の８句から成る。各句の字数によって、五言律詩・七言律詩の２種がある。△絶句とともに南北朝から唐にかけて完成された近（今）体詩。頷聯と頸聯はそれぞれ対句をなし、△押韻（おういん）・△平仄（ひょうそく）などにも厳密なきまりがある。
	流布本 （るふぼん）	同一の古典作品として伝えられる本文のうち、もっとも世間に流布・通行しているものをいい、「異本」ということになる。流布本の特色は文意が通ってわかりやすい点にあるが、だからといって正しい本文であるとは限らない。そこに△校合（きょうごう）という作業の必要性がある。➡校合（きょうごう）
	歴史的仮名遣い （れきしてきかなづかい）	△仮名遣いの基準を一定の過去の文献の用例に求める立場のものをいう。表音的仮名遣いに対するもので、「古典的仮名遣い」とも称される。ふつうには「現代仮名遣い」が制定される以前、国が公認したものをさすが、具体的には、江戸時代初期に国学者契沖（けいちゅう）の定めた仮名遣いを意味する。△仮名による表記法は、音声の変化とともに乱れたが、中世以後、いわゆる「△定家仮名遣い」が、１つの基準として行われてきた。しかし「定家仮名遣い」は、その根拠とした文献が、当時から比較的近い過去のものであったらしく、原理の不統一や誤りが見られた。この点に疑問をいだいた契沖は、「定家仮名遣い」に対して、仮名の用法に混乱を生じなかった中古中期（天暦ごろ）以前の古典（記紀・「万葉集」・「和名抄」など）に仮名遣いの基準を求め、「和字正濫抄（わじしょうらんしょう）」を著してこの法則の使用を主張した。これは、伝統を尊重する国学者によって支持され、楫取魚彦（かとりなひこ）の「古言梯（こげんてい）」で補訂が加えられ、権威づけられるようになった。明治時代にはいると義務教育に採用されて公認のものとなり、諸種の文章や口語文にも広く用いられ、「現代仮名遣い」が公布されるまで国語の仮名表記の規範としての地位を保った。➡仮名遣い（かなづかい）
	連語 （れんご）	２つ以上の単語の連結したもの。「山　の　端」「春　は」「暮れぬ」など。ただし、単語の結合でも、それらがすっかり熟合して、結合以前とは異なった１単語としての形態や機能をもっているものは「△複合語」として、連語とは区別される。連語のうち、活用のあるものを「活用連語」という。

	連声 （れんじよう）	音が連続するときに起こる音韻変化の１つで、音韻添加（音の増加）の現象。前の△音節の尾音のｍ・ｎ・ｔが次の△母音と連なる場合にその△子音が添加されるもの。中古の中期からあった。「かんおん→かんのん（観音）」「さんい→さんみ（三位）」「いんえん→いんねん（因縁）」
	連体形 （れんたいけい）	△活用形の１つ。△体言を修飾することをおもな用法とする形。口語の動詞・形容詞においては終止形と同形である。文語連体形の用法としては、次のようなものがある。 （１）連体修飾語として体言を修飾する。「流るる水」「住む家」「白き花」「静かなる山」 （２）係助詞「ぞ」「なむ（なん）」「や」「か」を受けて文を結ぶ（係り結び）。「水ぞ流るる」「心やはらかなるなんよき」「夜や暗き」 （３）下に「こと」「もの」「ひと」などのある気持ちで、体言と同じ資格で用いられる。「雨など降る（コト、サマ）もをかし」〈枕・春はあけぼの〉「行く（ヒト）も帰る（ヒト）も別れては」〈後撰・雑１〉 （４）助動詞「ごとし」「なり（断定）」、助詞「が」「の」「を」「に」「より」「か」「かな」「ぞ」に連なる。 （５）ラ変動詞・形容詞・形容動詞の連体形は、助動詞「べし」「まじ」「らむ」「めり」「らし」「なり（伝聞推定）」に連なる。
	連体詞 （れんたいし）	品詞の１つ。単語のうち、△自立語で△活用がなく、△主語にならないもので、もっぱら△体言を修飾するものをいう。文語ではこれに属する語は少数で、「ある」「いはゆる」「あらゆる」「さ（然）る」「さしたる」「去（さ）んぬる」「往（い）んじ（往にし）」など。「この」「その」「わが」は、口語では連体詞（１単語）とし、文語の場合は「こ・そ・わ（代名詞）」に「の・が（助詞）」の連なったもの（２単語）として扱う。
	連体修飾語 （れんたいしゆうしよくご）	△修飾語の１つ。△体言を修飾する修飾語で、形容詞的修飾語ともいう。△被修飾語に直接に連なるのが特色である。連体修飾語となる△文節は、次のような品詞からできている。 （１）連体詞「あらゆる人々」「さしたる事」 （２）体言に助詞が付いたもの「わが子」「月の光」 （３）副詞または副詞に助詞が付いたもの「わづか二人」「しばしの程」 （４）△用言または用言に助動詞が付いたものの連体形「行く春」「さわやかなる風」「昔ありけむ人」「過ぎにしころ」 （５）形容詞・形容動詞の語幹に助詞「の」が付いたもの「おもしろの楽の音」「なほざりの心」
	連濁 （れんだく）	２語が結合する場合に、下の語の頭の△清音が△濁音になるもの。「あさぎり」「ひとびと」。この現象は字音語にも見られ、傾向として前の字音の尾音がイ・ウ・ンなどのときに多い。「亭子院（ていじのゐん）」「障子（さうじ）」「信心（しんじん）」

	連文節 （れんぶんせつ）	連接する２つの△文節が△主語△述語の関係・△修飾語△被修飾語の関係・△対等の関係・△補助の関係で結合して１つのまとまりになり、さらに他の文節に対して主語・述語・修飾語・△独立語など、１つの文節のようなはたらきをするものをいう。文節と連文節、連文節と連文節とが結合してできる。さらに大きいまとまりも連文節とよぶ。文節と文節とはこのようにして順次結ばれてゆき、文全体が連文節になったときに終わる。次の傍線の部分は、それぞれ連文節である。 春は　来たれども　寒さ　未（いま）だ　去らず
	連用形 （れんようけい）	△活用形の１つ。△用言に連なることをおもな用法とするもので、次のような用法がある。 （１）△中止法…文を中止し、次の△文節に△対等の関係で続く。「花咲き、鳥鳴く」「山青く、水清し」「波静かに、風なぎたり」 （２）△副詞法…△連用修飾語として△用言を修飾し、または意味を補う。「読み終わる」「暖かくなる」「静かに語る」 （３）△体言と同じ資格をもつ。「花を見に行かむ」 （４）動詞の連用形は他の動詞などに連なって△複合語となる。「見送る」「居着く」「住みなす」 （５）助動詞「き」「けり」「つ」「ぬ」「たり」「けむ」「たし」、助詞「て」「して（形容詞・形容動詞だけ）」「つつ」「（な）…そ（カ変・サ変以外）」に連なる。この場合、特定の助動詞・助詞に続くとき、四段・ナ変・ラ変、形容詞は△音便の形になることがある。「泣いて」「飛んだり」「往（い）んじ」「あんなり」「面白うて（して）」
	連用修飾語 （れんようしゅうしょくご）	△修飾語の１つで、△用言を修飾するもの。副詞的修飾語ともいう。客語・補語とよばれるものも、連用修飾語と比べてはっきりと両者を分ける基準をたてにくいことから、今日では連用修飾語として扱っている。連用修飾語になる△文節は次のような品詞からできている。 （１）副詞。「いとあはれなり」「はらはらと散る」 （２）形容詞または形容動詞の連用形。「風涼しく吹く」「静かに思ふ」「巍々（ぎぎ）と聳（そび）ゆ」 （３）△体言（数量や時を示すもの）。「三たび省みる」「一里歩く」「昔、男ありけり」 （４）体言に助詞の付いたもの。「宿を立ち出（い）づ」「仏に仕うまつる」「桜田へ鶴（たづ）鳴きわたる」〈万・３・２７３〉 （５）用言または活用連語に接続助詞の付いたもの（理由・原因・条件などを示す）。これを「△接続語」として、連用修飾語に含めない説もある。「遠くとも心を近く思ほせ吾妹（わぎも）」〈万・１５・３７８６〉

〔わ行〕	和漢混交文 （わかんこんこうぶん）	文体の１種。広義には、和文調と漢文調との交じった文体をいう。狭義には、鎌倉時代以降の軍記物語（「保元（ほうげん）物語」「平治物語」「平家物語」「太平記」）などに見られる和文調と漢文訓読調を調和させ、それに当時の口語・俗語をも取り入れた独自の文体をさしている。系統上は「漢字仮名交じり文」に属するもので、漢字に片仮名を交ぜて表記し、のちには平仮名を交ぜて表記した。和文の優雅・流麗と漢文訓読調の力強さ・簡潔さとを、内容に応じて適宜に交じえて表現効果をあげた。

各著作物と著作権者など

『スーパー大辞林』『逆引きスーパー大辞林』

編者／松村明　　発行所／株式会社 三省堂

＊書籍版は刊行されておりません。

＊「スーパー大辞林」は書籍版「大辞林第二版」に基づいて新語などを増補したり、社会情勢などの変化を反映させて編集したものです。

＊書籍版「大辞林第二版」の図版・表・付録は収録されておりません。

＊「逆引きスーパー大辞林」は「スーパー大辞林」のデータを基にしています。

記述内容のお問い合わせは・・・
株式会社 三省堂　TEL (03) 3230-9416

『改訂新版漢字源』© 2002

編者／藤堂明保、松本昭、竹田晃、加納喜光　発行所／株式会社 学習研究社

＊『漢字源』は、株式会社 学習研究社の登録商標です。格納されているデータを引用した著作物を公表する場合には、出典名・発行所を明記してください。

＊『字体について』
本辞書は『JIS X 0208-1997、JIS X 0213-2000 および JIS X 0212-1990』に準拠しており、画数等もその漢字表に示された漢字に準拠しています。

『四字熟語辞典』

監修者／郡司利男（元筑波大学名誉教授）

『故事ことわざ辞典』

監修者／郡司利男（元筑波大学名誉教授）

＊書籍版「四字熟語辞典」「故事ことわざ辞典」を基に電子データ化されたものです。書籍の内容とは一部異なります。

＊図版は収録されておりません。

記述内容のお問い合わせは・・・
株式会社 学習研究社　TEL (03) 3493-3286

『旺文社古語辞典 第九版』

編者／松村明、山口明穂、和田利政

『世界史事典 三訂版』☆

『日本史事典 三訂版』☆

『世界史年代暗記ターゲット 315』

著者／高橋武勇　補訂者／飯田國雄

『日本史年代暗記ターゲット 312』

著者／宮澤嘉夫

『英単語ターゲット 1900 3訂版』

著者／宮川幸久

『英熟語ターゲット 1000 3訂版』

著者／花本金吾

『ロイヤル英文法 改訂新版』
　著者／綿貫陽　共著／宮川幸久、須貝猛敏、高松尚弘
『生物事典 四訂版』☆
『ロイヤル英文法問題集 改訂新版』☆
　監修者／綿貫陽　著者／池上博
『英単語ターゲット 1900 BRUSH-UP TEST 3訂版』☆
　監修者／宮川幸久
『英熟語ターゲット 1000 BRUSH-UP TEST 3訂版』☆
　監修者／花本金吾
『英検 Pass 単熟語 2 級 改訂版』☆
『英検 Pass 単熟語準 2 級 改訂版』☆
『英検 Pass 単熟語 3 級 改訂版』☆
『古文単語・熟語ターゲット 400』
　著者 / 桑原聡、西田安実
『漢字ターゲット 1700』
　著者／旺文社
『漢検プチドリル 2 級 改訂版』☆
『漢検プチドリル準 2 級 改訂版』☆
『漢検プチドリル 3 級 改訂版』☆
『旺文社監修 数学公式集』
　著者／辻良平
　＊ 本データは「センター試験必出 数学公式 180」(数学Ⅰ·A/Ⅱ·B)から、電子辞書用に公式部分等を抜粋・収録したものです。
『旺文社監修 物理公式集』
　著者／井上喜助
　＊本データは「物理ⅠB 公式 72」から、電子辞書用に公式部分等を抜粋・収録したものです。
『旺文社監修 無機化学のキーワード』
　著者／本間正康
　＊ 本データは「無機化学の決め手 67」から、電子辞書用に「key word」の部分等を抜粋・収録したものです。
『旺文社監修 有機化学のキーワード』
　著者／本間正康
　＊ 本データは「有機化学の決め手 65」から、電子辞書用に「key word」の部分等を抜粋・収録したものです。

※ ☆印は「編者／旺文社」のコンテンツを示しています。
　記述内容のお問い合わせは・・・
　株式会社　旺文社　TEL (03) 3266－6393

『ジーニアス英和辞典／和英辞典』

本機に収録されている辞典内容は、『ジーニアス英和辞典第３版』『ジーニアス和英辞典第２版』を、株式会社 大修館書店のご協力を得て電子化したものです。

『ジーニアス英和辞典第３版』及び『ジーニアス和英辞典第２版』は小西友七・南出康世氏と大修館書店の著作物であり、著作権法によって保護されているため、無断で複写・転載することはできません。

＊ 図版・一部の表などを除き、書籍版（大修館書店刊）のほぼ全内容を収録していますが、電子化の仕様上、株式会社 大修館書店の監修に基づき書籍版の内容を改変した部分があります。

重要単語音声録音製作／財団法人 英語教育協議会（ELEC）

担当：原野守良、本浄晃子　　Speaker：Carolyn Miller

『英語語義イメージ辞典』

著者／政村秀實

記述内容のお問い合わせは・・・

株式会社 大修館書店　TEL (03) 3294-2355

『オックスフォード現代英英辞典第６版』

Oxford Advanced Learner's Dictionary 6th Edition

編者／ Sally Wehmeier　著者／ A.S.Hornby

記述内容のお問い合わせは…

オックスフォード大学出版局株式会社　TEL (03) 3459-6481

『英会話とっさのひとこと辞典』

著者 / 巽一郎、巽スカイ・ヘザー　発行者 / 吉田嘉明　発行所 / 株式会社 DHC

本機に収録されている内容は、書籍「英会話とっさのひとこと辞典」を基に、巽一郎氏、巽スカイ・ヘザー氏及び株式会社 DHCの御協力を得て電子化したものです。これらは巽一郎氏、巽スカイ・ヘザー氏の著作物であり、著作権法によって保護されているため、無断で複写・転載することはできません。

記述内容のお問合せは・・・

株式会社 DHC　TEL (03) 3585-1451（営業）

※ 記載内容（問い合わせ先）は予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。

※ 電子化の仕様上、書籍とは一部異なる場合があります。写真、付録、一部の図表、囲み記事などは収録されていません。

※ 本機に収録した各辞典は、それぞれの書籍出版辞典に基づいて作成しています。それぞれの辞典における誤記（誤植）、誤用につきましては、弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

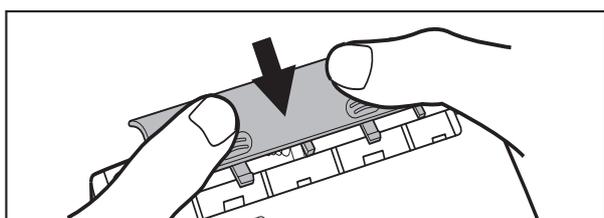
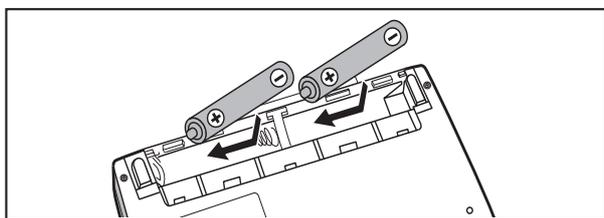
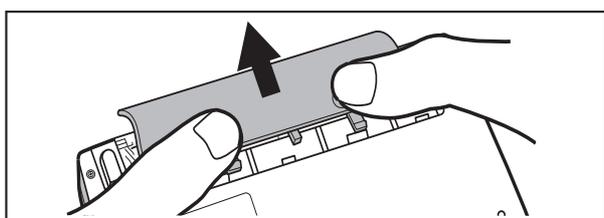
※ 画数の多い漢字は液晶表示の都合上、一部簡略化しており、正確に表示できないものがあります。

電池を交換するには

本体の電池が消耗してきた場合、電源ON時に「電池を交換してください」と表示されますので、すみやかに電池を交換してください。また、電池が著しく消耗した時には「電池残量不足の為 処理を実行出来ません　電源をOFFします」が表示され、電源が切れます。この場合も、ただちに電池を交換してください。**本機の電池は、単４形アルカリ乾電池（LR03）を２本使用しています。交換の際もこれと同じものをお求めください。**
指定している電池以外は使用しないでください。電池容量、電圧が異なるため、誤動作や故障の原因となります。**交換の際には必ず新品の単4形アルカリ乾電池２本をご使用ください。**

電池交換時のご注意

電池交換の際は次のことがらを守らないと、データが消去されます。充分ご注意ください。

- 電池を交換する際は、必ず電源を切ってから行ってください。
- 電池は２個とも新しいものに交換してください。
- 電池の極性（＋、－の方向）を間違えないようにしてください。

1 電源を切り、本機を裏にして電池ぶた上の左右の矢印の上に指をのせます。それから電池ぶたを押しながらはずします。

2 極性（＋、－の方向）を間違えないように注意しながら、乾電池を２個同時に交換します。

3 電池ぶたをもとの位置にもどします。

- 画面に「システムを初期化しますか？（単語帳・履歴データは削除されます）」が表示された場合は、「いいえ」を選択し、訳・決定を押してください。

オートパワーオフ機能

本機は電池の消耗を防ぐため、電源を入れたままキー操作を行わないと自動的に電源が切れるようになっています。電源が切れるまでの時間は、設定メニュー画面の「オートパワーオフ時間」の項目で 10 分以内で設定することができます。（オートパワーオフ時間について ☞25 ページ参照）

※ 使用済みの電池は、＋極と－極をテープで絶縁してから、お住まいの地域の環境法と廃棄基準に従って廃棄してください。

電池の取り扱い上の注意

⚠警告

（1）ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液がもれて眼に入ったり、発熱、破裂の原因となります。
（2）万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣服に付着した場合にはきれいな水で洗い流し、眼に入ったときにはきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠注意

下記のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えますと液もれや破裂のおそれがあり、機器の故障やけがなどの原因となります。
（1）液もれ、破損のおそれがありますので充電しないでください。
（2）＋ーを正しく入れてください。
（3）新しい電池と使用した電池、他の種類の電池をまぜて使わないでください。
（4）使い切った電池はすぐに本体から取り出してください。
（5）電池は幼児の手の届かない所に置いてください。

キーを押しても動作しないときは

本機使用中に、強度の外来ノイズや強いショックを受けた場合など,ごくまれにすべてのキーが機能しなくなる等の異常が発生することがあります。このような異常が発生した場合は、リセットスイッチを押して機能をもとにもどしてください。

＊ 画面が真っ黒で何も表示されないなどの場合は､本体右側にある濃度調整ダイヤルで画面の濃度を調整してみてください。(濃度調整ダイヤルについて ☞8ページ参照)

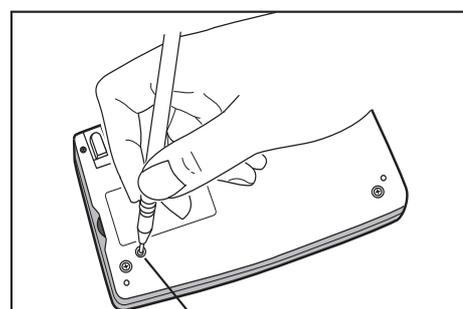
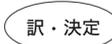
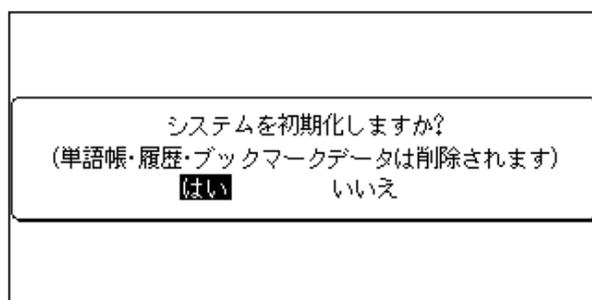
---

1 本体裏面のリセットスイッチを押します。

● 先のとがったものでリセットスイッチを押します。ただし、**芯の出たシャープペンシル、先の折れやすいもの、針のように先の鋭利なものは使用しないでください。スイッチが押されたままになったり、損傷する可能性**があります。

● リセットスイッチを押すと右下のようなメッセージが表示されます。

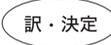
2「はい」を反転表示させた状態で、(訳・決定)を押します。

システムを初期化しますか?
(単語帳･履歴･ブックマークデータは削除されます)
はい　　　　いいえ

注意!!

⚠「はい」を選ぶと､単語帳に登録されたデータ及び履歴データはすべて消去され、全ての設定が初期化されます。「いいえ」を選択した場合は、データは失われずそのまま保存されます。

但し、次のような場合は 必ず「はい」を選択してリセットしてください。

● 本機をはじめてご使用になるとき
● 長時間電池を入れず放置した後で、再びご使用になるとき

＊ 強度の外来ノイズや強いショックを受けたことにより､異常が発生した場合は､「いいえ」を選択しても**「メモリデータに異常が発見されました システムを初期化します 【訳･決定】」**というメッセージが表示されます。(訳・決定)を押すと､記憶内容は全て消去され､設定も初期化されます。

ローマ字／かな対応表

ローマ字の入力方法がわからないときは、この表で確認してください。表記１、表記２、表記３、いずれでも入力することができます。

ひらがな	表記1	表記2	表記3
あ	A		
い	I	YI	
う	U		
え	E		
お	O		
か	KA		CA
き	KI		
く	KU	QU	CU
け	KE		
こ	KO		CO
さ	SA		
し	SI	SHI	CI
す	SU		
せ	SE		CE
そ	SO		
た	TA		
ち	TI	CHI	
つ	TU	TSU	
て	TE		
と	TO		
な	NA		
に	NI		
ぬ	NU		
ね	NE		
の	NO		
は	HA		
ひ	HI		
ふ	HU	FU	
へ	HE		
ほ	HO		
ま	MA		
み	MI		
む	MU		
め	ME		
も	MO		
や	YA		
ゆ	YU		
よ	YO		
ら	RA		
り	RI		
る	RU		
れ	RE		
ろ	RO		
わ	WA		
ゐ	WYI		
ゑ	WYE		
を	WO		
ん	N*		

●濁音

ひらがな	表記1	表記2	表記3
が	GA		
ぎ	GI		
ぐ	GU		
げ	GE		
ご	GO		
ざ	ZA		
じ	ZI	JI	
ず	ZU		
ぜ	ZE		
ぞ	ZO		
だ	DA		
ぢ	DI		
づ	DU		
で	DE		
ど	DO		
ば	BA		
び	BI		
ぶ	BU		
ゔ(ヴ)	VU		
べ	BE		
ぼ	BO		

●半濁音

ひらがな	表記1	表記2	表記3
ぱ	PA		
ぴ	PI		
ぷ	PU		
ぺ	PE		
ぽ	PO		

●拗音

ひらがな	表記1	表記2	表記3
きゃ	ⓀⓎⒶ		
きぃ	ⓀⓎⒾ		
きゅ	ⓀⓎⓊ		
きぇ	ⓀⓎⒺ		
きょ	ⓀⓎⓄ		
しゃ	ⓈⓎⒶ	ⓈⒽⒶ	
しぃ	ⓈⓎⒾ		
しゅ	ⓈⓎⓊ	ⓈⒽⓊ	
しぇ	ⓈⓎⒺ	ⓈⒽⒺ	
しょ	ⓈⓎⓄ	ⓈⒽⓄ	
ちゃ	ⓉⓎⒶ	ⒸⒽⒶ	ⒸⓎⒶ
ちぃ	ⓉⓎⒾ	ⒸⓎⒾ	
ちゅ	ⓉⓎⓊ	ⒸⒽⓊ	ⒸⓎⓊ
ちぇ	ⓉⓎⒺ	ⒸⒽⒺ	ⒸⓎⒺ
ちょ	ⓉⓎⓄ	ⒸⒽⓄ	ⒸⓎⓄ
にゃ	ⓃⓎⒶ		
にぃ	ⓃⓎⒾ		
にゅ	ⓃⓎⓊ		
にぇ	ⓃⓎⒺ		
にょ	ⓃⓎⓄ		
ひゃ	ⒽⓎⒶ		
ひぃ	ⒽⓎⒾ		
ひゅ	ⒽⓎⓊ		
ひぇ	ⒽⓎⒺ		
ひょ	ⒽⓎⓄ		
ふぁ	ⒻⒶ		
ふゃ	ⒻⓎⒶ		
ふぃ	ⒻⒾ	ⒻⓎⒾ	
ふゅ	ⒻⓎⓊ		
ふぇ	ⒻⒺ	ⒻⓎⒺ	
ふょ	ⒻⓎⓄ		
ふぉ	ⒻⓄ		
ぴゃ	ⓅⓎⒶ		
ぴぃ	ⓅⓎⒾ		
ぴゅ	ⓅⓎⓊ		
ぴぇ	ⓅⓎⒺ		
ぴょ	ⓅⓎⓄ		
みゃ	ⓂⓎⒶ		
みぃ	ⓂⓎⒾ		
みゅ	ⓂⓎⓊ		
みぇ	ⓂⓎⒺ		
みょ	ⓂⓎⓄ		
りゃ	ⓇⓎⒶ		
りぃ	ⓇⓎⒾ		
りゅ	ⓇⓎⓊ		
りぇ	ⓇⓎⒺ		
りょ	ⓇⓎⓄ		
ぎゃ	ⒼⓎⒶ		
ぎぃ	ⒼⓎⒾ		
ぎゅ	ⒼⓎⓊ		
ぎぇ	ⒼⓎⒺ		
ぎょ	ⒼⓎⓄ		
じゃ	ⓏⓎⒶ	ⒿⒶ	ⒿⓎⒶ
じぃ	ⓏⓎⒾ	ⒿⓎⒾ	
じゅ	ⓏⓎⓊ	ⒿⓊ	ⒿⓎⓊ
じぇ	ⓏⓎⒺ	ⒿⓎⒺ	ⒿⒺ
じょ	ⓏⓎⓄ	ⒿⓄ	ⒿⓎⓄ
ぢゃ	ⒹⓎⒶ		
ぢぃ	ⒹⓎⒾ		
ぢゅ	ⒹⓎⓊ		
ぢぇ	ⒹⓎⒺ		
ぢょ	ⒹⓎⓄ		

ひらがな	表記1	表記2
びゃ	ⒷⓎⒶ	
びぃ	ⒷⓎⒾ	
びゅ	ⒷⓎⓊ	
びぇ	ⒷⓎⒺ	
びょ	ⒷⓎⓄ	
ヴァ	ⓋⒶ	
ヴィ	ⓋⒾ	
ヴェ	ⓋⒺ	
ヴォ	ⓋⓄ	
ヴャ	ⓋⓎⒶ	
ヴュ	ⓋⓎⓊ	
ヴョ	ⓋⓎⓄ	
うぁ	ⓌⒽⒶ	
うぃ	ⓌⒽⒾ	ⓌⒾ
うぇ	ⓌⒽⒺ	ⓌⒺ
うぉ	ⓌⒽⓄ	
つぁ	ⓉⓈⒶ	
つぃ	ⓉⓈⒾ	
つぇ	ⓉⓈⒺ	
つぉ	ⓉⓈⓄ	
いぇ	ⓎⒺ	
てゃ	ⓉⒽⒶ	
てぃ	ⓉⒽⒾ	
てゅ	ⓉⒽⓊ	
てぇ	ⓉⒽⒺ	
てょ	ⓉⒽⓄ	
でゃ	ⒹⒽⒶ	
でぃ	ⒹⒽⒾ	
でゅ	ⒹⒽⓊ	
でぇ	ⒹⒽⒺ	
くぁ	ⓆⒶ	ⓀⓌⒶ
くぃ	ⓆⒾ	ⓀⓌⒾ
くぅ	ⓆⓌⓊ	
くぇ	ⓆⒺ	ⓀⓌⒺ
くぉ	ⓆⓄ	ⓀⓌⓄ
ぐぁ	ⒼⓌⒶ	
ぐぃ	ⒼⓌⒾ	
ぐぅ	ⒼⓌⓊ	
ぐぇ	ⒼⓌⒺ	
ぐぉ	ⒼⓌⓄ	
とぅ	ⓉⓌⓊ	
どぅ	ⒹⓌⓊ	

●小文字

ひらがな	表記1	表記2	表記3	表記4
ぁ	ⓍⒶ		ⓁⒶ	
ぃ	ⓍⒾ		ⓁⒾ	ⓁⓎⒾ
ぅ	ⓍⓊ		ⓁⓊ	
ぇ	ⓍⒺ		ⓁⒺ	ⓁⓎⒺ
ぉ	ⓍⓄ		ⓁⓄ	
っ	ⓍⓉⓊ	ⓍⓉⓈⓊ **	ⓁⓉⓊ	ⓁⓉⓈⓊ
ゃ	ⓍⓎⒶ		ⓁⓎⒶ	
ゅ	ⓍⓎⓊ		ⓁⓎⓊ	
ょ	ⓍⓎⓄ		ⓁⓎⓄ	
ゎ	ⓍⓌⒶ		ⓁⓌⒶ	

＊　「ん」の次に「あ行」の文字、または「な行」「や行」の文字がくるときは、「ん」は「ＮＮ」と入力します。

【例】「はんい」… ⒽⒶⓃⓃⒾ

「そんな」… ⓈⓄⓃⓃⓃⒶ

それ以外は「ん」は「Ｎ」と入力してかまいません。

＊＊　促音（小文字の「っ」）は、次にくる文字の子音を続けて入力することによっても入力することができます。

【例】「さっき」… ⓈⒶⓀⓀⒾ

おもな仕様

型　　　式　：wordtank　C35

収録辞典　：「スーパー大辞林」「逆引きスーパー大辞林」（三省堂）
「改訂新版漢字源」「四字熟語辞典」「故事ことわざ辞典」
（学習研究社）
「旺文社古語辞典　第九版」「世界史事典　三訂版」「日本史事典
三訂版」
「世界史年代暗記ターゲット315」「日本史年代暗記ターゲット
312」
「英単語ターゲット1900　3訂版」「英熟語ターゲット1000
3訂版」「ロイヤル英文法 改訂新版」「旺文社 生物事典 四訂版」
「ロイヤル英文法問題集 改訂新版」
「英単語ターゲット1900 BRUSH-UP TEST 3訂版」
「英熟語ターゲット1000 BRUSH-UP TEST 3訂版」
「英検Pass単熟語2級 改訂版」「英検Pass単熟語準2級 改訂版」
「英検Pass単熟語3級 改訂版」「古文単語・熟語ターゲット400」
「漢字ターゲット1700」「漢検プチドリル2級 改訂版」
「漢検プチドリル準2級 改訂版」「漢検プチドリル3級 改訂版」
「旺文社監修 数学公式集」「旺文社監修 物理公式集」
「旺文社監修 無機化学のキーワード」
「旺文社監修 有機化学のキーワード」（旺文社）
「ジーニアス英和辞典第3版」「ジーニアス和英辞典第2版」
「英語語義イメージ辞典」（大修館書店）
「オックスフォード現代英英辞典第6版」
（OXFORD UNIVERSITY PRESS）
「英会話とっさのひとこと辞典」（DHC）

表　　　示　：320×160　ドットマトリックス液晶表示
文字　：16ドットフォント
縮小文字　：　12ドットフォント
拡大文字　：　24ドットフォント
一文字拡大表示　：　漢字源　92ドットフォント
筆順表示　：　漢字源　120ドットフォント

電　　　源	：単4形アルカリ乾電池（LR03）2本
消費電力	：３３０mW
使用時間	：約１００時間 （使用温度２５℃、英和辞典の画面で連続表示の場合） ＊使用状態（環境）によって電池寿命が変わることがあります。
オートパワーオフ	：１０分以内で設定可能
使用温度	：０℃～４０℃
寸　　　法	：幅１２０× 奥行き１３９× 高さ１７.５mm （開いた状態） 幅１２０× 奥行き７５× 高さ２１mm （閉じた状態）
重　　　量	：１６０g（電池含む）

改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますので、
あらかじめご了承ください。

修理お問い合わせ専用窓口

パーソナル機器修理受付センター

（全国共通番号） 050-555-99088

［受付時間］ 9:00 ～ 18:00

(日曜、祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

製品取扱い方法ご相談窓口

キヤノンお客様相談センター

（全国共通番号） 050-555-90025

［受付時間］ 平日 9:00 ～ 20:00

土･日･祝日 10:00 ～ 17:00

(1月1日～1月3日は休ませていただきます)

※上記番号をご利用頂けない場合は、043-211-9632 をご利用ください。

※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。

※上記記載内容は、都合により予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

2008年2月1日現在

キヤノンマーケティングジャパン株式会社